朝日村

# 山鳥場遺跡・三ヶ組遺跡

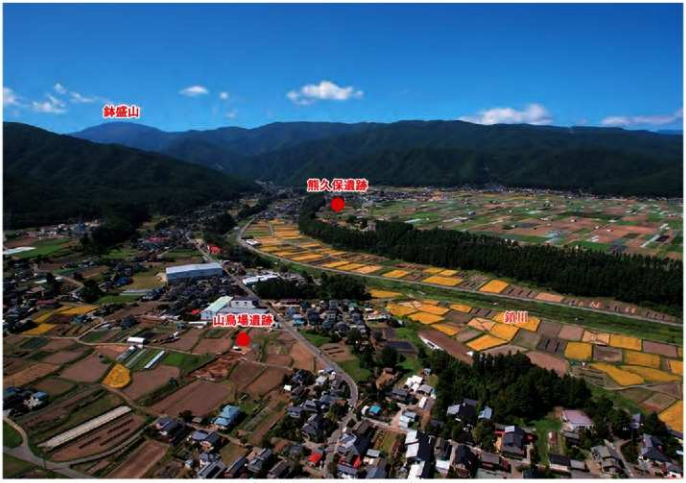
YAMATORIBA　SANGAKUMI

県単道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
(一) 御馬越塩尻停車場線　東筑摩郡　朝日村　中組

2019. 3

長野県松本建設事務所
長野県埋蔵文化財センター

山島場遺跡と三ヶ組遺跡（北方向より）




山島場遺跡と熊久保遺跡（東方向より）

SB14 炉内土器敷設状況上段（東側より）

SB14 炉内敷設土器

# 例　言

1　本書は、県単道路改築事業（一）御馬越塩尻停車場線 東筑摩郡 朝日村 中組（1）に伴う、山鳥場遺跡と三ヶ組遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　山鳥場遺跡は、長野県東筑摩郡朝日村西洗馬 1435-1 ほかに、三ヶ組遺跡は、朝日村西洗馬 850-4 ほかに所在する。

3　発掘調査は、一般財団法人長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センターが実施した。

4　調査期間は、発掘作業が 2016 年 7 月 1 日～ 12 月 5 日、2017 年 4 月 1 日～ 10 月 31 日、整理等作業が 2018 年 4 月 1 日～ 2019 年 3 月 30 日である。

5　本報告書の編集は、廣田和穂が行った。執筆分担は以下のとおりである。
第 1 章　平林　彰
第 4 章第 3 節 2(3)・3・4、第 5 章第 2 節 2　杉木有紗
上記以外　廣田和穂
校閲は、所長会津敏男、調査部長平林　彰、調査第 1 課長岡村秀雄が実施した。

6　発掘調査の受委託契約等については、第 1 章第 1 節を参照願いたい。なお、経費は以下のとおりである。
2016 年度：24,127,200 円　　2017 年度：53,244,000 円　　2018 年度：30,942,000 円

7　本書で報告した山鳥場遺跡・三ヶ組遺跡の諸記録・出土品は朝日村に移管される予定である。

8　発掘調査および報告書作成に当たり、以下の諸機関・諸氏に御指導・御協力を賜った。御芳名を記して感謝の意を表します（五十音順、敬称略）。

上松町教育委員会　朝日村教育委員会　朝日村中央公民館　朝日美術館　朝日村文化財保護審議会
朝日村役場　岡谷美術考古館　駒ケ根市立博物館　塩尻市立平出博物館
長野県文化財保護審議会史跡・考古資料部会　長野県立歴史館　北杜市埋蔵文化財センター
松本市立考古博物館　山梨県埋蔵文化財センター　山梨県立考古博物館

会田　進　浅川行雄　今福利恵　上小路俊征　片山祐介　氣賀澤　進　熊谷康治　小林康男
小松　学　佐野　隆　島田哲男　下平博行　直井雅尚　中沢道彦　原　明芳　町田勝則
三上徹也　三宅　裕　百瀬長秀　山田武文　米田　穣　和田和哉

9　発掘調査の担当者は第 1 章第 1 節 5 に記載した。

10　発掘調査に当たって、以下の機関に業務委託した。

測量・空中写真撮影：有限会社　測　地　　（2016 年度）
株式会社　AB. do　（2017 年度）
炭化種実とレプリカ法による土器種実圧痕の同定：株式会社　パレオ・ラボ（2017 年度）
炭化種実同定：株式会社　パレオ・ラボ（2017 年度）
遺 物 実 測：株式会社　シン技術コンサル（2018 年度）
遺物写真撮影：株式会社　信毎書籍印刷（2018 年度）

11　遺跡の概要は、長野県埋蔵文化財センター刊行の『長野県埋蔵文化財センター年報』33 ～ 35 などで紹介しているが、本書の記述をもって本報告とする。

12　本書に添付した DVD には、以下の内容を収録した。

遺構一覧表、遺物観察表、自然科学分析報告書

# 凡　　例

1　本書で扱っている国土座標は、国土地理院の定める平面直角座標系第Ⅷ系の原点を基準点としている。座標値は世界測地系による。

2　本書で掲載した地図は、国土地理院発行の地形図および電子地形図（1：25,000、1：50,000）をもとに作成した。

3　掲載した実測図の縮尺は、原則として以下のとおりである。

遺構実測図　竪穴建物跡　1：60、1：30
　　土坑・焼土跡 1：30
　　ただし、調査区全体図・遺構配置図・挿図などは任意である。
遺物実測図　土　器　1：2、1：3、1：4、1：6
　　土製品　1：2
　　石　器　1：3、2：3、1：6
遺物写真　遺物実測図とおよそ共通である。

4　遺構番号は、遺構種類ごとに付番してある。発掘調査の過程で遺構と認定しなかったため、欠番としたものがある。

5　遺物番号は時代別、種類別に1から付番した。個別遺構図に添付した遺物図は、番号が重複してしまう場合があるため、種類名も明示したものがある。

6　土層および土器の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』(2010年度版)を基準とした。

7　遺構実測図中のスクリーントーン等は以下のように用いた。

8　遺物実測図中のスクリーントーン等は以下のように用いた。

# 目　次

口　絵
例　言…… i
凡　例……iii
目　次…… iv
挿図目次…… vi
挿表目次…… vi
遺構・遺物図版目次…… vii
写真図版目次…… viii

第１章　発掘調査の経過
　第１節　調査に至る経過…… 1
　　1　事業計画の概要…… 1
　　2　事前調査の結果…… 1
　　3　保護措置の調整…… 1
　　4　行政手続の経過…… 3
　　5　発掘作業と整理等作業の体制…… 7
　第２節　発掘調査の経過…… 8
　　1　発掘作業の経過…… 8
　　2　整理等作業…… 9
　　3　普及啓発活動…… 10
　　4　作業日誌抄録…… 11
第２章　遺跡の位置と環境
　第１節　地理的環境…… 13
　　1　遺跡の位置…… 13
　　2　遺跡周辺の地形環境…… 13
　第２節　歴史的環境…… 15
第３章　調査の方法
　第１節　発掘作業の方法…… 17
　　1　調査区とグリッド設定…… 17
　　2　表土の掘削と遺構の検出…… 17
　　3　遺構精査…… 19
　　4　記録作成…… 20
　第２節　整理等作業の方法…… 20
　　1　整理等作業…… 20
　　2　報告書作成と資料収納…… 21

第４章　山鳥場遺跡の調査
第１節　遺跡の概要…… 22
1　遺跡の概観…… 22
2　基本層序…… 22
第２節　縄文時代の遺構…… 25
1　中期後葉…… 25
2　後・晩期…… 34
第３節　縄文時代の遺物…… 36
1　遺物の概要…… 36
2　土器…… 36
3　土製品…… 45
4　石器…… 48
第４節　小結…… 57
1　縄文時代中期後葉土器の段階設定…… 57
2　縄文時代中期後葉における集落の様相…… 59
第５章　三ヶ組遺跡の調査
第１節　遺跡の概要…… 65
1　遺跡の概観…… 65
2　調査の概要…… 65
3　基本層序…… 66
第２節　調査成果…… 66
1　遺構…… 66
2　遺物…… 66
3　課題…… 66
第６章　科学分析
1　種実圧痕同定…… 68
2　炭化種実同定…… 73
3　小結…… 73
第７章　総　括
1　山鳥場遺跡について…… 77
2　三ヶ組遺跡について…… 78
3　まとめ…… 78

参考・引用文献
付表　遺構観察表・遺物観察表
遺構・遺物図版
写真図版
報告書抄録
奥　付

# 挿 図 目 次


第１図　一般県道御馬越塩尻停車場線
事業計画図…… 2
第２図　山鳥場遺跡の調査区…… 8
第３図　遺跡の位置…… 13
第４図　朝日村周辺の地質…… 14
第５図　空中写真解析による表層地質…… 14
第６図　朝日村遺跡分布図…… 16
第７図　調査区とグリッドの呼称…… 18
第８図　基本土層第Ⅱ層における
遺物取り上げ区画…… 19
第９図　山鳥場遺跡の位置…… 23
第 10 図　Ⅲ層上面における砂礫露出範囲 …… 23
第 11 図　山鳥場遺跡基本土層図 …… 24
第 12 図　松本盆地西南部の縄文中期後半の
石器器種組成 …… 55
第 13 図　中期後葉土器の時期別様相 …… 58
第 14 図　時期別遺構分布図 …… 60
第 15 図　遺構（竪穴建物跡）間における
接合図 …… 62
第 16 図　遺構間接合および
遺構間推定同一個体の土器 …… 63
第 17 図　三ヶ組遺跡の位置 …… 65
第 18 図　三ヶ組遺跡トレンチ配置図および
土層図 …… 67
第 19 図　エゴマと推測される種実圧痕を
大量に含む土器の X 線展開図 …… 69
第 20 図　種実圧痕抽出土器 …… 70
第 21 図　種実圧痕レプリカの
走査型電子顕微鏡写真 …… 72
第 22 図　炭化種実 …… 74
第 23 図　内山沢周辺遺跡分布図 …… 78


# 挿 表 目 次


第１表　土木工事のための発掘にかかわる
行政手続…… 3
第２表　調査のための発掘にかかわる
行政手続…… 3
第３表　埋蔵物の発見にかかわる行政手続…… 4
第４表　受委託契約等の経過…… 6
第５表　2016 年度発掘作業工程 …… 9
第６表　2017 年度発掘作業工程 …… 9
第７表　2018 年度整理等作業工程 …… 13
第８表　朝日村遺跡一覧表…… 16
第９表　石器分類表…… 48
第 10 表　器種別石材組成 …… 55
第 11 表　遺構別器種組成 …… 56
第 12 表　中信地域と他地域との編年対応表 … 59
第 13 表　竪穴建物跡の諸要素（時期別）…… 64
第 14 表　山鳥場遺跡出土土器の炭化種実と
種実圧痕レプリカの同定結果 …… 68
第 15 表　山鳥場遺跡から出土した炭化種実 … 75
第 16 表　多量の種実を含む土器の県内事例 … 76

# 遺構・遺物図版目次


図版 1　中期後葉遺構配置図 1
図版 2　中期後葉遺構配置図 2
図版 3　中期後葉遺構 1
図版 4　中期後葉遺構 2
図版 5　中期後葉遺構 3
図版 6　中期後葉遺構 4
図版 7　中期後葉遺構 5
図版 8　中期後葉遺構 6
図版 9　中期後葉遺構 7
図版 10　中期後葉遺構 8
図版 11　中期後葉遺構 9
図版 12　中期後葉遺構 10
図版 13　中期後葉遺構 11
図版 14　中期後葉遺構 12
図版 15　中期後葉遺構 13
図版 16　中期後葉遺構 14
図版 17　中期後葉遺構 15
図版 18　中期後葉遺構 16
図版 19　中期後葉遺構 17
図版 20　中期後葉遺構 18
図版 21　中期後葉遺構 19
図版 22　中期後葉遺構 20
図版 23　中期後葉遺構 21
図版 24　中期後葉遺構 22
図版 25　中期後葉遺構 23
図版 26　中期後葉遺構 24
図版 27　中期後葉遺構 25
図版 28　中期後葉遺構 26
図版 29　時期不明遺構
図版 30　後・晩期遺構配置図
図版 31　後・晩期遺構 1
図版 32　後・晩期遺構 2
図版 33　中期後葉土器 1
図版 34　中期後葉土器 2
図版 35　中期後葉土器 3
図版 36　中期後葉土器 4
図版 37　中期後葉土器 5
図版 38　中期後葉土器 6
図版 39　中期後葉土器 7
図版 40　中期後葉土器 8
図版 41　中期後葉土器 9
図版 42　中期後葉土器 10
図版 43　中期後葉土器 11
図版 44　中期後葉土器 12
図版 45　中期後葉土器 13
図版 46　中期後葉土器 14
図版 47　中期後葉土器 15
図版 48　中期後葉土器 16
図版 49　中期後葉土器 17
図版 50　中期後葉土器 18
図版 51　中期後葉土器 19
図版 52　後・晩期土器 1
図版 53　後・晩期土器 2
図版 54　後・晩期土器 3
図版 55　後・晩期土器 4
図版 56　後・晩期土器 5
図版 57　土製品 1
図版 58　土製品 2
図版 59　土製品 3
図版 60　土製品 4
図版 61　石器 1
図版 62　石器 2
図版 63　石器 3
図版 64　石器 4
図版 65　石器 5
図版 66　石器 6
図版 67　石器 7
図版 68　石器 8

# 写真図版目次


ＰＬ１　山鳥場遺跡　遠景
ＰＬ２　山鳥場遺跡　中期後葉竪穴建物跡群
ＰＬ３　山鳥場遺跡　中期後葉竪穴建物跡１
ＰＬ４　山鳥場遺跡　中期後葉竪穴建物跡２
ＰＬ５　山鳥場遺跡　中期後葉竪穴建物跡３
ＰＬ６　山鳥場遺跡　中期後葉竪穴建物跡４
ＰＬ７　山鳥場遺跡　中期後葉竪穴建物跡５
ＰＬ８　山鳥場遺跡　中期後葉竪穴建物跡６
ＰＬ９　山鳥場遺跡　中期後葉竪穴建物跡７
ＰＬ10　山鳥場遺跡　中期後葉竪穴建物跡８
ＰＬ11　山鳥場遺跡　中期後葉竪穴建物跡９
ＰＬ12　山鳥場遺跡　中期後葉竪穴建物跡10
ＰＬ13　山鳥場遺跡　中期後葉竪穴建物跡11
ＰＬ14　山鳥場遺跡　中期後葉土坑、時期不明土坑、基本土層
ＰＬ15　山鳥場遺跡　後・晩期遺構、遺物出土状況、ＮＲ１
ＰＬ16　山鳥場遺跡　中期後葉土器１
ＰＬ17　山鳥場遺跡　中期後葉土器２
ＰＬ18　山鳥場遺跡　中期後葉土器３
ＰＬ19　山鳥場遺跡　中期後葉土器４
ＰＬ20　山鳥場遺跡　中期後葉土器５
ＰＬ21　山鳥場遺跡　中期後葉土器６
ＰＬ22　山鳥場遺跡　中期後葉土器７
ＰＬ23　山鳥場遺跡　中期後葉土器８
ＰＬ24　山鳥場遺跡　中期後葉土器９
ＰＬ25　山鳥場遺跡　中期後葉土器10
ＰＬ26　山鳥場遺跡　中期後葉土器11
ＰＬ27　山鳥場遺跡　中期後葉土器12
ＰＬ28　山鳥場遺跡　中期後葉土器13
ＰＬ29　山鳥場遺跡　中期後葉土器14
ＰＬ30　山鳥場遺跡　中期後葉土器15
ＰＬ31　山鳥場遺跡　中期後葉土器16
ＰＬ32　山鳥場遺跡　中期後葉土器17
ＰＬ33　山鳥場遺跡　中期後葉土器18
ＰＬ34　山鳥場遺跡　中期後葉土器19
ＰＬ35　山鳥場遺跡　中期後葉土器20
ＰＬ36　山鳥場遺跡　中期後葉土器21、早・前期土器
ＰＬ37　山鳥場遺跡　後・晩期土器１
ＰＬ38　山鳥場遺跡　後・晩期土器２
ＰＬ39　山鳥場遺跡　後・晩期土器３
ＰＬ40　山鳥場遺跡　後・晩期土器４
ＰＬ41　山鳥場遺跡　土製品１
ＰＬ42　山鳥場遺跡　土製品２
ＰＬ43　山鳥場遺跡　土製品３
ＰＬ44　山鳥場遺跡　土製品４
ＰＬ45　山鳥場遺跡　石器１
ＰＬ46　山鳥場遺跡　石器２
ＰＬ47　山鳥場遺跡　石器３
ＰＬ48　山鳥場遺跡　石器４
ＰＬ49　山鳥場遺跡　石器５
ＰＬ50　山鳥場遺跡　石器６
ＰＬ51　三ヶ組遺跡１
ＰＬ52　三ヶ組遺跡２

# 第1章　発掘調査の経過

## 第1節　調査に至る経過

### 1　事業計画の概要

一般県道御馬越塩尻停車場線の改築事業は、「確かな暮らしが営まれる美しい信州」の実現に向けて、持続可能で快適な交通環境を確保するため、2011（平成23）年に長野県建設部松本建設事務所（以下「松建」という。）が安全で円滑な移動の基盤となる道路網の整備の一つとして、計画したものである。現道は幅員5.5mと狭く、線形不良でカーブが多く、車両のすれ違いが困難であった。また、歩道も、道路の両側に人家が並んでおり拡幅が難しかったため、生活道路の安全確保および塩尻方面への通行を向上する必要性から、バイパスを整備することになった。計画路線は、すでに整備されている広域農道から分岐し、一般県道土合松本線に接続する総延長800m、幅員9.75mの片側1車線、歩道付のバイパスで、2016年に工事着工、2019年度末に供用を開始する予定である（第1図）。

### 2　事前調査の結果

道路改築事業で対象となった埋蔵文化財包蔵地は、山鳥場遺跡と三ヶ組遺跡である。三ヶ組遺跡は、朝日村教育委員会（以下「村教委」という。）が、過去1回発掘調査を行っており、山鳥場遺跡と三ヶ組遺跡の間も、後述するとおり、今回の事業に伴って試掘調査を実施した。

三ヶ組遺跡は、県営畑地帯総合整備事業西洗馬工区幹線道路工事に伴い、村教委が2006年に発掘調査を行った。発掘箇所は、今回の事業地の南約200mにある農道部分で、南北の延長約54m、最大幅3mの範囲を掘削した。その結果、縄文時代と中世の土坑25基、溝跡1本を検出し、それらに伴うと思われる土器、石器、陶磁器、鉄滓が出土した。調査担当の今村克氏は、新たに中世の遺構・遺物を確認したことと、遺跡範囲の北限が判明したことを特記している（村教委1983）。

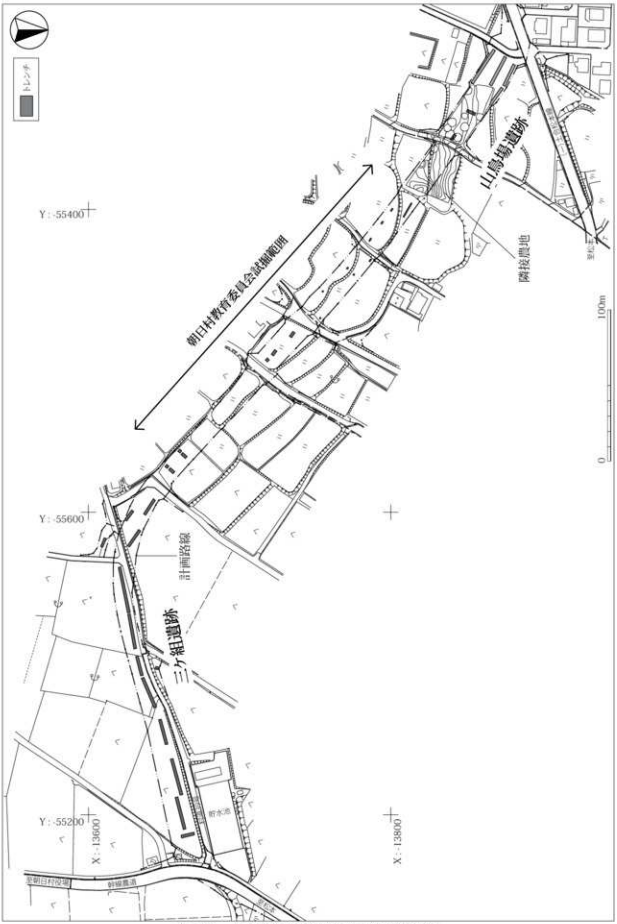
2015年5月、村教委は三ヶ組遺跡の北西側と山鳥場遺跡を試掘した。その結果、三ヶ組遺跡と山鳥場遺跡の間では遺構・遺物が出なかった。さらに翌年、村教委が行った山鳥場遺跡東側の試掘でも、遺構の広がりが確認できなかったため、記録保存調査の範囲は、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲内で確定した。

以上、三ヶ組遺跡にかかる今回の道路改築事業範囲は、遺跡の中心部から北へずれている可能性が高い。したがって、まずはトレンチ調査によって遺物包含層の有無やその広がり、遺構の有無や分布状態等を探っていく必要がある。一方、山鳥場遺跡は、試掘調査の結果、縄文時代中期後半の土器片が出土しているほか、遺構と思われる落込みが検出できたため、同時代の集落跡が埋蔵されている可能性がある。

### 3　保護措置の調整

2011（平成23）年に予備設計を完了した松建は、計画路線内の埋蔵文化財包蔵地の有無を村教委へ照会した。村教委は松建に対して、計画路線内に山鳥場遺跡および三ヶ組遺跡が存在していることを回答する一方、長野県教育委員会（以下「県教委」という。）に対して、その保護措置について照会した。

県教委は、7月、村教委、松建とともに現地を視察するとともに、県道改築事業および埋蔵文化財の内




第１図　一般県道御馬越塩尻停車場線事業計画図

容を聴取した。その結果、路線や工法の変更を含めた遺跡の現状保存は困難であると判断し、両遺跡について記録作成のための発掘調査を実施するよう、松建および村教委と調整を図った。また、両遺跡間については、村教委に埋蔵文化財の有無を把握するための試掘調査の実施を指示した。

松建による詳細設計と用地買収が進んだ2015年、村教委は、山鳥場遺跡と三ヶ組遺跡の試掘調査を実施した。すでに述べたとおり、遺構・遺物が確認されなかったため、記録保存調査の範囲は、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲内で確定した。一方、県教委は、村教委の調査体制と当該事業の規模とを勘案した上で、本発掘調査は比較的規模の大きなものになると判断し、長野県埋蔵文化財センター（以下「埋文センター」という。）が実施する方向で、松建および村教委と調整した。

2017年度は、事業地内の民有地を松建が借地する条件として、隣接した農地を松建が造成するというので、この部分の535㎡も山鳥場遺跡の記録保存対象地に加えて発掘を行った。一方、事業地西端の農道と民間会社駐車場部分は、隣接する箇所の調査結果から、県教委が本調査不要と判断した。

## 4　行政手続の経過

本報告書掲載遺跡の発掘調査にかかわる行政手続については第1・2・3表のとおりである。

第1表　土木工事のための発掘にかかわる行政手続（文化財保護法第94条関係）

| 年月日 | 文書番号 | 施行者 | 文書名 | あて先 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 2017.3.2 | 28 松建第362号 | 松建 | 周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について | 県教委 | 山鳥場遺跡・三ヶ組遺跡での土木工事を通知 |
| 2017.3.24 | 28 教文第8-380号 | 県教委 | 周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について | 埋文センター | 埋文センターが上記遺跡の発掘調査を受託するよう通知 |

第2表　調査のための発掘にかかわる行政手続（文化財保護法第92条関係）

| 遺跡名 | 年月日 | 文書番号 | 施行者 | 文書名 | あて先 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 山鳥場遺跡 | 2016. 5 .20 | 28 長埋第9-2号 | 埋文センター | 埋蔵文化財発掘調査の届出 | 県教委 | 山鳥場遺跡 |
| | 2016. 6. 1 | 28 教文第6-3号 | 県教委 | 埋蔵文化財の発掘調査について通知 | 埋文センター | 上記発掘調査の実施および終了報告提出等を指示 |
| | 2016. 12. 1 | 28 長埋第12-4号 | 埋文センター | 発掘調査終了報告 | 県教委 | 山鳥場遺跡<br>1,000㎡ |
| | 2017. 3. 1 | 28 長埋第9-7号 | 埋文センター | 埋蔵文化財発掘調査の届出 | 県教委 | 山鳥場遺跡 |
| | 2017. 3. 8 | 28 教文第6-11号 | 県教委 | 埋蔵文化財の発掘調査について通知 | 埋文センター | 上記発掘調査の実施および終了報告提出等を指示 |
| | 2017. 11.1 | 29 長埋第4-3号 | 埋文センター | 発掘調査終了報告 | 県教委 | 山鳥場遺跡<br>1,484㎡ |
| 三ヶ組遺跡 | 2017. 3. 1 | 28 長埋第9-8号 | 埋文センター | 埋蔵文化財発掘調査の届出 | 県教委 | 三ヶ組遺跡 |
| | 2017. 3. 8 | 28 教文第6-12号 | 県教委 | 埋蔵文化財の発掘調査について通知 | 埋文センター | 上記発掘調査の実施および終了報告提出等を指示 |
| | 2017. 6. 1 | 29 長埋第4-1号 | 埋文センター | 発掘調査終了報告 | 県教委 | 三ヶ組遺跡<br>4,583㎡ |

第３表　埋蔵物の発見にかかわる行政手続（文化財保護法第 102・105・108 条関係）

| 遺跡名 | 年月日 | 文書番号 | 施行者 | 文書名 | あて先 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 山鳥場遺跡 | 2016. 12. 1 | 28 長埋第 10-4 号 | 埋文センター | 埋蔵物発見届 | 県教委 | 山鳥場遺跡<br>土器・石器 46 箱<br>ぜい弱遺物 3 箱 |
| | 2016. 12. 20 | 28 教文第 20-85 号 | 県教委 | 埋蔵物の文化財認定及び出土品の帰属通知 | 埋文センター | 山鳥場遺跡 |
| | 2017. 11. 1 | 29 長埋第 2-3 号 | 埋文センター | 埋蔵物発見届 | 県教委 | 山鳥場遺跡<br>土器 85 箱・石器 19 箱 |
| | 2017. 11. 20 | 29 教文第 20-46 号 | 県教委 | 埋蔵物の文化財認定及び出土品の帰属通知 | 埋文センター | 山鳥場遺跡 |
| 三ヶ組遺跡 | 2017. 6. 1 | 29 長埋第 2-1 号 | 埋文センター | 埋蔵物発見届 | 県教委 | 三ヶ組遺跡<br>石器 1 箱 |
| | 2017. 6. 16 | 29 教文第 20-19 号 | 県教委 | 埋蔵物の文化財認定及び出土品の帰属通知 | 埋文センター | 三ヶ組遺跡 |

一般県道御馬越塩尻停車場線改築事業に伴う発掘調査は、年度ごとに、委託事業者である松建と受託事業者の埋文センターとが直接契約し、実施した。2016 年度の受委託契約の内容は以下のとおり、2016 年度以降の受委託契約の経過は第４表のとおりである。

埋蔵文化財発掘調査業務委託契約書

長野県松本建設事務所長石井杉男を発注者とし、一般財団法人長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センター所長会津敏男を受注者として、次の通り委託契約を締結する。

（委託業務）

第１条　委託する業務は次の通りとする。

（1）業務名　平成 28 年度県単道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務

（2）箇所名　（一）御馬越塩尻（停）線　東筑摩郡朝日村中組

（3）業務内容　埋蔵文化財発掘調査（山鳥場遺跡）

（4）委託期間　平成 28 年７月１日～平成 29 年３月 24 日

（処理方法）

第２条　受注者は、発掘調査計画書（以下「計画書」という。）を作成し、発注者に協議の上委託業務を開始するものとする

２　受注者は、前項の計画書の定めのない事項については、発注者と協議するものとする。

（委託料）

第３条　委託料は、金 20,001,600 円とする。

うち取引に係る消費税及び地方消費税の額は 1,481,600 円とする。

「取引に係る消費税及び地方消費税の額」は、消費税法第 28 条第１項及び第 29 条並びに地方税法第 72 条の 82 及び第 72 条の 83 の規定により算出したもので、業務委託料に 108 分の８を乗じて得た額である。

（契約保証金）

第４条　契約保証金は、金 2,000,160 円とし、長野県財務規則第 143 条第３号の規定により、その納付は免除する。ただし、受注者が契約を履行しなかったときは、契約保証金に相当する金額を違約金として納付しなければならない。（委託業務の調査等）

第５条　発注者は、この委託業務の処理状況について、随時に調査し、必要な報告を求めることができるとともに、業務の実施について必要な指示をすることができる。

（業務の変更等）
第6条　発注者又は受注者は、この契約締結後の事情により、委託内容の全部又は一部を変更することができる。この場合において、委託料又は委託期間を変更する必要があるときは、発注者受注者協議して変更契約を締結するものとする。
（完了報告書）
第7条　受注者は、委託業務が完了したときは、遅滞なく完了報告書及び成果物を提出しなければならない。
2　発注者は、前項の報告書及び成果物の提出があったときは、受理した日から10日以内に受注者立ち会いの上でその検査を行い、合格したときは引き渡しを受けるものとする。
3　受注者は、前項の規定による検査の結果、不合格となったときは、発注者の指定する日までに補正して提出し、再度検査を受けなければならない。
4　前2項の規定による検査に要する費用は受注者の負担とする。
（委託料の支払）
第8条　受注者は、前条の規定による検査に合格したときは、発注者に対して委託料を請求することができる。この場合において、発注者は、適法な請求書を受理した日から30日以内に委託料を支払うものとする。
2　受注者は、前条の規定にかかわらず、委託料の範囲内において概算払いの請求をすることができる。
3　受注者は、前項の規程にもとづく概算払いを請求しようとするときは、資金計画書を発注者に提出するものとする。
（秘密の保持）
第9条　受注者は、委託業務の処理上知り得た秘密を他人に漏らしてはならない。
（契約の解除）
第10条　発注者は、次の各号の一に該当するときは、この契約を解除することができる。
(1)　受注者が、その責に帰すべき事由により、第1条の規定する期間内に委託業務を完了しないとき又は完了することができないことが明らかと認められるとき。
(2)　前号の場合のほか、受注者がこの契約に違反したとき。
（債務不履行の損害賠償）
第11条　受注者は、その責に帰すべき事由により、第1条に規定する期間内に委託業務を完了しないときは、当該期限の翌日から委託業務を完了した日までの日数に応じ、委託料に対し年2.8％の割合で計算した額の遅延損害金を発注者に支払わなければならない。
2　発注者は、その責に帰すべき事由により、第8条第1項に規定する期限までに委託料を支払わないときは、当該期限の翌日から支払った日までの日数に応じ、委託料に対し年2.8％の割合で計算した額の遅延利息を受注者に支払わなければならない。
（暴力団等からの不当介入に対する報告及び届出の義務）
第12条　受注者は、当該契約に係る業務の遂行に当たり暴力団等から不当な要求を受けたときは、遅滞なく発注者に報告するとともに、所轄の警察署に届け出なければならない。
（その他）
第13条　発掘調査に関する文化財保護法及び遺失物法等に関する諸手続きについては、受注者が代行するものとする。
2　発注者は、発掘され又は発見された埋蔵文化財に関する権利を放棄するものとする。
第14条　本業務に関し、埋蔵文化財発掘調査委託費用の透明性の確保に努めるものとし、発注者受注者協議の上、委託経費の根拠資料を業務完了報告書に添付又は完了検査時に提示するものとする。
（疑義の解決等）
第15条　この契約に定めのない事項及びこの契約に関して疑義が生じたときは、発注者と受注者が協議して定めるものとする。

この契約の締結を証するため、契約書2通を作成し、発注者の受注者が両者記名押印の上、各自1通を保有するものとする。

平成 28 年７月１日

発注者　住所　松本市大字島立 1020
長野県松本建設事務所
氏名　所長　石井杉男　　印
受注者　住所　長野市篠ノ井布施高田
一般財団法人長野県文化振興事業団
長野県埋蔵文化財センター
氏名　所長　会津敏男　　印

第４表　受委託契約等の経過

| 年月日 | 文書番号 | 施行者 | 文書名 | あて先 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 2016. 6. 29 | 28 松建第 120 号 | 松建 | 埋蔵文化財発掘調査業務の委託について | 埋文センター | 期間：2016.7.1 ～ 2017.3.24<br>予算：20,001,600 円<br>遺跡：山鳥場遺跡<br>内容：発掘作業 1,000㎡ |
| 2016. 7. 1 | 28 長埋第 60-2 号 | 埋文センター | 平成 28 年度県単道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務に係る委託契約について | 松建 | 同上 |
| 2016. 9. 29 | 28 松建号外 | 松建 | 業務内容変更承認通知書 | 埋文センター | 期間・遺跡：変更なし<br>予算：27,993,600 円<br>内容：発掘作業 1,400㎡ |
| 2016. 9. 29 | 28 長埋第 60-5 号 | 埋文センター | 平成 28 年度県単道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務委託の変更契約について | 松建 | 同上 |
| 2017. 1. 30 | 28 松建号外 | 松建 | 業務内容変更承認通知書 | 埋文センター | 期間・遺跡・内容：変更なし<br>予算：24,127,200 円 |
| 2017. 1. 30 | 28 長埋第 60-8 号 | 埋文センター | 平成 28 年度県単道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務委託の変更契約について | 松建 | 同上 |
| 2017. 3. 21 | 28 長埋第 60-9 号 | 埋文センター | 平成 28 年度県単道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務委託完了に伴う完了届について | 松建 | 同上 |
| 2017. 3. 22 | 28 松建号外 | 松建 | 完了検査結果通知書 | 埋文センター | 合格 |
| 2017. 3. 31 | 28 松建号外 | 松建 | 埋蔵文化財発掘調査業務の委託について | 埋文センター | 期間：2017.4.1 ～ 2018.3.26<br>予算：79,920,000 円<br>遺跡：山鳥場遺跡他１件<br>内容：発掘作業 5,540㎡ |
| 2017. 3. 31 | 28 長埋第 324 号 | 埋文センター | 平成 28 年度県単道路改築事業（ゼロ県債）に伴う埋蔵文化財発掘調査業務に係る委託契約について | 松建 | 同上 |
| 2017. 11. 13 | 29 松建号外 | 松建 | 契約の変更について | 埋文センター | 期間・遺跡：変更なし<br>予算：53,244,000 円<br>内容：発掘作業 6,069㎡ |
| 2017. 11. 13 | 29 長埋第 14-3 号 | 埋文センター | 平成 29 年度県単道路改築事業（ゼロ県債）に伴う埋蔵文化財発掘調査業務委託の変更契約について | 松建 | 同上 |

| 年月日 | 文書番号 | 施行者 | 文書名 | あて先 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 2018. 3. 26 | 29 長埋第 60-9 号 | 埋文センター | 平成 29 年度県単道路改築事業（ゼロ県債）に伴う埋蔵文化財発掘調査業務委託完了に伴う完了届について | 松建 | 同上 |
| 2018. 3. 28 | 29 松建号外 | 松建 | 完了検査結果通知書 | 埋文センター | 合格 |
| 2018. 3. 31 | 30 長埋第 324 号 | 埋文センター | 平成 30 年度県単道路改築事業（ゼロ県債）に伴う埋蔵文化財発掘調査業務委託の契約締結について | 松建 | 同上 |
| 2018. 4. 2 | 30 松建号外 | 松建 | 埋蔵文化財発掘調査業務の委託について | 埋文センター | 期間：2018.4.2 ～ 2019.3.22<br>予算：33,555,600 円<br>遺跡：山鳥場遺跡他 1 件<br>内容：整理作業 |
| 2019. 2. 7 | 30 長埋第 199 号 | 埋文センター | 契約の変更について（協議） | 松建 | 期間・遺跡・内容：変更なし<br>予算：30,942,000 円 |
| 2019. 3.27 | 30 長埋第 221 号 | 埋文センター | 平成 30 年度県単道路改築事業（ゼロ県債）に伴う埋蔵文化財発掘調査業務委託完了に伴う完了届について | 松建 | 同上 |
| 2019. 3 | 30 松建号外 | 松建 | 完了検査結果通知書 | 埋文センター | 合格 |

## 5　発掘作業と整理等作業の体制

本報告書に掲載した遺跡の発掘調査にかかわる作業体制は以下のとおりである。

2016（平成 28）年度　発掘作業

所　　長：会津敏男　副 所 長：竹内　誠　調査部長：平林　彰　担当課長：町田勝則

調査担当：廣田和穂　片山祐介

作 業 員：青木重雄　臼井保予　小根山貞子　加藤　旻　上條伸一　川井登志行　清沢樹里　久保田久実

小松千晃　清水秋子　鈴木将之　中村　誠　南波秀武　西原達雄

三村簪二　横山謙授　渡辺家光

2017（平成 29）年度　発掘作業

所　　長：会津敏男　副 所 長：関崎修二　調査部長：平林　彰　担当課長：岡村秀雄

調査担当：廣田和穂　贄田　明　杉木有紗

作 業 員：青木重雄　臼井保予　加藤　旻　上條伸一　清沢典子

久保田久実　鈴木将之　中村　誠　南波秀武　西原達雄　浜村登志行　町田君子　村澤宏美

村澤由人　百瀬京子　柳澤令一　山崎千尋　渡辺家光

2018（平成 30 年）年度　整理等作業

所　　長：会津敏男　副 所 長：関崎修二　調査部長：平林　彰　担当課長：岡村秀雄

調査担当：廣田和穂　杉木有紗

作 業 員：荒井君江　石田和子　伊藤由美　岩原英治　大澤正明　窪田　順　小池美香　清水秋子

清水栄子　清水正夫　祖山克彦　田中富子　西村はるみ　原　恵美　平林昌子　堀内慎一

宮澤理恵子

# 第２節　発掘調査の経過

## １　発掘作業の経過

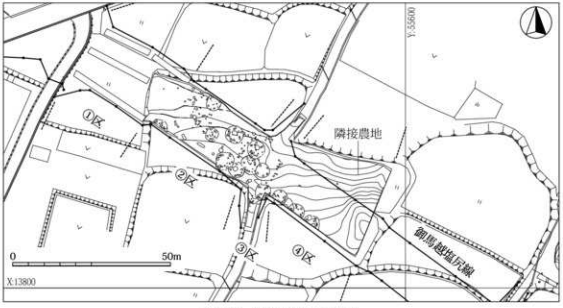
**2016（平成 28）年度**　松建による用地取得状況により、三ヶ組遺跡の発掘は断念し、山鳥場遺跡を先行して実施した（第２図）。村教委による確認調査では、地表下約 20cm前後の深さから、縄文時代の竪穴建物跡や土坑を検出しているため、比較的遺構密度が高い縄文集落と予想した。当初計画では、対象範囲の西半部の表土を除去して遺構確認を行い、東半部は次年度調査予定地であるため内容確認調査に留め、排土置場とした。

便宜的に①区とした箇所のトレンチ調査を行ったところ、農地改良によって削平され、遺物包含層等は失われていることが判明した。したがって、面的な調査を実施せずに土層等の記録を取って終了し、ここを②区発掘時の排土置場として利用することにした。

東隣の②区については、農地改良の影響を大きく受けていなかったため、遺物包含層が残っていた。そこで面的な調査を行うべく、表土剝ぎを行った。②区西側の遺物包含層から、縄文時代後・晩期の土器片等が出土したことに加え、炉跡や平石敷きを検出したものの、遺構に伴う明確な落込みをみつけることが困難だったため、改めて遺物包含層下にある黄褐色土上面での検出に切り替えた。その結果、敷石住居跡と考えられる３号竪穴建物跡等の縄文後期の遺構のほか、縄文中期後半に属する８軒の竪穴建物跡と 74 基の土坑を検出した。②区西側の遺物包含層については、整理作業の段階でＮＲ１（第 10 図）とした。

遺構検出は、②区の南西側から北東へ向けて順次行ったため、遺構番号は、原則として、検出順に西から東へ向けて付されている。遺構調査は、竪穴建物跡を中心にやはり西から順に行い、合間に土坑の調査を行った。発掘区中央を南北に縦断する農道部分（③区）の境界付近で確認した遺構については、次年度以降に改めて調査することとし、遺構確認面の養生を行った後に埋め戻した。

基礎整理作業として、発掘作業と並行して出土遺物の水洗を行い、12 月以降は出土遺物の注記、遺物台帳整理、遺構図の点検・修正および遺構所見の整理を行った。




第２図　山鳥場遺跡の調査区

第5表　2016年度発掘作業工程

| 作業内容 | | 4月 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 発掘作業 | 準備 | | | ■ | | | | | | | | | | |
| | 基準点設定 | | | | ■ | | | | | | | | | |
| | 表土掘削 | | | | ■ | | | | | | | | | |
| | 遺構検出 | | | | ■ | | | | | | | | | |
| | 遺構精査 | | | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | | | | | |
| | 記録作成 | | | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | | | | | |
| | 遺物水洗 | | | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | | | | | |
| | 埋戻し | | | | | | | | ■ | | | | | |
| | 後片付け | | | | | | | | ■ | | | | | |
| 基礎整理作業 | | | | | | | | | | ■ | ■ | ■ | ■ | |

**2017（平成29）年度**　2016年度の発掘で、山鳥場遺跡は、黄褐色土上に堆積している黒褐色土内に縄文時代後期の遺構を掘込み面が存在する可能性が判明したため、2017年度は、遺物包含層上面までの土を重機掘削により全面除去し、包含層内の遺物出土状態を見ながら、遺構検出を行っていく方針を立てた。発掘作業中に、隣接する農地の調査が追加されたが、この部分は遺構検出作業の結果、遺構密度が極めて低いことが判明したため、基本的には当初方針どおり発掘作業を進めることにした（図2）。

一方の三ヶ組遺跡は、西洗馬地区において最も遺跡範囲が広く、過去の記録保存調査で縄文時代や中世の遺構・遺物が確認されている。しかし、本事業地内における状況は不明のため、トレンチ調査によって遺構・遺物の有無とその広がりを確認する調査方針を採った。

第6表　2017年度発掘作業工程

| 作業内容 | | 4月 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 発掘作業 | 準備 | ■ | | | | | | | | | | | | |
| | 確認調査 | | ■ | | | | | | | | | | | 三ヶ組遺跡 |
| | 基準点設定 | | ■ | | | | | | | | | | | |
| | 表土掘削 | | ■ | | | | | | | | | | | |
| | 遺構検出 | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | | | | | | | |
| | 遺構精査 | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | | | | | | | |
| | 埋戻し | | | | | | ■ | ■ | | | | | | |
| | 遺物水洗 | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | | | | | | |
| | 後片付け | | | | | | | ■ | | | | | | |
| 基礎整理作業 | | | | | | | | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | |

## 2　整理等作業

**2018（平成30）年度**　山鳥場遺跡では、縄文時代中期後半の竪穴建物跡を中心とする集落跡を確認した。そこで、14軒の竪穴建物跡の規模や構造等を踏まえ、松本盆地における当該期の竪穴建物跡の様相と比較検討しながら本遺跡の特徴を抽出するとともに、集落全体の様相や変遷を検討することにした。

一方、出土土器の中には、下伊那地域や木曽地域等と類似する特徴が見られ、石器素材には、最寄りの水系に存在しないものも含まれている。こうした諸特徴を詳細に把握した上で、地域間交流を検討できる資料を抽出した。なお、種実圧痕土器は、松本盆地で初見となる。本遺跡では、石囲炉内から炭化種実が出土しているため、併せて本遺跡の環境と縄文時代人の食材にかかわる植物種を提示していく。後・晩期については、敷石住居跡の一部と遺物集中範囲を検出した。松本盆地では、当該期の遺跡自体が数少ないため、集落跡の範囲や遺物の器種分類など事実記載を中心に報告する。

三ヶ組遺跡については、遺構・遺物が希薄であった要因を探った。

第７表　2018 年度整理等作業工程

| 作業内容 | | 4 月 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 遺構 | トレース | ■ | ■ | ■ | | | | | | | | | | |
| | 編集 | ■ | ■ | ■ | | | | | | | | | | |
| | 版組 | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | | | | | | | | |
| 遺物整理 | 接合・復元 | ■ | ■ | ■ | ■ | | | | | | | | | |
| | 分類 | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | | | | | | | |
| | 実測・トレース | | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | | | | | | 委託（土器・石器） |
| | 版組 | | | | | | ■ | ■ | ■ | | | | | |
| | 科学分析 | | | ■ | | ■ | | | | | | | | |
| 写真 | 写真撮影 | | | | | | | | ■ | | | | | 委託 |
| | 版組 | | | | | | | | | ■ | | | | |
| 記録 | 原稿執筆 | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | | | | | |
| | 入稿 | | | | | | | | | ■ | | | | |
| 印刷・製本・発送 | | | | | | | | | | ■ | ■ | ■ | ■ | 編集を含む |
| 収納 | | | | | | | | | | ■ | ■ | ■ | ■ | |

## 3　普及啓発活動

(1) 遺跡説明会および発掘体験等　　参加者

| | | | |
|---|---|---|---|
| 2016.9.3 | 現地説明会 | | 118 名 |
| 2016.8.30 | 朝日小学校　土器洗い体験 | | 38 名 |
| 2017.8.21 | 鉢盛中学校　発掘体験 | | 2 名 |
| 2017.9.2 | 現地説明会 | | 136 名 |

(2) 展示会および講演会等

| | | | |
|---|---|---|---|
| 2016.12.1 ～ 12.26 | 「掘るしん in まつもと」 | キッセイ文化ホール | |
| 2017.1.10 ～ 1.19 | 松本合庁ロビー展 | 松本合同庁舎 | |
| 2017.1.21 ～ 1.26 | 朝日村山鳥場遺跡発掘調査速報展 | 朝日村中央公民館 | |
| 2017.1.21 | 山鳥場遺跡発掘調査報告会 | 朝日村中央公民館 | 50 名 |
| 2017.2.18 ～ 2.24 | 「掘るしん in しののい」 | 埋文センター | 199 名 |
| 2017.2.18 | 遺跡調査報告会－山鳥場遺跡－ | JA グリーンプラザ | 110 名 |
| 2017.11.13 ～ 11.24 | 長野県庁ロビー展 | 長野県庁 | |
| 2018.1.29 ～ 2.2 | 松本合庁ロビー展 | 松本合同庁舎 | |
| 2018.1.20 | 山鳥場遺跡発掘調査報告会 | 朝日村中央公民館 | 50 名 |
| 2018.4.14 | 山鳥場遺跡の調査成果について | 松本市山辺歴史研究会 | 36 名 |
| 2018.4.20 | 山鳥場遺跡から見えてくる朝日村の縄文時代 | 朝日村かたくりの里 | 40 名 |
| 2019.2.14 ～ 2.22 | 「掘るしん in しののい」 | 埋文センター | 270 名 |
| 2019.2.16 | 遺跡調査報告会－山鳥場遺跡－ | JA グリーンプラザ | 149 名 |

(3) 調査情報誌等の発行

| | |
|---|---|
| 2016.7.29 | 「山鳥場遺跡発掘だより」第1号 |
| 2016.9.30 | 「山鳥場遺跡発掘だより」第2号 |
| 2016.11.30 | 「山鳥場遺跡発掘だより」第3号 |
| 2017.3.24 | 「発掘作業の概要　山鳥場遺跡」『埋文センター年報』33 |
| 2017.7.10 | 「山鳥場遺跡発掘だより」第4号 |
| 2017.9.8 | 「山鳥場遺跡発掘だより」第5号 |
| 2017.10.31 | 「山鳥場遺跡発掘だより」第6号 |
| 2018.2.2 | 「縄文時代のシーズニング―朝日村山鳥場遺跡種実圧痕鑑定結果から―」『信州の遺跡』第12号 |
| 2018.3.23 | 「発掘作業の概要　山鳥場遺跡」『埋文センター年報』34 |
| 2019.3.22 | 「整理等作業の概要　山鳥場遺跡」『埋文センター年報』35 |

(4) その他

埋文センター公式ホームページに調査情報を掲載

## 4　作業日誌抄録

### (1) 2016（平成28）年度

| | |
|---|---|
| 7月1日 | 埋蔵文化財発掘調査業務受委託契約締結<br>旧おひさま保育園を発掘現地事務所として朝日村から借用 |
| 7月4日 | ①区試掘調査、①区は砂礫が3m近く堆積しており遺跡は存在しないと判断 |
| 7月6日 | ②区重機掘削開始<br>発掘作業員出勤　発掘作業開始式 |
| 7月11日 | 松建による現地視察 |
| 7月12日 | 遺構検出作業開始 |
| 7月19日 | ②区西側全景写真撮影 |
| 7月20日 | 測量業務委託契約締結 |
| 8月9日 | ②区の包含層が厚いため、重機による再検出 |
| 9月12日 | 予算増額により発掘面積増加を松建が指示 |
| 9月15日 | 朝日村総務課職員による体験発掘 |
| 9月20日 | 松建と現地協議 |
| 10月3日 | 新規発掘作業員5名作業開始 |
| 10月5日 | 高所作業車による写真撮影 |
| 10月12日 | 朝日村文化財審議委員による視察 |
| 10月18日 | ②区東側を拡張し竪穴建物跡3軒検出 |
| 11月4日 | 朝日村公民館報の取材 |
| 11月8日 | 松建、村教委と現地協議 |
| 11月16日 | ②区東側完掘全景写真撮影 |
| 11月17日 | 発掘作業終了 |
| 11月22日 | SB9～11の養生 |
| 11月28日 | 松建による現地確認 |
| 11月30日 | 埋め戻し完了 |
| 12月2日 | 発掘作業員終了式。現地事務所撤収 |
| 12月5日 | 松建へ現場引渡し |
| 12月7日 | 基礎整理作業開始 |
| 12月16日 | 村教委による山鳥場遺跡範囲確認調査の立会い |
| 2月17日 | 土器の洗浄注記委託契約締結 |
| 3月1日 | 測量業務委託成果品納品 |
| 3月13日 | 村教委による三ヶ組遺跡工事の立会い |
| 3月21日 | 土器の洗浄注記納品<br>基礎整理作業終了 |

2017（平成29）年度の調査状況

2017（平成29）年度の現地説明会

### (2) 2017（平成 29）年度

| | |
|---|---|
| 4 月 1 日 | 埋蔵文化財発掘調査業務受委託契約締結<br>旧おひさま保育園を発掘現地事務所として朝日村から借用 |
| 4 月 5 日 | 松建と現地協議 |
| 4 月 10 日 | 三ヶ組遺跡のトレンチ掘削開始 |
| 4 月 12 日 | 発掘作業開始式<br>山鳥場遺跡 2016 年度出土土器の接合作業開始 |
| 4 月 20 日 | 三ヶ組遺跡の１～13 トレンチ掘削終了<br>遺構未検出。遺物石器３点出土。 |
| 5 月 8 日 | 松建、県教委、村教委と三ヶ組遺跡の状況確認 |
| 5 月 16 日 | 山鳥場遺跡④区トレンチおよび表土掘削開始 |
| 5 月 22 日 | 山鳥場遺跡②・③区の埋土除去開始 |
| 5 月 23 日 | 山鳥場遺跡 2016 年度出土石器の器種分類・台帳作成開始 |
| 5 月 24 日 | 山鳥場遺跡・三ヶ組遺跡の測量業務委託契約締結 |
| 5 月 25 日 | 塩尻市立平出博物館において資料調査実施 |
| 5 月 29 日 | 三ヶ組遺跡の単点測量（トレンチ位置）実施、発掘作業終了 |
| 6 月 1 日 | 三ヶ組遺跡を松建へ引渡し |
| 6 月 5 日 | 山鳥場遺跡③区遺構検出、④区遺物包含層の調査開始 |
| 6 月 8 日 | 県文化財保護審議会（当時）の会田進委員が山鳥場遺跡の 2016 年度出土土器に種実の可能性がある圧痕を確認 |
| 6 月 13 日 | 長野県立歴史館で種実圧痕の可能性がある土器片の X 線写真撮影実施 |
| 6 月 19 日 | ④区遺構検出面まで重機掘削 |
| 6 月 27 日 | 種実圧痕が残る土器片の抽出開始 |
| 7 月 4 日 | 松本市立考古博物館において資料調査実施 |
| 7 月 6 日 | 山鳥場遺跡 2016 年度出土石器の器種分類・台帳作成終了 |
| 7 月 7 日 | ④区南側調査区域を拡張（用地境から 1m は保護のため残す）し、竪穴建物跡５軒検出 |
| 7 月 26 日 | ④区遺構調査開始 |
| 7 月 28 日 | 科学分析業務（種実同定）委託契約締結 |
| 8 月 4 日 | 種実圧痕が残る土器片の抽出作業終了 |
| 8 月 25 日 | 科学分析業務委託（種実同定）成果納品<br>ダイズ属、アズキ亜属、エゴマと同定 |
| 9 月 12 日 | 岡谷美術考古館において資料調査実施 |
| 9 月 21 日 | ③・④区の空撮実施 |
| 10 月 2 日 | 竪穴建物跡埋土の水洗選別作業開始 |
| 10 月 11 日 | 地域環境研究室（日本地質学会会員）の浅川行雄氏による現地指導 |
| 10 月 18 日 | 発掘作業終了 |
| 10 月 27 日 | ③・④区の埋戻し完了<br>松建、村教委による山鳥場遺跡引渡し協議 |
| 10 月 31 日 | 発掘作業員終了式。現地事務所撤収 |
| 11 月 1 日 | 基礎整理作業開始 |
| 12 月 11 日 | 科学分析業務（種実同定）委託契約締結 |
| 1 月 31 日 | 松建、県教委、村教委、埋文センターの協議で山鳥場遺跡①区西側は調査不要となる |
| 2 月 14 日 | 駒ケ根市立博物館において資料調査実施 |
| 3 月 6 日 | 上松町教育委員会において資料調査実施 |
| 3 月 8 日 | 北杜市埋蔵文化財センター、山梨県立考古博物館において資料調査実施 |
| 3 月 8 日 | 測量業務委託成果納品 |
| 3 月 9 日 | 科学分析業務（種実同定）委託成果納品<br>クリ、オニグルミ、アズキ亜属等を同定 |
| 3 月 26 日 | 基礎整理作業終了 |

### (3) 2018（平成 30）年度

| | |
|---|---|
| 4 月 1 日 | 埋蔵文化財発掘調査業務受委託契約締結<br>本格整理作業開始、土器接合・復元、石器観察・分類、遺構図のトレース |
| 6 月 27 日 | 縄文土器、石器、土製品実測委託契約締結 |
| 7 月 5 日 | 縄文土器、石器、土製品委託実測開始 |
| 7 月 9 日 | 山鳥場遺構配置図・土層柱状図等版下作成 |
| 7 月 23 日 | 原稿作成開始 |
| 7 月 30 日 | 三ヶ組トレンチ配置図等版下作成 |
| 8 月 7 日 | 遺物観察表・集計表作成　実測委託図の校正 |
| 10 月 9 日 | 遺構写真図版作成開始 |
| 10 月 15 日 | 報告書編集会議 |
| 10 月 31 日 | 縄文土器・石器、土製品実測成果品納品 |
| 11 月 6 日 | 遺物写真撮影委託契約締結 |
| 12 月 7 日 | 遺物写真成果品納品 |
| 1 月 15 日 | 報告書印刷製本発注 |
| 3 月 20 日 | 報告書関係成果品納品 |

2017（平成 29）年度の作業体制

# 第２章　遺跡の位置と環境

## 第１節　地理的環境

### 1　遺跡の位置

山鳥場遺跡は、長野県東筑摩郡朝日村西洗馬 1435 － 1 ほかに、三ヶ組遺跡は朝日村西洗馬 850 － 4 ほかに所在する。両遺跡は鎖川右岸の段丘上に位置する（第３図）。

### 2　遺跡周辺の地形環境

朝日村は松本盆地の南西部に位置し、地形的には北アルプスに属する山地と鎖川の両岸に発達する河岸段丘や、氾濫原が作る平坦地とでできている。地質的には山地部が、砂岩・粘板岩・チャート等の堆積岩類で構成され、平坦地は鎖川とその支流から運搬された礫や砂などの堆積物で構成されている（第４図）。

朝日村内の平坦地は、鎖川沢沿いに発達する河岸段丘と氾濫原が大部分で、このほか小沢の出口に小規模な扇状地がある。鎖川の両岸に発達する河岸段丘は古い時代の扇状地が段丘化したもので、これは針尾付近を扇頂とし、扇端は松本市北今井付近にある。朝日村内では、鎖川左岸の古見原、右岸の西洗馬の平坦地がこれに当たる。この古見原･西洗馬には御嶽火山を起源とされる波田ローム層（およそ２～６万年前）が分布している。

山鳥場・三ヶ組遺跡のある鎖川右岸の西洗馬地区では、内山沢によって形成された小規模な扇状地が鎖川の河岸段丘上に認められる（第５図）。

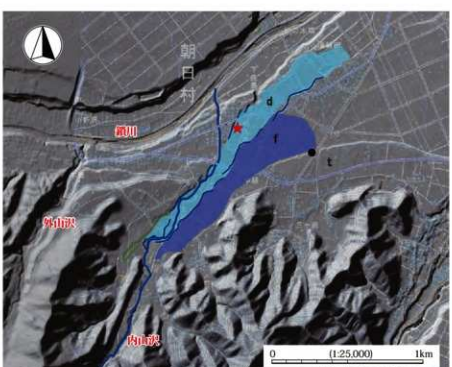
調査の結果、山鳥場遺跡では鎖川がつくった砂礫層の上を内山沢からの堆積物が覆っていることを確認した（第３章第１節２）。また基盤層には波田ローム層由来と考えられる黄褐色シルトが堆積するが、この堆積物には砂礫が多く混入するため、内山沢由来の土石流等による二次堆積でできたと考えられる[1]。一方、三ヶ組遺跡の調査地点は、砂礫を含まないよく締まったロームが堆積することが確認できた。周囲には河川や湧水が確認できない点から、鎖川がつくった段丘面が残るものと考えられる[1]。

[1]　本節は地域環境研究室（日本地質学会会員）浅川行雄氏の御教示による。

第３図　遺跡の位置

扇状地および段丘堆積層(f)　石灰岩(ls)　輝緑凝灰岩(sch)　チャート(ch)
粘板岩および砂岩(Mc)　粘板岩および砂岩(Hc)　粘板岩および砂岩(Noc)　珪質粘板岩(Hh)

第４図　朝日村周辺の地質（「1/5 万　地質図幅「塩尻」1964 年」を使用）（浅川行雄氏作成）




t：段丘堆積物　f：扇状地堆積物　d：崩積堆積物・土石流堆積物
★：山鳥場遺跡　── 内山沢の流路範囲　── 内山沢の枝沢流路（崩積堆積物を流出させた可能性）
●：三ヶ組遺跡

第５図　空中写真解析による表層地質（浅川行雄氏作成）

# 第２節　歴史的環境

朝日村における埋蔵文化財包蔵地は現在24か所周知されている（第６図、第８表）。村内で遺跡の立地する場所は主に鎮川の可岸段丘や小沢の流域に集中する。特に山鳥場遺跡の位置する内山沢は、流域に広い平坦地があり、沢を水源として集落を形成しやすい環境であったといえる。村内の遺跡数を時代別にみると、重複を含めて縄文時代22、弥生時代５、平安時代10、中世４遺跡を数え、縄文時代が多いことがわかる。以下時代別に紹介する。

**縄文時代**：重複を含めて草創期２、早期３、前期４、中期12、後期２、時期不明９遺跡を数える。

草創期は、芦ノ久保遺跡（12）と氏神遺跡（17）で有舌尖頭器が１点ずつ採集されている。

早期は、熊久保遺跡（8）で土坑１基を調査し、条痕文を有する尖底土器が２点出土している。このほか中俣沢遺跡（5）で楕円押型文土器が採集されている。

前期は、熊久保遺跡（8）で諸磯ｃ式土器、氏神遺跡（17）で前期末葉の土器が採集されている。

中期は、遺跡数が増加し、熊久保遺跡（8）、芦ノ久保遺跡（12）、氏神遺跡（17）、三ヶ組遺跡（19）で一定量の遺物が採集されている。特に熊久保遺跡（8）は、現在のところ朝日村最大の縄文集落遺跡で、10次にわたる調査が行われた。遺跡は鎮川左岸の段丘崖に沿って位置する。範囲は東西500m程、南北100m程あり、面積は50,000㎡に及ぶと推測されている。中期前葉から後葉にかけての竪穴建物跡が100軒以上存在し、中期に集落が長期間継続したと考えられる。また山鳥場遺跡（16）の発掘調査により鎮川右岸にも中期後葉の集落が存在することが判明した。また三ヶ組遺跡（19）では中期後半の土坑が調査されている（朝日村教委2006）。

後期は、遺跡数が激減する。熊久保遺跡（8）では、土坑から称名寺式土器が出土している（樋口1964）。山鳥場遺跡（16）では石剣・耳飾りが採集されていたが、今回の発掘調査で初頭から前葉の敷石住居跡１軒を調査し、鎮川右岸に当該期の遺構が存在することが明らかとなった。

晩期は、今まで遺物も皆無に近く、様相が不明瞭であったが、山鳥場遺跡（16）の調査で、初頭の土器や土製耳飾がまとまって出土し、朝日村における当該期の生活痕跡がはじめて明らかとなった。

**弥生時代**：東電南遺跡（23）と熊久保遺跡（8）から条痕文土器が、芦ノ久保遺跡（12）と氏神遺跡（17）から磨製石鏃が採集されている。

**古墳時代**：村内に古墳は確認されていない。遺物も採集されていない。

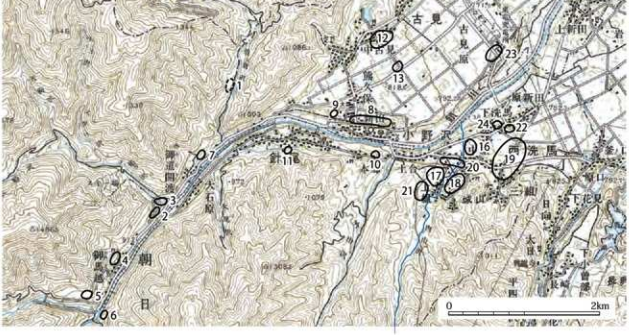
**平安時代**：縄文時代に続いて遺跡数が多くなり、村内全域に分布する。遺物は土師器・黒色土器・灰釉陶器・鉄鏃などが採集されている。10世紀後半のものが多い。また五社神社には社宝として鉄鐸が残されており、古代に社を作る勢力が存在していた可能性がある。

**中世**：宮前遺跡（4）では室町期の「双雀蓬莱鏡」と内耳片、土師器が採集されている。犬が原遺跡（9）では常滑系の甕片、鉄製釘、炭化米が工事中に出土、芦ノ久保遺跡（12）では鎌倉時代とされる鉄製の内耳鍋が採集されている。三ヶ組遺跡（19）では溝跡と、12～14世紀頃のかわらけ、常滑系の甕片、東海系捏鉢、龍泉青磁碗片などが出土している（朝日村教委2006）。このほか三ヶ組の推定遺跡範囲内で、中世の埋納銭と推測される38種282枚の銅銭が出土したとの記録が残る（朝日村村誌刊行会1991）。さらに城山には室町時代に築城されたと伝わる武居城址があり、礎石と思われる石や、石鉢の破片が出土した。武居城は当地の豪族三村氏により作られ、現在、県史跡に指定されている。一方、文献資料に関しては、平安時代の『小右記』に藤原実資所有の「洗馬の牧」、鎌倉時代の『吾妻鏡』には「洗馬の庄」の記述がある。また長享二年（1488）の『諏訪神社春宮造営帳』には「西洗馬」の名称がはじめて登場する。このほか薬師堂にある日光・月光両菩薩は、鎌倉末期に仏師善光寺妙海により作られ、県宝に指

定されている。今後も当該期の埋蔵文化財の資料が蓄積され、文献資料や文化財などの史料を合わせて検討すれば、中世における朝日村の様相がより明らかになると思う。

**近世以降**：西洗馬は当初松本藩に属していたが、元和４（1618）年に高遠藩に編入となり、明治維新まで続いた。明治 42（1909）年に朝日街道、明治 43（1910）年に洗馬街道が開通し、大正５（1916）年に電灯が点灯した。昭和以降になると大規模な土地改良が行われ、三ヶ組遺跡周辺は区画整備が進んだ。一方、山鳥場遺跡周辺は水田区画が自然地形に沿う形で残り、大規模な圃場整備が行われないまま現在に至る。山鳥場遺跡と三ヶ組遺跡の残存状況に近代以降の土地改良が影響した可能性を指摘しておきたい[1]。

[1]　本節は主に『朝日村誌下巻』（朝日村 1991）と『熊久保遺跡第 10 次発掘調査報告書』（朝日村教委 2003）による。




第６図　朝日村遺跡分布図

第８表　朝日村遺跡一覧表（村教委 2003 を基に作成）

| No | 時代 / 遺跡名 | 縄文時代 草創 | 早期 | 前期 | 中期 | 後期 | 晩期 | 不明 | 弥生時代 | 平安時代 | 中世 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 曽倉沢遺跡 | | | ○ | | | | | | | |
| 2 | 駒込遺跡 | | | | ○ | | | | | ○ | ○ |
| 3 | 穴沢原遺跡 | | | | ○ | | | | | | |
| 4 | 宮前遺跡 | | | | ○ | | | ○ | | ○ | ○ |
| 5 | 中俣沢遺跡 | | ○ | | | | | | | | |
| 6 | 樫保沢遺跡 | | | | | | | ○ | | | |
| 7 | 御道開渡遺跡 | | | | | | | ○ | | ○ | |
| 8 | 熊久保遺跡 | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | |
| 9 | 犬が原遺跡 | | | | | | | ○ | | | ○ |
| 10 | 本郷遺跡 | | | | | | | | | ○ | |
| 11 | 一の沢遺跡 | | | | | | | ○ | | | |
| 12 | 西ノ久保遺跡 | ○ | | | ○ | | | | ○ | | ○ |

| No | 時代 / 遺跡名 | 縄文時代 草創 | 早期 | 前期 | 中期 | 後期 | 晩期 | 不明 | 弥生時代 | 平安時代 | 中世 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 13 | 経塚遺跡 | | | | | | | ○ | | | |
| 14 | 麦ヶ窪遺跡 | | | | | | | ○ | | | |
| 15 | 城西遺跡 | | | | ○ | | | | | | |
| 16 | **山鳥場遺跡** | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | |
| 17 | 氏神遺跡 | ○ | | | ○ | ○ | | | | ○ | ○ |
| 18 | 大日遺跡 | | | | | ○ | | | | | ○ |
| 19 | **三ケ組遺跡** | | | | | ○ | | | | | ○ |
| 20 | 中村遺跡 | | | | | | | ○ | ○ | ○ | |
| 21 | 前原遺跡 | | ○ | ○ | ○ | | | | | ○ | |
| 22 | 社宮司遺跡 | | | | | | | ○ | | | |
| 23 | 東電南遺跡 | | | | ○ | | | | | ○ | |
| 24 | 三ヶ組北西遺跡 | | | | | | | | | ○ | |

# 第３章　調査の方法

## 第１節　発掘作業の方法

### 1　調査区とグリッド設定

調査は県教委の「記録保存を目的とする発掘調査の標準および積算基準」と、埋文センター作成の「遺跡調査の方針と手順」に則して実施している。

(1) 遺跡名称と遺跡記号

遺跡名称と遺跡記号は、山鳥場遺跡（YAMATORIBA）:「EYT」、三ヶ組遺跡（SANGAKUMI）:「ESG」である。遺跡記号は、調査記録の便宜を図るため、遺跡名をアルファベット３文字で表したもので、１文字目の「E」は長野県内を10地区に区分し、東筑摩郡・塩尻市・松本市・安曇野市に付与した名称、２文字目と３文字目は遺跡名のローマ字表記２文字を選択したものである。各種記録類や遺物の注記に遺跡記号を用いた。

(2) 調査区（グリッド）の設定と呼称（第７図）

山鳥場遺跡では、国土地理院の平面直角座標第Ⅷ系の原点（東経＝138° 30′ 0″、北緯＝36° 0′ 0″）を基点に、200の倍数値を選んで測量基準線を設け、調査対象範囲全体をカバーするようにグリッドを設定した。

大々地区は、200 × 200mの区画で、北西から南東へローマ数字で表記した。山鳥場遺跡は「Ⅰ」のみ使用した。

大地区は、大々地区を40 × 40mの25区画に分割し、北西から南東へＡ～Ｙまでのアルファベットで表記した。山鳥場遺跡は「R」・「S」・「T」・「X」・「Y」を使用した。

中地区は、大地区を８× 8mの25区画に分割し、北西から南東へ01 ～ 25のアラビア数字で表記し、調査では、中地区を遺構測量等の基準単位とした。

小地区は、中地区を２× 2mの16区画に分割したもので、北西から南東へ01 ～ 16までのアラビア数字で表記し、遺構の位置を示す際に活用した。なお、座標値は、世界測地系である。

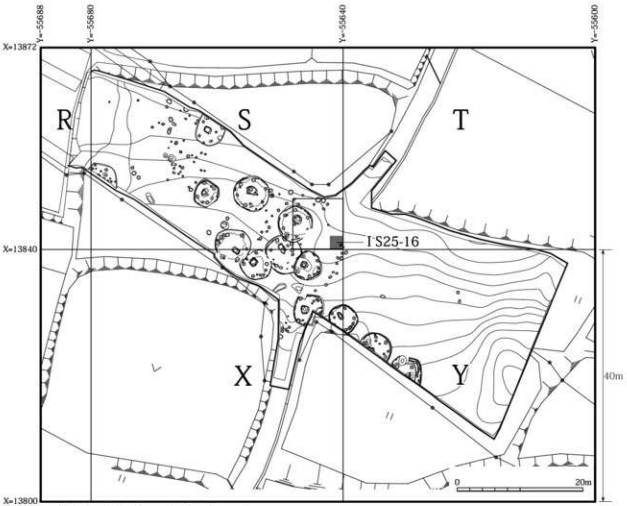
グリッド設定は、遺構検出がほぼ終了した調査後半の段階で、業務委託により行った。基準点については、国家座標がわかる３級基準点から４級基準点測量を行い、発掘調査区内およびその周辺に６点の測量基準点を設定した。測量基準点は世界測地系を用いた。

三ヶ組遺跡では範囲確認調査のために設定したトレンチについて、掘削後に業務委託により単点測量した。

### 2　表土の掘削と遺構の検出

2016年度は①・②区を調査した（第２図）。①区は遺跡の状況が不明のためトレンチ調査を行った。その結果、耕土直下で基本土層第Ⅲ層の基盤層となり、遺構・包含層ともに残存しないことを確認した。②区は村の確認調査により第Ⅲ層上面で遺構を検出していたため、耕土を除去して面的調査を実施した。

2017年度は③・④区を調査した。両地区は遺跡の状況が不明のため先行トレンチ調査を行ったところ、③区東半部～④区は耕土直下の基本土層第Ⅱ層が遺物包含層であり色調・土質差からⅡａ・Ⅱｂ層に細




▲ 大地区（40m）：A・B・C……S…

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| A | B | C | D | E |
| F | G | H | I | J |
| K | L | M | N | O |
| P | Q | R | S | T |
| U | V | W | X | Y |

200m
40m

▲ 大々地区（200m）：Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

| | | | |
|---|---|---|---|
| S25-01 | S25-02 | S25-03 | S25-04 |
| S25-05 | S25-06 | S25-07 | S25-08 |
| S25-09 | S25-10 | S25-11 | S25-12 |
| S25-13 | S25-14 | S25-15 | S25-16 |

8m
2m

▲ 小地区（2m）：I S25-16
（大地区図参照）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 01 | 02 | 03 | 04 | 05 |
| 06 | 07 | 08 | 09 | 10 |
| 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |

2m
8m
40m

▲ 中地区（8m）：I S25
小地区（2m）：I S25-16

第７図　調査区とグリッドの呼称

分できることが判明したため、層位ごとに遺構の検出を試みた。③区西半部は村道直下に位置し、道路の基礎部分により包含層が削平を受けていたため、基本土層第Ⅲ層上面で面的調査を実施した。

基本土層第Ⅱ層における遺物包含層の掘下げは、8m 四方の中地区を細分して遺物を取り上げた。まず中地区を 4m 四方に 4 分割し、北西から南東へ 1 ～ 4 のアラビア数字を与えた。遺物の集中する範囲はこの中をさらに 1m 四方に 16 分割し、北西から南東へ 1 ～ 16 のアラビア数字を与え遺物の取上げに使用した（第 8 図）。

基本第Ⅱ層の調査は、Ⅱｂ層下半に達すると遺構が見分けづらくなり、遺物も出土しなくなったため、該当層を重機で掘り下げ、基本土層第Ⅲ層上面で遺構検出を実施した。

調査終了後は基本土層第Ⅲ層より下の層について深掘りを実施したところ、黄褐色シルトと砂礫層が 1.5m 下まで交互に堆積する状況であり、遺構は確認できなかった。また基本土層第Ⅲ層の下部からは、大礫を含む砂礫層を検出した。この礫の中には鎖川上流左岸のみに分布する閃緑ひん岩礫が含まれていた。この点から該当層は鎖川が形成した河岸段丘で、その上を内山沢由来の堆積物が覆うことが確認できた[1]。

## 3　遺構精査

埋文センターで定める以下の遺構記号にアラビア数字を付して遺構名とした。

SB：2m を目安とし、それ以上の大きさの方形、円形、楕円形の掘込み。

SK：単独、もしくは他の掘込みとの関係が認められない SB より小さな掘込み。

NR：自然流路。

遺構精査は、竪穴建物は、検出面で遺構の形状を確認後にセクションベルトを残し、移植ゴテおよび両刃鎌で埋土の層位ごとに床面まで掘り下げた。セクションベルトは記録後に外し、周溝、柱穴、炉、埋甕等の精査、記録を行い、プラン全体を記録した。その後床下調査を行い、建替え前の周溝、柱穴等を精査、記録した。

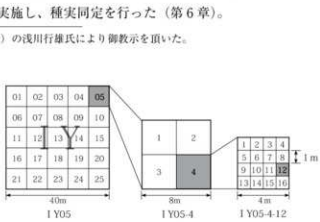
土坑は、検出面で遺構の形状を確認後に半裁し、セクションの記録後に完掘し、プラン全体を記録した。

終了した調査面は、下層の遺構・遺物の有無を再確認するため、重機による深掘りを行った。

遺物は遺構ごとに出土層位を分けて取り上げ、出土地点の記録が必要なものには遺構ごとの遺物番号を付して取り上げた。

なお、竪穴建物跡の炉内埋土については、科学分析を行うことを目的にサンプル土を採取した。2016 年度は炭化物を包含する層のサンプルとして 5 ～ 10㎝四方程度の土塊を、2017 年度は炭化種実の採取を目的として、層位ごとにすべて採取した。採取したサンプル土に対しては 1㎜メッシュのフルイを用いた水洗選別による遺物採取を実施し、種実同定を行った（第 6 章）。

[1]　地域環境研究室（日本地質学会）の浅川行雄氏により御教示を頂いた。




第 8 図　基本土層第Ⅱ層における遺物取り上げ区画

### 4　記録作成

図化記録は、業務委託を主体に行い、トレンチ図、遺構平面図は単点測量により作成した。土層断面図、遺物出土状況図は、調査研究員およびその指導のもと発掘作業員が手測量（遺り方測量）で行った。遺構平面図について、竪穴建物跡は完掘段階（床面検出後、掘り方掘削前）に、土坑は埋土除去後に地区内でまとめて、それぞれ業者委託による単点測量を行った。提出された紙出力図へ遺構と照合しながら結線した。単点測量図について、竪穴建物跡は個別図、土坑は割付平面に記録した。遺構図は1/20の縮尺を基本とし、必要に応じて1/10の縮尺で測量した。また、調査範囲図、地形測量図は、業務委託で1/100を基本として作成した。

写真記録は、6×7リバーサル・モノクロフィルム、一眼レフデジタルカメラを併用した。デジタル写真は、LAW・JPEGのデータを保存した。遺跡の全景写真は、2016年度は、業務委託による高所作業車からマミヤ7Ⅱで、2017年度は、業務委託によるラジコンヘリコプターに搭載されたCanon EOS X7で撮影した。

## 第2節　整理等作業の方法

### 1　整理等作業

(1) 遺物の整理

**注記について**

土器・土製品・石器は、微細な資料および黒曜石を除き、すべてに注記をした。遺跡名は3文字のアルファベットで山鳥場遺跡：EYT、三ヶ組遺跡：ESGとし、出土地点等は以下の表記を用いて注記をした。

注記記号

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 検出面→ケン | 埋土→注記なし | 床面→ユカ | 炉跡→ロ | トレンチ→トレ |
| ベルト→ベルト | 基本Ⅱa層→Ⅱaソウ | ピット→ピット | 排土→Z | |

**遺物管理番号について**

遺構の時期・性格を決定し遺跡の特徴を記述するために、資料化が必要と判断した土器、加工が認められるすべての石器、石核等について、個別に管理番号を付し、出土地点、器種、遺物の属性などを記載した「遺物管理台帳」を作成した（添付DVD参照）。なお、管理番号を付したが、写真、実測図を掲載できなかった資料もある。

**遺物整理の手順**

ブラシを用いた水洗作業後に機械（注記マシン）および人力（手注記）で遺物に注記し、土器・土製品・石器と遺物の素材別に整理を進めた。

土器・土製品は、遺構別、グリッド別に、すべての資料を分類し、部位、時期、文様等がわかるものは記録し、破片数と重量を計測した。遺構の当該グリッド出土土器を含めて遺構ごとに実施した。縄文時代中期後葉土器については遺構間接合を行った。

石器は、器種分類を行い、石器類は法量と重量、原石・石核・剥片は重量の計測を行った。

また2016年度に調査した竪穴建物出土土器については、種実圧痕の有無を観察し、レプリカ法による種実同定を行った（第6章）。

(2) 遺構図の整理

業務委託で作成した単点測量図（デジタルデータ）をもとに全体図、個別遺構平面図を作成し、断面

図等は図面用紙に記録したものを Illustrator CC を用いてデジタルトレースを行った。

(3) 写真記録の整理

発掘作業で撮影したフィルム写真およびデジタル写真は、撮影台帳を作成し、撮影日、撮影番号と内容を記した。フィルム写真は撮影日順にアルバムに収録した。デジタル写真データはLAW・JPEG を撮影日順にカットごとにまとめ、ハードディスクと DVD に記録した。ハードディスクの型式はバッファロー社の HD-LCU2 で容量は 2TB である。

遺物写真は、委託によりデジタル撮影を行った。撮影No.をファイル名とした撮影台帳を作成し、撮影日、撮影番号と内容を記した。デジタル写真データは JPEG・TIFF・LAW のデータ単位で撮影番号順にハードディスクと DVD に記録した。ハードディスクは遺構写真を記録したものと同じである。

## 2　報告書作成と資料収納

(1) 報告書作成

報告書の本格的な編集作業は、2018 年度に入ってから着手した。山鳥場遺跡と三ヶ組遺跡とは別の章立てをし、それぞれの遺跡の特徴が理解しやすいように工夫し、章末には小結を設けた。

報告書作成に当たり、2018 年 10 月 15 日に編集会議を行った。会議で指摘を受けて遺構図・遺物図の表現方法や章立てについて検討を行い、報告書の内容を練り上げていった。

完成した報告書は、国、都道府県および県内外市町村の埋蔵文化財関係機関、大学、地域の図書館等に配布する。

(2) 資料収納

土器・土製品・石器等の人工遺物は、材質、種別ごとに報告書掲載遺物と非掲載遺物に分けたうえで、出土遺構、グリッド等の地点別にテンパコに収納し、遺物収納台帳を作成した。

科学分析した種実圧痕レプリカと炭化種実はプラスチックケースに収納し、台帳を作成した。

実測図類は、遺構実測図、遺物実測図別に、通し番号（図面番号）を付けて図面収納台帳に登録し、図面ファイルに収納した。

遺構・遺物写真は整理段階でアルバムに収納し、台帳を作成した。

遺構・遺物写真のデジタルデータは、整理等作業時から使用しているハードディスクに収納した。

# 第４章　山鳥場遺跡の調査

## 第１節　遺跡の概要

### １　遺跡の概観

山鳥場遺跡は、内山沢流域に位置し、標高は 780 ～ 790m 程を測る。遺跡範囲について、南は日本アルプスサラダ街道沿いにある中組集落付近から、北はスタービレッジ付近まで南北 300m 程を測り、東西方向は 150m 程を測る（第９図）。発掘調査歴はない。村誌によれば、縄文時代中期後半の土器片、後期に属すると思われる石剣・土製耳飾が採集されている（朝日村誌刊行会 1991）。

### ２　基本層序

2018 年に調査した④区南西端の南側壁面を標準として基本土層を以下の通り示す（第 11 図）。

Ⅰ層：耕土

Ⅱａ層：10YR2/1 黒色シルト　粘性強い、しまり弱い、小礫を含む。縄文時代中期～晩期の遺物包含層。

Ⅱｂ層：10YR3/2 黒褐色シルト　粘性強い、しまり弱い、小礫を含む。上部を中心に縄文時代中期～晩期の遺物包含層。縄文時代後期の遺構検出面。

Ⅲ層：黄褐色～暗黄褐色シルト、粘性あり、しまり弱い。小礫を含む。部分的に小礫や砂礫をレンズ状に含む。縄文時代中期の遺構検出面。

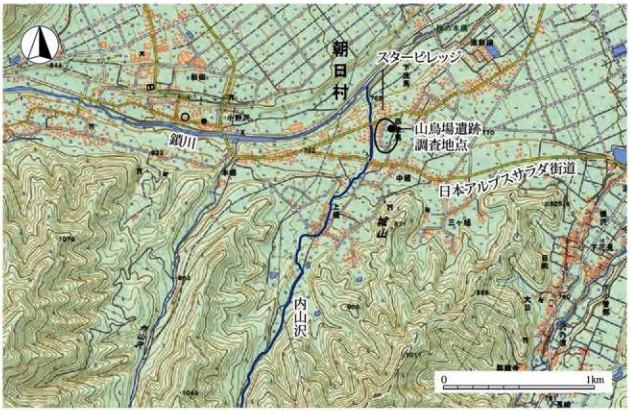
Ⅱａ・Ⅱｂ層は一定量の小礫が含まれ風成層とは考えにくく、内山沢の河川作用により堆積したと考える[1]。Ⅱ層は③区東半～④区で確認したが、①～③区西半では面的に確認できない。しかし②区はⅢ層上面に縄文時代中期～晩期の遺物を含む黒色層がレンズ状にわずかに残存していることから、基本Ⅱ層に相当する層が一部に残存するが、大部分は後世の削平を受けたと考える。

Ⅲ層は、黄褐色シルトの中に砂礫層がレンズ状に堆積する（ＰＬ 14）。内山沢沿いに堆積したローム層が内山沢の洪水で押し出され、二次堆積したものと考えられる[1]。このためⅢ層上面には自然流路状の砂礫範囲が多数露出し、縄文時代中期後葉以前に形成された流路（ＮＲ２）や、後期以降に形成された流路（ＮＲ１）も確認できる（第 10 図）。特にＮＲ１は、後期前葉のＳＢ３を削平しており後期以降に形成されたと考えられるが、上面が削平を受けているためⅡ層との先後関係を明確にできない。またＩＳ 16 グリッドでは、ＮＲ１のプランが不明瞭であり、検出時にＮＲ１とグリッドの遺物を明確に分離できなかった。

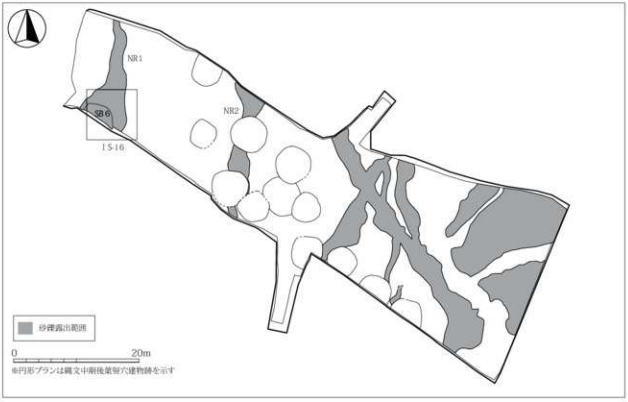
山鳥場遺跡においてはⅡｂ層上面とⅢ層上面で遺構が検出された。Ⅱｂ層上面では後期と推測されるＳＦ２基を検出した（図版 32）。Ⅲ層上面における検出では縄文時代中期の遺構すべてと後期～晩期の土坑２基を検出した（図版 32）。このほか時期不明の土坑も多く検出した。その大半が中期後葉の所産と考えるが、Ⅱ層から後晩期の当該遺物も出土している点から、当該期の土坑も若干含まれる可能性を指摘したい。

---

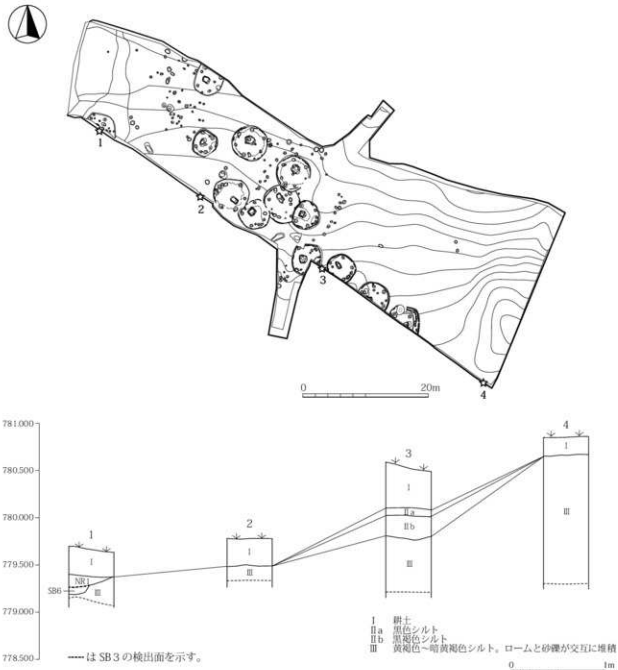
[1]　地域環境研究室（日本地質学会会員）浅川行雄氏の御教示による。




第９図　山鳥場遺跡の位置




第 10 図　Ⅲ層上面における砂礫露出範囲




第 11 図　山鳥場遺跡基本土層図

# 第２節　縄文時代の遺構

## １　中期後葉

### (1) 遺構の概要（図版１・２、ＰＬ１・２）

検出した遺構は、竪穴建物跡 14 軒、土坑 11 基である。いずれも基本土層第Ⅲ層面で検出した。当該期の遺構は調査範囲の中央付近に集中していた。遺跡は地形的に南東から北西へ傾斜する緩斜面上に位置し、遺構はこの傾斜に沿う形で分布する。竪穴建物跡の重複は調査区の中央付近に多く、遺構全体の分布範囲と同様の傾向を示す。

竪穴建物跡は、すべて「協会９～11期」に伴う[1]。以下、諸特徴の傾向を記す。規模は主軸の長さを基準に、小形（350cm 以上 450cm 未満）、中形（450cm 以上 550cm 未満）、大形（550cm 以上 640cm 未満）の３類とした。大形のものは調査範囲の中央付近にまとまる傾向がある。平面形状は円形を基調とするもの（不整円形～不整楕円形）と、方形を基調とするもの（不整方形～不整五角形）の２種に分かれる。主柱穴は平面形状と対応し、円形を基調とするものは６本柱、方形を基調とするものは４本柱を基本とする。炉は建物の規模、形状に関係なく、プラン中央奥壁寄りに位置する。炉の形状は、長方形で炉底までの深さが 15cm 程の浅いものと、方形で炉底までの深さが 40cm 程の深いものとに分かれる。円形基調の建物跡には長方形の炉が伴い、方形基調の建物跡には方形の炉が伴う傾向がある。炉内に土器を敷設する建物跡が３軒ある。埋甕は２軒で確認した。いずれも方形基調の建物跡である。このほかに床下調査で新たに貼床、周溝、柱穴が出土する事例が５軒あり、拡張以前の遺構痕跡と判断している。

土坑は 100 基中、出土遺物から中期後葉と考えたのは 11 基である。ここでは、特徴的な形状や土層堆積を有する土坑および、埋土中から遺物が出土した土坑を選んで掲載した。時期不明の土坑の多くは、中期後葉の竪穴建物跡分布範囲内およびその周辺に位置することや、埋土も中期後葉の竪穴建物跡と類似する点から、当該期に属する可能性があると考えた。中期後半以外と明確に想定できる土坑は抽出できない。

### (2) 竪穴建物跡（付表１）

**ＳＢ４**（図版３・４、ＰＬ３）　位置：②区　ＩＳ 13

**経過**：中形の不整方形プランを検出した。調査区境でトレンチ掘削し、平坦な硬化面を床面と判断した。検出時にプランの西側に一部突出する部分を確認したが、色調差からＳＢ４に切られる土坑と判断し、SK28 としてＳＢ４の完掘後に調査した。北東側の３分の１が調査区外となる。

**埋土**：２段階に分かれる。２層が南壁際に堆積した後に１層が堆積する。１層中で遺物と礫が混在して出土した。

**床・周溝・壁**：床は平坦を意識するが、ゆるやかな起伏がある。貼床（３層）は床全面に広がる。掘方底に黄褐色（砂質）シルトを敷いて硬化面とする。周溝は確認できない。壁は斜めに立ち上がる。

**柱穴**：Ｐ３・５・７・８は直径 40 ～ 60cm 程、深さ 20 ～ 50cm 程で、不整方形プランの四隅に位置する点から主柱穴と考えた。柱痕は確認できない。

**炉**：中央から奥壁寄りに方形石囲炉を検出した。長軸 50 ～ 70cm 程の不整楕円形の石を長方形に組み、

[1] 本遺跡における中期後葉の土器の時期は「長野県における縄文時代中期土器の編年と動態」（宮崎・綿田ほか 2013）を基に協会９～ 11 期として区分した。詳細は第４章４節を参照されたい。

内法は長軸 75cm、短軸 65cm で、床面からの深さは 26cm である。炉辺石の一部は欠損していたが、炉内埋土６層から出土した石と接合している。炉辺石は部分的に赤化していた。炉内埋土は炭化物・焼土をほとんど含まない。底面に被熱痕を確認した。

**出土遺物**：土器は炉上部で 98 が出土し、Ｐ１で３が立位で出土した。ほか多くは１層から出土した。唐草文系土器が主体を占める。

**時期**：炉およびＰ１出土の土器から、協会 10 期と考えた。

**ＳＢ５**（図版５・６、ＰＬ３・４）　位置：②区　ＩＳ 18・23

**経過**:小形の不整方形プランを検出し、トレンチ掘削し、平坦な硬化面を床面と判断した。プラン南東側は、かく乱により削平される。

**埋土**：単層である。１層中で遺物と礫が混在して出土した。

**床・周溝・壁**：床は平坦を意識するが、ゆるやかな起伏がある。貼床（３層）は主柱穴で囲まれる範囲を中心とし、奥壁側は壁との境まで広がる。掘方底に黄褐色シルトを敷いて硬化面とする。周溝は壁下にある。南西隅を除き全周する。溝状で幅 20cm 程、深さ 10cm 程を測る。壁は斜めに立ち上がる。

**柱穴**：Ｐ１・３・５・６は直径 60 ～ 70cm 程、深さ 30 ～ 40cm 程で、不整方形プランの四隅に位置する点から主柱穴と考えた。Ｐ４・７は主軸に対し対称位置にあり補助的な柱穴の可能性がある。Ｐ５は炭化物や焼土が含まれる埋土が３層にわたり堆積する。

**炉**：中央からやや奥壁寄りに炉穴と炉辺石を検出した。炉辺石は奥壁側のみ残存し、ほかに抜取り痕を確認した。炉辺石は部分的に赤化していた。規模は炉底で長軸 60cm 程、短軸 40cm 程、床面からの深さが 30cm 程とやや深い。炉内埋土中には大形の礫があり、その一部は接合したが本炉に伴うかどうかは確認できない。炉内埋土には炭化物と焼土を少量含む。底面に被熱痕を確認した。

**出土遺物**：土器は炉内２層中より４が略完形で出土した。ほか多くは１層から出土した。唐草文系土器が主体を占める。土製品は土偶４が炉内２層と炉上面の埋土１層間で接合した。ほか土偶３が炉上面より、ミニチュア土器 12 が埋土中より出土した。

**時期**：炉内出土土器および土偶の接合状況から、協会 11 期と考えた。

**ＳＢ６**（図版７、ＰＬ４）　位置：②区　ＩＳ 16

**経過**：ＮＲ１（第 10 図）の底面で、黒色を呈する大形の不整円形プランを検出し、トレンチ掘削し、平坦な硬化面を床面と判断した。面的に掘下げる過程でピット状のプランを検出したが、規模、色調の違いからＳＢ６を切る土坑と判断し、これを SK121 とした。南西側の２分の１が調査区外となる。

**埋土**：２段階に分かれる。２層が壁際から床面にかけて部分的に堆積した後に１層が堆積する。

**床・周溝・壁**：床は平坦を意識するが、ゆるやかな起伏がある。南東部の一部に硬化面を検出した以外は軟質である。周溝はない。壁は斜めに立ち上がる。

**柱穴**：Ｐ２・４・６～８は直径 40 ～ 80cm 程、深さ 30 ～ 50cm 程で柱穴と考えられる。調査範囲が限られるため配列を検討できない。

**炉**：調査区境において平石を検出し、炉辺石の一部と推定した。

**出土遺物**：土器はＰ６から９が出土した（PL ４）。底部は欠けている。ほか多くは１層から出土した。唐草文系土器が主体を占める。

**時期**：埋土およびＰ６出土土器から、協会９期と考えた。

**ＳＢ７**（図版８・９、ＰＬ４・５）　位置：②区　ＩＳ18・19・23・24

**経過**：大形の不整円形プランを検出した。トレンチ掘削し、平坦な黄褐色を床面と判断し調査した。床下調査でも部分的な貼床とピットおよび周溝を確認し、本跡は建て替えられたと考えた。検出時にプラン東側に一部突出する部分を確認したが、色調の違いからＳＢ７に切られる土坑と判断し、これをＳＫ71としてＳＢ７の完掘後に調査した。

**埋土**：２段階に分かれる。３～７層が壁際から床面に堆積した後、プラン中央付近に２層が堆積する。２層中で遺物と礫が混在して出土した。

**床・周溝・壁**：床は平坦を意識するが、ゆるやかな起伏がある。貼床は主柱穴で囲まれる内側に確認した。掘方底に黄褐色シルト（９層）を敷き硬化面とする。周溝は一部途切れている。小ピット列が鎖状に連なる形状で、幅10cm 程、深さ10cm 程を測る。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

**柱穴**：Ｐ１～７は直径40～50cm 程、深さ50～60cm 程で、Ｐ５・６、Ｐ４・７、Ｐ３・１の６本が主軸を挟んで対称位置にあることから主柱穴と考えた。

**炉**：中央やや奥壁寄りに炉穴と炉辺石を検出した。炉辺石は奥壁側のみ残存し、他に抜取り痕を確認した。炉辺石は部分的に赤化していた。規模は炉底で長軸120cm 程、短軸100cm 程、床面からの深さは20cm 程とやや深い。炉内埋土は、底部全体に焼土ブロックや炭化物を含む黄褐色シルト(18層)が堆積した後に、黒褐色シルトが堆積していた。炉内奥壁側の被熱痕の下から掘込みを検出した。古い炉跡の可能性を考えたが被熱痕は確認できない。

**床下調査**：貼床（９層）を剥いだところ、Ｐ８・10～12・16～18と周溝を新たに検出した。貼床（10層）はＰ３と炉の間で部分的に確認した。Ｐ８・10～12・16～18は直径30～50cm 程、深さ50～60cm 程を測り柱穴と推測した。埋土はP17･18を除き、灰黄褐色～黄褐色系のシルト質土が堀方上部に堆積する。周溝はプラン西側で部分的に検出した。小ピット列が鎖状に連なる形状で、幅10cm 程、深さ10cm 程を測る。Ｐ９は貼床（９層）の広がりが不明瞭な部分で検出した。埋土は黄褐色ブロックを含む黒褐色シルトで、床下検出ピット群の埋土と共通するため、該当ピット群に伴うと判断した。

**出土遺物**：土器は炉内16層で略完形の深鉢11・33と大型深鉢の口縁片21が出土した。ほか多くは２層から出土した。エゴマと推測する圧痕を大量に含む土器26も同層より出土した（第７章）。唐草文系土器が主体を占める。土製品は土偶６・７が埋土中より出土した。石器は埋土中より礫器が５点出土した。貼床（９・10層）や床下の施設から出土した遺物はない。

**時期**：炉内出土土器から協会10期と考えた。

**ＳＢ８**（図版10・11、ＰＬ６）　位置：②区　ＩＳ23・24、ＩＸ03・04

**経過**：大形の不整円形プランを検出した。トレンチ掘削し、平坦な黄褐色の硬化面を床面と判断した。床下調査では部分的に貼床とピットを確認したため、本跡は建て替えられたと考えた。プラン南東側ではＳＢ９と切り合うものの、埋土が削平されており、断面では切合いが不明瞭であった。平面精査でＳＢ９の周溝がＳＢ８の床面を切ることが判明した。

**埋土**：２段階に分かれる。床面全体に５層が堆積した後に１～４層が部分的に堆積する。特に炉の上面に当たる埋土５層上面では焼土（２層）が広がっていた。ＳＢ８の埋没過程における火焚き行為と考えた。

**床・周溝・壁**：床は平坦を意識するが、ゆるやかな起伏がある。貼床（８層）は主柱穴に囲まれる内側に広がる。炉の奥壁側のみ２重の貼床（６・８層）と間層（７層）を確認した。掘方底に黄褐色シルトを敷いて硬化面とする。周溝は西側で部分的に検出した。小ピット列が鎖状に連なる形状で、幅10cm 程、深さ10cm 程を測る。壁は浅く、斜めに立ち上がる。

**柱穴**：Ｐ１～４・７・８は直径 30 ～ 50cm 程、深さ 30 ～ 60cm 程を測る。Ｐ２・１、Ｐ３・８、Ｐ４・７の６本が主軸を挟み対称位置にあることから主柱穴と考えた。Ｐ６は出入口部に位置し、直径 70cm 程、深さ 70cm 程と大形である。

**炉**：中央からやや奥壁寄りに長方形石囲炉を検出した。炉辺石が全周し、部分的に赤化していた。規模は内法で長軸 90cm 程、短軸 50cm 程、床面からの深さは 10cm と浅い。炉内埋土は黄灰色砂質シルトの単層で、焼土、炭化物、骨片を含む。底面には被熱痕を確認した。

**床下調査**：貼床は確認できない。Ｐ９～ 12 は直径 30 ～ 50cm 程、深さ 50 ～ 70cm 程を測り、規模的に主柱穴の可能性もあるが、配置を推定し難い。

**出土遺物**：土器は炉内より 123 が出土した。ほか多くは５層から出土した。唐草文系土器が主体を占める。

**時期**：埋土出土土器から、協会９期と考えた。

**ＳＢ９**（図版 12、ＰＬ７）　位置：②区　ＩＸ 03・04

**経過**：長軸５～６ｍ程の不整円～方形プラン３基が切り合う範囲を確認した。トレンチ掘削したところ、各プランで平坦な黄褐色面を確認したため床と判断し、ＳＢ９・10・11 として調査した。ＳＢ９は中形の不整五角形プランで、南東部における埋土の色調の違いからＳＢ９がＳＢ 10 を切ることがわかり、ＳＢ９を先行して調査した。

また北西側ではＳＢ８と切合うものの、埋土が削平されており断面では切合いが不明瞭であったが、平面精査でＳＢ９の周溝がＳＢ８の床面を切ることが判明した。

**埋土**：単層である。

**床・周溝・壁**：床は平坦を意識するが、ゆるやかな起伏がある。貼床は削平部分以外ほぼ全面に広がる。掘方底に暗褐色シルト（２層）を敷いて硬化面とする。周溝は壁下にある。所々途切れている。小ピット列が鎖状に連なる形状で、幅 10cm 程、深さ 10cm 程を測る。壁は大部分が削平を受ける。

**柱穴**：Ｐ１・２・５・６は直径 30 ～ 50cm 程、深さ 40 ～ 50cm 程で、Ｐ６・１、Ｐ５・２が主軸を挟み対称位置にあることから主柱穴と考えた。Ｐ２・５の埋土は、掘方底に灰黄褐色砂質シルトが堆積した上に、黒褐色シルトが堆積する。Ｐ８は床面で検出した平石の下面で検出した。平石は当初埋甕の蓋石かと想定したが、その下位には、埋甕はない。

**炉**：中央部から奥壁寄りに方形石囲炉を検出した。炉辺石は全周し、奥壁側の炉辺石両端と手前側の炉辺石中央部において棒状の礫が立位で出土した（ＰＬ７）。炉辺石は部分的に赤化していた。規模は内法で長軸 90cm 程、短軸 75cm 程、床面からの深さ 45cm 程で深い。炉内埋土は単層で炭化物が若干含まれる。底面に被熱痕を確認した。

**出土遺物**：土器は 129 が炉の上から、134・137 は炉内から出土した。ほか多くは１層から出土した。唐草文系土器が主体を占める。石器は中央部の床面上で平石が出土した。作業台の可能性がある。

**時期**：炉内出土土器から協会 10 期と考えた。

**ＳＢ 10**（図版 13・14、ＰＬ８）　位置：②区　ＩＳ 24・25、ＩＸ 04・05

**経過**：長軸５～６ｍ程の不整円～方形プラン３基が切り合う範囲を確認した。トレンチ掘削したところ、各プランで平坦な黄褐色面を確認したため床と判断し、ＳＢ９・10・11 として調査した。埋土の色調の違いから本跡はＳＢ９・11 に切られることがわかり、両遺構の後に本遺構の調査を開始した。ＳＢ 10 は大形の楕円形プランで、床面精査時にはＳＫ 90 を検出した。土質の違い、出土遺物の時期差からＳＫ 90 がＳＢ 10 を切ることを確認し先行調査した。その後、埋土の色調の違いからＳＢ 13 に切られることも分かったため、ＳＢ 13 の調査後にＳＢ 10 を掘下げた。

**埋土**：２段階に分かれる。２層が壁際から床面上に不均一に堆積した後に１層が堆積する。床面付近で遺物と礫が混在して出土した。

**床・周溝・壁**：床は平坦を意識するが、ゆるやかな起伏がある。貼床は認められず、全体に軟質である。周溝は壁下にあり、所々途切れている。北側では壁との間が 20 ～ 30cm 離れている。溝状を呈し、幅は 10cm 程、深さは 10cm 程である。壁は大部分が削平を受ける。

**柱穴**：Ｐ２・４・８・９・14 は直径 40 ～ 60cm 程、深さ 50 ～ 70cm 程を測る。Ｐ８・２が主軸を挟み対称位置にある点、Ｐ９･14 が主軸線上に並ぶ点から主柱穴と考えた。Ｐ４は位置的に主柱穴と考えた。Ｐ２～４は、掘方に半分ほど黒色～黒褐色系砂質シルトが堆積した後にオリーブ褐色～黄褐色系シルト質土が堆積する。

**炉**：中央から奥壁寄りに長方形石囲炉を検出した。炉辺石は奥壁側と右側で残存し、抜取り痕は明確ではなかった。炉辺石は部分的に赤化していた。規模は内法で推定長軸 130cm 程、短軸 60cm 程、床面からの深さは 10cm 程と浅い。炉内埋土は単層で、炭化物、黄褐色ブロックを含む。底面に被熱痕を確認した。炉の南側に掘込みを確認したが、竪穴建物跡の埋土１層と類似した土が堆積しており、炉の廃棄後から竪穴建物跡の埋没までの間に掘られたと考えた。

**出土遺物**：土器は床面付近を中心に出土し、炉内でははとんど出土しない。唐草文系土器の破片が主体を占める。土製品はＰ３からミニチュア土器 14 が出土した。石器は炉に接する床面上で石皿 86 が機能面を下にして出土した。

**時期**：埋土出土土器から、協会９～ 10 期と考えた。

**ＳＢ 11**（図版 15・16、ＰＬ９）　位置：②区　ＩＳ 24・25

**経過**：長軸５～６m 程の不整円～方形プラン３基が切り合う範囲を確認した。トレンチ掘削したところ、各プランで平坦な黄褐色面を確認したため床と判断し、ＳＢ９・10・11 として調査した。断面観察から本跡はＳＢ 10 を切ることがわかり、本跡を先行調査した。ＳＢ 11 は大形の不整楕円形プランである。床下調査では、ピットと周溝を確認したため、本跡は建て替えられたと考えた。

**埋土**：２段階に分かれる。２層が壁際から床面にかけて不均一に堆積した後に１層が堆積する。２層中で遺物と礫が混在して出土した。

**床・周溝・壁**：床は平坦を意識するが、ゆるやかな起伏がある。貼床（３層）は主柱穴に囲まれる内側に広がる。竪穴の掘方底に明黄褐色シルトを敷き硬化面とする。周溝は壁下にある。一部途切れる部分もあるが全周する。小ピット列が鎖状に連なる形状で、幅は 10cm 程、深さは 10cm 程である。壁はやや外反して立ち上がる。

**柱穴**：Ｐ１・４・５・７・９・14 は直径 40 ～ 50cm 程で、深さ 50 ～ 70cm 程を測り、Ｐ７・９、Ｐ５・14、Ｐ４・１が主軸を挟んで対称位置にあることから主柱穴と考えた。Ｐ３は出入口部に位置し、直径 100cm 程、深さ 40cm 程と大形である。黄褐色系の埋土がブロック状に堆積し、褐灰色砂質シルトを主とする他のピット埋土と異なる。

**炉**：床面中央から奥壁寄りに炉穴と炉辺石を検出した。炉辺石は奥壁側、出入口側、正面右側の一部が残存し、抜取り痕を確認した。炉辺石は部分的に赤化していた。規模は掘方の内法で直径 100cm 程、床面からの深さは 30cm 程とやや深い。炉内は掘方の半分程度まで炭化物を含む黄褐色系シルト（14･15 層）が堆積した後に、黒色シルト（13 層）が堆積する。炉底部には被熱痕を確認した。

**床下調査**：貼床（３層）を剥いだ後、柱穴 P15・16・18・19 を検出した。Ｐ６・10 は貼床の広がりが不明瞭な部分で検出した。床下検出周溝の範囲内にあり、埋土に黄褐色ブロックを含み、床下ほかのピットの特徴と共通するため、該当ピット群に伴うと判断した。位置的にＰ６・10・18・19 を建て替え前の

主柱穴と考えた。周溝は南西部を除き全周する。溝状であるが、小ピット列が鎖状に連なる部分もある。幅 10cm 程、深さ 10cm 程である。

**出土遺物**：土器は炉内で 44 が略完形で出土した。ほか多くは２層から出土した。唐草文系土器が主体を占める。

**時期**：炉内出土土器から、協会 10 期と考えた。

**ＳＢ 13**（図版 17・18、ＰＬ 10）　位置：③区　ＩＸ 05

**経過**：小形の不整五角形プランを検出した。トレンチ掘削し、平坦な黄褐色面を床面と判断した。土質差から本跡がＳＢ 10 を切ると判断した。

**埋土**：２段階に分かれる。２・３層が壁際から床面にかけて堆積した後に１層が堆積する。１層は断面観察で、炉内に落ち込む様子を確認した。１層中で遺物と礫が混在して出土した。

**床・周溝・壁**：床は平坦を意識するが、ゆるやかな起伏がある。貼床（４層）は炉と埋甕の周り、Ｐ１の東側にある。掘方底に黄褐色シルトを敷き硬化面とする。周溝は壁下にあり、途切れる部分もあるが全周する。一部２重になる。溝状を呈し、幅は 10cm 程、深さは 10cm 程である。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

**柱穴**：Ｐ１～４は直径 40 ～ 50cm 程、深さ 30 ～ 40cm 程で、Ｐ１・２とＰ３・４の４本が主軸を挟んで対称位置にあることから主柱穴と考えた。Ｐ５・６は出入口施設の痕跡と考えた。Ｐ７は、貼床と土質が類似する黄褐色シルトで掘方上面を埋めており、他のピットの堆積状況とは異なる。出入口部に位置し、埋甕に関連するピットの可能性がある。

**炉**：床面中央から奥壁寄りに方形石囲炉を検出した。炉辺石の四隅には 10cm 程の礫を立つように埋設し、北西隅以外の３隅の礫は隙間に入るよう打ち割って形を整えている（PL10）。炉辺石は部分的に赤化していた。規模は内法で 80cm 程、床面からの深さ 40cm 程と深い。炉内の埋土は炉底部に暗褐色シルト（19 層）が、その上に炭化物と焼土が混じる黒褐色シルト（18 層）が堆積していた。埋土を掘下げたところ、炉底部に土器片が敷かれているのを確認した。

炉に敷設された土器片は５～ 10cm 程の大きさに割れており、接合した結果、すべて深鉢胴部の同一個体片 159 と判明した。いずれも破断面は摩耗しておらず上面に被熱痕は確認できない。被熱面は土器敷の下、炉底中央に長軸 45cm 程の範囲で広がる。

**埋甕**：Ｐ６寄りに埋設された 67 の口縁部を検出した。貼床は土器口縁付近まで確認できる（PL10）。掘方は直径 30cm 程、深さ 25cm 程を測る。土器は正位に埋設され、底面は欠損していた。胴部外面には炭化物が広く付着していた。埋土中には炭化物や黄褐色土塊、小礫が混ざるが、骨片は出土しなかった。

**床下調査**：Ｐ７は出入口部に位置する。黄褐色シルトの貼床で覆われ、長軸 40cm 程、深さ 30cm 程を測る。位置的にＰ６と近接することから埋甕の抜取り痕の可能性がある。

**出土遺物**：土器は炉底から 159 が出土した。胴部片を割ってから破片を敷き詰める。土器片に被熱の痕跡はなかった。炉周辺の埋土１層から 58 が出土した。ほか多くは１層から出土した。唐草文系土器が主体を占める。ミニチュア土器は 13 が埋土中より出土した。石器はプラン南側の床面で石皿 87 が機能面を上に、プラン東壁に接して台石 90 が機能面を下に出土した。ほか床面検出時に南東部の壁際（Ｐ６上部）の約 20cm × 25cm の範囲に、黒曜石の石鏃５を含む 26 点の剥片や石核等がほぼ同一のレベルでまとまっていた。また炉内 19 層から出土した黒曜石剥片 19 点のうち 17 点に被熱痕を確認した。

遺構間接合については、ＳＢ 13 埋土出土 59 とＳＢ 14 の埋土出土片、およびＳＢ 13 埋土出土片とＳＢ 14 の炉内敷設土器 79 が接合した（第４章第４節２）。

**時期**：埋甕から、協会 11 期と考えた。

**ＳＢ 14**（図版 19・20・21、口絵２・ＰＬ 11）　位置：③・④区　ＩＸ 05・10

**経過**:中形の不整方形プランを検出した。トレンチ掘削をし、黄褐色の硬化面（７層）を床面と判断した。貼床の下の調査でピットと周溝を確認し、本跡は建て替えられたと考えた。南東側は調査区外となる。

**埋土**：２段階に分かれる。壁際から床面にかけて２～５層が堆積した後に１層が堆積する。１層は断面観察で、炉内に落ち込む様子を確認した。１層中で遺物と礫が混在して出土した。

**床・周溝・壁**：床は平坦を意識するが、ゆるやかな起伏がある。貼床は床面全面に広がる。堀方底に黄褐色シルト（７層）を敷いて硬化面とする。周溝は壁下にあり全周する。小ピット列が鎖状に連なる形状で、幅は 10cm 程、深さは 10cm 程を測る。壁はやや外反しながら立ち上がる。

**柱穴**：Ｐ１～３は直径 50cm 程、深さ 50cm 程で、いずれも不整方形プランの隅に位置することから主柱穴と考えた。

**炉**：床面中央から奥壁寄りに方形石囲炉を検出した。規模は内法で 90cm 程、床面からの深さ 40cm 程と深い。炉辺石は部分的に赤化していた。奥壁側右隅に棒状の石を立て、出入口側右隅には凝灰岩の円礫を設置している（PL11）。

炉内の埋土は単層（17 層）で遺物をほとんど含まない。埋土を掘り下げたところ、炉内全面に土器片が２重に敷かれているのを確認した。上段の土器片は炉内全面に敷かれ、敷設範囲の上端は炉辺石に接する。炉中央には深鉢底部が立位の入れ子状態で出土した（PL11）。入れ子外側の 70 は内面に煮焦げ痕、外面に煤痕があり、胴部側の破断面は全周摩耗していた。内側の 71 は胴部側の破断面は摩耗せず、器面に煤痕も認められない。下段の土器片は炉底面のみに敷かれる。上段と下段の土器は重なって接し、70 以外はいずれも破断面が摩耗せず器面に被熱痕は確認できない。土器を取り外したところ、炉壁東面の中段に、わずかな被熱痕を２箇所確認した。炉底部には被熱痕を確認できない。炉に敷設された土器片は 15 ～ 20cm 程の大きさに割れており、接合した結果、９個体の深鉢となった（図版 21）。炉内で出土した破片は該当する９個体に接合もしくは同一個体と推測され、その他の破片は基本的に混入していない。

**埋甕**：床面で長軸 30cm 程の平石を確認し、その下から 73 が出土した。掘方は直径 40cm 程、深さ 35cm 程を測る。土器は口縁部と胴部下半を欠き正位で埋設されていた。骨片は確認できない。

**床下調査**：７層を剥いで周溝とピットを確認した。周溝は壁から 30 ～ 40cm 程離れ、ほぼ全周し、幅 10cm 程、深さ 10cm 程を測る。周溝上面に黄褐色シルトが貼られていた。Ｐ８と P14 は建替え前の主柱穴と推測する。Ｐ８は柱痕も確認した。

**出土遺物**：土器は炉底面から 70・71・74 ～ 79・162 が出土した。70・71 は深鉢底部で炉中央より出土した。77 ～ 79 の底部は欠けている。埋甕は 73 が出土した。69 は床面上２層中より略完形のまま横位で出土した。ほか多くは１層から出土した。唐草文系土器の破片が主体を占める。ミニチュア土器は 16 が南西１層より出土した。石器は埋甕に近接した床面で石皿 85 が機能面を上にして出土した。

遺構間接合については、炉内出土の 79 とＳＢ 13 埋土出土片、およびＳＢ 14 埋土出土片とＳＢ 13 埋土出土の 59 で確認した。さらにＳＢ 14 埋土土器片とＳＢ 17 から出土した 93 の文様等の諸要素が類似しており、推定同一個体と考えた（第４章第４節２）。

**時期**：埋甕および炉内出土土器から協会 11 期と考えた。

**ＳＢ 15**（図版 22・23、ＰＬ 12）　位置：④区　ＩＸ 10・ＩＹ 06

**経過**:中形の不整円形プランを検出した。トレンチ掘削し、にぶい黄褐色の硬化面（12 層）を床面と判断した。床下調査でピットと周溝を確認したため、本跡は建て替えられたと考えた。南西側４分の１は調査区外となる。

**埋土**：２段階に分かれる。壁際周辺から床面にかけて６～ 10 層が堆積した後に、中央付近で１～５層が

堆積する。埋土中５～８層を中心に、遺物と礫が混在して出土した。

**床・周溝・壁**：床は平坦を意識するが、ゆるやかな起伏がある。貼床（12 層）は全面に広がる。掘方底に黄褐色シルトを敷いて硬化面とする。周溝は壁下にあり、ほぼ全周する。溝状を呈し、幅は 10cm 程、深さは 10cm 程を測る。壁は垂直に立ち上がるが、外反する部分もある。

**柱穴**：Ｐ２～４は直径 40 ～ 50cm 程、深さ 50cm 程で、Ｐ２・３が主軸を挟みほぼ対称位置にある点から主柱穴と考えた。Ｐ４・５・７も位置的に主柱穴の可能性がある。Ｐ３・４・５からは柱痕が確認された。

**炉**：床面中央から奥壁寄りに長方形石囲炉を検出した。規模は内法で長軸 90cm 程、短軸 30cm 程、床面からの深さ 10cm 程と浅い。炉辺石は手前側と右側そして奥壁側が残存し、左側は抜取り痕を２つ確認した。炉辺石は部分的に赤化していた。炉内埋土は単層で、焼土、炭化物、骨片、が多く含まれる。底面に被熱痕を確認した。

**床下調査**:貼床を剥いで周溝とピットを検出した。周溝は壁面から 30 ～ 60cm 離れており、深さ 10cm 程、幅 10cm 程を測る。Ｐ８・10 は建て替え前の主柱穴の可能性がある。Ｐ８は上面に黄褐色シルトが貼られている。

**出土遺物**：土器は炉内から 87 が出土した。ほか多くは２～９層から出土した。唐草文系土器が主体を占める。石器は炉に近接して石皿 88 が機能面を下にして出土した（PL12）。

**時期**：炉内および埋土出土土器から、協会９～ 10 期と考えた。

**ＳＢ 16**（図版 24、ＰＬ 12）　位置：④区　ＩＹ 06・11

**経過**：中形の不整円形プランを検出した。トレンチ掘削し、黄褐色の硬化面を床面と判断した。南西側は調査区外となる。

**埋土**：２段階に分かれる。壁際に３・４層が堆積した後に１・２層が堆積する。２層は断面観察で、炉内に落ち込む様子を確認した。１・２層中で遺物と礫が混在して出土した。

**床・周溝・壁**：床は平坦を意識するが、ゆるやかな起伏がある。貼床は全面に広がる。掘方底に黄褐色シルト（７層）を敷いて硬化面とする。周溝は壁下にあり、ほぼ全周する。溝状を呈し幅は 20cm 程、深さは 10cm 程を測る。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

**柱穴**：Ｐ２・７・11・12 は直径 50cm 程、深さ 40 ～ 60cm 程で、P11・７は主軸を挟み対称位置にあることから主柱穴と考えた。Ｐ２･12 は位置的に主柱穴と考えたい。P11 は黒褐色シルトで埋めた後に、ピット内を掘り込み、深鉢 91 の胴部上半を立位で埋めている（PL12）。胴部の切断面は水平である。Ｐ１はプラン北西部で床面精査時に検出した。炉から壁面まで広がり底面に起伏がある。底面で P12・13 を検出するがＰ１との切合い関係を明確にできなかった。

**炉**：床面中央から奥壁寄りに石囲炉を検出した。床面からの深さは 25cm 程とやや深い。炉辺石は部分的に赤化していた。炉内埋土は単層で、焼土粒が多く含まれていた。底面に被熱痕を確認した。

**出土遺物**：土器は炉内８層中より 88、P11 からは 91 が出土した。ほか多くは１・２層を中心に出土した。土器は唐草文系土器が主体を占める。石器は床面近くの埋土中より石皿 89 が機能面を下にして出土した。

**時期**：炉内および P11 出土土器から、協会 10 期と考えた。

**ＳＢ 17**（図版 25、ＰＬ 13）　位置：④区　ＩＹ 11・12

**経過**：中形の不整方形プランを検出した。トレンチ掘削をし、色調と土質の違いから本跡はＳＢ 18 と SK94 に切られると判断した。南西側２分の１は調査区外となる。

**埋土**：２段階に分かれる。２層が壁際に堆積した後に１層が堆積する。１層より遺物と礫が混在して出土した。

**床・周溝・壁**：床は平坦を意識するが、ゆるやかな起伏がある。全体に硬化するが、貼床は確認できない。

溝は壁下にあり、北西部を除きほぼ全周する。壁下から30～40cm程内側で検出した周溝は北東部のみで確認した。いずれも溝状で幅は10cm程、深さが10cm程である。壁はやや外反しながら立ち上がる。

**柱穴**:P１は直径70cm程、深さ40cm程で、不整方形プランの北東隅に位置することから主柱穴と考えた。

**炉**：床面中央部からやや奥壁寄りで炉穴を検出した。炉の上半部と西半部をＳＢ18に切られるため、規模は不明である。炉底部はＳＢ17床面より40cm程と深い。炉内埋土は暗オリーブ褐色の単層で炭化物等を含まず、地山との色調の違いがほとんどない。埋土を掘下げたところ、底面に土器片が敷設されるのを確認した（PL13）。土器の破断面は摩耗しておらず、上面に被熱痕を確認できない。土器を取り外したところ、底面にわずかな被熱痕を確認した。炉に敷設された土器片は10cm程の大きさに割れており、接合した結果７個体の深鉢となった（図版25）。

**出土遺物**：土器は炉底面から深鉢92・96・189～193が出土した。奥壁の周溝とＰ３の間の床面で、立位の深鉢95が出土した（PL13）。ほか多くは１層より出土している。唐草文系土器が主体を占める。石器は深鉢95の脇で石皿が機能面を上にして出土した（PL13）。

遺構間接合については、１層出土の93とＳＢ14埋土出土片が、文様等の諸要素が類似しており、推定同一個体と考えた（第４章第４節２）。

**時期**：敷設された炉内出土土器から、協会11期と考えた。

**ＳＢ18**（図版26、ＰＬ13）　位置：④区　ＩＹ12

**経過**：小形の不整方形プランを検出し、トレンチ掘削し、色調と土質の違いから本跡はＳＢ17を切り、SK94に切られると判断した。南西側２分の１は調査区外となる。

**埋土**：２段階に分かれる。２・３層が壁際に堆積した後に、１層が堆積する。

**床・周溝・壁**:床は平坦を意識するが、ゆるやかな起伏がある。全体に硬化するが、貼床は確認できなかった。周溝はない。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

**柱穴**:Ｐ１・２は直径50cm程、深さ40cm程で、方形状プランの隅に位置することから主柱穴と考えた。

**炉**：床面中央から奥壁寄りに炉穴と炉辺石を検出した。床面からの深さは25cm程を測る。炉辺石は奥壁側のみ残存し、抜取り痕は確認できない。炉内埋土は分層され、底面に黄褐色ブロック、炭化粒、焼土粒を含む黒色シルトが堆積した後に、黒褐色シルトが堆積する。底面に被熱痕を確認した。

**出土遺物**：土器は多くが１層から出土した。唐草文系土器が主体を占める。ミニチュア土器は15がトレンチで出土した。

**時期**：出土土器から、協会11期と考えた。

(3)　土坑（付表３）

**ＳＫ57**（図版27、ＰＬ14）　位置：②区　ＩＳ23

**経過**：基本Ⅲ層で黒褐色の不整円形プランを検出した。

**所見**：遺物は中期後葉の土器片が少量出土した。埋土に炭化物が少量含まれる。底面はほぼ平坦で一部に被熱面を確認した。

**時期**：208・209等の中期後葉土器片が出土し、当該期と考えた。

**ＳＫ74**（図版29）　位置：②区　ＩＸ04

**経過**：基本Ⅲ層で黒褐色のプランを検出した。

**所見**：土坑の北東隅で長軸20cm程の角礫が４点まとまって出土した。

**時期**：不明である。

**ＳＫ 119**（図版 29、ＰＬ 14）　位置：③区　ＩＸ 09
**経過**：基本Ⅲ層で黒褐色のプランを検出した。
**埋土**：黒褐色系と暗褐色のシルトが交互に堆積し、埋め戻しの可能性がある。
**所見**：土坑下半の南壁は一部オーバーハングする。
**時期**：出土遺物はない。中期後葉の遺構埋土に類似することから、当該期と考えた。
**ＳＫ 120**（図版 28）　位置：③区　ＩＸ 05
**経過**：基本Ⅲ層で黒褐色のプランを検出した。
**所見**：遺物は中期後葉の土器片が少量出土した。本遺跡における土坑の中では最も大形である。
**時期**：216・217 等の出土土器から、中期後葉と考えた。

## 2　後・晩期

### (1) 遺構の概要（図版 30）

検出した遺構は竪穴建物跡１軒、土坑２基、焼土跡２基である。検出面は、焼土跡が基本土層Ⅱｂ層上面で、竪穴建物跡と土抗を他遺構等の調査中に確認した。遺構は調査範囲の南半部に分布し、調査区外に当該期の遺構が広がる可能性が推測できる。また、ここで記載したほかに、調査区の南半部で確認した時期不明の土坑中に、後・晩期に属するものがあることが想定されるが、明確にできなかった。

### (2)　竪穴建物跡（付表１）

**ＳＢ３**（図版 31、ＰＬ 15）　位置：②区　ＩＳ 16
**経過**：ＮＲ１の調査中、暗褐色を呈する大形の不整円形プランを検出したが、ＮＲ１との境は明瞭にできないまま、出土した遺物を本跡出土として取り上げた。さらに掘り下げ、平石が水平に並ぶ状況を確認し、本跡の床面と考えた。この段階で炉を確認できなかった。平石を外し、掘下げを進め、石囲炉２基を検出し、本跡に伴うものとして扱った。結局、ＮＲ１と本跡の境は不明瞭のまま、掘下げが進む結果となったが、２基の炉と平石の一部を除き、ＮＲ１によって床面を削られたことによると考えた。その後、ＮＲ１底面で調査区外へ続く、弧状に並ぶ小土坑を調査し、整理等作業時にこの小土坑は位置的に本跡に属すると判断した。南西側は調査区外となる。
**埋土**：ＮＲ１の削平を受けている。
**床**：不明である。出土した平石の高低差は 10cm 程の範囲で、一定の分布範囲に収まることから、敷石住居の残存跡と推測できる。
**柱穴**：Ｐ１～８が該当する。
**炉**：炉１は内法で長軸 80cm 程、短軸 50cm 程、深さ 20cm 程を測る方形石囲炉である。炉辺石は南東片を除き残存する。炉底面は浅鉢状に掘り込まれ、底面に土器片が敷かれていた。土器片を外し底面全体に被熱痕を確認した。

炉２は、炉辺石を南東辺のみ検出できた。炉内掘方は長軸 60cm 程、短軸 50cm 程、深さ 15cm 程を測る。底面全体に被熱痕を確認した。炉１と２の新旧関係についてはレベル的に炉２が炉１より若干低い位置にある点から炉１よりも古い可能性がある。
**出土遺物**：土器は炉１の底部から１～４が出土した。
**時期**：炉１の炉内からは中期末葉から晩期前半までの土器が出土しているが、炉底部からは、１～４の後期初頭～前葉の土器が出土しており、炉１が形成されたのは、この時期と考えた。他の時期の土器（５

～7）はＮＲ１からの混入の可能性があるが、炉埋土堆積時期を考える上で重要なので、この項で扱った。

(3) 土坑（付表3）

**ＳＫ90**（図版32、ＰＬ15）　位置：②区　ＩＸ04

**経過**：ＳＢ10の炉を調査中、逆位の深鉢８を検出した。周囲を精査し、土器の外周部に掘込みを確認したため、ＳＢ10を切る土坑として調査を進めた。

**所見**：土器とほぼ同じ直径の掘込みで、深鉢は底部を欠損していた。単独の屋外埋甕の可能性がある。

**時期**：出土土器から後期前葉と考えた。

**ＳＫ94**（図版32）　位置：④区　ＩＹ12

**経過**：ＳＢ17内で、ＳＢ17と比べ埋土がやや明るい不整楕円形のプランを検出した。ＳＢ17を切る土坑として調査を進めた。

**埋土**：底面では黄褐色ブロックを多量に含む黒褐色シルトがあり、埋戻しの可能性がある。

**所見**：埋土１層から晩期の土器と重さ47.８kgのチャート原石が出土した。本跡は調査区南端に位置し、周囲には当該期の遺構を確認していない。

**時期**：９・10の出土土器から晩期前葉と考えた。

(4) 焼土跡（付表2）

**ＳＦ１**（図版32、ＰＬ15）　位置：④区　ＩＸ10

不整円形の焼土範囲を検出した。トレンチ掘削したところ、焼土ブロックを多く含む掘込みを確認した。直径は75cm程、深さ20cm程を測る。本遺構の上面が削平を受けているかどうかは明確にできなかった。

時期は11～13の出土土器から後期初頭から前葉と考えた。

**ＳＦ２**（図版32）　位置：④区　ＩＸ05

不整円形の焼土範囲を検出した。トレンチ掘削したところ、焼土ブロックを含む掘込みを確認した。直径は50cm程、深さは５cm程を測る。焼土ブロックを含む埋土で、遺物の出土はない。本遺構の上面が削平を受けているかどうかは明確にできなかった。時期はＳＦ１と同一面で検出し、近接することから、同時期と考えた。

# 第３節　縄文時代の遺物

## １　遺物の概要

２か年の発掘調査により出土した遺物総重量は土器約 595kg、土製品約 4kg、石器約 277kg である。遺物別の出土量計測結果は DVD 付表 10 を参照されたい。

土器は、縄文時代早期から晩期にわたる。早期から前期は、生活痕跡は認められないものの微量が出土した。中期は後葉の唐草文系土器が主体的に出土した。当該期の竪穴建物跡は 14 軒を数え、本遺跡における生活痕跡の主体となる時期である。後期から晩期は断続的ながら一定量出土した。後期初頭から前葉の竪穴建物跡は調査区南西端で１軒検出した。

土製品は、土偶、ミニチュア土器、土製円板、腕輪状土製品、耳飾、粘土塊がある。

石器は、石鏃、石鏃未製品、石錐、楔形石器、削器、掻器、二次加工がある剥片、微細な剥離がある剥片、打製石斧、横刃形石器、大形刃器、磨製石斧、礫器、磨石、凹石、敲石、特殊磨石、砥石、石皿、台石、原石、石核、剥片がある。

上記のほか、中期後葉土器の胎土中に種実圧痕および炭化種実が含まれることが判明し、10 点の試料を分析したところ、エゴマ６点、ササゲ属アズキ亜属２点、ダイズ属２点を同定した。特にＳＢ７の深鉢 26 はエゴマと推測する種実が大量に含まれる土器と判明した（第６章）。

## ２　土器

遺構内出土総重量は約 387kg、遺構外出土総重量は約 208kg を測る。

重量比による時期別の内訳は、遺構内・外を合わせて早・前期が約 0.2kg、中期後葉が約 530.7kg、後・晩期が約 55.8kg、時期不明が約 8.6kg である。本項では各時期の概要を示す。

(1) 早・前期土器（ＰＬ 36、付表４）

遺構外より若干出土した。器形、文様等に特徴がある 12 点の写真を掲載した。点数が少ないので両時期を一括する。

１～３は早期末葉と考える。いずれも条痕文系土器で胎土に繊維を含む。２は絡条体圧痕文がある。３は尖底土器の底部付近である。

４～ 12 は前期後半から末葉と考える。４・５は矢羽状沈線文を地文とし結節浮線文を有しており、諸磯式と考える。６～８は結節浮線文を有し下島式と考える。９は下島式の底部である。10・11 は半隆起線がみられ、晴ヶ峯式と考える。12 は浅鉢で頸部に押引きがあり、赤色塗彩を施す。

(2) 中期後葉土器

それぞれ若干の時間幅を持つ、多系統の土器型式が出土しているので、ここではあくまで外形的な事実記載にとどめ、その段階設定については、第４章第４節を参照されたい。

①　**遺構内出土の土器**（図版 33 ～ 51、ＰＬ 16 ～ 35、付表５）

SB（竪穴建物跡）は調査した 14 軒について、器形、文様等に特徴がある 90 点を図示し、110 点の拓本を掲載した。以下、遺構単位で報告する。

**ＳＢ４**（図版 33・45、ＰＬ 16・28）

１・98 は主文様に沈線文を施文する。１は胴部に縦、横、弧状等の隆帯を連結した区画内に斜沈線文を描く。98 はキャリパー形の口縁部に組紐の区画帯がある。

2・3・99・100は条線文を地文とする。2は口縁部がキャリパー形で、口縁部に最大径を有し、口縁部に連弧文、胴部に蛇行懸垂文がある。3は円筒形を呈する。100は胴部に渦巻文がある。

97は口唇部に渦巻文がある。

**ＳＢ５**（図版33・45、ＰＬ16・28）

4～6・101・104は主文様に沈線文を施文する。4は口縁部がキャリパー形で、胴の最大径は上部にある。口縁部に組紐の区画帯があり、胴部には形骸化した腕骨文と綾杉文がある。5は頸部が外反し、胴の最大径は上部にある。胴部は縦位隆帯で区画し大柄渦巻文を描く。6・104は口縁部が内湾し胴上部に最大径を有する樽形で、胴部には大柄渦巻文がある。6は頸部に隆帯を巡らし、104は口縁部直下に組紐の区画帯がある。

7・103は条線文を地文とする。7は口縁部が短く外傾し、胴上部に最大径を有する。103は頸部に交互刺突を巡らし、胴部に大柄渦巻文がある。

102は樽形の口縁部で、組紐の区画帯内に剣先文がある。

**ＳＢ６**（図版33・45、ＰＬ16・28）

105～107は主文様に平行沈線文を施文し、棒状工具による押引きがある。106はキャリパー形の口縁部に角状突起がある。105・107は胴の最大径が上部にある器形でキャリパー形の口縁部が伴うと考える。105は胴部に枝を出す懸垂文と横位の平行沈線文がある。8は口縁部が外傾し胴部が円筒形を呈する。胴部に横位の平行沈線文を施文する。

108・109は縄文を地文とする。胴部に部分的に枝を出す懸垂文や弧状の沈線文がある。

9は口縁部が外傾し、胴中部に最大径がある。頸部から胴部にかけて逆「U」字状の区画の間に横位の刺突列がある。

**ＳＢ７**（図版34～36・46、ＰＬ17～19・29）

16は胴部に横位の平行沈線文を巡らし、110・111は主文様に平行沈線文を施文する。

10・18・20～22・24～27・29・31は主文様に沈線文を施文する。このうち10・18・24～27・29・31は綾杉文となる。21・22は口縁部がキャリパー形を有する大形の深鉢で、口縁部に褶曲文と渦巻文を組み合わせた文様、頸部に蛇行隆帯、胴部に縦、横、弧状等の隆帯を連結させた文様を配す。22は胴上部に最大径がある。24～26は四把手付深鉢で、口縁部下端に横位連結渦巻文、胴部は腕骨文の縦位区画に綾杉文を施文する。31は胴部に渦巻文がある。18・27・29は無文の口縁部が外傾する器形で、15は同器形の口縁部と推測する。

11～14・19・23・28・30・116は条線文を地文とする。11・12・28は口縁部が肥厚し外傾する。12は膨らんだ頸部の下端に横位連結渦巻文がある。13・19・23は口縁部がキャリパー形で、胴部に蛇行懸垂文がある。14は口縁部に大形の同心円文がある。28は胴部に渦巻文がある。30は口縁部の内湾する樽形で、口縁部に二単位の把手がある。116は胴部に蛇行懸垂文がある。

32・33・114・115・117は縄文を地文とする。32は口縁部がキャリパー形で、胴下部に最大径を有する。口縁部は横位連結渦巻文の中に縦位沈線文があり、胴部は沈線で蛇行懸垂文を描く。33は頸部のくびれが弱く底部から口縁部にかけて緩やかに広がる器形で、口縁部断面は三角形状となる（長瀬2008）。口縁部は沈線で連弧文と剣先文を描き、胴部は縦位区画に渦巻文と剣先文を描く。114・115は器壁が厚く胴部に幅の広い平行沈線文がある。117は口縁部がキャリパー形で太い沈線で渦巻文と曲線文を描く。

17・112・113は口縁部の破片である。17は口縁端部が短く外傾し頸部が膨らむ器形で、頸部下端に

は入組状の文様がある。112 は把手である。113 は平縁の口縁部に渦巻文を配し、頸部は無文帯となる。

**ＳＢ８**（図版 46、ＰＬ 29）

118 は口縁部がキャリパー形で隆線による重弧文、119 ～ 122 は主文様に平行沈線文を施文する。119 は波状口縁を有する椀形文土器である。120 は椀形文がある。123 は胴部に横位の平行沈線文を巡らす。118・119・121 には棒状工具による押引きがある。

124 は主文様に沈線文を施文する。125 は膨らみのある頸部に隆線による斜格子文がある。126 は装飾把手と推測する。表裏面に弧状の沈線文がある。

127･128 は縄文を地文とする。127 は沈線の渦巻文がある。128 は口縁部に区画された文様帯があり、胴部には沈線文と磨消縄文がある。

**ＳＢ９**（図版 47、ＰＬ 30）

129 ～ 137 は主文様に沈線文を施文する。129 は口縁部がキャリパー形で渦巻文と縦位の蛇行懸垂文がある。132 は組紐の区画帯がある。134 は斜方向の沈線文を施文する。135 は沈線で曲線文を描く。137 は渦巻文と綾杉文がある。

**ＳＢ 10**（図版 36・37・47、ＰＬ 19・20・30）

38・142 は主文様に平行沈線文を施文する。41・140 は平行沈線文を地文とする。38 は口縁部が外傾し、頸部に膨らみを有し、胴部が円筒形となる。頸部には棒状工具による押引き、胴部には部分的に枝を出す懸垂文に梯子状の平行沈線文を施文する。41 は口縁部がキャリパー形で、口縁部に斜格子文、頸部に横位の蛇行隆帯、胴部に蛇行懸垂文がある。142 は波状口縁を有する椀形文土器の口縁部片である。

34 ～ 37・39・40・138・139・141・143・145 ～ 147 は主文様に沈線文を施文する。34・35・37・141 は主文様間に異方向の沈線文を配する。34 ～ 36 は胴部に「Ｘ」字状文がある。36 は膨らんだ頸部に刺突文を施文する。37・141 はキャリパー形の口縁部に角状突起がある。40・145 は腕骨文と綾杉文がある。146･147 は胴部を縦、横、弧状、枝状等の隆帯を連結して区画し、棒状工具による刺突文がある。

42・144 は縄文を地文とし、口縁部がキャリパー形となる。42 の胴の最大径は中部にある。口縁部は「S」字状隆帯を巡らし頸部は無文帯となる。胴部は沈線による縦位区画の中に簡略な剣先文がある。144 は横帯による口縁部区画の中に渦巻文がある。

**ＳＢ 11**（図版 37・48、ＰＬ 20・31）

49・150・151 は主文様に沈線文を施文する。49・150 は綾杉文、150 は楕円区画内に波状隆線がある。

43 ～ 48・148・149・152 は条線文を地文とする。43・148 は口縁部下端に横位連結渦巻文を巡らし、胴部には腕骨文と蛇行懸垂文がある。43 は口縁部に二単位の把手がある。44 は四単位の波状口縁の波長部に渦巻文を施し、胴部に腕骨文状の文様がある。47・48 は樽形で口縁部が内湾し胴上部に最大径がある。48 は口縁部文様帯に四単位の渦巻文を配し、その間に横位の刺突列を巡らす。149 は縦位沈線文と渦巻文を組み合わせる。152 は剣先文がある。

153 は縄文を地文とし、胴部に蛇行沈線文がある。

154・155 は浅鉢で、154 は口唇部に沈線文、155 は口唇部に刺突列と渦巻文がある。

**ＳＢ 13**（図版 38 ～ 40・48、　ＰＬ 21 ～ 23・31）

50・51・54・56 ～ 64・67・156 は主文様に沈線文を施文する。52 は沈線文、159 は平行沈線文が地文となる。50・51 は胴部に縦位の沈線を密に施文する。54・57・58 は口縁部がキャリパー形である。

54 は口縁部下端に横位連結渦巻文がある。57 は胴部に大柄渦巻文がある。58 は口縁部に組紐の区画

帯と横位連結渦巻文があり、胴部に大柄渦巻文と剣先文がある。59は口縁部が外傾し胴の最大径は上部にある。口縁部に二単位の把手、胴部には渦巻状の縦位隆帯がある。60～64は口縁部が内湾する樽形で、胴部に大柄渦巻文がある。60は口縁部直下に組紐の区画帯がある。67は外反する波状口縁部を有し、胴上部に最大径を有する台付鉢である。口縁部は四単位の大形橋状把手を有し、端部は面取りされる。口縁部から頸部にかけて刺突文や交互刺突文を施し、胴部は隆帯による大柄渦巻文と剣先文を配し、曲線文を施文する。159は胴部に蛇行懸垂文がある。

53・65は条線文を地文とする。53の文様意匠は50～52に類似する。65は樽形で、口縁部直下に楕円区画、胴部に渦巻文と剣先文を描く。

160・161は縄文を地文とする。160はキャリパー形の口縁部に区画された文様帯がある。

55は口縁部に組紐の区画帯がある。66は台付器形の底部片である。157は胴部に同心円状の文様がある。158は装飾の一部と推測する。片面に弧状の沈線文がある。

**ＳＢ14**（図版40・41・49、ＰＬ23・24・32）

68～78・162は主文様に沈線文を施文し、69以外は胴部に大柄渦巻文がある。また69～71・74・77・162は綾杉文がある。68・69は口縁部が外傾し胴の最大径は上部にある器形である。72～74・76～78は口縁部の内湾する樽形で、72・73・76・77は口縁部直下に組紐の区画帯がある。

79は樽形で、条線文を地文とし、胴部に剣先文と大柄渦巻文を組み合わせた文様を描く。

163～166は縄文を地文とする。163・164は区画された口縁部文様帯を有し、163は胴部に沈線文と磨りけし縄文がある。166は口縁部がキャリパー形で、太い沈線文による楕円区画と曲線文がある。

**ＳＢ15**（図版第42・49、ＰＬ25・32）

80は口縁部が外傾し胴の最大径は上部にある。頸部に棒状工具による押引き、胴部に平行沈線で梯子状文を描くが、施文が荒く一部単沈線となる。81・170・171は主文様に平行沈線文を施文する。81は梯子状に、170は「X」字状文の間に異方向に施文する。

83・85・86は主文様に沈線文を施文する。83は胴中部に最大径を有し、腕骨文の縦位区画に綾杉文を描く。85・86は胴部を縦、横、弧状、枝状等の隆帯を連結して区画し、沈線文等を施文する。86には綾杉文がある。

82は主文様に条線文を施文する。頸部に二単位と推測する橋状把手がある。

87・167・172は縄文を地文とする。87は沈線文を縦横位に組み合わせた区画や蛇行沈線文を描く。

84・168・169は口縁部である。84は橋状把手を有し、168・169は角状突起がある。168は隆線で斜格子文を描き、棒状工具による押引きがある。

173は浅鉢で内外面に赤色塗彩がある。

**ＳＢ16**（図版43・50、ＰＬ26・33）

174・175は主文様に平行沈線文を施文する。174は波状口縁を有する櫛形文土器である。175は胴部に梯子状文がある。176は膨らんだ頸部に斜格子文があり、器形の特徴から胴部には平行沈線文があると推測する。

88・90・91・177・179・184・185は主文様に沈線文を施文する。88は口縁部がキャリパー形で、口縁部に籠目文、胴部に蛇行懸垂文がある。90・91はキャリパー形の口縁部の下端に横位連結渦巻文がある。90は四把手付深鉢である。91・184は綾杉文がある。179は口縁部に渦巻文がある。184は胴部に剣先文がある。185は隆帯間に蛇行懸垂文がある。

89は条線文を地文とする。口縁から胴部まで外傾する円筒形で胴部に横位の沈線文を巡らす。178・

186 は主文様に条線文を施文する。186 は樽形で胴部には大柄渦巻文がある。

180 は沈線区画内に縄文がある。

181 ～ 183・187 は口縁部片である。182 は結節状隆線に囲まれた隆帯装飾がある。183 は大形把手である。187 は「水煙把手」（今福 2017）の可能性がある。

188 は浅鉢で、内湾する口縁の内側に隆帯による渦巻文がある。

**ＳＢ 17**（図版 43・44・50・51、ＰＬ 26・27・33・34）

92・93・95・96・189 ～ 191 は主文様に沈線文を施文する。93・95・96・191 は口縁部が内湾する樽形で胴部に大柄渦巻文がある。92・189・190 も樽形の胴部片と思われる。93 は口縁部に、190 は胴部に剣先文がある。

192 は主文様に条線文と沈線文を組み合わせた文様を施文する。

193 は縄文を地文とする。口縁部に太い沈線による連弧文、頸部に横位の蛇行沈線文がある。

**ＳＢ 18**（図版 43・51、ＰＬ 26・34）

194・195 は主文様に沈線文を施文する。いずれも樽形で胴部に大柄渦巻文がある。

94 は口縁部から胴部までハケ状工具で綾杉状の文様を施文する。199・200 は条線文と沈線文を組み合わせた文様がある。

197 は縄文を地文とする。

196・198 は口縁部である。196 は外形する口縁部に渦巻文を配す。198 は内外面に刺突文がある。

**②　ＳＫ出土の土器**（ＰＬ 35）

ＳＫは当該期と推定される 100 基のうち、遺物の出土した 11 基について、遺構単位で、器形、文様等に特徴があるものを抽出し、17 点の写真を掲載した。

**ＳＫ 7**

201 は、縦位の平行沈線文を描くキャリパー形の口縁部である。

**ＳＫ 9**

202 は主文様に沈線文を施す胴部である。

**ＳＫ 23**

203 は主文様に平行沈線文を施す椀形文土器の胴部である。

**ＳＫ 46**

204 は主文様に沈線文を施す頸部である。

**ＳＫ 56**

205 は沈線文を施す口縁部で楕円区画がある。206 は沈線文を施す胴部である。207 は条線文を地文とする胴部である。

**ＳＫ 57**

208 は主文様に平行沈線文を施した椀形文土器の胴部である。209 は樽形土器の口縁部である。

**ＳＫ 64**

210 は平行沈線文を縦横位に施文する頸部である。211 は隆線による重弧文があるキャリパー形の口縁部である。

**ＳＫ 72**

212 は主文様に平行沈線文を施文する頸部である。213 は波状口縁を有する椀型文土器の口縁部である。

ＳＫ 107

214 は平行沈線文がある口縁部である。

ＳＫ 109

215 は条線文を地文とした胴部で、沈線文による蛇行懸垂文を描く。

ＳＫ 120

216 は隆帯による腕骨文があり、綾杉文を施文する胴部である。217 は縄文を地文とした口縁部で、端部に刺突列を巡らす。

③　**遺構外出土の土器**（ＰＬ 36）

外来系およびその影響を受けた土器と鉢類を抽出し、９点の写真を掲載した。

218 は環状把手を付ける頸部である。219 は横位連結渦巻文がある口縁部である。220 は口縁部に２本隆帯でクランク状の文様を施す。221 ～ 226 は鉢である。221 ～ 223 は口縁部片で、221 は口縁部に楕円状の区画を巡らす。222 は口縁部に二重の沈線文を巡らす。223 は口縁部に刺突列を巡らす。224 ～ 226 は胴部片で赤色塗彩を施す。

(3) 後・晩期土器

後期初頭から前葉に属する竪穴建物跡１軒（ＳＢ３）、焼土跡１基（ＳＦ１）と、後・晩期の土坑２基（ＳＫ 90、ＳＫ 94）のほかは、すべて遺構外から出土した。特に自然流路ＮＲ１では、調査区南壁際から中央にかかる部分に集中して出土した。

時期については、後期初頭から前葉、後期後葉から晩期初頭の土器群が主体を占め、ほかに後期中葉と晩期後半の土器が少量ある[1]。

①　**遺構内出土の土器**

ＳＢ３（図版 52 － 1 ～ 7、ＰＬ 37 － 1 ～ 7）

１～４は炉底部に敷設された土器である。１・２は縦方向のナデがある無文の胴下部で、破片の下部に帯状の被熱痕跡がある。３は縦方向のナデがある無文の胴部である。１～３は胎土や色調が近似し、同一個体の可能性が高い。４は櫛歯状施文具で５条１組の波状条線を施文する。後期初頭後半から前葉前半に属する。６は口縁部に隆帯を貼付する。後期初頭から前葉と考える。５は波状口縁に渦巻き状の隆帯があり、加曽利ＥⅡ～Ⅲ式である。７は縄文（Ｌ）を施文し、沈線や三叉文で区画して縄文を磨り消しており、晩期初頭である。なお、５・７は本来この遺構に伴わず混入と考えられる資料であるが、炉埋土堆積時期を考える上で重要な資料と捉え、この項で扱った。

ＳＫ 90（図版 52 － 8、ＰＬ 37 － 8）

８は先端が比較的丸い施文具を用いて、「Ｊ」字文が繋がり横に流れたようなモチーフを、胴部上半に４単位描く。モチーフ内を無文とし、モチーフ外には縄文（Ｌ）を施文する。頸部のモチーフ間には、円形刺突と沈線を組み合わせた「８」の字状の文様がある。後期前葉堀之内１式並行期[2]に属する、頸部が括れる鉢形土器である。

ＳＫ 94（図版 52 － 9・10、ＰＬ 37 － 9・10）

９は無文の口縁部で、隆帯貼付により外側が肥厚する。後期以降と考えるが、詳細な時期は不明で

---

[1] 中期末から後期初頭は鈴木 1990 ほか、後期前葉から中葉は綿田 1990 ほか・加納ほか 2008『総覧縄文土器』、後期後葉から晩期初頭は飯田市中村中平遺跡（飯田市教育委員会 2011、綿田 2015）の型式分類に準拠した。

[2] 長野県内における堀之内１・２式並行期の土器については、栄村ひんご遺跡のＳＢ 26・28 およびＳＢ 12 で出土した一括資料を標式とする「ひんご１式」および「ひんご２式」が提唱された（長野県埋蔵文化財センター 2018）。本遺跡では、当該期の資料は小破片が多く遺構に伴う資料も少量であり、「ひんご式」との比較が十分に検討できなかったため、従来の名称を用いた。

ある。10 は磨消縄文（LR）を施文した頸部である。晩期前葉の壺形土器と考える。

SF １（図版 52 － 11 ～ 13、ＰＬ 37 － 11 ～ 13）

中期後葉から後期前葉の土器片が出土した。11 は「J」字状の沈線区画内に、縦位方向の縄文（LR）を施文する。後期初頭から前葉に属する。12 は縄文（R）を施文した底部付近である。中期末葉から後期初頭に属する可能性がある。13 は隆帯上に円形刺突をした鉢形土器の胴部で、後期初頭から前葉に属すると考える。

②　**遺構外出土の土器**（図版 53 ～ 56 － 14 ～ 86、ＰＬ 37 ～ 40 － 14 ～ 86）

破片資料が多く、全体の器形を復元できるものは少ないが、文様帯や器形の特徴がよく残存する 73 点を図化し、掲載した。

14 ～ 21 は文様や器形の特徴から、後期初頭から前葉に該当する一群である。14 は円形刺突と太い沈線、隆帯を組み合わせた文様を有する。隆帯上には押し引いたような刺突がある。15 は把手部から「U」字状に隆帯を貼付し、隆帯上には縦長の刻みがある。器面が摩滅しておりやや不明瞭だが、櫛歯状の施文具で３～５条１組の波状条線を胴部に施文する。後期初頭の両耳壺である。16 ～ 18 は円形刺突と太い沈線を施文する。16 は「８」の字状貼付文を有する。称名寺Ⅱ式の浅鉢形土器である。18 も称名寺Ⅱ式で、口径を復元すると大形の浅鉢形土器である。17 は堀之内１式並行期に属すると考えるが、関東甲信越地方には見られないタイプで、東海地方の影響を有する土器の可能性がある。19 は把手がついた頸部で、円形刺突と太い沈線文がある。称名寺Ⅱ式の大形壺である。20 は頸部で括れ口縁部が外反する器形で、括れ部には先端が丸い太めの施文具で横位沈線を２条施文する。胴部は縄文(LR) を地文とし、同様の施文具で「U」字などの曲線文様を描く。「U」字内には円状の隆帯が剥離した痕跡があり、円の中央には円形刺突がある。堀之内１式並行期に属する。21 は垂下する沈線間に縦位の縄文（LR）を施文する。中期末葉に属する可能性がある。

22･23 は連鎖状沈線文と平行沈線文がある。堀之内２式並行期に属する石神類型の深鉢形土器である。24・25 は平行沈線間に斜位の刻みを有する。加曽利Ｂ１式の注口土器の胴部片と考える。

26・27 は、細い半月状の隆帯と、先端が鋭利な施文具による沈線を施文する。26 は小突起を有し、小突起の下には円形の孔がある。斜走する平行沈線文間に縄文を施文している可能性があるが、炭化物が付着しており不明瞭である。堀之内２式並行期の古い段階に属する。28 は縦長の刺突を付した２条の隆帯が横走する。口唇部がわずかに「く」の字に屈折する。堀之内２式並行期の深鉢形土器である。

29 ～ 32 は口縁内面に平行沈線を施文した、堀之内２式並行期から加曽利Ｂ１式期に属する一群である。29 は沈線とケズリ・ミガキで文様帯を区画し、口唇部と口縁内面の平行沈線間に刻みを付加する。口唇部直下の太めの沈線内には、押し引いた円形刺突がある。口唇部の形状から、加曽利Ｂ１式の浅鉢形土器である。30 は口唇部に横方向の「８」の字状小突起がある。全体に被熱し摩滅している。堀之内２式並行期の浅鉢形土器である。31 は口唇部直下に２条の沈線が横走する。堀之内２式並行期の浅鉢形土器である。32 は外面に数条の帯縄文を有する。口縁部内面の沈線は施文範囲が拡大している。加曽利Ｂ１式の深鉢形土器である。

33・34 は口縁部が「く」の字状に屈曲し、外面に横帯文を有する。33 は屈曲部にのみ縄文が確認できるが、屈曲部以下は横走する沈線で縄文が磨り消された可能性がある。横帯文間には縦位の単位文が２段ある。34 は２条の帯縄文間に幅広の無文帯を有する。ともに加曽利Ｂ２式段階と考えるが、34 は瘤を有しており、後期中葉後半から後期後葉に属する可能性がある。

35 ～ 45 は、口縁部に横位の平行沈線文、胴部上半に羽状沈線文を有する後期後葉上ノ段式の一群で

ある。平縁が多いが、波状口縁（36）もある。口縁部の形状については、35･37 ～ 39･44･45 が内湾し、36・40 は直立傾向がある。口縁部の文様については、35・37 ～ 40 は平行沈線間に縄文（39 は RL、ほかは LR）を施文し、44 は平行沈線間に縄文（LR）と横位の楕円刺突を施文する。35・36 は平行沈線文の下端に横長の瘤を有する。38・39 は弧線状のモチーフである。41 ～ 43 は胴部上半の破片である。42 は括れ部に数条の帯縄文（LR）が横走する。43 は横走する平行沈線間に斜位の短沈線を施文する。

口縁部の形状や文様帯の構成から、大半が上ノ段３式に属すると考える。ただし、38・39 の弧線文は上ノ段式前半から見られる文様で、43 の短沈線や 44 の刺突は上ノ段４式に見られる文様であることから、若干の時期幅を有する可能性が高い。

46 ～ 57 は後期後葉から晩期初頭の隆帯文系土器群（中ノ沢Ｋ式･中ノ沢Ｂ類型）[3] である。平縁（46・50・54・55）および三角形状の小突起がついた平縁（48・52・53・56・57）が多いが、波状口縁（47・49・51）もある。口縁部の形状については、46・50 は内側に屈曲し、47・51 はわずかに内湾する。48・49・52・53・56・57 は外傾しており、54・55 は外反する。文様については、46・47・56 は口縁部文様帯の幅が広い。文様帯の下限に楕円形ないし長方形の縦位圧痕を付加した隆帯が１条あり、口唇部から隆帯間には先端部が丸い太めの施文具による沈線文が横走する。一方、48・49・57 は口縁部文様帯の幅が狭化している。48・57 は隆帯直上に横位の沈線を１条のみ施文し、49 は隆帯直上の沈線がない。48 は縦位圧痕を付加した隆帯を「前方につまみ出し、小さな中空部を作り出す」（飯田市教育委員会 2011）。口縁部の小突起も前方に張り出しており、口唇部に「三叉文状の空間」（同 2011）がある [4]。57 は小突起がついた部分で、隆帯直上に三叉文がある。50 は縦位圧痕を有する隆帯を２条貼付しており、横走する沈線はない。51 ～ 53 は微隆帯を撫で付けて貼付する。微隆帯の上に圧痕はない。51・53 は微隆帯の上に瘤がある。54 は微隆帯の上に縦位の圧痕がある。55 は扁平な隆帯上にヘラ状の工具で刺突する。なお、46 ～ 57 の胴部はすべて無文で、横方向のナデ痕跡が残る。

口縁部の形状や文様帯の構成から、46・47・56 は後期末葉中ノ沢Ｋ式１～３段階期、48・49・57 は晩期初頭中ノ沢Ｂ類型４段階期、50 ～ 55 は晩期初頭中ノ沢Ｂ類型４～５段階期に属すると考える。

58 は扁平な球形の胴部で、半肉彫的な雲形文を描く。表面が非常に摩滅しており、縄文施文の有無は観察できない。大洞Ｃ１式並行期の注口土器で、模倣品もしくは搬入品である。

59 は壺形土器の頸部で、屈曲部に横位の楕円刺突を付加した隆帯がある。摩滅しており不明瞭だが、胴部に半隆起が横走する。60 は壺形土器の胴部である。横走する沈線と斜位の刺突で、羊歯状の文様を施文する。大洞ＢＣ式並行期に属する。

61 ～ 63 は本遺跡で１点ずつのみ出土した。61 は沈線で粗大な「工」字文風のモチーフを施文する。「工」字文部はわずかに赤みを帯びており、赤彩があった可能性がある。口唇部の形状や文様の特徴から、氷Ｉ式と考える。62 は頂点に刻みがある双頭の突起を有する平縁の深鉢である。先端が丸い太めの施文具による沈線で、口縁部文様帯を区画する。沈線より上には同一と思われる施文具を用いて、円形刺突と、円

---

[3] 隆帯文土器は、「後期中葉以降、中部高地に独自の展開をみせた羽状沈線文をもつ土器」（上ノ段式）を祖型とし、縄文時代後期後半から晩期前半において北信を除く長野県内に確認されてきた（長野県 1988）。近年、飯田市中村中平遺跡で出土した良好な資料を用いて、百瀬長秀氏が５段階変遷案を提唱した（飯田市教育委員会 2011）。後期後半に該当する第１～３段階と、晩期初頭から前葉に該当する第４～５段階に分かれる。第１～３段階は「隆帯文系土器群と無文粗製土器を中核とした組成」が確認され「中ノ沢Ｋ式」と定義された。第４～５段階は「口縁部文様帯が大幅に委縮する」特徴や、「入組文・三叉文系土器群が組成に加わる」様相が認められたものの、組成の実態が明確でないことから「中ノ沢Ｂ類型」と定義された（同 2011）。

[4] 「つまみ出し突起」は隆帯文系土器群第３期（「中ノ沢Ｋ式」末）以前には存在し、第４期（「中ノ沢Ｂ類型」前半）には小形化し多用するようになると報告される。口唇部に三叉文状の空間を製作する技法は、中ノ沢Ｂ類型前半で発達するという（飯田市教育委員会 2011）。

形を引きずって楕円形になった刺突を充填する。晩期初頭に属すると考える。63は摩滅しており不明瞭だが、縦長の刺突を有す胴部片である。後期初頭から前葉に属すると思われ、三十稲場式の可能性がある。

64～72は無文土器である。64・65・68・69は深鉢形もしくは鉢形、66は皿形、67は内湾する鉢形の土器である。64の口縁部には、横方向のナデによる凹凸が激しく残る。ナデ以下は横方向のケズリで平坦になっている。67は口縁部に横位の沈線文が1条ある。69は縄文（LR）を縦位に施文し、口縁部は横ナデで縄文を磨り消す。70・71は深鉢形土器の底部で、70は底面に網代痕が残る。71は底面に木葉痕が残る。72は口縁部に6単位の双頭突起がある。突起の頂点には「V」字状の刻みを有する。これらの土器は後期末葉から晩期前葉に属する一群と考えるが、70・71は晩期後半浮線文期の可能性がある。

本遺跡では、64～72のような無文土器や46～57のような隆帯文系土器群の胴部と思われる無文土器片が、多量に出土した。後期後半から晩期前半に属すると考えるが、詳細な時期や器形は不明である。

73～79は注口土器の一部と考えるものである。73・77は全体に摩滅している。後期前葉に属すると考える。74は摩滅部と剥離部が多く不明瞭だが、半肉彫的な雲形文があり、58と同一個体と考える。注口部が剥離した痕跡が残る。75は微小な縄文（LR）を横位や斜位に施文したのち、浅い沈線でモチーフを描く。堀之内２式並行期に属する。76は磨消縄文を施文する。後期初頭末から前葉前半に属すると考える。78・79は後期前葉から中葉の注口部である。

80～85は台付土器の脚部である。本遺跡では比較的多量に出土しており、大半が自然流路ＮＲ１で出土した。80・84は括れ部に隆帯を巡らし、隆帯上に横長の短沈線を施文する。82・83は括れ部に縦位圧痕を付した隆帯がある。83は隆帯上に２段の横長瘤を貼付する。脚部の文様については、80は三叉文状のすかし孔と玉抱き三叉文、85は入組三叉文がある。80～85はいずれも大洞ＢＣ～Ｃ１式並行期と考える。なお、82については脚部上面の接合部断面に網代痕が残っている。製作時に網代の上で、脚部底面（実測図の下面）を上に向けて成形したのち、鉢本体部と接合した可能性が高い。

86は円形刺突と太い沈線で施文した蓋形土器である。全体に摩滅している。蓋の内側には炭化物が付着する（PL37）。堀之内１式並行期に属する。

## ３　土製品

(1) 概要

山鳥場遺跡で出土した土製品は、土偶 12 点、ミニチュア土器 18 点、土製円板 33 点、土製耳飾 22 点、焼成粘土塊 98 点、その他土製品２点の計 185 点である。中期後葉の竪穴建物跡の埋土や遺物を包含するⅡａ層およびⅡｂ層から、土器や石器などほかの遺物や自然礫と混在して出土したものが大半である。

文様や器形の残存状況がよいものを中心に図化・撮影した（付表7）。また、図化していない資料も含めて個々の土製品の観察と計測結果は、添付 DVD に収録した。

(2) 種類別の概要

① **土偶**（図版 57 － 1 ～図版 58 － 11、ＰＬ 41 － 1 ～ＰＬ 42 － 11、ＰＬ 44 － 64）

12 点出土したうち 11 点を図化し、１点は写真のみ掲載した。いずれも破片資料で、完形品はない。１点（４）は胴部と脚部が接合するため、破片数としては13点である。部位別にみると、頭部２点（1・2）、胴部上半３点（６～８）、胴部中央～下半３点（３～５）、脚部３点（４・９・10）、脚部と思われるもの２点（11・PL44 － 64）がある。中期後葉の竪穴建物跡から５点（３・４はＳＢ５、６・７はＳＢ７、11 はＳＢ 18）が出土したほかは、遺構外から出土した。ＳＢ５は炉直上で破片３点がまとまって出土し、そのうち左脚部と胴部中央～下半の２点が接合した（４）。

１～９・11 は形態と文様の特徴から中期後葉の土偶である。１・２は顔面部を隆帯で囲み、沈線と刺突で目や口、鼻孔を表現する。後頭部は２本の隆帯が、１は縦方向に並行し２は縦と横に交差する。１の顎部には製作時についたと思われる爪痕がある。顔面部の隆帯際・頬部・頸部には、先端が鋭利な施文具で沈線文様を施文する。２の顔面部を囲む隆帯は、頬部で縦方向に孔が通じている。３～５は臀部に逆ハート形の文様をもつ出尻土偶である。３・４は先端が丸い太めの施文具で、５は先端が鋭利な施文具で、胸下・背面・体側面に正中線や渦巻文、剣先文などを施文する。５は突出していたと思われる腹部と臀部が剥がれた痕跡がある。６～８は腕をほぼ水平に伸ばした扁平な板状の胴部上半である。７は腕の輪郭に沿って、先端がやや丸みを帯びた施文具による沈線文がある。腕の先端や脇下には渦巻文や「Ｕ」字状文、胸部間には正中線がある。６・８は比較的鋭利な施文具を用いて、横位の沈線や正中線、脇下の文様を施文する。９は正面（つま先）方向からみて左側に軸と芯棒痕が傾くため、左脚部と考える。11 は先端が丸い太めの施文具による沈線文がある。ほかの中期後葉の土偶と類似する渦巻文様と考える。底面が平坦なため脚部と考えたが、「坐像型」（長野県埋蔵文化財センター 2013）の左胴部下半である可能性がある。

10 は右脚部である。棒状を呈し、隆帯を横位に貼付して膝・膝裏・つま先を表現している。後晩期の土偶と考える。

製作・欠損痕跡については、芯棒痕跡を破断面の孔と矢印、粘土塊接合痕跡を点線、隆帯・粘土粒貼付が剥がれた痕跡を一点破線で表現した。１～７・９・64 に直径５mm 程の芯棒痕がある。３・５・11 は正中線を中心に左右の粘土塊を接合し、胴部を成形した痕跡がある。５は胴部下半と脚部をソケット状に装着した痕跡と芯棒痕が両方ある。山鳥場遺跡で出土した土偶の大半は、頭部および頸部と、左右胴部、腕部、脚部を別々に製作し、芯棒などで補助しながら接合したと考える。

② **ミニチュア土器**（図版 59 － 12 ～ 21、ＰＬ 43 － 12 ～ 21）

最大径が 10cm 以下のものや、文様や器形が粗いものをミニチュア土器とした。18 点出土したうち完形が１点（14）あるほかは、一部が欠損しているか破片資料である。中期後葉の竪穴建物跡から９点、土坑から１点出土したほかは遺構外から出土した。竪穴建物跡から出土した５点（12 はＳＢ５、13 は

ＳＢ13、14はＳＢ10のピット３埋土、15はＳＢ18、16はＳＢ14）と、遺構外から出土した５点（そのうち18はＮＲ１）の計10点を図化した。

12～17・21は中期後葉のミニチュア土器である。12はキャリパー形土器で、条線を地文とし蛇行沈線文や渦巻沈線文を施文する。13は縦位の隆帯で４単位に区画し、隆帯間にはやや崩れた矢羽状沈線文がある。14は先端がやや丸い施文具を用いて、２条１対の並行沈線で梯子状のモチーフを描く。口唇部には３つ１組の刻みが３箇所にある。15・16は先端が半月状の施文具で、口縁の沈線区画内に交互刺突を行っている。胴部には条線あるいは沈線がある。16の口縁部内面には炭化物が付着する。17は先端が丸い施文具で、口縁の沈線区画内に交互刺突を行っている。器形の歪みのためか、口縁はやや波状である。胴部は無文である。21は縦位の隆帯で区画し、隆帯際には沈線を施文する。隆帯間には縦位の縄文（LR）がある。加曽利Ｅ式の底部である。

18の口唇部には中央が凹み「８」の字状になった貼付文があり、口縁には縄文が省略された横帯文が１条ある。後期前葉と考える。19・20は口唇部に三角形の小突起を有し、胴部は無文である。小突起の頂部には微小な刺突がある。後晩期のものである可能性が高い。

③　**土製円板**（図版60－24～35、ＰＬ44－24～35・58～61）

33点出土したうち、中期後葉の竪穴建物跡から10点出土したほかは遺構外から出土した。竪穴建物跡から出土した６点（24はＳＢ15、27はＳＢ16、28・29はＳＢ11、PL44－58はＳＢ７、PL44－60はＳＢ９）と、遺構外から出土した10点（そのうち31・32はＮＲ１）の計16点を、図化あるいは撮影し、掲載した。

24･26～29、58～61は中期後葉唐草文系土器の頸部片や胴部片で、腕骨文や渦巻文、矢羽状沈線文、条線地文の一部が残る。25は頸部片に横位の蛇行隆帯がある。白色粒が多く混和しており、曽利式土器の可能性が高いとされる資料（図版37－41ほか）によく似ている。30は後晩期の磨消縄文系土器の頸部片である。31は微細な施文具で条線を施文する。32～35は無文の胴部片で、時期は不明である。なお形状については、32・33のように全周が摩耗し円状になっているものは少ない。

④　**土製耳飾**（図版60－36～48、ＰＬ44－36～48・62・63）

22点出土したうち、完形あるいは一部が欠損するが全体の器形や文様が推定できるものは14点で、それ以外に破片資料が８点ある。中期後葉の竪穴建物跡から出土した２点を除いて、すべて遺構外から出土した。竪穴建物跡（ＳＢ14）から出土した１点（42）と、遺構外から出土した14点（そのうち37・38・43・47はＮＲ１）の計15点を図化あるいは撮影し、掲載した。

36～44は臼形である。36～42は無文で、直径４．８cm（36）から１．２cm（42）まで大小様々である。41は中央に縦長の孔が通じている。43・44は上面に沈線と刺突があるが、43は全体に摩滅しており文様は不明瞭である。

45～48・62・63は環状を呈する。45は「内部にテラス状の張り出し」（飯田市教育委員会2011）を巡らし、上面を先端が鋭利な工具で彫刻し施文している。46～48・62・63は、刻みや沈線、彫刻で上面および内面を施文する。62は三叉文を有する。63は外反する器形で、上面と下面で推定径が大きく異なる。内面に沈線文を有し、沈線内には赤彩が残る。

⑤　**その他の土製品**（図版59－22・23、ＰＬ44－22・23）

22はＳＢ18から出土した２片が接合した。粘土塊の接合箇所で欠損しており、残存部は「Ｔ」字状を呈する。表面はミガキの後に、先端が丸い施文具を用いて渦巻文様を施文する。裏面はケズリのままでやや湾曲しており、土器の内面と類似する。裏面には欠損部が１箇所あり、全体で４方向に脚が

伸びたような形状をしている。こうした特徴から、「箱川原形」（中村 2013）釣手土器の釣手連結部である可能性が考えられる[1]。23 は土製腕輪の可能性がある。表面に円形刺突と沈線を施文する。刺突と沈線の幅がほぼ一致し、同一の棒状工具を用いたと考える。

**⑥　焼成粘土塊**（ＰＬ 43 － 49 ～ 57）

98 点が出土したうち、中期後葉の竪穴建物跡（ＳＢ７）から３点出土したほかは遺構外から出土した。遺構外では自然流路ＮＲ１の南端に集中して出土した。長さ２cm 前後の指頭大のものから、長さ６cm 程の片手で握ることが可能な大きさのものまであるが、形状に斉一性はない。大半が 50g 以下で、特に 20g 以下のものが多い。56 のように平坦面や曲面、棒を刺した孔が残るものや、52・27 のように一部が被熱したり炭化物が付着したものがある。

砂や小礫が混和し、土器の胎土によく似ている。50・54・55 は橙色で、赤褐色粒や白色の砂粒が多く混じる。表面は粉をふいたように摩滅している。大きさに比して軽いものが多い。49・51 ～ 53・56・57 は明るい茶褐色で、比較的緻密な粘土で硬く重い。

なお種実圧痕や炭化種実の有無について肉眼で観察を行ったが、砂や小礫の痕跡と区別できず、明確に種実であると判別できるものはなかった。

---

1　飯田市箱川原遺跡２号住居址から出土した釣手土器（木下 1971、佐藤 1998）を標準とし、「筒形に造形された把手間の背面側に粘土紐を掛け渡す」（中村 2013）のが特徴である（参考図参照）。

## ４　石器

### （１）概要

山鳥場遺跡で出土した石器は、遺構内１,082 点、遺構外２,711 点で総数は３,793 点である。出土位置をみると、竪穴建物跡から１,061 点、焼土跡から９点、土坑から 12 点、自然流路（ＮＲ１）から 148 点が出土している。特に、ＳＢ 13（386 点）、ＳＢ 14（210 点）、ＳＢ 15（155 点）に集中して出土した。ＮＲ１については調査区南壁際から中央にかけて特に偏って出土する傾向があり、土器の出土様相と一致する。

時期については出土土器の様相から、中期後葉、後期初頭から前葉、後期後葉から晩期初頭を主体とし、早期末葉、前期末葉、後期中葉が混入する。ＳＢ４からＳＢ 18、ＳＫ 57 で出土した石器１,059 点に関しては、遺構理土中の出土土器の様相から中期後葉に属する可能性が高い。同様の理由でＳＢ３の炉１、ＳＦ１、ＳＫ 94 から出土した石器 14 点に関しては、後・晩期に属する可能性が高い。

出土した器種の内訳は第９表のとおりである。素材・残滓類を除くと、微細な剥離がある剥片、凹石、楔形石器が 100 点を超え、次いで石鏃、打製石斧、二次加工がある剥片、横刃形石器が多い。なお、器種分類については川路大明神原遺跡（長野県埋蔵文化財センター 2010）と鬼釜遺跡（同 2016）に準拠し、完形あるいは残存率が高いものを中心に、各器種の代表例 90 点を図化し掲載した。また、製品７点と素材・残滓類は、図化せず写真のみを掲載した（付表８）。観察は肉眼および 10 倍のルーペを用いて行った。なお、未掲載のものも含め個々の石器の観察と計測結果は添付 DVD に収録した。

第９表　石器分類表

| 分類 | 記載順 | 器種名 | 遺構内点数 | | | 遺構外点数 | 出土総数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 中期後葉 | 後・晩期 | 時期不明 | | |
| 剥片石器 | 1 | 石鏃 | 29 | | | 41 | 70 |
| | 2 | 石鏃未製品 | 6 | | | 6 | 12 |
| | 3 | 石錐 | 6 | | | 5 | 11 |
| | 4 | 楔形石器 | 33 | | | 71 | 104 |
| | 5 | 削器 | 4 | | | 3 | 7 |
| | 6 | 掻器 | 3 | | | 5 | 8 |
| | 7 | 石匙 | 3 | | | 3 | 6 |
| | 8 | 二次加工がある剥片 | 15 | | | 49 | 64 |
| | 9 | 微細な剥離がある剥片 | 38 | | | 94 | 132 |
| | 10 | 打製石斧 | 26 | | | 39 | 65 |
| | 12 | 横刃形石器 | 27 | | | 31 | 58 |
| | 13 | 大形刃器 | 9 | | | 5 | 14 |
| 礫石器 | 11 | 磨製石斧 | 6 | | | 8 | 14 |
| | 14 | 礫器 | 5 | | | 1 | 6 |
| | 15 | 磨石 | 4 | | | 13 | 17 |
| | | 凹石 | 35 | 2 | | 81 | 118 |
| | | 敲石 | 6 | 1 | | 14 | 21 |
| | 16 | 特殊磨石 | | | | 1 | 1 |
| | 17 | 砥石 | | | | 3 | 3 |
| | 18 | 石皿 | 10 | | | 10 | 20 |
| | | 台石 | 3 | | | 4 | 7 |
| 素材・残滓 | 19 | 原石 | 16 | 1 | | 41 | 58 |
| | | 石核 | 37 | | 1 | 103 | 141 |
| | 20 | 剥片 | 738 | 10 | 8 | 2,080 | 2,836 |
| 出土総数 | | | 1,059 | 14 | 9 | 2,711 | 3,793 |

（2）器種別の概要

① **石鏃**（図版61－1～14、ＰＬ45－1～14）

70点出土したうち14点を図化した。1～12は小形剥片の両面に押圧剥離を施し尖部を形成したもので、凹基無茎鏃である。1と3は基部の内湾が浅く、平基鏃に近い。13･14は有茎鏃で、遺構外から6点出土した。長さと幅の比率がほぼ同じで正三角形に近いものが多いが、8～11のように長身のものも少数ある。

1～4・11は側縁の形状が直線的で、5～10はやや丸みを帯びる。12は先端に抉りがあるもので、1点のみ出土した。10は浅い押圧剥離をしており、表裏面に素材時の第一次剥離面が残る。

石材は、下呂石1点、チャート7点のほかは黒曜石である。

② **石鏃未製品**（図版61－15・16、ＰＬ45－15・16）

12点出土したうち2点を図化した（15・16）。形状が石鏃と類似するが完成品よりも大形で、加工剥離が石鏃よりも粗いものを抽出した。石材は、チャート1点のほかは黒曜石である。

③ **石錐**（図版61－17～19、ＰＬ45－17～19）

11点出土したうち3点を図化した。小形剥片を素材とし、17は剥片の縁辺の一部に尖部を作出しており、18･19は剥片を棒状に加工して錐部を形成している。石材は、チャート1点のほかは黒曜石である。

④ **楔形石器**（図版61－20～24、ＰＬ45－20～24）

104点出土したうち5点を図化した（20～24）。向かい合う縁辺部に、両極打法による階段状剥離が存在するものである。長さ3cm前後のやや大形品（20）から1cm前後の小形品（21）まで、大小様々なものがある。石材は、チャート1点のほかは黒曜石である。出土地点が偏る傾向があり、ＳＢ13、ⅠＹ01・06グリッドにおいて一定数まとまって出土した。

⑤ **削器**（図版62－25、ＰＬ45－25）

7点出土したうち1点を図化した（25）。小形剥片を素材とし、長軸に対し平行方向の縁辺部1辺に使用痕と思われる微細な剥離を有するもので、反対側の縁辺部には刃潰しと思われる連続的な加工を施す。石材は、チャート1点のほかは黒曜石である。

⑥ **掻器**（図版62－26・27、ＰＬ45－26・27）

8点出土したうち2点を図化した（26・27）。小形剥片を素材とし、長軸に対し直交方向の縁辺部を片面から加工し、急角度の刃部を作出している。石材はすべて黒曜石である。

⑦ **石匙**（図版62－28～31、ＰＬ45－28～31）

6点出土したうち4点を図化した。28・31は片面から、29・30は両面から剥片の一部を加工し、摘み部を形成している。平面の形状は、28～30は縦型で31は横型である。刃部については、29～31は1辺ないし2辺を加工し刃部を形成している。28は刃部を作出せず、剥片の鋭利な縁辺に使用痕と思われる微細な剥離が残る。石材は、黒曜石、下呂石、砂岩、珪質泥岩、チャート、輝緑凝灰岩が各1点ある。

⑧ **二次加工がある剥片**（図版62－32・33、ＰＬ45－32・33）

64点出土したうち2点を図化した。特定の形状を作出しておらず定形的な各器種に分類できないもので、二次加工の部位や状態は様々である。そのほかに、欠損により器種を確定できない小形剥片石器も含む。32・33は削器の可能性があるが、加工が荒く剥離が均一ではないため本器種に分類した。石材は、チャート4点のほかは黒曜石である。

⑨ **微細な剥離がある剥片**（図版62－34・35、ＰＬ45－34・35）

132点出土したうち2点を図化した。小形剥片の縁辺に使用痕と思われる微細な剥離が連続して残るもので、34のように縦長剥片を素材とし長軸に対し平行方向の縁辺に微細な剥離が残るものと、35の

ように不定形剥片を素材とし場所に拘らず鋭利な縁辺に微細な剥離が残るものがある。量的には後者が多いが、前者も一定数ある。石材は、チャート７点のほかは黒曜石である。出土地点が偏る傾向があり、ＳＢ13、ＩＹ01・06グリッドにおいて一定数まとまって出土した。

本器種については、削器に形状が類似した縦長剥片素材のもの（34ほか）が一定数含まれることから、大半が小形の刃器となる可能性がある。ただし顕微鏡等を用いた詳細な使用痕観察は行っておらず、本報告では微細な剥離の有無の記録にとどめた。

⑩　**打製石斧**（図版63－36～46、ＰＬ46－36～46・91・92）

65点出土したうち11点を図化した。さらに２点は写真のみ掲載した。大形剥片あるいは扁平長方形の礫を素材とし、側縁に階段状剥離を連続的に施すものである。側縁の剥離は浅く、表裏面に素材剥片時の第一次剥離面や自然面を広く残すものが多い。大半が長さ10cm・幅５cm以上だが、長さ５cm前後・幅３cm前後の小形品（91ほか）が少量ある。

36・37・43は短冊形、38・39・44はやや撥形、41・42・45は撥形、40は分銅形である。刃部の形状は、36、41、42、45が直刃で、37～40・43・44が円刃である。46は下半部（刃部側）が欠損しており、形状は不明である。

38～40は、上半部（基部側）の表裏面と側縁の一部で、稜線が潰れ摩耗痕が残る。こうした痕跡は側縁の抉り部と平行する位置に存在することから、柄の装着痕跡である可能性がある。41・42・45は稜線が潰れているが摩耗痕がなく、製作痕跡と考える。一方、36・38～40・44のように下半部（刃部側）に摩耗痕や線状痕が残るものがあり、使用痕である可能性が高い。

PL46－92ほか３点は片側縁のみに連続的な階段状剥離を行い、反対側は階段状剥離が顕著でなく鋭利な縁辺が残る。鋭利な縁辺の一部に微細な剥離が残るものもあり、横刃形石器である可能性もある。すべて遺構外から出土した。

石材は、黒色安山岩、泥岩、ホルンフェルス各１点、砂岩５点、珪質泥岩２点のほかは粘板岩である。粘板岩の中では、37･91ほか１点が白く風化している。91は非常に脆い石材で、千枚岩の可能性がある。

⑪　**磨製石斧**（図版63－47～50、ＰＬ46－47～50・93）

14点出土したうち４点を図化した。さらに１点は写真のみ掲載した。研磨により斧状に整形されたもので、長さ７cm前後の小形品（48・49ほか２点）と12cm前後の大形品がある。47・48・50の基部には研磨による平坦面がある。両側縁も研磨されており、横断面が隅丸長方形を呈す定角式磨製石斧である。50はやや丸みを有し、中央部に最も厚みがあり縦断面が柳葉状である。49の基部は研磨により細く尖る。側縁の一部は中央に研磨による稜があり平坦でない。横断面はやや丸みを帯びた隅丸長方形を呈する。93は横断面が扁平な楕円形で、素材礫の形状を残す。

石材は、アプライト１点、流紋岩４点、砂岩２点、粘板岩１点、透閃石岩５点があるほか、風化しており石材不明のものが１点ある。

⑫　**横刃形石器**（図版64－51～図版65－64、ＰＬ47－51～64）

58点出土したうち14点を図化した。大形剥片を素材とし、長軸に対し平行方向の縁辺部に調整あるいは使用痕と思われる微細剥離が残るものを指す。幅10cm前後の剥片を素材とするものが多く、サイズが均一な剥片を素材として選択した可能性がある[1]。

---

[1] 横刃形石器がどこで製作されたのかという課題が残る。従来、横刃形石器は「扁平円礫打割技法」を用いて河原などで製作したと考えられている（飯田市教育委員会1986、長野県理蔵文化財センター2010、富士見町教育委員会1978）。扁平礫を素材とするため片面全体に自然面が残るものが多く、「割取できる剥片の大きさも限定」（飯田市教育委員会1986）されるという。

51・54・55・61は素材剥片を加工せず獲得時のまま利用しており、素材剥片時の第一次剥離面や自然面がそのまま残る。52・53・56～60・62～64は素材剥片を加工して打点部や中央部の厚みを取り除き、比較的均一な厚さに調整している。部分的に素材剥片時の第一次剥離面や自然面が残存する。

縁辺部の微細剥離については２種類に分かれ、51～53・59・62・64は縁辺に対し垂直方向に打撃を行ったことにより、両面に向かって幅２～10mm程の剥離が及んでいる。54～58・60・63は片面のみに幅２～５mm程の剥離がある。また、61は縁辺が摩耗している。

石材は、安山岩１点、黒色安山岩５点、珪質泥岩１点、粘板岩７点のほかは砂岩である。

⑬　**大形刃器**（ＰＬ47－94・95）

14点出土した。２点を写真のみ掲載した。大形剥片を素材とするが、定形的ではない。94のように縁辺に対し垂直方向の打撃により、両面に向かって幅２～10mm程の微細剥離が及ぶものと、95のように片面のみに幅２～５mm程の微細剥離が残るものがある。欠損により全体の形状が不明なものも含み、それについては横刃形石器の破片である可能性が高い。石材は、黒色安山岩５点、砂岩９点がある。

⑭　**礫器**（図版65－65・66、ＰＬ47－65・66）

６点出土したうち２点を図化した。扁平礫の一端が連続的に剥離しているもので、65は片面に、66は両面に剥離が及んでいる。石材は、石材不明のものが１点あるほかは砂岩である。表採した１点（石材不明）を除いて、すべてＳＢ７から出土した。

⑮　**磨石・凹石・敲石**（図版66－67～図版67－80、ＰＬ48－67～80・96・97）

磨石17点、凹石118点、敲石21点が出土し、そのうち14点を図化した。さらに２点は写真のみ掲載した。片手で持ち上げることが可能な大きさの礫で、69～76・96・97のように凹痕を有するものを凹石とし、それ以外に、77～80のように先端や側面に敲打痕を有するものを敲石、67・68のように摩耗痕が顕著に残るものを磨石とした。

形状については、70・71のように不定形礫を素材とするものが最も多く、ほかに楕円形礫を素材とするもの（67～69・96・97ほか）、それより大きめの扁平楕円形礫を素材とするもの（72・73ほか）、細長の棒状または尖頭形の礫を素材とするもの（74～80ほか）が一定数ある。敲石はすべて棒状または尖頭形の礫を素材としており、長さ10cm前後の小形品（77）から20cm前後の大形品（78・80）まで様々な大きさのものがある。

使用痕については、67・68（磨石）は表裏に顕著な摩耗痕があり、側面に敲打痕がわずかに残る。69～76などの凹石は、凹痕のほかに摩耗痕や連続した浅い敲打痕を併せて有するものが多い。69・73・96・97は凹痕および摩耗痕がある。70・71・74～76は凹痕および敲打痕がある。72は凹痕・摩耗痕・敲打痕がすべてある。なお凹痕の形状は、浅く連続的なもの、円錐状のもの、溝状のものが複合的に存在する。76～80（敲石）は、素材礫の先端部や側面に、敲打痕や敲打に伴う剥離がある。79は断面三角形の稜線上に広く敲打痕と打点が残り、打点から平坦面に向かって大きな剥離が及んでいる。

石材は、安山岩３点、花崗岩１点、斑レイ岩１点、泥岩１点、粘板岩１点のほかは砂岩である。砂岩は、比較的硬く緻密なものが多い。

⑯　**特殊磨石**（図版67－81、ＰＬ49－81）

１点が出土した（81）。断面三角形の稜線上３か所と平坦面２か所に摩耗痕がある。特に、実測図で正面に据えた稜線上は摩耗痕が非常に顕著で、石の目が磨滅しておりツルツルしている。形状や大きさから早期の特殊磨石である可能性が高い。石材は安山岩である。

⑰　**砥石**（図版 68 － 82 ～ 84、ＰＬ 46 － 82 ～ 84）

３点出土し、すべて図化した。82 は長方形の扁平礫を素材とし、長軸方向とほぼ平行に摩耗痕が広がり、中心に縦長の浅い溝がある。83・84 は小形の楕円礫を素材とする。83 の表裏面はやや風化しているものの、平坦で滑らかである。中心に断面がＵ字状の浅い溝がある。84 は断面がＵ字状の深い溝が斜めに入る。溝の内部は摩耗により黒ずんでいる。石材はすべて砂岩だが、82 はほかに比べて赤色粒子が多く全体に赤い。すべて遺構外から出土した。

⑱　**石皿・台石**（図版 68 － 85 ～ 90、ＰＬ 49 － 85 ～ 90）

破片を含め石皿 20 点、台石７点が出土し、そのうち６点を図化した。大形扁平礫の表面に使用痕と思われる摩耗痕ないし敲打痕が残るもので、摩耗痕が顕著なものを石皿（85 ～ 89）、敲打痕が顕著なものを台石（90）とした。石皿は、85・86・89 のように摩耗部が皿状に窪み縁を有するものと、87・88 のように盤状のものがある。86 は側面から裏面の一部が被熱し黒くなっている。ただし機能面は被熱していないため、利用前の被熱である可能性がある。87 と 89 は摩耗部が一部黒ずんでおり、すり潰した対象物の影響による可能性がある。石材は、石皿で安山岩３点、斑レイ岩１点、台石で安山岩１点があるほかは、やや硬質な砂岩である。

完形もしくは完形に近い石皿７点・台石１点は、中期後葉の竪穴建物跡６軒（ＳＢ 10・13・14・15・16・17）で１～２点ずつ、床直上や壁際から出土した。機能面が上を向くものと下を向くものがある。一方、残存率が 50％未満の石皿片・台石片は、土器などほかの遺物とともに遺構埋土中や遺物包含層中から出土しており、完形品と破片資料で出土状況に違いがみられる。表採した石皿片１点は、敲打により機能面が皿状に窪んでいるが使用痕と思われる摩耗痕が顕著でないことから、未製品の可能性が高い（右下写真）。

⑲　**原石・石核**（ＰＬ 50 － 98 ～ 101）

原石 58 点、石核 141 点が出土し、一部を写真図版に掲載した。石材は黒曜石が主体で、ほかに安山岩、砂岩、チャートがある。黒曜石とチャートは比較的小形で、原石・石核ともに長さと幅が５cm 四方内で、20g 以下におさまるものが多い。PL50 － 98 は、比較的大きな黒曜石およびチャートの原石・石核である。PL50 － 100 はＳＫ 94 上層から出土した本遺跡最大のチャートの原石で、47. 8 kg を量る。自然状態では遺跡内に存在しない大きさであり、遺跡外からの持込みが想定される。PL50 － 99・101 のような砂岩の石核は、遺構内で 10％、遺構外で 18％と出土率が低い。PL50 － 101 は、横刃形石器など製品のサイズよりも小さな剥片を打ち割った痕跡が残る。

⑳　**剥片**（ＰＬ 50 － 102）

2,836 点出土した。石材は黒曜石が圧倒的に多く、次いで砂岩とチャートが多量に出土し、ほかに下呂石、安山岩、黒色安山岩、泥岩、粘板岩がある。７点は石材不明である。

黒曜石やチャートの剥片は様々な形状・大きさのものがあり、重さが０. １g に満たない細片も含む。下呂石の剥片は本遺跡中１点のみで、下呂石製石鏃と同じＩ Y02 グリッドから出土した。砂岩と粘板岩については、５cm 四方におさまる小さな剥片のほかに、横刃形石器と形状・大きさが類似する比較的定形的な横長剥片が一定数存在する。縁辺に微細剥離や摩耗痕が明確に認められないことから剥片に含めた。

未製品の可能性がある石皿片（②区表採）

剥片の状態については、黒曜石、下呂石、安山岩、チャート、

粘板岩の剥片は被熱していないものが大半だが、竪穴建物跡の炉跡内では、曇りガラス状になっており被熱したと思われる黒曜石の剥片が散見される（PL50 － 102）[2]。砂岩は被熱しているものや焼けてはじけたような剥片があることから、炉石片が混入している可能性もある。

(3) まとめ

① **石器群の概要**

山鳥場遺跡では剥片石器12種類、礫石器9種類、素材・残滓3種類が出土した。組成については、素材・残滓類を除くと、石鏃、楔形石器、二次加工がある剥片、微細な剥離がある剥片、打製石斧、横刃形石器、凹石が多い。中期後葉の竪穴建物跡・土坑から出土した石器のみの組成と、後・晩期の竪穴建物跡・土坑や遺構外から出土した石器の組成に大きな違いはない。

本遺跡において主体的である中期後葉の遺構から出土した石器組成と、朝日村熊久保遺跡（朝日村教育委員会2003）や山形村殿村遺跡（山形村教育委員会1987）、三夜塚遺跡（山形村教育委員会2002）といった、松本盆地西南部における時期が類似する諸遺跡で報告された石器組成を比較すると、第12図のようになる。なお比較に当たっては、①石鏃には未製品を含め、②磨石・凹石・敲石は「磨石類」、③削器・掻器・微細な剥離がある剥片は「小形刃器類」、④横刃形石器・大形刃器は「大形刃器類」、⑤石皿・台石は「石皿類」に統合した。また、⑥一部の遺跡でのみ出土する器種や少量器種（二次加工がある剥片・礫器・特殊磨石・石槍・石錘・石棒など石製品）は「その他石器」にまとめた。

本遺跡の特徴は、全体的にほぼ均等な組成を示すことである。定形的な器種では、石鏃と磨石類が比較的多く出土しており、打製石斧はやや少ない。松本盆地西南部における縄文時代中期後半の集落遺跡は石鏃の出土比率が少なく、打製石斧や磨石類が多く出土する傾向が指摘されている（松本市1996）。熊久保遺跡や殿村遺跡、塩尻市小段遺跡（塩尻市教育委員会2008）などでは、石鏃に比べ打製石斧と磨石類が2倍近くかそれより多く出土している。一方、三夜塚遺跡は磨石類がやや多いが、石鏃と打製石斧は同程度出土しており、全体にほぼ均等な組成を示す。本遺跡は、三夜塚遺跡の状況に近い。

出土状況については、遺構内では大半が竪穴建物跡から出土しており土坑は出土率が低い。各遺構の組成については第11表のとおりだが、ＳＢ13やＳＢ14で出土量が多いなど遺構ごとに状況が異なる。特に剥片石器は出土数が偏る傾向があり、石鏃、楔形石器、微細な剥離がある剥片、素材・残滓類はＳＢ13から多く出土した。これらは埋土中に土器片と混在しており、土器とともにＳＢ13への集中廃棄的な行為があった可能性が高い。ただし、ＳＢ13の炉19層で石核1点と19点の剥片（うち17点は被熱）がまとまって出土した点、ＳＢ13のＰ6の検出面から上半で石核2点、剥片21点、微細な剥離がある剥片2点、石鏃1点がまとまって出土した点は、ＳＢ13全体の埋土の出土状況と異なる。

遺構外では、遺物を包含するⅡａ層やⅡｂ層上半で、土器などほかの遺物や自然礫と混在している。ⅠY01・ⅠY06グリッドなど、土器が多く出土する地点は石器の出土数も多い。打製石斧、磨製石斧、石皿については、剥離面や機能面の痕跡が浅いものや粗いものが遺構外に存在しており、未製品の可能性がある。

② **石材について**

第10表に器種別の石材組成を示した。なお一部を除いて石材は肉眼で観察し、硬砂岩や粗粒砂岩などは「砂岩」、頁岩や粘板岩は「粘板岩」、泥岩・頁岩系の中で珪質のものは「珪質泥岩」、蛇紋岩や流紋岩は「流紋岩」に統一して分類した。そのほかの石材についても、風化や酸化などに起因する色調や変成

[2] 例えばＳＢ13では、炉1層（楔形石器1点、剥片2点）および炉18層（二次加工がある剥片1点、楔形石器2点、剥片1点）から出土した黒曜石剥片石器は層ごとに各1点が、炉19層から出土した19点の剥片うち17点は、光沢が消失し曇りガラス状であった（PL50 － 102）。

の差を内包する。石器と石材との関係については、次の点が指摘できる。

小形剥片石器については、ほぼすべての器種で黒曜石が圧倒的に多く 88 ～ 100％を占める。ただし石匙は石材のバリエーションが多く、６点出土したうち黒曜石、下呂石、砂岩、珪質泥岩、チャート、輝緑凝灰岩が１点ずつみられる。石鏃、石錐、楔形石器、削器については、下呂石やチャートといった黒曜石以外の鋭利な石材が、Ⅱａ層およびⅡｂ層上半を中心に出土した。

大形剥片石器については粘板岩、砂岩といった堆積岩系が大半を占め、ほかに安山岩、黒色安山岩[3]、泥岩、珪質泥岩、ホルンフェルスがある。器種ごとで主体的な石材が異なっており、打製石斧は粘板岩、横刃形石器・大形刃器は砂岩が多い。

磨製石斧については透閃石岩や流紋岩、アプライトなど硬質で緻密な石材を主体とするが、ほかに砂岩の中で硬くしまったものも利用している。

磨石・凹石・敲石、石皿・台石は圧倒的に砂岩が多く、ほかに安山岩、花崗岩、斑レイ岩、泥岩、粘板岩が少量ある。石皿と台石については大半が砂岩の大形扁平礫を利用している[4]。本遺跡周辺の地形・地質について御指導頂いた浅川行雄氏の所見では、こうした大形の砂岩は鎮川由来であるとされている。一方磨石・凹石・敲石に利用している片手で持ち上げることが可能な大きさの砂岩は、鎮川のほかに内山沢にも存在し、遺跡が立地する土層内にも含まれる。

素材・残滓類については黒曜石が最も多く、次いで砂岩とチャートが多い。そのほか、不明のものを除くと下呂石、安山岩、黒色安山岩、泥岩、粘板岩がある。原石・石核・剥片の３種が揃うのは黒曜石とチャートで、石核・剥片の２種があるのは安山岩と砂岩である。そのほかは剥片のみ出土した。黒曜石の原石は５cm 四方の小ぶりなものやズリが多く、大きいもので長さ 10cm 程度である。石核も大半が長さ５cm 前後の小ぶりなものである。原石の出土量に比べて石核の点数が多い。黒曜石については、剥片が多く小形剥片石器の未製品も一定数出土したことから、小ぶりの原石・石核を持込み、遺跡内で小形剥片石器を製作したと考える。

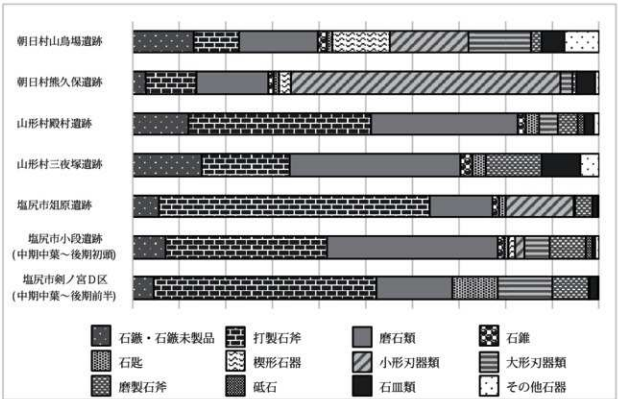
以上、本遺跡で出土した石器について概要を述べ、器種組成と石材組成についてまとめた[5]。今後、近隣遺跡や周辺地域とさらなる比較・検討を行うことで本遺跡の石器群の特徴がより明らかになろう。

---

[3] 木曽郡上松町吉野遺跡群で非常によく似た石材の「大形石匙」および「大形刃器」が報告されている。それによると石材は「ガラス質安山岩」である（上松町教育委員会 2001）。本遺跡で出土した安山岩系石材の中で特に硬く鋭利で、色は黒色を基本とし黄色粒子が網目状に入る特徴が肉眼で観察できる。明確に分類できるため、ほかの安山岩から分離した。

[4] 石皿・台石と同様に、竪穴建物跡の炉辺石としても砂岩の大形楕円礫を利用している。

[5] 剥片石器の石材利用について、長野県埋蔵文化財センター 2019「年報」35 も参照されたい。




第12図　松本盆地西南部の縄文中期後半の石器器種組成

第10表　器種別石材組成

| | 石材 | 石鏃 | 石鏃未製品 | 石錐 | 楔形石器 | 削器 | 掻器 | 石匙 | 二次加工がある剥片 | 微細な剥離がある剥片 | 打製石斧 | 横刃形石器 | 大形刃器 | 磨製石斧 | 礫器 | 磨石 | 凹石 | 敲石 | 特殊磨石 | 砥石 | 石皿 | 台石 | 原石 | 石核 | 剥片 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 火成岩系 | 黒曜石 | 62 | 11 | 10 | 103 | 6 | 8 | 1 | 60 | 125 | | | | | | | | | | | | | 51 | 115 | 2,640 | 3,192 |
| | 下呂石 | 1 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 3 |
| | 安山岩 | | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | 2 | | 1 | | 3 | 1 | | 1 | 2 | 12 |
| | 黒色安山岩 | | | | | | | | | | 1 | 5 | 5 | | | | | | | | | | | | 5 | 16 |
| | 花崗岩 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| | アプライト | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 1 |
| | 斑レイ岩 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | |
| | 流紋岩 | | | | | | | | | | | | | 4 | | | | | | | | | | | | 4 |
| 堆積岩系 | 砂岩 | | | | | | | 1 | | | 5 | 44 | 9 | 2 | 5 | 14 | 114 | 21 | | 3 | 16 | 6 | | 22 | 117 | 379 |
| | 泥岩 | | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | | 3 | |
| | 珪質泥岩 | | | | | | | 1 | | | 2 | 1 | | | | | | | | | | | | | | 4 |
| | 粘板岩 | | | | | | | | | | 55 | 7 | | 1 | | | 1 | | | | | | | | 16 | 80 |
| | チャート | 7 | 1 | 1 | 1 | 1 | | 1 | 4 | 7 | | | | | | | | | | | | | 7 | 3 | 45 | 78 |
| | 輝緑凝灰岩 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 変成岩系 | 透閃石岩 | | | | | | | | | | | | | 5 | | | | | | | | | | | | 5 |
| | ホルンフェルス | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 不明 | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | 7 | 9 |
| 合計 | | 70 | 12 | 11 | 104 | 7 | 8 | 6 | 64 | 132 | 65 | 58 | 14 | 14 | 6 | 17 | 118 | 21 | 1 | 3 | 20 | 7 | 58 | 141 | 2,836 | 3,793 |

第11表　遺構別器種組成

| 遺構名 | | 石鏃 | 石鏃未製品 | 石錐 | 楔形石器 | 削器 | 掻器 | 石匙 | 一次加工がある剥片 | 微細な剥離がある剥片 | 打製石斧 | 横刃形石器 | 大形刃器 | 磨製石斧 | 礫器 | 磨石 | 凹石 | 敲石 | 特殊磨石 | 砥石 | 石皿 | 台石 | 凸石 | 石核 | 剥片 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ＳＢ３ | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | 1 | 3 |
| ＳＢ４ | | 1 | 1 | | | | | | 2 | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | 5 | 11 |
| ＳＢ５ | | | | | 2 | 1 | 1 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | 1 | 28 | 35 |
| ＳＢ６ | | | | | 2 | 1 | | | | 1 | 2 | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | 11 | 19 |
| ＳＢ７ | | 3 | | 1 | 2 | | | | 2 | | 3 | 2 | | 2 | 5 | | 4 | | | | | | 1 | 3 | 33 | 61 |
| ＳＢ８ | | 1 | 1 | | 2 | 1 | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | 2 | 1 | 16 | 26 |
| ＳＢ９ | | 1 | | | | | | | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | 8 | 11 |
| ＳＢ10 | | 3 | | | | | | | | | | 1 | | | | | 4 | 1 | | | 1 | | | 4 | 8 | 22 |
| ＳＢ11 | | | | | | | | | | 2 | 1 | 1 | 1 | | | | 5 | | | | | | | 2 | 21 | 33 |
| ＳＢ13 | | 9 | 1 | 1 | 20 | 1 | 1 | 1 | 6 | 20 | 9 | 6 | 3 | | | 3 | 6 | | | | 2 | 2 | 4 | 12 | 279 | 386 |
| ＳＢ14 | | 4 | 2 | 2 | 4 | | | | 4 | 4 | 6 | 5 | 1 | 3 | | | 3 | 3 | | | 3 | | 3 | 6 | 157 | 210 |
| ＳＢ15 | | 3 | | | 1 | | 1 | | | 6 | 3 | 7 | | | | | 6 | 1 | | | 2 | | 3 | 5 | 117 | 155 |
| ＳＢ16 | | 4 | 1 | 2 | | | | 1 | 1 | 1 | | 1 | 1 | | | | 2 | 1 | | | 1 | | 3 | 3 | 44 | 66 |
| ＳＢ17 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | | | | 2 | 4 |
| ＳＢ18 | | | | | | | | | | | 1 | 2 | 1 | | | 1 | 4 | | | | | 1 | | | 9 | 19 |
| ＳＦ１ | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | 8 | 9 |
| ＳＫ27 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| ＳＫ35 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| ＳＫ57 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| ＳＫ94 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | 2 |
| ＳＫ119 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| ＳＫ91 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 5 | 5 |
| 小計 | | 29 | 6 | 6 | 33 | 4 | 3 | 3 | 15 | 38 | 26 | 27 | 9 | 6 | 5 | 4 | 37 | 7 | | 10 | 3 | 17 | 38 | 756 | 1,082 |
| 遺構外 | ＮＲ１ | 4 | | | 4 | | | | 1 | 6 | 5 | 2 | | 3 | | 3 | 6 | | | 1 | 1 | | 5 | 8 | 99 | 148 |
| 遺構外 | ＩＳ06 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| 遺構外 | ＩＳ11 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 4 | 5 |
| 遺構外 | ＩＳ12 | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 4 | 10 | 16 |
| 遺構外 | ＩＳ16 | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 3 | 5 |
| 遺構外 | ＩＳ17 | | | 1 | 1 | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | 20 | 24 |
| 遺構外 | ＩＳ18 | 2 | | | | | 1 | | 2 | 1 | | | | | | | | | | | | | | 4 | 18 | 28 |
| 遺構外 | ＩＳ19 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | 3 |
| 遺構外 | ＩＳ25 | | | | 1 | | | | 3 | 2 | | | | | | | | | | | | | | 2 | 20 | 28 |
| 遺構外 | ＩＴ05 | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 7 | 9 |
| 遺構外 | ＩＴ16 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| 遺構外 | ＩＴ21 | | 1 | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | 2 | | | | | | 2 | 1 | 44 | 52 |
| 遺構外 | ＩＴ22 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | 3 | | | | | | 1 | | 13 | 18 |
| 遺構外 | ＩＸ03 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 2 |
| 遺構外 | ＩＸ05 | 4 | | | 3 | | | | 9 | 5 | 3 | | | | | | 2 | | | | | | 3 | 8 | 105 | 142 |
| 遺構外 | ＩＸ09 | | | | | | | | 1 | 2 | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 20 | 25 |
| 遺構外 | ＩＸ10 | | 1 | | | | | 1 | | 1 | 1 | 1 | | | | 1 | | | | | 1 | | | 1 | 57 | 65 |
| 遺構外 | ＩＹ01 | 8 | 1 | 1 | 14 | | | | 7 | 17 | 4 | 7 | | 1 | | | 9 | 4 | | 1 | 1 | | 2 | 16 | 379 | 472 |
| 遺構外 | ＩＹ02 | 3 | 1 | | 9 | | | 1 | 9 | 8 | 6 | 5 | | 1 | | 1 | 10 | 2 | 1 | | 2 | 1 | 1 | 15 | 177 | 253 |
| 遺構外 | ＩＹ03 | | | | | | 1 | | | 2 | | 1 | | | | 1 | 3 | 1 | | | | 1 | | 4 | 43 | 57 |
| 遺構外 | ＩＹ04 | | | | | 1 | | | 1 | | 1 | | | | | | 1 | | | | | | | | 1 | 5 |
| 遺構外 | ＩＹ06 | 9 | | | 10 | 1 | | | 5 | 17 | 5 | 7 | 3 | | | 4 | 14 | | | | | | 4 | 10 | 375 | 464 |
| 遺構外 | ＩＹ07 | 2 | | | 8 | | 1 | | 3 | 6 | 2 | 1 | | 1 | | 1 | 10 | 4 | | 1 | 2 | | 2 | 4 | 179 | 227 |
| 遺構外 | ＩＹ08 | | | | 1 | | | | | 6 | 3 | 1 | | | | | 3 | | | | | | | 3 | 69 | 86 |
| 遺構外 | ＩＹ09 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 | 1 | | 5 | 8 |
| 遺構外 | ＩＹ10 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| 遺構外 | ＩＹ12 | | | | | | | | | 1 | 5 | 1 | 1 | | | 1 | 4 | 1 | | | 1 | | | | 17 | 32 |
| 遺構外 | ＩＹ13 | 1 | 1 | | 1 | | | | | 1 | 2 | | | | | | 2 | | | | | 1 | 1 | | 18 | 28 |
| 遺構外 | ＩＹ18 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | | 2 |
| 遺構外 | ②区検出面 | | | | 1 | | 1 | | | 4 | | 1 | 1 | | | | 1 | | | | | | 5 | 14 | 67 | 95 |
| 遺構外 | ③区検出面 | | | | 1 | | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | 1 | 2 | 1 | 8 |
| 遺構外 | ④区・トレンチ検出面 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | 1 | 4 |
| 遺構外 | Ｚ（表採） | 6 | 1 | 3 | 13 | 1 | 1 | 1 | 5 | 6 | 1 | 1 | | 1 | 1 | | 5 | 1 | | | 2 | | 10 | 4 | 305 | 368 |
| 遺構外 | かく乱（旧SK49） | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | 10 | 13 |
| 遺構外 | かく乱（旧SK53） | 1 | | | | | | | 1 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | 5 | 8 |
| 遺構外 | かく乱（旧SK84） | | | | | | | | | | | 2 | | | | | 1 | | | | | | | | 1 | 4 |
| 遺構外 | かく乱（旧SK92） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| 遺構外 | かく乱（旧SK54） | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 小計 | | 41 | 6 | 5 | 71 | 3 | 5 | 3 | 49 | 94 | 39 | 31 | 5 | 8 | 1 | 13 | 81 | 14 | 1 | 3 | 10 | 4 | 41 | 103 | 2,080 | 2,711 |
| 合計 | | 70 | 12 | 11 | 104 | 7 | 8 | 6 | 64 | 132 | 65 | 58 | 14 | 14 | 6 | 17 | 118 | 21 | 1 | 3 | 20 | 7 | 58 | 141 | 2,836 | 3,793 |

# 第４節　小結

## １　縄文時代中期後葉土器の段階設定

当該期と考えられる遺構からも、若干の時間幅を有すると思われる多系統の土器型式が出土している。遺構の新旧関係と対比した時、大むね３段階に分かれることが判明した。以下、中期後葉竪穴建物跡の所属時期区分をするために、その出土土器について日本考古学協会長野大会の成果を基に段階設定を行う（以下「協会９期」等と記す：宮崎・綿田ほか2013）（第13図・第12表）。また土器の諸様相については百瀬の論考を参考とした（百瀬2003）。

**協会９期：**ＳＢ６・８（ＳＢ10・15は協会９～10期の間）

櫛形文深鉢（119・120）、キャリパー形の深鉢（37、105、118、168）、円筒形の胴部をもつ深鉢（34・38・80・125）などがある。

櫛形文深鉢は、口縁部に四単位の波状口縁を有するものがある（119）（神村2002）。キャリパー形の深鉢は、口縁部に角状突起（37、168）、重弧文（37・118）、斜格子文（168）など、胴部には部分的に枝を出す懸垂文（105）などがある。円筒形の胴部をもつ深鉢は、外傾する口縁部を有し頸部が膨らむもの（34・38・125）が多い。口縁部は無文帯のものが多く、頸部には斜格子文（125）、胴部には「X」字状文（34）、部分的に枝を出す懸垂文（38）などがある。

本期には主文様とあわせ平行沈線文を施文するものが多く、同一方向（105）、異方向（34・37）、梯子状（38・80）などがある。また棒状工具による押引き技法もある（38・80・118・119・168）。９は80と類似した器形で隆帯による逆「U」字状の区画の間に横位の刺突列がある。108は縄文地文で、部分的に枝を出す懸垂文を描く。縄文地文は少数存在する。

他地域との関連性を示す土器として、曽利式系（８）（櫛原2008、今福2005）、加曽利Ｅ式系（144）（細田2008）があるが、量的に少ない。

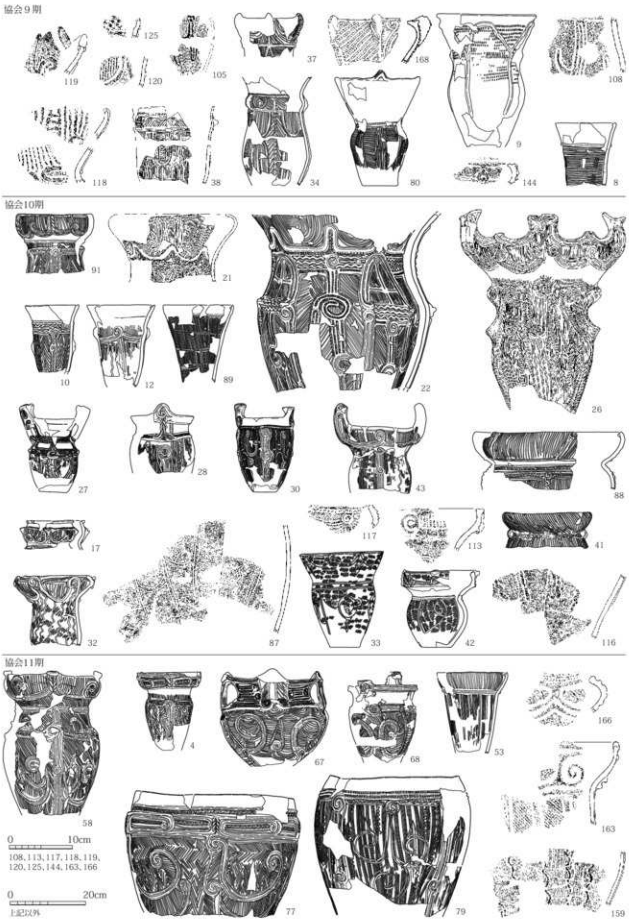
**協会10期：**ＳＢ４・７・９・11・16

円筒形の胴部をもつ深鉢（10・12・89）、キャリパー形の口縁部を有する大形の深鉢（21・22）、四把手付深鉢（26）、キャリパー形の口縁部に組紐の区画帯を有する深鉢（91）、口縁部の外傾する深鉢（27・28）、口縁部が内湾する樽形（30）などがある。

円筒形の胴部をもつ深鉢は、胴部に沈線文（10）や条線文（12・89）を施すものが多い。頸部が膨らむもの（12）は少数となる。キャリパー形の口縁部を有する大形の深鉢（21・22）は口縁部に褶曲文と渦巻文を組み合わせた文様、頸部に蛇行隆帯、胴部に縦、横、弧状、渦等の隆帯を連結し、区画内に沈線で縦、横、斜等異方向に施文する。四把手付深鉢（26）は、口縁部下端に横位連結渦巻文、胴部は腕骨文の縦位区画に綾杉文を施文する。本器種は大形以外に中形の法量も存在する。43は胴部に条線文があるが、口縁把手、連結渦巻文、腕骨など四把手付深鉢と文様構成が類似する。本期には樽形（30）が登場するが量的には少ない。

本期の文様には新たに横位連結渦巻文（12・26）、腕骨文（10・26・43等）、綾杉文（10・91・26・27）、条線文（28・30・43・89）が登場する。前段階に多用された「X」字状文、櫛形文、平行沈線文、棒状工具による押引きなど技法は基本的に用いられなくなる。

他地域との関連性を示す土器として、下伊那系（17、32、87）（小池2013、坂井2013、吉川2008）、曽利式系（41・88・116）（今福2005）、連弧文土器（33）（今福2005、長瀬2008）、加曽利Ｅ式系（113）（細




第13図　中期後葉土器の時期別様相

田 2008)、中宮式系（117）（纐纈・高橋 2008、坂井 2013）、大木式系（42）（中野 2008）などがあり９期に比べ多様化する。

**協会 11 期**：ＳＢ５・13・14・17・18

口縁部が内湾する樽形（77・79）が主体を占める一方、口縁部の外傾する深鉢（68）、キャリパー形の口縁部に組紐の区画帯を有する深鉢（４・58）や円筒形の胴部をもつ深鉢（53）は少量となる。

樽形は部位ごとに多用される文様があり、口縁部は無文、口縁部直下には組紐の区画帯、胴部は剣先文と大柄渦巻文を配し、その間に綾杉文や曲線文などを施文する。樽形には大～小の法量がある。これは樽形以外の器形が減少することで、樽形の法量分化が進み、同一器形を多用途に使用した可能性がある。

本期の文様には、大柄渦巻文が多用される。このほか剣先文や綾杉文が前段階から継続して用いられる一方、口縁（68）や頸部（67）の把手や横位連結渦巻文（58）は少量となり腕骨文も形骸化する（４）。

他地域との関連性を示すものとして、下伊那系の台付鉢（67）（駒ケ根市教委 1988）、曽利式系（159）（今福 2005）、加曽利Ｅ式系（163）（細田 2008）、中宮式系（166）（纐纈・高橋 2008、坂井 2013）などがある。

第 12 表　中信地域と他地域との編年対応表

| 長野大会縄文分科会 | 長野県史 | 中信地域 | 八ヶ岳西南麓 | 下伊那地域 | 長野県外 |
|---|---|---|---|---|---|
| 9　期 | 中期後葉１期 | 唐草文系土器Ⅰ<br>梨久保Ｂ式、吉野式 | 曽利Ⅰ式 | 下伊那唐草文土器Ⅰ | 加曽利ＥⅠ式、大木８a・８b式 |
| 10　期 | 中期後葉２期 | 唐草文系土器Ⅱ<br>熊久保Ⅰ式 | 曽利Ⅱ式 | 下伊那唐草文土器Ⅱ | 加曽利ＥⅠ式、大木８b式、中宮式 |
| 11　期 | | 唐草文系土器Ⅱ<br>熊久保Ⅱ式 | 曽利Ⅱ・Ⅲ式 | | 加曽利ＥⅡ式、大木８b式、中宮式 |

※宮崎・綿田ほか 2013 を基に作成、一部加筆

## ２　縄文時代中期後葉における集落の様相

### （１）竪穴建物跡の時期別分布と施設の変化

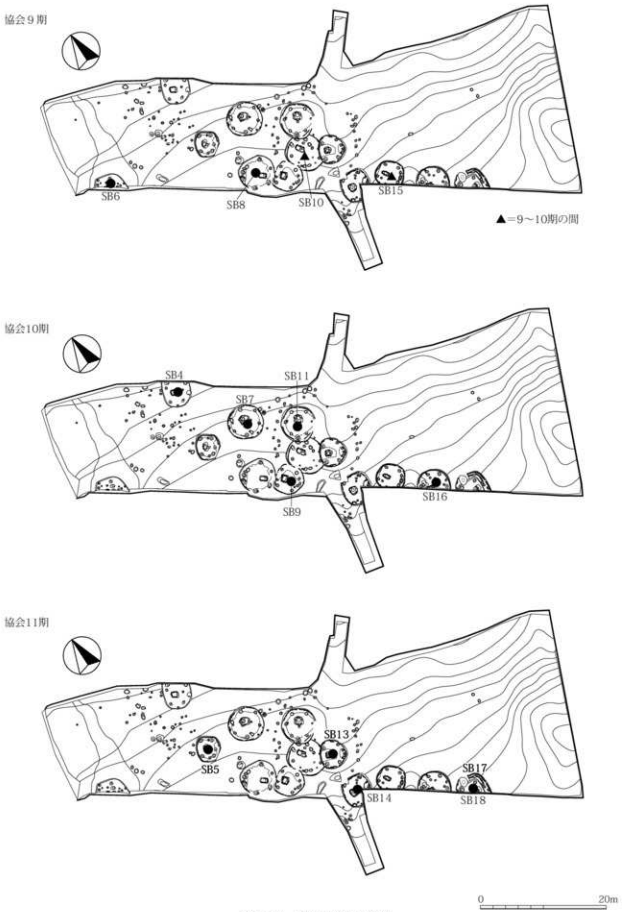
竪穴建物跡の時期別分布と施設の変化について検討する（第 14 図・第 13 表）。時期区分の名称、設定については、第４節１に基づく。

**協会９期**：ＳＢ６・８・10・15 が該当する。建物間の時期差は、ＳＢ６・８が９期の様相を示す土器が主体を占め、ＳＢ 10・15 が 10 期の様相を示す土器を一定量含む点から、ＳＢ６・８→ＳＢ 10・15 の順で建てられた可能性がある。このほかＳＢ８・15 は建替えの痕跡があるが、床下から時期を示す明確な遺物が出土しないため、建築当初の時期を明確にできない。

竪穴建物跡の形状は不整円形～不整楕円形を呈し、規模は大形と中形がある。主柱穴配置は判明したものが６本となる。炉の形状は判明したものは長方形で、床面から炉底までの深さは 10cm 程と浅い。炉辺石には棒状の石を用いる傾向がある。

**協会 10 期**：ＳＢ４・７・９・11・16 が該当する。建物間の時期差は、ＳＢ７・16 に若干９期の様相を示す土器が含まれる点、ＳＢ４・９・11 が 10 期の様相を示す土器が主体的に出土する点から、ＳＢ７・16→ＳＢ４・９・11 の順で建てられた可能性がある。このほかＳＢ７・11 は建替えの痕跡があるが、床下から時期を示す明確な遺物が出土しないため、建築当初の時期を明確にできない。

竪穴建物跡の形状と規模は大きく２者に分かれる。まずＳＢ７・11・16 は形状が不整円形～不整楕円形を呈し、長軸は計測可能なものは大形である。主柱穴配置が判明したものは６本となる。炉の形状は、




第 14 図　時期別遺構分布図

部分的に炉辺石が抜き取られているため３基とも不明である。床面から炉底までの深さは20～30cmとやや深い。炉辺石には大形で楕円形状の平石を用いる。一方、ＳＢ４・９は形状が不整方形～不整五角形を呈し、規模は中形である。主柱穴配置は２軒とも４本である。炉の形状はＳＢ４が長方形で、ＳＢ９が方形となる。床面から炉底までの深さは26～45cmとやや深い。炉辺石は大形で楕円形状の平石を用いる。埋甕はＳＢ９で蓋石の可能性がある平石を検出した。

**協会11期**：ＳＢ５・13・14・17・18が該当する。建物間の時期差は、ＳＢ18がＳＢ17を切る点が確認できる。一方で５軒ともに出土土器は11期の様相を示している。また遺構間接合については、ＳＢ13・14で遺構間接合が存在し、ＳＢ14・17の間では推定同一個体が存在する点から（第15・16図）、３軒の建物の廃絶時期が近い可能性がある。これ等の点からＳＢ５・13・14・17→ＳＢ18の順で建てられた可能性がある。このほかＳＢ14には建替えの痕跡があるが、床下から時期を示す明確な遺物が出土しないため、建築当初の時期を明確にできない。

竪穴建物跡の形状は、不整方形～不整五角形を呈する。規模は計測可能なものは中形と小形がある。主柱穴配置は全て４本である。炉の形状は方形を基本とし、床面から炉底までの深さは25～40cmと深くなる。炉辺石には大形で楕円形状の平石が多く用いられる。特にＳＢ13・14は出入口側の炉辺石のみ平坦面を上にして設置していた。また土器敷炉は、本期のみ確認されている（ＳＢ13・14・17）。埋甕はＳＢ13で１基と抜取り痕、ＳＢ14で１基を検出した。

（２）集落の広がりについて

山鳥場遺跡における遺構の分布範囲は調査区の中央部付近に最も密集している。ただし、調査区北端側に向けて遺構数が減少するため、調査区の北側が集落の北限となる可能性がある。これに対し、調査区南端では竪穴建物跡が連なるように検出しており、調査区南側に集落が広がると考える。一方、東西方向についてみると、調査区の東側には遺構がほとんど存在しない空間が広がるため、集落の東限と考える。これは集落内の微地形が調査区北東側に傾斜する点、該当範囲の基盤層に砂礫が広がり（PL１）建物を建てるのに不向きである点が理由と考える。調査区の西側については遺構数が少ない点、集落内の微地形が西側に傾斜する点、①区で流路跡を検出している点などから、集落の西限と考える。

（３）まとめ

竪穴建物跡の時期別分布と施設の特徴について、若干まとめを行う（第13表）。

竪穴建物跡については、特定の時期に特定の場所に集中あるいは移動する傾向は認められない。各期における竪穴建物跡の同時存在軒数も明確にできないが、切合い関係、土器の様相、遺構間接合等から考えて、同時期に２～４軒程度となる可能性がある。

竪穴建物跡の周辺部では土坑も検出しているが、中期後葉としたものが11基と少なく、時期ごとの分布傾向を検討することができない。このほか時期不明の土坑が89基検出しており、中期後葉に伴うものが含まれると推測されるものの、明確な根拠を提示できない。土坑の検出数が少ない点は、近接する熊久保遺跡でも指摘されており、当該期の集落の傾向を示す可能性がある（朝日村教委2003）。

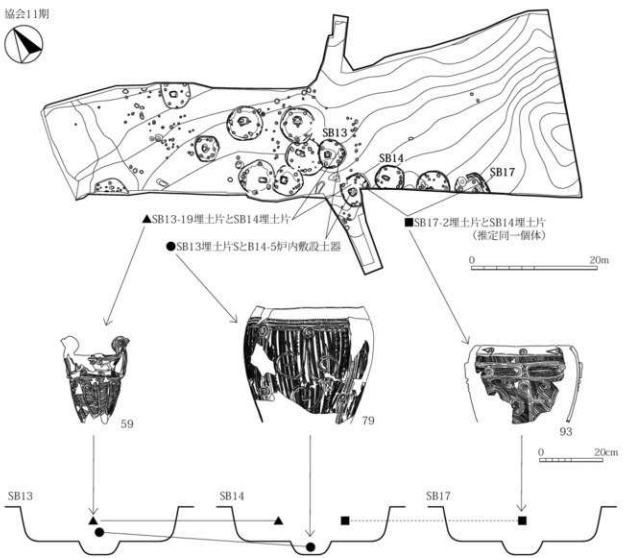
竪穴建物跡の施設については、形状が不整円形～不整楕円形のものは、規模が大形～中形で、主柱穴は６本を基本とする。該当建物跡には長方形の石囲炉が伴う例が多い。炉辺石には棒状の石が用いられ、掘込みが浅いものが多い。上記の特徴を有する竪穴建物跡は９～10期に多い傾向がある。

一方、形状が不整方形～不整五角形のものは、規模が中形～小形となり、主柱穴は４本を基本とする。該当建物跡には基本的に方形の石囲炉が伴い、炉辺石には大形で楕円形状の平石を用い、掘込みが深いものが多い。形状が方形志向の竪穴建物は10期に登場し11期に主体を占めるようになる。中期後葉に

おける竪穴建物跡の構造変化は熊久保遺跡でも確認でき近接地域で共通する特徴といえる（朝日村教委2003）。また中期後葉における炉の構造の変化が松本盆地で共通する点も指摘されている（小林 1984）。

上記の傾向に加え、炉に関して全期間を通しての検討課題を３点あげたい。１点目は炉隅への立石で、３軒で確認した。類例は熊久保遺跡にもあり、石棒を設置する例もある（朝日村教委 2003）。炉に火焚き行為以上の意味を持たせたものとして今後も検討が必要である。２点目は炉辺石の抜取りで、８軒で確認した。炉を廃棄する際の行為と考えるが、本遺跡では炉辺石が多数抜き取られても奥壁側の１辺だけは残されていた。炉辺石の抜取り方は多様であり、今後も検討が必要である。３点目は土器敷炉で、３軒で確認した。いずれも敷かれた土器に被熱痕は確認できず、被熱面は土器敷きの下から検出した。特にＳＢ 14 は炉壁にわずかに残存するのみである。また炉内埋土に炭化物や灰が大量に含まれる傾向も認められない。土器敷炉については県内外で報告事例がある（関間 2008・羽生 2010）。炉底に土器を敷く行為が炉の機能時から廃棄時のどの段階で行われたかまで含め検討が必要である。

このほか埋土中からの遺物の出土状況について、14 軒中 10 軒で礫と遺物が混在して出土する状況がみられた。同様の傾向は熊久保遺跡でも認められ、単なる廃棄かどうか検討する必要性が指摘されている（朝日村教委 2003・佐野 2008）。




第 15 図　遺構（竪穴建物跡）間における接合図

SB13とSB14

赤枠がSB13埋土、枠外はSB14炉内敷設土器

SB14-79(約1/8)

SB13とSB14

赤枠がSB14埋土、枠外はSB13埋土

SB13-59(約1/5)

SB14とSB17

赤枠がSB14埋土、枠外はSB17埋土

SB17-93(約1/5)

第16図　遺構間接合および遺構間推定同一個体の土器

第 13 表　竪穴建物跡の諸要素（時期別）

| 時期 | ＳＢ | 規　模（主軸 m） | 形状 | 主柱穴本数 | 埋甕 | 炉 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 形状 | 深さ（cm） | 石の抜取り | 立石 | 土器敷 |
| 9 | 6 | （5.45） | 不整円形 | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | なし |
| 9 | 8 | （5.65） | 不整円形 | 6 | 不明 | 長方形 | 10 | 完残 | なし | なし |
| 9～10 | 10 | 6.35 | 楕円形 | ＜6＞ | なし | 長方形 | 10 | あり | 不明 | なし |
| 9～10 | 15 | 4.75 | 不整円形 | ＜6＞ | 不明 | 長方形 | 10 | あり | 不明 | なし |
| 10 | 4 | 4.53 | 不整方形 | 4 | なし | 長方形 | 26 | あり | なし | なし |
| 10 | 7 | 5.68 | 不整円形 | 6 | なし | 不明 | 20 | あり | 不明 | なし |
| 10 | 9 | 4.65 | 不整五角形 | 4 | 平石（蓋石か） | 方形 | 45 | 完残 | あり | なし |
| 10 | 11 | 5.69 | 不整楕円形 | 6 | 不明 | 不明 | 30 | あり | 不明 | なし |
| 10 | 16 | （4.95） | 不整円形 | 6 | なし | 不明 | 25 | 不明 | 不明 | なし |
| 11 | 5 | 3.85 | 不整方形 | 4 | なし | 不明 | 30 | あり | 不明 | なし |
| 11 | 13 | 4.45 | 不整五角形 | 4 | １基と抜取り痕 | 方形 | 40 | 完残 | あり | あり |
| 11 | 14 | 4.83 | 不整方形 | 4 | １基 | 方形 | 40 | あり | あり | あり |
| 11 | 17 | （4.75） | 不整方形 | 4 | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | あり |
| 11 | 18 | （3.63） | 不整方形 | 4 | 不明 | 不明 | 25 | あり | 不明 | なし |

※（　）は残存値，＜　＞は総定数を示す。

# 第５章　三ヶ組遺跡の調査

## 第１節　遺跡の概要

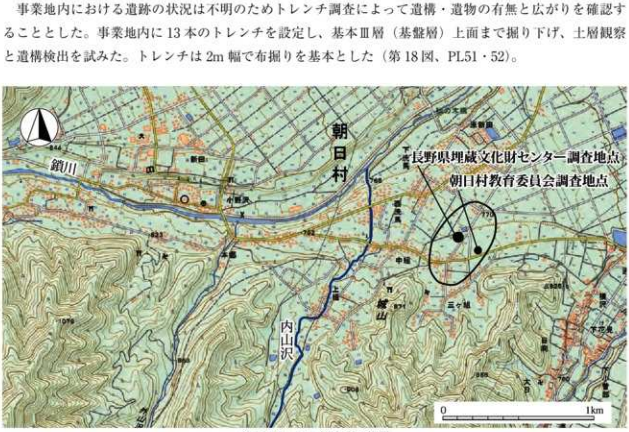
### 1　遺跡の概観

三ヶ組遺跡は、朝日村の南方山麓に位置する三ヶ組集落から鎖川右岸の河岸段丘面にある西洗馬集荷場まで 700m 程の長さに広がり、幅は 350m 程、標高は 770 ～ 780m 前後を測る。村教委による調査で縄文時代中期後半の土坑・遺物と中世の溝跡を検出している（第１章第１節２）。村誌によれば、縄文時代中期中葉を中心とした土器や石器が多数採集されているほか、推定遺跡範囲内で中世の埋納銭と推測される銅銭も多数出土している（第２章第２節）。

### 2　調査の概要

事業地は遺跡範囲の中央付近西側に位置する（第 17 図）。道路が遺跡を東西に貫く形で整備されることとなったため、調査を実施した。

事業地内における遺跡の状況は不明のためトレンチ調査によって遺構・遺物の有無と広がりを確認することとした。事業地内に 13 本のトレンチを設定し、基本Ⅲ層（基盤層）上面まで掘り下げ、土層観察と遺構検出を試みた。トレンチは 2m 幅で布掘りを基本とした（第 18 図、PL51・52）。




第 17 図　三ヶ組遺跡の位置

### 3　基本層序

2018年に調査した6トレンチの北側壁面を標準として、基本土層を示す（第18図）。

Ⅰ層：耕土

Ⅱ層：耕土と黄褐色ロームの混土

Ⅲ層：黄褐色～暗褐色ローム。しまりが良く硬化する。砂礫を含まない。基盤層

Ⅳ層：砂礫

Ⅲ層上面は起伏が少なく、基盤整備で水平に削平された可能性がある。砂礫を含まない。近隣に流路がないため風成層と考えられる。Ⅳ層は砂礫層である。

## 第2節　調査成果

### 1　遺構

Ⅲ層上面で遺構検出を試みたが確認できなかった。該当地は戦後に圃場整備が行われており、仮にⅢ層上面に遺構が存在しても、基盤層ごと削平された可能性がある。

### 2　遺物

三ヶ組遺跡では石器が3点出土した（PL52、付表9）。出土位置は、8トレンチ内の現耕作土層および9トレンチ付近における表採である。土器など石器以外の遺物が出土していないため、時期は確定できない。

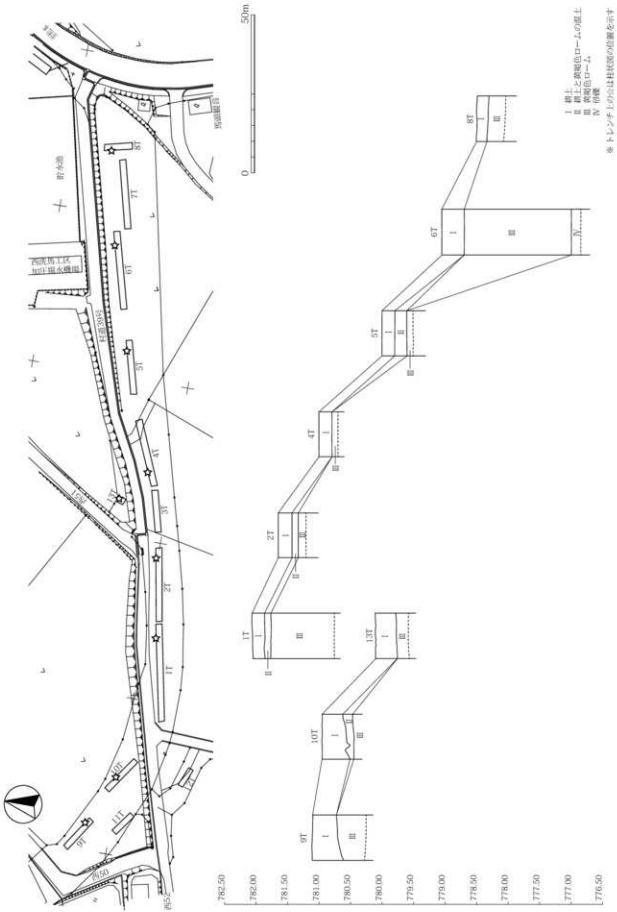
1は黒曜石製の石鏃である。無茎で、基部が深く内湾しており長脚である。側縁の形状は丸みを帯びている。2は黒曜石製の楔形石器である。横方向に、両極打法による階段状の剥離が対峙して存在する。縦方向は片側縁のみ階段状の剥離があり、反対側は欠損している。3は粘板岩製の打製石斧である。下半部（刃部側）が欠損しており平面の形状は不明だが、両側縁に抉り部が存在することから撥形あるいは分銅形の可能性がある。抉り部には、柄の装着痕と思われる摩耗痕がある。

### 3　課題

今回の調査では、遺構は確認できず、遺物も微量に出土しただけであり、遺跡の規模、性格等を検討することができなかった。遺物が調査対象地内でほとんど出土しない理由については耕土が客土である可能性を指摘したい。

一方で、三ヶ組遺跡は、本事業地よりも南東に200m程離れた地点で村教委が調査を実施している（朝日村教委2006）。該当地点では縄文時代の土坑が数基検出されただけであり、遺跡の北限である可能性が指摘されている（第17図）。

三ヶ組集落の周辺は沢の水量が少なく、近世以降も田用水が不足するなど、集落に溜池を作って不足分を補っていたとの記録がある（朝日村1991）。三ヶ組遺跡において水源を確保する場合、山麓の湧水地等が重要になる。当センターと朝日村教委の調査成果を踏まえると、遺跡の中心は山麓側にあり、遺跡の北限は村教委調査地点付近に収まる可能性がある。




第 18 図　三ヶ組遺跡トレンチ配置図および土層図

# 第6章　科学分析

## 1　種実圧痕同定

山鳥場遺跡では、縄文時代中期後葉の竪穴建物跡から唐草文系土器が大量に出土した。2016年度出土品の整理時に土器の器面を観察中、県文化財保護審議会委員（当時）の会田進氏より出土土器（SB7のNo.26）の表面にみられる気泡状の痕跡に関して、種実圧痕の可能性があるとの指摘を受けた。この指摘を受け、当該土器の接合資料全点を観察したところ、土器全体に同様の痕跡があることが判明した。器面の状況から胎土中にも痕跡が残る可能性が浮上したため、長野県立歴史館の走査型電子顕微鏡を用いて撮影したところ、胎土中に多数の痕跡を確認した（第19図）。この結果を受け、当該年度に出土した他の土器にも同様の痕跡が確認できるかどうかを検討するため、竪穴建物跡8軒（SB4～11）から出土した土器片約9300点ついて観察を行ったところ、同様の痕跡の可能性があるもの150点を抽出した。さらにこの中から形状や残存状況をもとに種実圧痕の可能性がある26点を抽出し、種実同定を目的とした圧痕レプリカ試料を作成した。レプリカ作成には、株式会社パレオ・ラボの「圧痕レプリカ採取キット」を用いた。上記レプリカの中から、種実圧痕と確実視される9点と炭化種実1点について株式会社パレオ・ラボに鑑定を委託し、種類を同定した。試料とした土器片、圧痕の状況、圧痕レプリカを写真掲載し、報告書の内容はDVDに収録した。

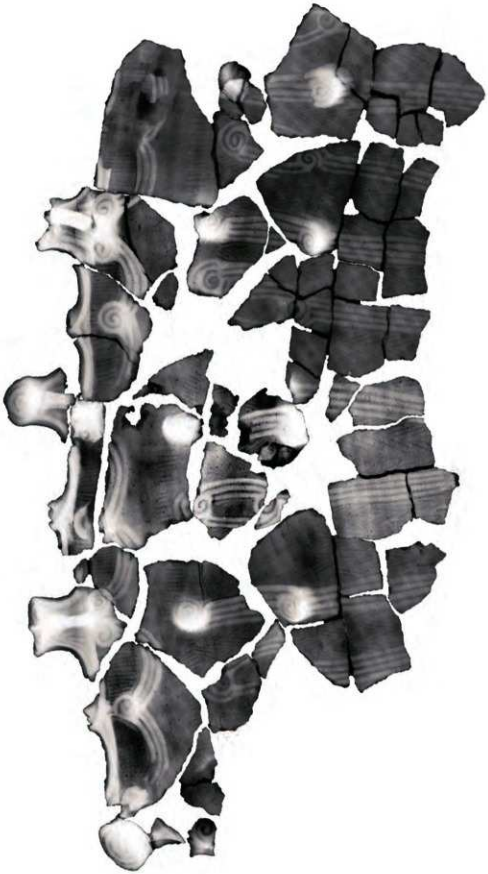
**鑑定結果**（第20・21図、第14表）：エゴマ6点（分析No.1～5・7）、ダイズ属2点（分析No.6・10）、ササゲ属アズキ亜属2点（分析No.8・9）を同定した。

上記試料のうち、エゴマと同定されたNo.1～5は同一個体（SB7のNo.26）から抽出した。当該土器については、表面観察のほかX線撮影で胎土中の痕跡も集計したところ、合計881点の痕跡を確認した。これらの痕跡は同定された種実圧痕と同程度の大きさと形状であり、土器の中に偏りなく分布する。

第14表　山鳥場遺跡出土土器の炭化種実と種実圧痕レプリカの同定結果（株式会社パレオ・ラボ作成（一部加筆））

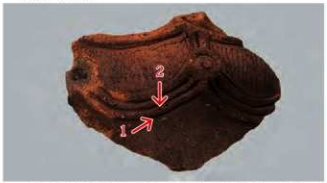
| 分析No. | 種類 | 同定結果 | | 法量（mm） | | | 簡易楕円体体積（mm³） | 遺構 | 出土位置・層位 | 器種 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 分類群 | 部位 | 長さ | 幅 | 厚さ | | | | |
| 1 | 炭化種実 | エゴマ | 果実 | (1.59) | (1.41) | | － | SB7 | 埋土（掲載No.26） | 深鉢 |
| 2 | 圧痕レプリカ | エゴマ | 果実 | 2.58 | 2.32 | | － | | | |
| 3 | 圧痕レプリカ | エゴマ | 種実 | 2.77 | 2.16 | | － | | | |
| 4 | 圧痕レプリカ | エゴマ | 果実 | 2.40 | 2.40 | | － | | | |
| 5 | 圧痕レプリカ | エゴマ | 果実 | 2.34 | 2.19 | | － | | | |
| 6 | 圧痕レプリカ | ダイズ属 | 種子 | 11.68 | 6.26 | 4.28 | 163.9 | SB10 | 埋土 | 深鉢 |
| 7 | 圧痕レプリカ | エゴマ | 果実 | (2.34) | 2.18 | | － | SB7 | 埋土（取上№32ほか） | 深鉢 |
| 8 | 圧痕レプリカ | ササゲ属アズキ亜属 | 種子 | 4.42 | (3.38) | (2.72) | 21.3 | SB7 | 埋土（南西） | 深鉢 |
| 9 | 圧痕レプリカ | ササゲ属アズキ亜属 | 種子 | 6.72 | 3.60 | 3.65 | 46.2 | SB7 | 埋土（取上№19） | 深鉢 |
| 10 | 圧痕レプリカ | ダイズ属 | 種子 | 8.84 | 5.08 | (4.01) | 94.3 | SB7 | 埋土炉上面 | 深鉢 |

※（　）は残存値を示す

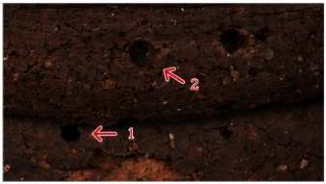


土器の縮尺はおよそ1/5

第19図　エゴマと推測される種実圧痕を大量に含む土器のX線展開図（SB 7 No.26）　※土器の中にある極小の点が種実圧痕



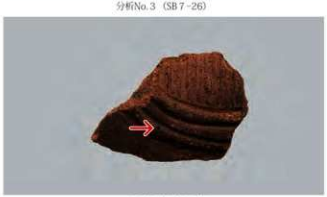

「1→」は、分析No.2（SB7-26）「2→」は、エゴマと類似する圧痕




左写真の拡大

分析No.3（SB7-26）

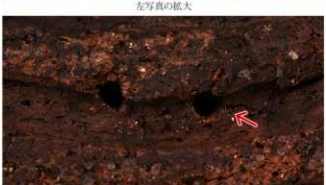
分析No.3拡大（エゴマ）



エゴマと類似する圧痕

左写真の拡大

エゴマと類似する圧痕

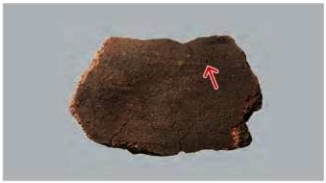


左写真の拡大

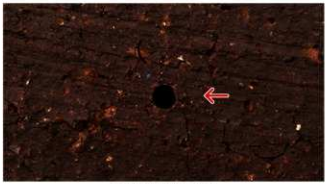
分析No.6（SB10埋土）

分析No.6拡大（ダイズ属）

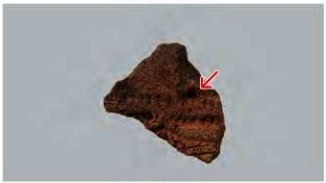
第20図a　種実圧痕抽出土器（1）



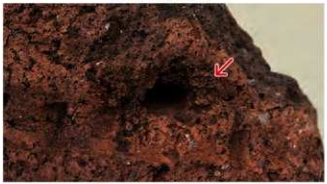
分析No. 7（SB 7 理土）



分析No. 7 拡大（エゴマ）



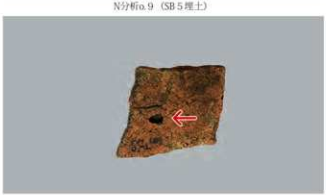
分析No. 8（SB 7 理土）



分析No. 8 拡大（ササゲ属アズキ亜属）

N分析o. 9（SB 5 理土）

分析No. 9 拡大（ササゲ属アズキ亜属）



分析No.10（SB 9 炉上面）

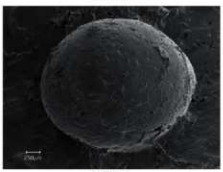
分析No.10拡大（ダイズ属）

※圧痕を採集した土器片の縮尺は任意である
※種実圧痕の拡大図は、約 1 / 3 である

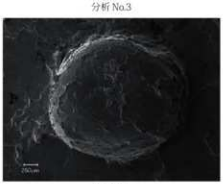
第 20 図 b　種実圧痕抽出土器（2）

分析 No.1

分析 No.2

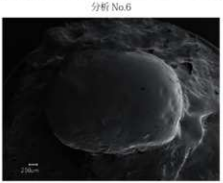

分析 No.3

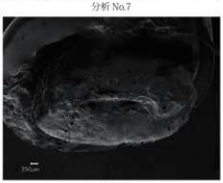
分析 No.4

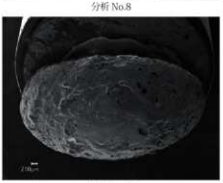

分析 No.5

分析 No.6

分析 No.7


分析 No.8


分析 No.9


分析 No.10

第21図　種実レプリカの走査型電子顕微鏡写真
（**エゴマ**：分析 No.1 ～ 5・7　**ダイズ属**：分析 No.6・10　**ササゲ属アズキ亜属**：分析 No.8・9）

仮に全点がエゴマの圧痕だとすると、当該土器はエゴマを含む粘土で製作されたと考えられる。当該土器については、表裏面および断面にも痕跡があるため、今後も資料の観察が容易にできるよう土器を復元せず、破片のまま保存することにした。なお実測図は、株式会社パスコのパドラスを用いて、破片単位で作図したものを画面上で合成した（図版35のNo.26、PL18）。

## 2　炭化種実同定

縄文時代中期後半の竪穴建物跡出土土器片にエゴマ・アズキ亜属・ダイズ属の種実圧痕が含まれていたことを踏まえ、当該期の竪穴建物跡の炉内埋土の中に種実圧痕土器と同じ種類の植物遺体が確認できるかを検討し、当時の遺跡周辺の植物利用を検討する資料とする目的で実施した。対象としたのは当該期に属する竪穴建物跡の炉内埋土で、観察可能な炭化物が出土した11軒（SB 5・7～11・13～16・18）である[1]。方法は、対象埋土を1㎜網目のフルイを用いて水洗・選別し、抽出した炭化物を株式会社パレオ・ラボに提供し同定を行った。報告書の内容はDVDに収録した。

**鑑定結果**（第22図、第15表）：樹木6種（ブドウ属・クリ・オニグルミ・トチノキ・キハダ・ミズキ）、草本4種（イネ科・ササゲ属アズキ亜属・マメ科A・ヒシ属）を同定した。種実が確認された軒数は、樹木ではクリとオニグルミが11軒、トチノキ9軒、ミズキ2軒、キハダとブドウ属が1軒である。草本はアズキ亜属4軒、マメ科種子3軒、ヒシ属1軒、イネ科1軒である。

## 3　小　結

### (1) 種実圧痕同定

エゴマ、ダイズ属、アズキ亜属を同定した。今回の同定は、縄文時代中期後半の事例としては松本盆地では初例となる。同定された3種類は中部高地における当該期の土器の圧痕に確認例が多く、長野県における縄文時代の植物利用を考えるうえでも重要な結果を得られた。長野県内の当該期の他の遺跡例では、これら以外の種実としてミズキ核などが土器の圧痕として得られることも指摘しておく（会田ほか2017）。

種実を多量に含む土器については、長野県内で6例目の発見となった（第16表）。シソ属果実（エゴマ）は3例目で、当該土器はその重要な類例となった。

2017年度に調査した竪穴建物跡6軒（SB13～18）に関しては、出土土器の個体識別と接合作業時に表面観察をあわせて行ったところ、種実を多量に含む土器は確認できなかった。なお、その際にいくつかの土器片に圧痕がみられたが、分別集計までは実施していない。

### (2) 炭化種実同定

樹木6種類、草本4種類を同定した。樹木ではクリ、オニグルミが対象とした11軒すべてから、トチノキも9軒から出土した。食料としていたことが推測される。一方、近接する熊久保遺跡では、2軒の焼失住居の建築材の樹種同定を行い、すべてクリ材と判明している（朝日村教委2003）。クリ材が建築材料としても活用されていたことがうかがえる。

草本ではアズキ亜属が4軒から出土した。土器の種実圧痕で同定されたものと同じ種類であり、該当する圧痕土器が集落内で製作された可能性も検討できる重要な成果となった。

---

1　炉内埋土の採取基準については第3章1節3に記す。

スケール 1-3, 5, 7-13：1mm, 4, 6：5mm

第22図　炭化種実

1. ブドウ属炭化種子（SB13　18層）　2. クリ属炭化果実（SB13　18層）　3. クリ属炭化子葉（SB16　8層）　4. オニグルミ炭化核(SB16　8層）　5. トチノキ炭化種子(SB16　8層）　6. トチノキ炭化子葉(SB13　18層）　7. キハダ炭化種子(SB11　13層）　8. ミズキ炭化核（SB16　8層）　9. イネ科炭化種子（SB13　18層）　10. ササゲ属アズキ亜属炭化種子（SB15　17層）　11. マメ科A炭化種子（SB15　17層）　12. ヒシ属炭化果実（SB 9　6層）　13. 不明A炭化種実（SB15　17層）

第15表　山鳥場遺跡から出土した炭化種実（株式会社パレオ・ラボ作成（一部加筆））

| 出土位置 | | 遺構 | SB 5 | SB 7 | SB 8 | SB 9 | SB10 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 層位 | 2 | 16 | 18 | 6 | 16 | 17 |
| | | 採取量kg | 未計測 | 0.8 | 2.8 | 2.8 | 0.2 | 0.2 |
| 分類群 | | 分析（cc） | 40 | 17 | 30 | 30 | 2 | 25 |
| 樹木 | ブドウ属 | 炭化種子 | | | | | | |
| | クリ | 炭化果実 | <1* 0.12g | <1* 0.12g | <1* 0.04g | <1* 0.08g | <1* 0.03g | <1* 0.12g |
| | | 炭化子葉 | | | | <1* 0.15g | | <1* 0.01g |
| | オニグルミ | 炭化核 | <1* 0.48g | <1* 0.14g | <1* 0.02g | <1* 0.33g | <1* 0.06g | <1* 0.01g |
| | トチノキ | 炭化種子 | (6) | (1) | | (11) | | |
| | | 炭化子葉 | (1) | | | | | |
| | キハダ | 炭化種子 | | | | | | |
| | ミズキ | 炭化核 | | (1) | | | | |
| 草本 | イネ科 | 炭化種子 | | | | | | |
| | ササゲ属アズキ亜属 | 炭化種子 | | | | | | |
| | マメ科A | 炭化種子 | (5) | | | | | |
| | ヒシ属 | 炭化果実 | | | | (1) | | |
| その他 | 不明A | 炭化種実 | | | | | | |
| | 同定不能 | 炭化種実 | (17) | (3) | (3) | (12) | | (3) |
| | 虫えい | 炭化 | | | | | | |
| | 子嚢菌 | 炭化子嚢 | | | | 2 | | |

| 出土位置 | | 遺構 | SB11 | SB13 | SB14 | SB15 | SB16 | SB18 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 層位 | 13 | 18 | 17 | 17 | 8 | 6 |
| | | 採取量kg | 1.7 | 73.0 | 5.7 | 23.5 | 1.0 | 2.5 |
| 分類群 | | 分析（cc） | 20 | 150 | 70 | 620 | 350 | 70 |
| 樹木 | ブドウ属 | 炭化種子 | | (1) | | | | |
| | クリ | 炭化果実 | <1* 0.16g | <1* 0.32g | <1* 0.05g | <1* 0.33g | (++++) 1.05g | <1* 0.03g |
| | | 炭化子葉 | | (++) 0.38g | | <1* 0.01g | <1* 0.19g | |
| | オニグルミ | 炭化核 | <1* 0.16g | (++++) 1.97g | <1* 0.39g | (++++) 3.57g | (++++) 9.93g | <1* 0.06g |
| | トチノキ | 炭化種子 | (12) | (8) | | (1) | (11) | (1) |
| | | 炭化子葉 | | (4) | (2) | (3) | (1) | |
| | キハダ | 炭化種子 | (1) | | | | | |
| | ミズキ | 炭化核 | | | | | (1) | |
| 草本 | イネ科 | 炭化種子 | | 1 | | | | |
| | ササゲ属アズキ亜属 | 炭化種子 | | (1) | 1 (7) | 6 (7) | (2) | |
| | マメ科A | 炭化種子 | | | | (3) | (3) | |
| | ヒシ属 | 炭化果実 | | | | | | |
| その他 | 不明A | 炭化種実 | | | | 1 | | |
| | 同定不能 | 炭化種実 | | (30) | (7) | (20) | (2) | |
| | 虫えい | 炭化 | | | | | | 1 |
| | 子嚢菌 | 炭化子嚢 | 18 (2) | 5 (1) | | 7 | 1 | 5 |

＊（　）は破片数

＊　+:1-9,++:10-49,+++:50-99,++++:100 以上

＊　<1：破片で完形換算個体数が 1 個体未満

第16表　多量の種実を含む土器の県内事例（会田ほか2017を基に作成）

| 番号 | 時期 | 市町村 | 遺跡名 | 出土場所 | 器種 | 残存率 | 種実圧痕 | 点数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 中期後葉 | 岡谷市 | 梨久保 | 55号住居跡 | 浅鉢形 | 1/2個体 | シソ属果実（エゴマ） | 1514点（推計） |
| 2 | 中期初頭 | 茅野市 | 頭殿沢 | 遺構外 | 深鉢形 | 小破片 | シソ属果実（エゴマ）<br>マメ科種子 | 31点<br>1点 |
| 3 | 中期後葉 | 岡谷市 | 目切 | 遺構外 | 深鉢形 | 1/8個体 | ササゲ属アズキ亜属 | 39点（推計） |
| 4 | 中期後葉 | 茅野市 | 茅野和田 | 34号住居跡 | 深鉢形 | 不明 | ミズキ核 | 100点（推計） |
| 5 | 中期後葉 | 豊丘村 | 伴野原 | 33号住居跡 | 深鉢形（埋甕） | 口端部、胴下部の一部が欠損 | ササゲ属アズキ亜属<br>ダイズ属　等 | 151点<br>3点<br>160点（合計） |
| 6 | 中期後葉 | 朝日村 | 山鳥場 | SB 7 | 深鉢形 | 底部が欠損 | シソ属果実（エゴマ） | 881点（エゴマの可能性のある痕跡を含む） |

# 第7章　総　　括

今回の調査により、山鳥場遺跡では中期後葉の集落と後・晩期の生活痕跡を確認できた。三ヶ組遺跡では遺構は確認できなかったが、遺跡の範囲を検討する資料を提示できた。以下、いくつかの項目について成果を紹介し、最後のまとめとしたい。

## 1　山鳥場遺跡について

**中期後葉**：竪穴建物跡14軒を検出した。当該期の集落は中期後葉において3期にわたり変遷し、各期4軒前後の竪穴建物跡が存在したと考えた。しかし、建替えや同時期の重複関係があるため、各期における竪穴建物跡同士の同時性を明確にすることはできない。また、遺構の分布が調査区外南部に広がることが推測され、集落の規模や構造の検討も今後の課題として残された（第4章第4節2）。

建物跡の形状については、9期に円形を基調としたプランであったものが、10期に方形基調のプランが登場し、11期に方形基調のプランが定着化することがわかった。規模は9・10期に大～中形であったが、11期に中～小形となり、縮小化がみられた。10期には掘込みの深い方形石囲炉が登場する。一方、土器については、9期に縄文時代中期中葉末から継続する器形や文様要素が多いのに対し、10期は腕骨文や綾杉文等、新しい要素が登場し、11期には松本盆地に特徴的な樽形土器が定着する。こうした建物跡や土器の変化は、鎖川の対岸に位置する熊久保遺跡（朝日村教委2003）でも認められており、地域の中でほぼ同時期に進んだと考えた。山鳥場遺跡では10期以降、土器の中に下伊那系、曽利式系、加曽利E式系、中富式系など他地域の土器がみられるようになり、地域間の交流が活発であったことが推測できる。土器や建物跡の変化の背景に、こうした交流が影響した可能性を指摘したい（第4章第4節1）。

石器については、生業に関わるとされる石鏃、打製石斧、磨石類がほぼ均等な割合で出土した。一方、熊久保遺跡では、石鏃に比べ打製石斧と凹石が倍以上出土している。遺跡間での組成比率の違いについては、生業活動の差が背景にある可能性があるが現状では明確にできない。今後も遺跡間での比較検討を行い集落における環境、性格等の諸要素の中で石器を位置づけて検討する必要がある（第4章第3節4）。

山鳥場遺跡ではこのほか、土器敷炉や炉辺石の欠損など炉の使用から廃棄に関する多くの情報が得られた。今後、こうした行為の地域的、時期的な特徴に留意したい。

**後・晩期**：後期の竪穴建物跡1軒と、後期初頭から前葉、後期後葉から晩期初頭を主体とする土器群が出土した。加えて晩期初頭と考えられる土製耳飾が、破片も含めて22点出土した（第4章第3節3）。山鳥場遺跡では過去に後期の石剣・耳栓が出土したとの記録もある（朝日村1991）。松本盆地では、中期に比べて晩期の遺跡の調査例が少なく、当該期の土器と土製耳飾がまとまって出土する例は非常に貴重である（第4章第3節2と3）。

**科学分析**：種実圧痕同定では、大型のダイズ属が同定された点に注目したい。近年の研究でダイズ属は縄文中期に種子が大型化する傾向があり、栽培の可能性が指摘されている（小畑2014）。しかし、遺跡で栽培を示す遺構の発見は困難で（会田2018）、本遺跡でも栽培の根拠を検討するまでには至らなかった。

炭化種実同定では分析した建物跡のすべての炉理土からクリが出土した。熊久保遺跡でもクリ材が建築材として用いられたと考えられている。縄文時代中期には「樹木利用の選択性がクリなど限られた樹種に偏重」したとの指摘もあり（佐野2018）、クリが食料・建築材として重用されていたことが推測できる。このほか4軒の炉理土からアズキ亜属が出土した。土器の種実圧痕で同定されたものと同じ種類であり、

該当する圧痕土器が集落内で製作された可能性も検討できる重要な成果となった。

遺跡周辺の植生を検討するまでには至らなかったが、自然豊かな朝日村で縄文人の植物利用に関する基礎資料を提示できたことは重要である。縄文時代における植物利用の実態に一歩ずつ近づくためには、今後花粉分析による集落周辺の植生の検討（能城 2014）や、遺跡から出土する植物遺体をリスト化（佐々木 2014）するなど、植物に関する情報を蓄積する作業も必要であろう（第6章）。

## 2　三ヶ組遺跡について

三ヶ組遺跡については、今回を含め2回の調査により、遺跡の中心が現在想定されている範囲の南半部にある可能性を指摘した。該当範囲は朝日村南側に広がる山々に接し、沢や湧水を確保できる場所といえる。一方、遺跡の北半部は水源もなく、集落を形成するには不向きであった可能性がある（第5章）。

## 3　まとめ

山鳥場遺跡の立地する内山沢流域には縄文時代の遺跡が5か所あり、縄文時代草創期から晩期までの生活痕跡が確認されている（第23図）。朝日村内で縄文時代全期間にわたり生活痕跡が確認できるのは現在のところ、内山沢流域だけである。このうち山鳥場遺跡では表採品も含めて縄文時代早期～晩期まで遺物が出土した。なぜ内山沢流域に縄文人の痕跡が多いかについては、容易に水源が確保できるだけでなく、内山沢が山を抜けて鎖川に合流するまでの距離が長く、流域の広い平坦地において、山々の影にならず日照時間を確保しやすい場所が存在したからではないだろうか。一方、三ヶ組遺跡における調査範囲では遺跡を確認できなかった。集落の形成に水源の確保が重要な要素ではなかったかと考える。

朝日村には豊かな自然があり、縄文時代の生活を考える適地といえる。自然の中で暮らしてきた先人たちの知恵に学び、この環境を将来に引き継いでいくことができれば幸いである。

末筆ながら、発掘調査にご協力いただいた朝日村の皆様、発掘調査から報告書作成に至るまで貴重なご教示を頂いた皆様に感謝申し上げます。

第23図　内山沢周辺遺跡分布図

## 参考・引用文献


会田　進ほか 2017「アズキ亜属種子が多量に混入する縄文土器と種実が多量に混入する意味」『環境資源と人類』第 7 号　明治大学黒耀石研究センター

会田　進 2018「長野県を中心とする中部山岳地域の種実を多量に混入する土器」「縄文時代の植物資源の利用・管理・栽培を考える」資料集　第 13 回山梨県埋蔵文化財センターシンポジウム

秋田かな子 2008「加曽利 B 式土器」『総覧　縄文土器』アム・プロモーション

上松町教育委員会 2001『吉野遺跡群』

朝日村村誌刊行会 1989『朝日村誌（上）自然 現代 民俗 編』

朝日村村誌刊行会 1991『朝日村誌（下）歴史 地区誌 年表 編』

朝日村教育委員会 2003『熊久保遺跡第 10 次発掘調査報告書』

朝日村教育委員会 2006『三ヶ組遺跡 I 』

安孫子昭二ほか 1981『縄文土器大成 3 後期』講談社

新屋雅明 2008「晩期安行式土器」『総覧　縄文土器』アム・プロモーション

飯田市教育委員会 1986『恒川遺跡群』

飯田市教育委員会 2011『中村中平遺跡』

石坂圭介「三十稲場式土器」『総覧　縄文土器』アム・プロモーション

今福利恵 2005「曽利式土器編年再考」『山梨県考古学協会誌』15

今福利恵 2010「前期の土偶から中期の土偶へ」「考古学ジャーナル」608　ニューサイエンス社

今福利恵 2017「曽利式土器における水煙把手土器の成立と展開」「山梨県考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター 研究紀要」33

岩瀬彰利 1991「咲畑式土器の分布とその背景」「三河考古」4

関間俊明 2008「屋内炉の関わる廃棄行為について」「考古学ジャーナル」578　ニューサイエンス社

岡谷市教育委員会 1972『梨久保遺跡』

岡谷市教育委員会 1996『花上寺遺跡』

岡谷市教育委員会 2005「目切・清水田遺跡」

小口英一郎 1998「「唐草文系土器の再検討」再検討」「信濃」50 － 7　信濃史学会

小畑弘己 2014「4　マメを育てた縄文人」「ここまでわかった！ 縄文人の植物利用」新泉社

加納　実 2008「堀之内式土器」『総覧　縄文土器』アム・プロモーション

神村　透 1996「波状口縁鰭形文土器を追う」「長野県の考古学 I 」長野県埋蔵文化財センター

神村　透 2002「縄文中期「吉野式土器」の提唱」「信濃」54 － 8　信濃史学会

木下平八郎 1971「箱川原出土の釣手土器」「伊那」3 月号　伊那史学会

櫛原功一 2008「曽利式土器」『総覧　縄文土器』アム・プロモーション

小池　孝 2013「上伊那地域の縄文時代中期土器」「一般社団法人日本考古学協会 2013 年度長野大会発表資料集　文化の十字路信州」大会実行委員会編

薙鎌　茂・高橋健太郎 2008「中富式・神明式土器」『総覧　縄文土器』アム・プロモーション

小林康男 1974・1975「縄文時代生産活動の在り方（1）・(2)・(3)・(4)」「信濃」26 － 12，27 － 2・4・5　信濃史学会

小林康男 1983「組成論」「縄文文化の研究 7　道具と技術」雄山閣

小林康男 1984「松本平における縄文時代中期後半の炉址に関する一考察」「中信考古」創刊号　中信考古学会

駒ケ根市教育委員会 1988「辻沢南遺跡」

坂井勇雄 2013「下伊那地域における縄文時代中期土器の様相」「一般社団法人日本考古学協会 2013 年度長野大会発表資料集　文化の十字路信州」大会実行委員会編

佐々木由香 2014「2　縄文人の植物利用」「ここまでわかった！ 縄文人の植物利用」新泉社

佐藤甦信 1998「飯田市山本箱川原遺跡」「伊那」4 月号　伊那史学会

佐野　隆 2008「縄文時代の住居廃絶に関わる呪術・祭祀行為」「考古学ジャーナル」578　ニューサイエンス社

佐野　隆 2018「八ヶ岳南麓と周辺地域における堅果類とマメ類利用」「縄文時代の植物資源の利用・管理・栽培を考える」資料集　第 13 回山梨県埋蔵文化財センターシンポジウム

塩尻市教育委員会 1979『小段遺跡』

塩尻市教育委員会 1986『須原遺跡』

塩尻市教育委員会 2001『剣ノ宮・峯畑北遺跡』

塩尻市教育委員会 2008『小段遺跡』

島田哲男 2013「中信地域における縄文時代中期土器の編年と動態」「一般社団法人日本考古学協会 2013 年度長野大会発表資料集　文化の十字路信州」大会実行委員会編

鈴木徳雄 1990「称名寺・堀之内 1 式研究の諸問題－南関東地域の資料を中心として－」「第 4 回縄文セミナー縄文後期の諸問題」

鈴木徳雄 2007「称名寺式土器の諸問題」「第 20 回縄文セミナー　中期終末から後期初頭の再検討」

鈴木徳雄 2012『堀之内式土器研究の諸問題』『第 25 回縄文セミナー縄文後期土器研究の現状と課題』
鈴木道之助 1991『図録・石器入門事典＜縄文＞』柏書房
高橋　哲 2012「石器使用痕分析と石器組成論について」『季刊考古学 119　縄文石器が語る文化と社会』雄山閣
高橋直樹・大木淳一 2015『石ころ博士入門』（株）全国農村教育協会
田中清文 1984『伊那谷縄文中期後半土器編年への展開』『中部高地の考古学Ⅲ』長野県考古学会
「土偶とその情報」研究会 1996『土偶シンポジウム 4　長野大会　中部高地をとりまく中期の土偶』
千葉　豊 2008「縁帯文土器」『総覧　縄文土器』アム・プロモーション
中沢道彦 2008「佐野式土器」『総覧　縄文土器』アム・プロモーション
中島庄一 2008「称名寺式土器」『総覧　縄文土器』アム・プロモーション
永瀬史人 2008「連弧文土器」『総覧　縄文土器』アム・プロモーション
長 野 県　1988『長野県史　考古資料編　全一巻（四）遺構・遺物』
長野県考古学会 1967『佐野－長野県考古学会研究報告書 3 －』
長野県埋蔵文化財センター 1988『塩尻市内その 1：青木沢東・青木沢・八窪・大原・北山・御堂垣外・栗木沢・ヨケ・樋口・高山城跡・竜神・竜神平・山の神・中原・大原・上木戸・千本原・高田・吉田向井遺跡報告書 2』
長野県埋蔵文化財センター 1993『北村遺跡』
長野県埋蔵文化財センター 1999『村東山手遺跡』
長野県埋蔵文化財センター 2003『山の神遺跡』
長野県埋蔵文化財センター 2005『聖石遺跡・長峯遺跡・（別田沢遺跡）』
長野県埋蔵文化財センター 2007『駒形遺跡』
長野県埋蔵文化財センター 2010『川路大明神原遺跡』
長野県埋蔵文化財センター 2013『千田遺跡』
長野県埋蔵文化財センター 2016『鬼釜遺跡・風張遺跡・神之峯城遺跡』
長野県埋蔵文化財センター 2018『ひんご遺跡』
中野幸大 2008「大木 7a ～ 8b 式土器」『総覧　縄文土器』アム・プロモーション
長野市教育委員会 1988『宮崎遺跡』
永峯光一ほか 1981『縄文土器大成 4　晩期』講談社
永峯光一・小林青樹ほか 1998『氷遺跡第二次発掘調査に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』氷遺跡第二次発掘調査団・氷遺跡発掘調査資料図譜刊行会
中村耕作 2013「釣手土器の発生と展開－カテゴリの継承と変容－」『縄文土器の儀礼利用と象徴操作』アム・プロモーション
鄙須浩郎ほか 2015「炭化種実資料からみた長野県諏訪地域における縄文時代中期のマメの利用」『環境資源と人類』第 5 号　明治大学黒耀石研究センター
能城修一 2014「3　縄文人は森をどのように利用したのか」「ここまでわかった！ 縄文人の植物利用」新泉社
八戸市教育委員会 2002『是川中居遺跡　長田沢地区』
羽生俊郎 2010「住居址 06・24 にみられる炉内への土器敷行為について」『笄瀬遺跡』飯田市教育委員会
樋口昇一ほか 1964「長野県東筑摩郡朝日村熊久保遺跡調査概報（1）」『信濃』16 － 4　信濃史学会
樋口昇一ほか 1964「長野県東筑摩郡朝日村熊久保遺跡調査概報（2）」『信濃』16 － 7　信濃史学会
樋口昇一ほか 1981「関東・中部・北陸地方」『縄文土器大成 2 中期』講談社
広田和穂 2002「縄文中期後葉土器の一様相」『長野県の考古学Ⅱ』長野県埋蔵文化財センター
藤沼邦彦・関根達人 2008「亀ヶ岡式土器（亀ヶ岡式系土器群）」『総覧　縄文土器』アム・プロモーション
富士見町教育員会 1978『曽利』
細田　勝 2008「加曽利 E 式土器」『総覧　縄文土器』アム・プロモーション
穂高町教育委員会 2001『穂高町他谷遺跡』
松 本 市　1996『松本市史　第二巻歴史編Ⅰ　原始・古代・中世』
松本市教育委員会 1997『エリ穴遺跡－掘りだされた縄文後晩期のムラ－』
町田勝則 1996「石器の研究法」『長野県の考古学』長野県埋蔵文化財センター
丸子町教育委員会 1992『洞ノ上遺跡Ⅱ』
宮下健司 1992「長野県の土偶」『国立歴史民俗博物館研究報告　第 37 集土偶とその情報』国立歴史民俗博物館
百瀬忠幸 2003「中信地域における唐草文系土器の成立と展開」『異数』21　共同体研究会
百瀬長秀 1992「長野県の概況」『第 5 回縄文セミナー縄文晩期の諸問題』
百瀬長秀 1996「羽状沈線文系土器群の様相－長野県・山梨県の縄文後期中葉の土器－」『第 9 回縄文セミナー中期後葉の諸様相』
三上徹也 2002「曽利・唐草文土器の分布圏と石器組成分布圏の整合－住居単位別にみた石器の統計的分析に基づく地域圏の確認－」『信濃』54 － 12　信濃史学会
三上徹也 2013『縄文土偶ガイドブック－縄文土偶の世界－』新泉社

宮崎朝雄・綿田弘実 2013「長野県における縄文時代中期土器の編年と動態」『一般社団法人日本考古学協会 2013 年度長野大会発表資料集　文化の十字路信州」大会実行委員会編
山形村教育委員会 1987『殿村遺跡』
山形村教育委員会 2002『三夜塚遺跡Ⅲ』
山内清男 1939『日本先史土器図譜』
吉川金利 2008「唐草文系土器」『総覧　縄文土器』アム・プロモーション
吉田泰幸 2008「縄文時代における『土製腕輪』の研究」『古代文化』59 － 4　古代學協會
綿田弘実 1990「長野県の縄文後期前葉の土器群」『第 4 回縄文セミナー縄文後期の諸問題』
綿田弘実 2002「長野県の縄文後期前葉の土器群Ⅱ」『第 15 回縄文セミナー後期前半の再検討』
綿田弘実 2015「長野県飯田市中村中平遺跡出土の縄文時代中・後・晩期土偶」『第 12 回土偶研究会北海道大会資料』土偶研究会

付表1　山鳥場遺跡　SB（竪穴建物跡）一覧表

| 遺構名 | 地区 | グリッド | 図版番号 | PL番号 | 主軸cm | 直交軸cm | 深さcm | 規模 | 平面形状 | 主軸方位 | 時期 | 切り合い | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SB 1 | ② | IS16 | | | | | | | | | | | 欠番 |
| SB 2 | ② | IS17・I2 | | | | | | | | | | | 欠番 |
| SB 3 | ② | IS16 | 31 | 15 | (410) | (325) | 不明 | 不明 | 不明 | S65° E | 後期初頭～前葉 | △SB 6<br>▼NR 1 | |
| SB 4 | ② | IS13 | 3・4 | 3 | 453 | (395) | 25 | 中 | 不整方形 | S60° E | 協会10期 | △SK28 | |
| SB 5 | ② | IS18・23 | 5・6 | 3・4 | 385 | 415 | 20 | 小 | 不整方形 | S57° E | 協会11期 | | |
| SB 6 | ② | IS16 | 7 | 4 | (545) | (215) | 35 | 大 | 不整円形 | S56° E | 協会9期 | ▼SK121 | |
| SB 7 | ② | IS18・19・23・24 | 8・9 | 4・5 | 568 | 570 | 35 | 大 | 不整円形 | S16° E | 協会10期 | △SK71 | |
| SB 8 | ② | IS23・24、IX03・04 | 10・11 | 6 | (565) | (555) | 15 | 大 | 不整円形 | N49° W | 協会9期 | ▼SB 9 | |
| SB 9 | ② | IX03・04 | 12 | 7 | 465 | 455 | 20 | 中 | 不整五角形 | S44° E | 協会10期 | △SB 8<br>SB10 | |
| SB10 | ② | IS24・25、IX04・05 | 13・14 | 8 | 635 | (520) | 15 | 大 | 楕円形 | S29° E | 協会9～10期 | ▼SB 9<br>SB11<br>SB13<br>SK90 | |
| SB11 | ② | IS24・25 | 15・16 | 9 | 569 | (530) | 25 | 大 | 不整楕円形 | S31° W | 協会10期 | △SB10 | |
| SB12 | ② | IS16 | | | | | | | | | | | 欠番<br>SB 3<br>炉2 |
| SB13 | ③ | IX05 | 17・18 | 10 | 445 | 460 | 50 | 小 | 不整五角形 | S62° E | 協会11期 | △SB10 | |
| SB14 | ③・④ | IX05・10 | 19～21 | 11 | 483 | 515 | 50 | 中 | 不整方形 | S88° E | 協会11期 | | |
| SB15 | ④ | IX10、IY06 | 22・23 | 12 | 475 | (390) | 30 | 中 | 不整円形 | S31° E | 協会9～10期 | | |
| SB16 | ④ | IY06・11 | 24 | 12 | (495) | (295) | 40 | 中 | 不整円形 | S90° W | 協会10期 | | |
| SB17 | ④ | IY11・12 | 25 | 13 | (475) | (305) | 25 | 中 | 不整方形 | S89° W | 協会11期 | ▼SB18<br>SK94 | |
| SB18 | ④ | IY12 | 26 | 13 | (363) | (210) | 50 | 小 | 不整方形 | S90° W | 協会11期 | △SB17<br>▼SK94 | |

※「主軸」「直交軸」「深さ」の数値について、（　）は残存値を示す。
※「時期」中の中期後葉の段階については、日本考古学協会長野大会 2013 の成果を基にする（宮崎・綿田ほか 2013）。
※「切り合い」中の記号について、△は当該遺構を切る、▼は当該遺構に切られる。

付表2　山鳥場遺跡　SF（焼土跡）一覧表

| 遺構名 | 地区 | グリッド | 図版番号 | PL番号 | 長軸cm | 短軸cm | 深さcm | 平面形状 | 断面形状 | 時期 | 切り合い | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SF 1 | ④ | IX10、IY06 | 32 | 15 | 75 | 80 | 20 | 不整円形 | スリ鉢状 | 後期初頭～前葉 | | |
| SF 2 | ④ | IY01 | 32 | | 48 | 34 | 5 | 不整円形 | スリ鉢状 | 後期初頭～前葉 | | |

付表3　山鳥場遺跡　SK（土坑）一覧表

| 遺構名 | 地区 | グリッド | 図版番号 | PL番号 | 長軸 cm | 短軸 cm | 深さ cm | 平面形状 | 断面形状 | 時期 | 切り合い | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SK 1 | ② | | | | | | | | | | | 欠番　NR 1 |
| SK 2 | ② | | | | | | | | | | | 欠番　NR 1 |
| SK 3 | ② | IS16 | | | 55 | 46 | 29 | 不整楕円形 | 椀状 | 不明 | | |
| SK 4 | ② | IS16 | | | 72 | 68 | 46 | 不整円形 | 円筒状 | 不明 | | |
| SK 5 | ② | IS16 | | | 60 | 52 | 40 | 不整楕円形 | 円筒状 | 不明 | | |
| SK 6 | ② | IS12 | | | 42 | 24 | 14 | 不整楕円形 | スリ鉢状 | 不明 | | |
| SK 7 | ② | IS17 | 27 | | 46 | 42 | 26 | 不整円形 | スリ鉢状 | 中期後葉 | | |
| SK 8 | ② | | | | | | | | | | | 欠番　NR 1 |
| SK 9 | ② | IS17 | 27 | 14 | 120 | 113 | 33 | 不整形 | 円筒状 | 中期後葉 | | |
| SK10 | ② | IS17・22 | 29 | 14 | 198 | 104 | 27 | 不整楕円形 | 不整形 | 不明 | | |
| SK11 | ② | IS18 | | | 38 | 36 | 10 | 不整円形 | スリ鉢状 | 不明 | | |
| SK12 | ② | IS17・18 | | | 67 | 54 | 13 | 不整楕円形 | 椀状 | 不明 | | |
| SK13 | ② | IS17 | | | 40 | 33 | 19 | 不整楕円形 | 椀状 | 不明 | | |
| SK14 | ② | IS17 | | | 33 | 26 | 14 | 楕円形 | 椀状 | 不明 | | |
| SK15 | ② | IS18 | | | 29 | 28 | 10 | 円形 | 椀状 | 不明 | | |
| SK16 | ② | IS18 | | | 36 | 29 | 11 | 不整形 | 椀状 | 不明 | | |
| SK17 | ② | IS17 | | | 31 | 30 | 8 | 不整円形 | 円筒状 | 不明 | | |
| SK18 | ② | IS17 | | | 30 | 23 | 12 | 不整楕円形 | 椀状 | 不明 | | |
| SK19 | ② | IS17 | | | 53 | 42 | 21 | 不整形 | 椀状 | 不明 | | |
| SK20 | ② | IS18 | | | 32 | 28 | 11 | 不整楕円形 | 椀状 | 不明 | | |
| SK21 | ② | IS17 | | | 50 | 39 | 20 | 不整楕円形 | 有段状 | 不明 | | |
| SK22 | ② | IS17 | | | 39 | 31 | 12 | 楕円形 | 椀状 | 不明 | | |
| SK23 | ② | IS17 | 27 | | 86 | 36 | 20 | 不整形 | 円筒状 | 中期後葉 | | |
| SK24 | ② | IS17 | | | 54 | 50 | 18 | 不整楕円形 | 円筒状 | 不明 | | |
| SK25 | ② | IS12 | | | 32 | 28 | 8 | 不整円形 | 円筒状 | 不明 | | |
| SK26 | ② | IS12 | | | 64 | 53 | 26 | 不整楕円形 | 有段状 | 不明 | | |
| SK27 | ② | IS13 | | | 39 | 36 | 14 | 楕円形 | 椀状 | 不明 | | |
| SK28 | ② | IS13 | | | 38 | 36 | 10 | 不整円形 | 椀状 | 不明 | ▼SB 4 | |
| SK29 | ② | IS12 | | | 29 | 26 | 14 | 不整円形 | 不整形 | 不明 | | |
| SK30 | ② | | | | | | | | | | | 欠番　不明 |
| SK31 | ② | IS12 | | | 30 | 24 | 8 | 楕円形 | 椀状 | 不明 | | |
| SK32 | ② | IS12 | | | 23 | 21 | 8 | 不整楕円形 | 椀状 | 不明 | | |
| SK33 | ② | IS12 | | | 68 | 40 | 14 | 不整楕円形 | 円筒状 | 不明 | | |
| SK34 | ② | IS12 | | | 78 | 68 | 16 | 不整形 | 円筒状 | 不明 | | |
| SK35 | ② | IS12 | | | 81 | 48 | 22 | 不整楕円形 | 有段状 | 不明 | | |
| SK36 | ② | IS12 | | | 117 | 56 | 16 | 不整形 | 不整形 | 不明 | | |
| SK37 | ② | IS12 | | | 50 | 38 | 13 | 不整楕円形 | スリ鉢状 | 不明 | | |
| SK38 | ② | IS12 | | | 30 | 27 | 12 | 円形 | 円錐状 | 不明 | | |
| SK39 | ② | IS12 | | | 42 | 41 | 12 | 不整円形 | 椀状 | 不明 | | |

| 遺構名 | 地区 | グリッド | 図版番号 | PL番号 | 長軸 cm | 短軸 cm | 深さ cm | 平面形状 | 断面形状 | 時期 | 切り合い | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SK40 | ② | IS11 | | | 34 | 32 | 18 | 不整円形 | 円筒状 | 不明 | | |
| SK41 | ② | IS11 | | | 28 | 25 | 19 | 不整円形 | 円筒状 | 不明 | | |
| SK42 | ② | IS18 | | | 39 | 33 | 18 | 不整楕円形 | スリ鉢状 | 不明 | | |
| SK43 | ② | IS18 | | | 37 | 34 | 12 | 円形 | スリ鉢状 | 不明 | | |
| SK44 | ② | IS17・18 | | | 30 | 24 | 12 | 楕円形 | 椀状 | 不明 | | |
| SK45 | ② | IS18 | | | 33 | 32 | 10 | 不整円形 | 椀状 | 不明 | | |
| SK46 | ② | IS12 | 27 | | 26 | 24 | 12 | 不整円形 | 椀状 | 中期後葉 | | |
| SK47 | ② | IS17 | | | 33 | 31 | 14 | 不整円形 | 椀状 | 不明 | | |
| SK48 | ② | IS17 | | | 35 | 32 | 21 | 不整円形 | 円筒状 | 不明 | | |
| SK49 | ② | IS17 | | | | | | | | | | 欠番　かく乱 |
| SK50 | ② | IS12 | | | | | | | | | | 欠番　かく乱 |
| SK51 | ② | IS12 | | | 47 | 45 | 13 | 不整円形 | 不整形 | 不明 | | |
| SK52 | ② | IS17 | | | 73 | 66 | 32 | 不整円形 | スリ鉢状 | 不明 | | |
| SK53 | ② | IS22 | | | | | | | | | | 欠番　かく乱 |
| SK54 | ② | IS22 | | | | | | | | | | 欠番　かく乱 |
| SK55 | ② | | | | | | | | | | | 欠番　不明 |
| SK56 | ② | IS23 | 27 | | 76 | 70 | 23 | 不整円形 | 円筒状 | 中期後葉 | | |
| SK57 | ② | IS23 | 27 | 14 | 133 | 131 | 60 | 不整円形 | 円筒状 | 中期後葉 | | |
| SK58 | ② | IS24 | | | 61 | 41 | 17 | 不整楕円形 | 椀状 | 不明 | | |
| SK59 | ② | IS24 | | | 24 | 20 | 9 | 楕円形 | 椀状 | 不明 | | |
| SK60 | ② | IS24 | | | 40 | 39 | 13 | 不整円形 | 椀状 | 不明 | | |
| SK61 | ② | IS24 | | | 46 | 23 | 8 | 不整楕円形 | 椀状 | 不明 | | |
| SK62 | ② | IS24 | | | 50 | 42 | 13 | 不整形 | 不整形 | 不明 | | |
| SK63 | ② | IS24 | | | 46 | 33 | 16 | 不整楕円形 | 椀状 | 不明 | | |
| SK64 | ② | IS19・20 | 27 | | 83 | 79 | 18 | 不整円形 | 椀状 | 中期後葉 | | |
| SK65 | ② | IS24 | | | 33 | 30 | 14 | 不整円形 | 椀状 | 不明 | | |
| SK66 | ② | IS24 | | | 49 | 47 | 10 | 円形 | 円筒状 | 不明 | | |
| SK67 | ② | | | | | | | | | 不明 | | 欠番　不明 |
| SK68 | ② | IS24 | | | 30 | 29 | 15 | 不整円形 | 椀状 | 不明 | | |
| SK69 | ② | IS19 | | | 28 | 28 | 12 | 不整円形 | 椀状 | 不明 | | |
| SK70 | ② | IS19 | | | 70 | 59 | 32 | 不整楕円形 | 有段状 | 不明 | | |
| SK71 | ② | IS19 | | | 58 | 55 | 20 | 不整楕円形 | 椀状 | 不明 | ▼SB 7 | |
| SK72 | ② | IS23 | 28 | | 56 | 50 | 54 | 不整円形 | 円筒状 | 中期後葉 | | |
| SK73 | ② | | | | | | | | | | | 欠番　不明 |
| SK74 | ② | IX04 | 29 | | 205 | 94 | 25 | 不整形 | 椀状 | 不明 | | |
| SK75 | ② | IS25 | | | 53 | 36 | 17 | 不整楕円形 | 椀状 | 不明 | | |
| SK76 | ② | IS25 | | | 49 | 41 | 16 | 楕円形 | 円錐状 | 不明 | | |
| SK77 | ② | IS20・25 | | | 80 | 72 | 8 | 不整楕円形 | 不整形 | 不明 | | |
| SK78 | ② | IS20・25 | | | 82 | 80 | 39 | 不整楕円形 | 円筒状 | 不明 | | |

| 遺構名 | 地区 | グリッド | 図版番号 | PL番号 | 長軸 cm | 短軸 cm | 深さ cm | 平面形状 | 断面形状 | 時期 | 切り合い | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SK79 | ② | IS20 | | | 38 | 33 | 56 | 楕円形 | 円錐状 | 不明 | | |
| SK80 | ② | IS25 | | | 48 | 45 | 36 | 不整円形 | 椀状 | 不明 | | |
| SK81 | ② | IS20・24・25 | | | 60 | 35 | 11 | 不整楕円形 | 円筒状 | 不明 | | |
| SK82 | ② | IS24 | | | 51 | 47 | 14 | 不整楕円形 | 椀状 | 不明 | | |
| SK83 | ② | IS25 | | | 41 | 32 | 10 | 不整楕円形 | 椀状 | 不明 | | |
| SK84 | ② | IS25 | | | | | | | | | | 欠番　かく乱 |
| SK85 | ② | IX04 | | | | | | | | | | 欠番　SK74 |
| SK86 | ② | IX04 | | | | | | | | | | 欠番　SK74 |
| SK87 | ② | IS24・25<br>IX04・05 | | | | | | | | | | 欠番　SB10 |
| SK88 | ② | IS13 | | | | | | | | | | 欠番　SB 4 |
| SK89 | ② | IS24・25<br>IX04・05 | | | | | | | | | | 欠番　SB10 |
| SK90 | ② | IX04 | 32 | 15 | 30 | 25 | 24 | 不整形 | 椀状 | 後期初頭～前葉 | △SB10 | |
| SK91 | ② | IS25 | | | 27 | 22 | 25 | 不整円形 | 不整形 | 不明 | | |
| SK92 | ③ | IS25 | | | | | | | | | | 欠番　かく乱 |
| SK93 | ③ | IS25 | | | | | | | | | | 欠番　かく乱 |
| SK94 | ④ | IY12 | 32 | | 130 | 118 | 60 | 不整楕円形 | スリ鉢状 | 晩期前葉 | △SB17 | |
| SK95 | ④ | IX05、IY01 | | | 46 | 38 | 36 | 不整楕円形 | 円筒状 | 不明 | | |
| SK96 | ④ | IS25 | | 14 | 40 | 36 | 22 | 楕円形 | 円筒状 | 不明 | | |
| SK97 | ④ | IX05 | | | 58 | 48 | 21 | 楕円形 | 円筒状 | 不明 | | |
| SK98 | ④ | IX05 | | | 50 | 38 | 24 | 不整楕円形 | 円筒状 | 不明 | | |
| SK99 | ④ | IY01 | | | 63 | 54 | 25 | 不整楕円形 | 椀状 | 不明 | | |
| SK100 | ④ | IX05 | | | 40 | 37 | 24 | 不整円形 | 円筒状 | 不明 | | |
| SK101 | ④ | IT21 | | | 22 | 20 | 18 | 不整円形 | 円筒状 | 不明 | | |
| SK102 | ④ | IX05 | | | 50 | 46 | 22 | 不整円形 | 不整形 | 不明 | | |
| SK103 | ④ | IX05 | | | 61 | 40 | 17 | 不整楕円形 | スリ鉢状 | 不明 | | |
| SK104 | ④ | IX05 | | | 42 | 29 | 18 | 楕円形 | 不整形 | 不明 | | |
| SK105 | ④ | IX05 | | | 41 | 40 | 16 | 円形 | スリ鉢状 | 不明 | | |
| SK106 | ④ | IY01 | | | | | | | | | | 欠番　かく乱 |
| SK107 | ④ | IY01 | 28 | | 78 | 42 | 15 | 不整楕円形 | 円筒状 | 中期後葉 | | |
| SK108 | ④ | IY08・03 | | | 51 | 40 | 52 | 不整楕円形 | 円筒状 | 不明 | | |
| SK109 | ④ | IY03 | 28 | | 48 | 47 | 46 | 不整円形 | 円筒状 | 中期後葉 | | |
| SK110 | ④ | IS25 | | | 31 | 26 | 24 | 不整楕円形 | 円筒状 | 不明 | | |
| SK111 | ③ | IX09 | | | 46 | 42 | 22 | 不整円形 | スリ鉢状 | 不明 | | |
| SK112 | ③ | IX09 | | | 40 | 38 | 25 | 不整円形 | スリ鉢状 | 不明 | | |
| SK113 | ③ | IX09 | | | 30 | 26 | 11 | 不整楕円形 | 円筒状 | 不明 | | |

| 遺構名 | 地区 | グリッド | 図版番号 | PL番号 | 長軸 cm | 短軸 cm | 深さ cm | 平面形状 | 断面形状 | 時期 | 切り合い | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SK114 | ③ | IX09 | | | 24 | 21 | 14 | 不整円形 | スリ鉢状 | 不明 | | |
| SK115 | ④ | IX05 | | | 40 | 30 | 23 | 不整楕円形 | 円筒状 | 不明 | | |
| SK116 | ③ | IX09 | | | 32 | 31 | 16 | 不整円形 | 円筒状 | 不明 | | |
| SK117 | ③ | IX09 | | | 36 | 31 | 24 | 不整円形 | 円筒状 | 不明 | | |
| SK118 | ③ | IX09 | | | 47 | 46 | 22 | 不整円形 | スリ鉢状 | 不明 | | |
| SK119 | ③ | IX09 | 29 | 14 | 68 | 54 | 82 | 不整形 | 円筒状 | 不明 | | |
| SK120 | ③ | IX05 | 28 | | 234 | 126 | 130 | 不整形 | スリ鉢状 | 中期後葉 | | |
| SK121 | ② | IS16 | | | 30 | 30 | 55 | 不整円形 | 円筒状 | 不明 | △ SB 6 | |

※「切り合い」中の記号について、△は当該遺構を切る、▼は当該遺構に切られる。

付表4　山鳥場遺跡　縄文時代早・前期土器観察表

| 図版番号 | PL番号 | 掲載番号 | 出土地点 | 注　記 | 器種 | 時　期 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 重量 g | 残存率% | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| — | 36 | 1 | IS24・25 | SB11NW | 深鉢 | 早期末葉 | — | — | — | 38.1 | — | 条痕文系<br>繊維土器 |
| — | 36 | 2 | IY01-1 | Ⅱａソウ | 深鉢 | 早期末葉 | — | — | — | 47.9 | — | 条痕文系<br>繊維土器<br>絡条体圧痕文 |
| — | 36 | 3 | IS17-2 | IS17- 2 | 深鉢 | 早期末葉 | — | — | — | 44.2 | — | 条痕文系<br>繊維土器<br>底部付近 |
| — | 36 | 4 | IS18・19・23・24 | SB 7 No.63 | 深鉢 | 前期後半～末葉 | — | — | — | 16.5 | — | 矢羽状沈線<br>結節浮線文 |
| — | 36 | 5 | IY11・12 | SB17<br>カベケン | 深鉢 | 前期後半～末葉 | — | — | — | 19.2 | — | 矢羽状沈線<br>結節浮線文 |
| — | 36 | 6 | IS18・23 | SB 5<br>ロ フキン | 深鉢 | 前期後半～末葉 | — | — | — | 6.2 | — | 結節浮線文 |
| — | 36 | 7 | IS16 | NR 1<br>シキイシ<br>カクチケン | 深鉢 | 前期後半～末葉 | — | — | — | 33.5 | — | 結節浮線文 |
| — | 36 | 8 | IX10、IY06 | SB15 ケン | 深鉢 | 前期後半～末葉 | — | — | — | 18.3 | — | 結節浮線文 |
| — | 36 | 9 | IY13-2 | IY13-2<br>Ⅱｂソウ | 深鉢 | 前期後半～末葉 | — | — | — | 12.9 | — | 底部 |
| — | 36 | 10 | IS16 | NR 1 | 深鉢 | 前期後半～末葉 | — | — | — | 4.6 | — | 半隆起線 |
| — | 36 | 11 | IS12-8 | Ｎトレ | 深鉢 | 前期後半～末葉 | — | — | — | 8.5 | — | 半隆起線 |
| — | 36 | 12 | IX10、IY06 | SB15 Ｎベルト7ソウ | 浅鉢 | 前期後半～末葉 | — | — | — | 6.5 | — | 外面に<br>赤色塗彩 |

付表5　山鳥場遺跡　縄文時代中期後葉土器観察表

| 図版番号 | PL番号 | 掲載番号 | 出土地点 | 注　記 | 器種 | 時期 | 口径 cm | 底形 cm | 器高 cm | 重量 g | 残存率% | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 33 | 16 | 1 | SB 4 | No. 5, 7, 8, 12, 14, 17, 20, 27, 28, SW, E, W カベ, IR20 (No.15, 19) | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | <44.5> | 5045.0 | 30 | |
| 33 | 16 | 2 | SB 4 | E, No. 1, 26 | 深鉢 | 中期後葉 | 21.2 | — | <19.4> | 1530.0 | 40 | |
| 33 | 16 | 3 | SB 4 | ピット1, SE, E カベ | 深鉢 | 中期後葉 | — | 6.8 | <12.4> | 410.0 | 40 | |
| 33 | 16 | 4 | SB 5 | ロ No. 1 | 深鉢 | 中期後葉 | 16.4 | — | <21.0> | 110.0 | 70 | |
| 33 | 16 | 5 | SB 5 | No.17, 21, 22 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | <25.0> | 1380.0 | 50 | |
| 33 | 16 | 6 | SB 5 | N 0.11, 20 | 深鉢 | 中期後葉 | 27.6 | — | <19.4> | 810.0 | 10 | |
| 33 | 16 | 7 | SB 5 | No. 2, 6, 21, ケン, SE | 深鉢 | 中期後葉 | 12.8 | <5.4> | <15.0> | 470.0 | 80 | |
| 33 | 16 | 8 | SB 6 | W カクチ | 深鉢 | 中期後葉 | 16.0 | — | <17.0> | 550.0 | 60 | |
| 33 | 16 | 9 | SB 6 | No. 1 | 深鉢 | 中期後葉 | 26.4 | <10.0> | <35.4> | 1220.0 | 50 | |
| 34 | 17 | 10 | SB 7 | No.61 | 深鉢 | 中期後葉 | 14.2 | — | <17.8> | 640.0 | 70 | |
| 34 | 17 | 11 | SB 7 | No.78 | 深鉢 | 中期後葉 | 16.2 | 7.0 | 17.4 | 950.0 | 90 | |
| 34 | 17 | 12 | SB 7 | No.47, 52, SW 2ソウ | 深鉢 | 中期後葉 | (18.2) | (7.5) | <22.0> | 750.0 | 60 | |
| 34 | 17 | 13 | SB 7 | No.53 | 深鉢 | 中期後葉 | — | (7.6) | <17.0> | 560.0 | 70 | |
| 34 | 17 | 14 | SB 7 | No.59, SW 2ソウ, NW 2ソウ, ケン | 深鉢 | 中期後葉 | (15.8) | — | <12.2> | 650.0 | 30 | |
| 34 | 17 | 15 | SB 7 | No. 9, SE 2ソウ, SW, NW 2ソウ | 深鉢 | 中期後葉 | (17.0) | — | <7.6> | 250.0 | 15 | |
| 34 | 17 | 16 | SB 7 | No.66, NE 2ソウ, SW 2ソウ | 深鉢 | 中期後葉 | — | 6.0 | <7.4> | 160.0 | 15 | |
| 34 | 17 | 17 | SB 7 | No.53, 70, 71, NW, SW, ベルトチュウオウ, SE 2ソウ | 深鉢 | 中期後葉 | 12.6 | — | <7.4> | 240.0 | 20 | |
| 34 | 17 | 18 | SB 7 | No.51, 52 | 深鉢 | 中期後葉 | (17.0) | — | <14.4> | 390.0 | 20 | |
| 34 | 17 | 19 | SB 7 | No.33, ケン, SW 2ソウ SW, NW 2ソウ, NE 2ソウ | 深鉢 | 中期後葉 | 17.6 | — | <23.5> | 1040.0 | 70 | |
| 34 | 17 | 20 | SB 7 | ケン | 深鉢 | 中期後葉 | (30.0) | — | <10.0> | 350.0 | 20 | |
| 34 | 17 | 21 | SB 7 | No.18, 24, 30, 68, 75, NE 2ソウ, ケン | 深鉢 | 中期後葉 | (38.5) | — | <24.5> | 2100.0 | 30 | |
| 34 | 17 | 22 | SB 7 | No.28, 45, 51, 54, 58 ～ 63, 77, NE 2ソウ, NW 2ソウ, SW 2ソウ, SW, ケン | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | <47.0> | 8750.0 | 50 | |
| 35 | 18 | 23 | SB 7 | No.45, 54, NE 2ソウ, ケン | 深鉢 | 中期後葉 | (21.0) | (7.8) | 28.0 | 1145.0 | 70 | |
| 35 | 18 | 24 | SB 7 | No.50 | 深鉢 | 中期後葉 | (29.5) | — | <16.4> | 1490.0 | 30 | |
| 35 | 18 | 25 | SB 7 | No.47, 61, 72, SW, SW 2ソウ, 2ソウチュウオウ | 深鉢 | 中期後葉 | (17.0) | — | <21.0> | 765.0 | 15 | |
| 35 | 18 | 26 | SB 7 | No. 7, 10, 36, 47, 52, 56, 60, 61, 66, SW 2ソウ, NW 2ソウ, SW, ケン | 深鉢 | 中期後葉 | (43.0) | — | <53.0> | 7585.0 | 80 | エゴマと推測される圧痕を881点含む |
| 35 | 18 | 27 | SB 7 | No.59, 2ソウ チュウオウ | 深鉢 | 中期後葉 | (12.5) | 7.0 | 23.0 | 910.0 | 90 | 口縁部に二単位の把手 |
| 35 | 18 | 28 | SB 7 | No.78 | 深鉢 | 中期後葉 | (16.6) | — | <18.6> | 350.0 | 30 | 口縁部に推定二単位の把手 |
| 35 | 18 | 29 | SB 7 | No. 1 | 深鉢 | 中期後葉 | (19.2) | — | <27.4> | 1100.0 | 50 | |

| 図版番号 | PL番号 | 掲載番号 | 出土地点 | 注　記 | 器種 | 時期 | 口径 cm | 底形 cm | 器高 cm | 重量 g | 残存率% | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 36 | 19 | 30 | SB 7 | No.48 | 深鉢 | 中期後葉 | 15.2 | 6.0 | 23.0 | 1070.0 | 80 | 口縁部に二単位の把手 |
| 36 | 19 | 31 | SB 7 | No.61, 65, 67, 68, 69, NE 2ソウ, NW 2ソウ | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | <21.0> | 2400.0 | 20 | |
| 36 | 19 | 32 | SB 7 | No.49, ベルトチュウオウ, SW | 深鉢 | 中期後葉 | 16.2 | — | <19.0> | 990.0 | 50 | |
| 36 | 19 | 33 | SB 7 | No.77 | 深鉢 | 中期後葉 | 22.2 | 7.8 | 25.0 | 100.0 | 100 | |
| 36 | 19 | 34 | SB10 | No. 2, ケン, SE, NW | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | <28.4> | 900.0 | 50 | |
| 36 | 19 | 35 | SB10 | No.16, 17, ケン, SE, SW | 深鉢 | 中期後葉 | (23.0) | — | <19.2> | 1010.0 | 15 | |
| 36 | 19 | 36 | SB10 | No. 5, 8, 14, ケン, SE | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | <16.2> | 510.0 | 10 | |
| 36 | 19 | 37 | SB10 | SE | 深鉢 | 中期後葉 | (15.8) | — | <11.8> | 285.0 | 15 | |
| 36 | 19 | 38 | SB10 | 5ソウ, ケン | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | <20.8> | 335.0 | 20 | |
| 36 | 19 | 39 | SB10 | No.67, 68 | 深鉢 | 中期後葉 | 12.0 | — | <13.0> | 510.0 | 30 | |
| 37 | 20 | 40 | SB10 | No. 7, 13, ケン, SE, NE | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | <26.2> | 700.0 | 20 | |
| 37 | 20 | 41 | SB10 | No.14, ケン, SE | 深鉢 | 中期後葉 | 20.0 | — | — | 1350.0 | 30 | 白色粒の量が非常に多い |
| 37 | 20 | 42 | SB10 | No.18 | 深鉢 | 中期後葉 | (18.6) | (8.0) | 20.4 | 1010.0 | 60 | 白色粒の量が非常に多い |
| 37 | 20 | 43 | SB11 | No.44 | 深鉢 | 中期後葉 | (19.6) | — | <24.0> | 1145.0 | 50 | 口縁部に二単位の把手 |
| 37 | 20 | 44 | SB11 | ロ No. 1, ロ フキン, ロ 1ソウ, SW 2ソウ | 深鉢 | 中期後葉 | 17.0 | (8.0) | 25.0 | 1260.0 | 40 | |
| 37 | 20 | 45 | SB11 | ケン | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | <7.2> | 125.0 | 10 | |
| 37 | 20 | 46 | SB11 | No.64, SW 2ソウ, NE 2ソウ, NW | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 805.0 | — | |
| 37 | 20 | 47 | SB11 | SW 2ソウ | 深鉢 | 中期後葉 | 16.4 | — | <9.0> | 90.0 | 15 | |
| 37 | 20 | 48 | SB11 | No.28, ロ フキン, ピット17, SW 2ソウ, ケン | 深鉢 | 中期後葉 | 16.4 | — | <13.0> | 610.0 | 15 | |
| 37 | 20 | 49 | SB11 | No.88 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | <15.2> | 365.0 | 20 | |
| 38 | 21 | 50 | SB13 | No.50, 87, 88, 104, NW 2ソウ, SW 1ソウ, Wベルト1ソウ, X05 ケン | 深鉢 | 中期後葉 | (20.4) | — | <25.0> | 910.0 | 70 | |
| 38 | 21 | 51 | SB13 | No.122 | 深鉢 | 中期後葉 | — | (6.2) | <18.2> | 620.0 | 80 | |
| 38 | 21 | 52 | SB13 | No.94, NE 1ソウ | 深鉢 | 中期後葉 | 16.6 | 6.2 | 19.6 | 1005.0 | 90 | |
| 38 | 21 | 53 | SB13 | No.106, NW 1ソウ, NW 2ソウ | 深鉢 | 中期後葉 | (18.6) | — | <21.6> | 775.0 | 80 | |
| 38 | 21 | 54 | SB13 | No. 3, 35, 94, NE 1ソウ, SEトレ, Wベルト1ソウ, トレケン, IX ケン | 深鉢 | 中期後葉 | 18.6 | — | <10.2> | 550.0 | 30 | |
| 38 | 21 | 55 | SB13 | No.54, SW 1ソウ, Eベルト1ソウ, トレケン | 深鉢 | 中期後葉 | (14.2) | — | <11.0> | 335.0 | 40 | |
| 38 | 21 | 56 | SB13 | No.74 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | <5.0> | 115.0 | 15 | |
| 38 | 21 | 57 | SB13 | No.100, 107, 114 | 深鉢 | 中期後葉 | (21.0) | — | <24.4> | 1025.0 | 70 | |

| 図版番号 | PL番号 | 掲載番号 | 出土地点 | 注　記 | 器種 | 時期 | 口径cm | 底形cm | 器高cm | 重量g | 残存率% | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 38 | 21 | 58 | SB13 | No.118, 119, 128, ロ 1ソウ<br>No.131, SW 2ソウ, W ベルト | 深鉢 | 中期後葉 | (23.8) | — | <38.4> | 2235.0 | 50 | |
| 38 | 21 | 59 | SB13 | SB13（No.92, 93, I X 5ケン, トレケン, E ベルト1ソウ）、SB14（No.15） | 深鉢 | 中期後葉 | (16.5) | — | <27.6> | 1480.0 | 80 | 口縁部に二単位の把手、SB14 埋土と接合 |
| 39 | 22 | 60 | SB13 | No.92, 93, トレケン | 深鉢 | 中期後葉 | 20.0 | — | <33.2> | 2195.0 | 90 | 口縁部に二単位の把手 |
| 39 | 22 | 61 | SB13 | No.113, 115, 116, S ベルト1ソウ, SW 1ソウ, NW 1ソウ | 深鉢 | 中期後葉 | (22.0) | — | <20.8> | 700.0 | 30 | |
| 39 | 22 | 62 | SB13 | No. 2, 9, 10, 16, 44, 51, 59, 60, 62 ～ 66, 68, 71 ～ 74, 78, 97, 113, 125, E ベルト1ソウ, NE 1ソウ, トレケン, IX 5ケン | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 4260.0 | 15 | |
| 39 | 22 | 63 | SB13 | No.39, 40, 44, 67, 119 ～ 121 | 深鉢 | 中期後葉 | (35.0) | — | <27.2> | 2695.0 | 40 | |
| 39 | 22 | 64 | SB13 | No.72, 74, 78, SE 1ソウ, E ベルト1ソウ, トレケン | 深鉢 | 中期後葉 | (25.0) | — | <23.5> | 825.0 | 20 | |
| 39 | 22 | 65 | SB13 | No.127, 131 | 深鉢 | 中期後葉 | (17.2) | — | <15.0> | 420.0 | 20 | |
| 39 | 22 | 66 | SB13 | NE 1ソウ | 台付鉢 | 中期後葉 | — | — | <3.2> | 43.0 | 10 | |
| 40 | 23 | 67 | SB13 | ウメ | 台付鉢 | 中期後葉 | 23.8 | — | <24.6> | (2730.0) | 80 | 埋甕 |
| 40 | 23 | 68 | SB14 | No. 2, SW 1ソウ, NE 1ソウ, NE, E 1ソウ, W ベルト1ソウ, IX05 ケン | 深鉢 | 中期後葉 | (18.0) | — | <24.2> | 1185.0 | 60 | 口縁部に二単位の把手 |
| 40 | 23 | 69 | SB14 | No. 9 | 深鉢 | 中期後葉 | — | 6.2 | <16.2> | 630.0 | 80 | |
| 40 | 23 | 70 | SB14 | ロ No.12, 43 | 深鉢 | 中期後葉 | — | (13.2) | <19.6> | 1398.0 | 30 | 炉内敷設土器 |
| 40 | 23 | 71 | SB14 | ロ No.42, 44 | 深鉢 | 中期後葉 | — | 10.8 | <21.2> | 959.0 | 25 | 炉内敷設土器 |
| 40 | 23 | 72 | SB14 | No. 33 | 深鉢 | 中期後葉 | (19.4) | — | <16.0> | 391.0 | 30 | |
| 40 | 23 | 73 | SB14 | ウメ | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | <30.0> | (3340.0) | 80 | 埋甕 |
| 41 | 24 | 74 | SB14 | ロ No. 9, 16, 30, 35, 36, 38, 55 | 深鉢 | 中期後葉 | (33.0) | — | 34.3 | 1684.0 | 40 | 炉内敷設土器 |
| 41 | 24 | 75 | SB14 | ロ No. 2, 35 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 413.0 | — | 炉内敷設土器 |
| 41 | 24 | 76 | SB14 | ロ No.25, 27, 34, 35, 36, 38, 39, 53, 54 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 1127.0 | — | 炉内敷設土器 |
| 41 | 24 | 77 | SB14 | ロ No. 6, 13, 19, 24, 25, 41, 46, 48, 49 ～ 51, 53, 56 | 深鉢 | 中期後葉 | 42.0 | — | <33.0> | 5158.0 | 40 | 炉内敷設土器 |
| 41 | 24 | 78 | SB14 | ロ No. 5, 7, 8, 11, 15, 17, 18, 20 ～ 23, 28, 29, 32 ～ 35, 40, 52, 53 | 深鉢 | 中期後葉 | 34.5 | — | <32.8> | 4023.0 | 40 | 炉内敷設土器 |

| 図版番号 | PL番号 | 掲載番号 | 出土地点 | 注　記 | 器種 | 時期 | 口径 cm | 底形 cm | 器高 cm | 重量 g | 残存率% | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 41 | 24 | 79 | SB14 | SB14（No.32,　ロ No.10,14,37,45,50,53,57 ～ 59）,SB13(No. 7,10,16,21,30,33,38,74,80) | 深鉢 | 中期後葉 | 34.0 | — | <36.8> | 5933.0 | 70 | 炉内敷設土器、SB13 埋土と接合 |
| 42 | 25 | 80 | SB15 | No.19, W トレ,S テラス,SN ベルト2ソウ | 深鉢 | 中期後葉 | 22.2 | 9.6 | 30.8 | 1494.0 | 80 | 口縁部に推定四単位の突起 |
| 42 | 25 | 81 | SB15 | ピット7,No.12,14,NE 1ソウ,NE トレ,E トレ,W トレ,NW,W 1ソウ,E 2ソウ | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 613.0 | — | |
| 42 | 25 | 82 | SB15 | No.15,19,N ベルト1ソウ,SN ベルト2ソウ | 深鉢 | 中期後葉 | (21.2) | — | <24.0> | 850.0 | 60 | 頸部に二単位の把手 |
| 42 | 25 | 83 | SB15 | No.19,NE 1ソウ,E トレ,NW,ケン | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | <15.0> | 652.0 | 40 | |
| 42 | 25 | 84 | SB15 | No.19 | 深鉢 | 中期後葉 | (21.0) | — | <9.4> | 377.0 | 15 | |
| 42 | 25 | 85 | SB15 | No. 8,9,11,W 1ソウ,W トレ,NW,E トレ,カベケン | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 1599.0 | — | |
| 42 | 25 | 86 | SB15 | ロ,E トレ,NE 1ソウ,NE トレ,W 1ソウ,E 2ソウ,ケン | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 888.0 | — | |
| 42 | 25 | 87 | SB15 | ロ,No.15,17,19,NE 1ソウ,E トレ,SN ベルト7ソウ | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 1967.0 | — | |
| 43 | 26 | 88 | SB16 | ロ | 深鉢 | 中期後葉 | (38.4) | — | <15.4> | 647.0 | 20 | |
| 43 | 26 | 89 | SB16 | No. 6,11 ～ 15,ユカ,E 1ソウ,SE,NE 1ソウ,E トレ,カベケン W,カベケン E | 深鉢 | 中期後葉 | (18.2) | — | <21.0> | 685.0 | 60 | |
| 43 | 26 | 90 | SB16 | No. 4, 5, 6, 7,NE 1ソウ | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | <18.6> | 2169.0 | 20 | |
| 43 | 26 | 91 | SB16 | ピット11 | 深鉢 | 中期後葉 | (19.2) | — | <15.8> | 902.0 | 40 | |
| 43 | 26 | 92 | SB17 | ロ No. 4,11,12,14,17 ～ 19,25,26,31 ～ 33,35,38,41 ～ 43,49,50,52,53,55,57,58,65 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | <46.3> | 3991.0 | 30 | 炉内敷設土器 |
| 43 | 26 | 93 | SB17 | No. 3, 6 | 深鉢 | 中期後葉 | (31.0) | — | <24.8> | 1118.0 | 15 | SB14埋土片は推定同一個体（No.22,SW 2 ソウ,W ベルト1ソウ） |
| 43 | 26 | 94 | SB18 | SN トレ,NW,NW 1ソウ | 深鉢 | 中期後葉 | 17.0 | — | <15.0> | 585.0 | 50 | |
| 44 | 27 | 95 | SB17 | No. 1, 2,カベケン,NE,NW 1ソウ | 深鉢 | 中期後葉 | (34.2) | — | <41.2> | 3940.0 | 40 | 床面で立位で出土 |
| 44 | 27 | 96 | SB17 | ロ No. 2 ～ 7,14,15,27,28,34,36,37,39,40,44,45,48,51,56,58 | 深鉢 | 中期後葉 | (34.2) | — | <39.2> | 3311.0 | 50 | 炉内敷設土器 |
| 45 | 28 | 97 | SB 4 | No.24 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 193.6 | — | |
| 45 | 28 | 98 | SB 4 | ロ ウエ,SE | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | (147.8) | — | |
| 45 | 28 | 99 | SB 4 | SW | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 36.4 | — | |

| 図版番号 | PL番号 | 掲載番号 | 出土地点 | 注　記 | 器種 | 時期 | 口径cm | 底形cm | 器高cm | 重量g | 残存率% | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 45 | 28 | 100 | SB 4 | No. 2, 4, 25, E, W, SW | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | (160.1) | — | |
| 45 | 28 | 101 | SB 5 | N 0.19 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 36.4 | — | |
| 45 | 28 | 102 | SB 5 | No.18 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | (127.7) | — | |
| 45 | 28 | 103 | SB 5 | No. 9 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | (293.9) | — | |
| 45 | 28 | 104 | SB 5 | No. 1, SE | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | (336.5) | — | |
| 45 | 28 | 105 | SB 6 | ピット5, NW | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | (106.3) | — | |
| 45 | 28 | 106 | SB 6 | SB 6 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 78.8 | — | |
| 45 | 28 | 107 | SB 6 | SB 6 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | (75.9) | — | |
| 45 | 28 | 108 | SB 6 | ピット8 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | (110.7) | — | |
| 45 | 28 | 109 | SB 6 | No. 2, NW | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 102.8 | — | |
| 46 | 29 | 110 | SB 7 | ピット18 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | (299.9) | — | |
| 46 | 29 | 111 | SB 7 | SW | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 48.2 | — | |
| 46 | 29 | 112 | SB 7 | No.66 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 224.9 | — | |
| 46 | 29 | 113 | SB 7 | No.19 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | (75.5) | — | |
| 46 | 29 | 114 | SB 7 | No.62 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 247.7 | — | |
| 46 | 29 | 115 | SB 7 | No.59, NE 2ソウ, ケン | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | (337.4) | — | |
| 46 | 29 | 116 | SB 7 | NW 2ソウ | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 271.4 | — | |
| 46 | 29 | 117 | SB 7 | SEトレ, SW | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | (31.5) | — | |
| 46 | 29 | 118 | SB 8 | ケン, SW | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 149.3 | — | |
| 46 | 29 | 119 | SB 8 | ケン | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 30.9 | — | |
| 46 | 29 | 120 | SB 8 | ケン | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 19.9 | — | |
| 46 | 29 | 121 | SB 8 | ピット3 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 28.9 | — | |
| 46 | 29 | 122 | SB 8 | NW | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 30.6 | — | |
| 46 | 29 | 123 | SB 8 | ロ ショウド | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 19.8 | — | |
| 46 | 29 | 124 | SB 8 | SW | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 28.2 | — | |
| 46 | 29 | 125 | SB 8 | NE, NW | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 11.3 | — | |
| 46 | 29 | 126 | SB 8 | ケン | (深鉢) | 中期後葉 | — | — | — | 35.7 | — | |
| 46 | 29 | 127 | SB 8 | ケン | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | (36.1) | — | |
| 46 | 29 | 128 | SB 8 | ケン | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | (143.1) | — | |
| 47 | 30 | 129 | SB 9 | ロ ウエ | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 168.9 | — | |
| 47 | 30 | 130 | SB 9 | SE | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 47.6 | — | |
| 47 | 30 | 131 | SB 9 | SE ユカ | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 30.9 | — | |
| 47 | 30 | 132 | SB 9 | NE | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 41.6 | — | |
| 47 | 30 | 133 | SB 9 | SW | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 59.1 | — | |
| 47 | 30 | 134 | SB 9 | ロ | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 38.9 | — | |
| 47 | 30 | 135 | SB 9 | SW | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 45.5 | — | |
| 47 | 30 | 136 | SB 9 | ピット4, SE ユカ | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 73.4 | — | |
| 47 | 30 | 137 | SB 9 | ロ No. 1 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 138.7 | — | |
| 47 | 30 | 138 | SB10 | NE 1ソウ, NE | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 63.1 | — | |
| 47 | 30 | 139 | SB10 | ロ, SW | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 28.1 | — | |
| 47 | 30 | 140 | SB10 | No. 1, SE, SW | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 94.8 | — | |
| 47 | 30 | 141 | SB10 | No.13, ケン | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 70.6 | — | |

| 図版番号 | PL番号 | 掲載番号 | 出土地点 | 注　記 | 器種 | 時期 | 口径 cm | 底形 cm | 器高 cm | 重量 g | 残存率% | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 47 | 30 | 142 | SB10 | NW | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 43.1 | — | |
| 47 | 30 | 143 | SB10 | NW 1ソウ,ケン | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 65.7 | — | |
| 47 | 30 | 144 | SB10 | NE | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 28.5 | — | |
| 47 | 30 | 145 | SB10 | ケン | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 142.0 | — | |
| 47 | 30 | 146 | SB10 | No.66 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 303.7 | — | |
| 47 | 30 | 147 | SB10 | No.66 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 296.0 | — | |
| 48 | 31 | 148 | SB11 | No.33 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 114.1 | — | |
| 48 | 31 | 149 | SB11 | SW | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | (51.3) | — | |
| 48 | 31 | 150 | SB11 | SW | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | (148.6) | — | |
| 48 | 31 | 151 | SB11 | No. 4 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 148.1 | — | |
| 48 | 31 | 152 | SB11 | No.26 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 86.5 | — | |
| 48 | 31 | 153 | SB11 | No.31,SE 1ソウ,SW | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 144.4 | — | |
| 48 | 31 | 154 | SB11 | SE 2ソウ,NE 2ソウ,SW | 浅鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 66.4 | — | |
| 48 | 31 | 155 | SB11 | No.30 | 浅鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 256.0 | — | |
| 48 | 31 | 156 | SB13 | No. 4 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 169.9 | — | |
| 48 | 31 | 157 | SB13 | SW 1ソウ | (深鉢) | 中期後葉 | — | — | — | 33.9 | — | |
| 48 | 31 | 158 | SB13 | NE 1ソウ | (深鉢) | 中期後葉 | — | — | — | 20.5 | — | |
| 48 | 31 | 159 | SB13 | ロ No.132～138 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | (563.3) | — | 炉内敷設土器 |
| 48 | 31 | 160 | SB13 | No.13 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | (88.7) | — | |
| 48 | 31 | 161 | SB13 | SEトレ | (深鉢) | 中期後葉 | — | — | — | 19.5 | — | |
| 49 | 32 | 162 | SB14 | ロ No.47 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 1035.0 | — | 炉内敷設土器 |
| 49 | 32 | 163 | SB14 | No.12,SE 1ソウ,ケン | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | (163.7) | — | |
| 49 | 32 | 164 | SB14 | No.16,ケン | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 139.1 | — | |
| 49 | 32 | 165 | SB14 | SW 2ソウユカ | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 34.5 | — | |
| 49 | 32 | 166 | SB14 | SW 2ソウユカ | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 82.0 | — | |
| 49 | 32 | 167 | SB15 | No.14 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 123.3 | — | |
| 49 | 32 | 168 | SB15 | No.14,W 1ソウ,Eトレ | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 159.3 | — | |
| 49 | 32 | 169 | SB15 | NE 1ソウ | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 39.5 | — | |
| 49 | 32 | 170 | SB15 | ピット7,No.12,14,NE 1ソウ,W 1ソウ,E 2ソウ,NW,NEトレ,Eトレ,Wトレ | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | (443.5) | — | |
| 49 | 32 | 171 | SB15 | ピット4,ピット6,2ソウ | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | (116.6) | — | |
| 49 | 32 | 172 | SB15 | ロ,No. 1,10,11,W 1ソウ,NW 1ソウ,NW,E 2ソウ,NE 1ソウ,Wトレ | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 43.4 | — | |
| 49 | 32 | 173 | SB15 | W 1ソウ | 浅鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 169.4 | — | 内外面に赤色塗彩 |
| 50 | 33 | 174 | SB16 | カベケン W | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 41.4 | — | |
| 50 | 33 | 175 | SB16 | NE 1ソウ | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 37.4 | — | |
| 50 | 33 | 176 | SB16 | ケン | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 31.4 | — | |
| 50 | 33 | 177 | SB16 | Wトレ | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 44.8 | — | |

| 図版番号 | PL番号 | 掲載番号 | 出土地点 | 注　記 | 器種 | 時期 | 口径cm | 底形cm | 器高cm | 重量g | 残存率% | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 50 | 33 | 178 | SB16 | Wトレ | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 29.0 | — | |
| 50 | 33 | 179 | SB16 | Eトレ | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | (47.7) | — | |
| 50 | 33 | 180 | SB16 | NW 1ソウ | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 13.7 | — | |
| 50 | 33 | 181 | SB16 | SNベルト1ソウ | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 31.4 | — | |
| 50 | 33 | 182 | SB16 | No. 8 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 105.0 | — | |
| 50 | 33 | 183 | SB16 | No. 9 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 76.0 | — | |
| 50 | 33 | 184 | SB16 | No. 3 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 80.6 | — | |
| 50 | 33 | 185 | SB16 | ピット1 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 46.1 | — | 白色粒の量が非常に多い |
| 50 | 33 | 186 | SB16 | No.12, 15, E 1ソウ | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | (467.6) | — | |
| 50 | 33 | 187 | SB16 | ケン | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 104.0 | — | |
| 50 | 33 | 188 | SB16 | ピット1 | 浅鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 78.2 | — | |
| 50 | 33 | 189 | SB17 | ロ No.26, 28, 46 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 437.8 | — | 炉内敷設土器 |
| 51 | 34 | 190 | SB17 | ロ No. 1 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 378.1 | — | 炉内敷設土器 |
| 51 | 34 | 191 | SB17 | ロ No. 9, 22, 23 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 201.9 | — | 炉内敷設土器 |
| 51 | 34 | 192 | SB17 | ロ No.30 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 161.2 | — | 炉内敷設土器 |
| 51 | 34 | 193 | SB17 | ロ No.16, 28, 37 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | (107.0) | — | 炉内敷設土器 |
| 51 | 34 | 194 | SB18 | NW, SNトレ | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 624.5 | — | |
| 51 | 34 | 195 | SB18 | ピット1, NW, NW 1ソウ, ユカシタ | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | (255.3) | — | |
| 51 | 34 | 196 | SB18 | SB18 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 88.1 | — | |
| 51 | 34 | 197 | SB18 | NW | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 111.5 | — | |
| 51 | 34 | 198 | SB18 | NE 1ソウ | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 34.7 | — | |
| 51 | 34 | 199 | SB18 | NW 1ソウ | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 22.8 | — | |
| 51 | 34 | 200 | SB18 | No. 1, NW 1ソウ, SEトレ | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 93.7 | — | |
| — | 35 | 201 | SK 7 | SK 7 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 16.9 | — | |
| — | 35 | 202 | SK 9 | SK 9 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 18.7 | — | |
| — | 35 | 203 | SK23 | SK23 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 41.6 | — | |
| — | 35 | 204 | SK46 | SK46 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 15.5 | — | |
| — | 35 | 205 | SK56 | SK56 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 124.4 | — | |
| — | 35 | 206 | SK56 | SK56 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 33.4 | — | |
| — | 35 | 207 | SK56 | SK56 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 27.7 | — | |
| — | 35 | 208 | SK57 | SK57 1ソウ | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 150.0 | — | |
| — | 35 | 209 | SK57 | SK57 1ソウ | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | (232.9) | — | |
| — | 35 | 210 | SK64 | SK64 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 50.9 | — | |
| — | 35 | 211 | SK64 | SK64 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 61.8 | — | |
| — | 35 | 212 | SK72 | SK72 1ソウ | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 19.5 | — | |
| — | 35 | 213 | SK72 | SK72 1ソウ | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 26.7 | — | |

| 図版番号 | PL番号 | 掲載番号 | 出土地点 | 注　記 | 器種 | 時期 | 口径cm | 底形cm | 器高cm | 重量g | 残存率% | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| — | 35 | 214 | SK107 | SK107 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 25.3 | — | |
| — | 35 | 215 | SK109 | SK109 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 24.7 | — | |
| — | 35 | 216 | SK120 | SK120 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 16.6 | — | |
| — | 35 | 217 | SK120 | SK120 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 30.1 | — | |
| — | 36 | 218 | Z | NR 2 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 210.6 | — | |
| — | 36 | 219 | Z | SK55 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | (161.0) | — | |
| — | 36 | 220 | IY12-2 | IY12- 2 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | (180.7) | — | |
| — | 36 | 221 | IY01 | IY01- 2（Ⅱａソウ,Ⅱｂソウ） | 浅鉢 | 中期後葉 | — | — | — | (153.6) | — | 内外面に赤色塗彩 |
| — | 36 | 222 | IY02 | IY02- 4 Ⅱａソウ | 浅鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 160.0 | — | 内外面に赤色塗彩 |
| — | 36 | 223 | Z | Z | 浅鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 61.0 | — | 内外面に赤色塗彩 |
| — | 36 | 224 | IY06 | IY06- 2-11 Ⅱａソウカブ | 浅鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 85.3 | — | 内外面に赤色塗彩 |
| — | 36 | 225 | IY07 | IY07- 1 Ⅱｂソウ | 浅鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 49.8 | — | 内外面に赤色塗彩 |
| — | 36 | 226 | IY06 | IY06- 2- 8 Ⅱａソウカブ | 浅鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 69.3 | — | 内外面に赤色塗彩 |

＊器種の（　）は推定を示す。
＊口径・底径・器高における計測値は、（　　）推定値、＜　＞残存値を示す。
＊重量における（　　）は、石膏を含む。
＊残存率は略完形および反転復元した個体に示す。

付表6　山鳥場遺跡　縄文時代後・晩期土器観察表

| 図版番号 | PL番号 | 掲載番号 | 出土地点 | 注　記 | 器種 | 時　期 | 口径 cm | 底径 cm | 器高 cm | 重量 g | 残存率% | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 52 | 37 | 1 | SB 3 | ロ1　No. 1 | 深鉢 | 後晩期 | 最大径 (26.2) | — | (7.4) | (105.1) | 10 | SB 3 炉底部に敷設 |
| 52 | 37 | 2 | SB 3 | ロ1　No. 1 | 深鉢 | 後晩期 | — | — | — | (58.1) | — | SB 3 炉底部に敷設 |
| 52 | 37 | 3 | SB 3 | ロ1　No. 1 | 深鉢 | 後晩期 | — | — | — | (48.9) | — | SB 3 炉底部に敷設 |
| 52 | 37 | 4 | SB 3 | ロ1<br>ロ1　No. 1 | 深鉢 | 後期初頭～前葉 | — | — | — | (286.9) | — | SB 3 炉底部に敷設 |
| 52 | 37 | 5 | (SB3) | ロ1 | 深鉢 | 中期後葉 | — | — | — | 69.8 | — | 混入 |
| 52 | 37 | 6 | SB 3 | ロ1 | 鉢 | 後期初頭～前葉 | — | — | — | 31.3 | — | |
| 52 | 37 | 7 | (SB3) | ロ1 | 鉢 | 晩期初頭 | — | — | — | 16.5 | — | 混入 |
| 52 | 37 | 8 | SK90 | SB10<br>No. 5. 6.15 | 深鉢 | 後期前葉 | <22.2> | — | <19.1> | (1530) | 60 | 逆位で出土、屋外単独埋甕か |
| 52 | 37 | 9 | SK94 | SK94 | 深鉢か | 後晩期 | — | — | — | 8.8 | — | チャート原石（PL50 －100）と伴出 |
| 52 | 37 | 10 | SK94 | SK94 | 壺形 | 晩期前葉 | — | — | — | 28.6 | — | チャート原石（PL50 －100）と伴出 |
| 52 | 37 | 11 | SF 1 | SF 1 | 深鉢 | 後期初頭～前葉 | — | — | — | 23.7 | — | |
| 52 | 37 | 12 | SF 1 | SF 1 | 深鉢か | 中期末～後期初頭 | — | — | — | 14.8 | — | |
| 52 | 37 | 13 | SF 1 | SF 1 | 鉢 | 後期初頭～前葉 | — | — | — | 10.3 | — | |
| 53 | 38 | 14 | IY01- 4 | Ⅱ b ソウ | 深鉢 | 後期初頭 | — | — | — | 49.1 | — | |
| 53 | 38 | 15 | ②区<br>かく乱 | Z | 深鉢 | 後期初頭 | — | — | — | (329.7) | — | 両耳壺 |
| 53 | 38 | 16 | NR 1 | SB 3　シキイ<br>シ カクチケン | 浅鉢 | 後期初頭 | — | — | — | 48.6 | — | |
| 53 | 38 | 17 | NR 1 | ドキシュウ | 浅鉢 | 後期前葉 | — | — | — | 75.4 | — | 東海系か |
| 53 | 38 | 18 | IS16 | SB 6 NW | 浅鉢 | 後期初頭 | — | — | — | 37.9 | — | 混入 |
| 53 | 38 | 19 | NR 1 | IS16-16 | 深鉢 | 後期初頭 | — | — | — | 101.4 | — | 大形壺 |
| 53 | 38 | 20 | NR 1 | 2 ク -10 | 深鉢 | 後期前葉 | — | — | — | 172.2 | — | |
| 53 | 38 | 21 | IS12・17 | IS12<br>1 ク -10 | 深鉢 | 中期末～後期初頭 | — | — | — | 51.2 | — | |
| 53 | 38 | 22 | NR 1 | 1 ク -10 | 深鉢 | 後期前葉 | — | — | — | 4.6 | — | 石神類型 |
| 53 | 38 | 23 | NR 1 | ドキシュウ | 深鉢 | 後期前葉 | — | — | — | 4.6 | — | 石神類型 |
| 53 | 38 | 24 | NR 1 | SB 3　シキイ<br>シ カクチケン | 注口土器 | 後期中葉 | — | — | — | 4.5 | — | |
| 53 | 38 | 25 | NR 1 | ドキシュウ | 注口土器 | 後期中葉 | — | — | — | 8.0 | — | |
| 53 | 38 | 26 | NR 1 | ドキシュウ | 深鉢 | 後期前葉 | — | — | — | 27.8 | — | |
| 53 | 38 | 27 | NR 1 | IS16 1 ソウ | 深鉢 | 後期前葉 | — | — | — | 13.4 | — | |
| 53 | 38 | 28 | NR 1 | 1 ク -10 | 深鉢 | 後期前葉 | — | — | — | 21.8 | — | |
| 53 | 38 | 29 | NR 1 | SB 3 | 浅鉢 | 後期中葉 | — | — | — | 16.7 | — | |

| 図版番号 | PL番号 | 掲載番号 | 出土地点 | 注　記 | 器種 | 時　期 | 口径 cm | 底径 cm | 器高 cm | 重量 g | 残存率% | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 53 | 38 | 30 | NR 1 | 1ク-20 | 浅鉢 | 後期前葉 | — | — | — | 17.3 | — | |
| 53 | 38 | 31 | NR 1 | SB 3 NW | 浅鉢 | 後期前葉 | — | — | — | 34.7 | — | |
| 53 | 38 | 32 | NR 1 | IS16-19 | 深鉢 | 後期中葉 | — | — | — | 21.7 | — | |
| 53 | 38 | 33 | NR 1 | SB 3 | 深鉢 | 後期中葉 | — | — | — | 21.4 | — | |
| 53 | 38 | 34 | NR 1 | IS16 | 深鉢 | 後期中葉 | — | — | — | 36.0 | — | |
| 54 | 38 | 35 | NR 1 | IS16-13 | 深鉢 | 後期後葉 | — | — | — | 36.9 | — | |
| 54 | 38 | 36 | NR 1 | SB 3 NW | 深鉢 | 後期後葉 | — | — | — | 39.9 | — | |
| 54 | 39 | 37 | NR 1 | ドキシュウ | 深鉢 | 後期後葉 | — | — | — | 22.8 | — | |
| 54 | 39 | 38 | IS12・17 | IS12.17-20 | 深鉢 | 後期後葉 | — | — | — | 12.4 | — | |
| 54 | 39 | 39 | IS12・17 | IS12.17-17 | 深鉢 | 後期後葉 | — | — | — | 27.2 | — | |
| 54 | 39 | 40 | IS17 | IS17No.13 | 深鉢 | 後期後葉 | — | — | — | 36.1 | — | |
| 54 | 39 | 41 | NR 1 | SB 3 | 深鉢 | 後期後葉 | — | — | — | 18.9 | — | |
| 54 | 39 | 42 | NR 1 | SB 3 | 深鉢 | 後期後葉 | — | — | — | 94.2 | — | |
| 54 | 39 | 43 | NR 1 | IS16-13 | 深鉢 | 後期後葉 | — | — | — | 21.2 | — | |
| 54 | 39 | 44 | NR 1 | SB 3 S カベトレ W | 深鉢 | 後期後葉 | — | — | — | (54.5) | — | |
| 54 | 39 | 45 | NR 1 | SB 3 NW | 深鉢 | 後期後葉 | — | — | — | 36.4 | — | |
| 54 | 39 | 46 | NR 1 | 1ク-10 | 深鉢 | 後期末葉 | — | — | — | 41.1 | — | |
| 54 | 39 | 47 | NR 1 | 1ク-10 | 深鉢 | 後期末葉 | — | — | — | (43.4) | — | |
| 54 | 39 | 48 | NR 1 | SB 3 NW | 深鉢 | 晩期初頭 | — | — | — | 32.9 | — | |
| 54 | 39 | 49 | NR 1 | IS16-18 | 深鉢 | 晩期初頭 | — | — | — | 20.3 | — | |
| 54 | 39 | 50 | IY01-3 | Ⅱbソウベルト | 深鉢 | 晩期初頭 | — | — | — | 32.5 | — | |
| 54 | 39 | 51 | NR 1 | 1ク-10 | 深鉢 | 晩期初頭 | — | — | — | 40.4 | — | |
| 54 | 39 | 52 | NR 1 | ドキシュウ | 深鉢 | 晩期初頭 | — | — | — | (84.8) | — | |
| 54 | 39 | 53 | NR 1 | ドキシュウ | 深鉢 | 晩期初頭 | — | — | — | (148.6) | — | |
| 54 | 39 | 54 | NR 1 | ドキシュウ | 深鉢か | 晩期初頭 | — | — | — | 35.9 | — | |
| 54 | 39 | 55 | NR 1 | SB 3 NW | 深鉢か | 晩期初頭 | — | — | — | 21.1 | — | |
| 54 | 39 | 56 | NR 1 | IS16-20<br>IS16-15<br>ドキシュウ | 深鉢 | 後期末葉 | (27.0) | — | <6.4> | 144.4 | 20 | |
| 54 | 39 | 57 | NR 1 | ドキシュウ | 深鉢 | 晩期初頭 | (37.0) | — | <8.4> | (244.8) | 10 | |
| 55 | 39 | 58 | NR 1 | 1ク-20 | 注口土器 | 晩期前半 | 最大径<br>(10.6) | — | <6.0> | (58.9) | 25 | |
| 55 | 39 | 59 | NR 1 | 1ク-10 | 壺形 | 晩期前半 | — | — | — | 10.1 | — | |
| 55 | 39 | 60 | NR 1 | IS16- 1<br>IS16- 2 | 壺形 | 晩期前半 | — | — | — | 12.4 | — | |
| 55 | 39 | 61 | IY07-4 | トレ | 深鉢か | 晩期後葉 | — | — | — | 13.4 | — | |
| 55 | 39 | 62 | NR 1 | 1ク-10<br>ドキシュウ | 深鉢 | 晩期初頭 | (30.0) | — | <8.7> | (96.5) | 10 | |
| 55 | 39 | 63 | NR 1 | SB 3 NW | 深鉢 | 後期初頭～<br>前葉 | — | — | — | 8.0 | — | |
| 55 | 40 | 64 | IS12・17 | IS12<br>1ク-10 | 深鉢 | 後期後半～<br>晩期前半 | — | — | — | 167.8 | — | |

| 図版番号 | PL番号 | 掲載番号 | 出土地点 | 注　記 | 器種 | 時　期 | 口径 cm | 底径 cm | 器高 cm | 重量 g | 残存率% | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 55 | 40 | 65 | NR 1 | IS16- 4 | 深鉢 | 後期後半～晩期前半 | — | — | — | 72.8 | — | |
| 55 | 40 | 66 | IY03-3 | Ⅱａソウ | 皿形 | 後期後半～晩期前半 | — | — | — | 31.0 | — | |
| 55 | 40 | 67 | NR 1 | NR 1 | 鉢 | 後期後半～晩期前半 | — | — | — | 27.2 | — | |
| 55 | 40 | 68 | NR 1 | １ク-10 | 深鉢 | 後期後半～晩期前半 | — | — | — | 53.0 | — | |
| 55 | 40 | 69 | NR 1 | SB 3 NW | 深鉢 | 後期後半～晩期前半 | — | — | — | 35.7 | — | |
| 55 | 40 | 70 | NR 1 | ドキシュウ １ク-10 | 深鉢 | 晩期後半か | — | (6.6) | <13.2> | (239.1) | 30 | 底部に網代痕 |
| 55 | 40 | 71 | NR 1 | ドキシュウ | 深鉢 | 晩期後半か | — | (7.4) | <8.2> | (225.5) | 20 | 底部に木葉痕 |
| 55 | 40 | 72 | IY06 | Ⅱｂソウ No. 4 | 深鉢 | 後期後半～晩期前半 | (30.2) | — | <27.3> | (2185) | 40 | |
| 56 | 40 | 73 | NR 1 | SB 3 NW | 注口土器 | 後期前葉 | — | — | — | 73.1 | — | |
| 56 | 40 | 74 | NR 1 | ２ク | 注口土器 | 晩期前半 | — | — | — | 15.4 | — | |
| 56 | 40 | 75 | NR 1 | IS16-16 | 注口土器 | 後期前葉 | — | — | — | 35.6 | — | |
| 56 | 40 | 76 | IX10 | Ⅱｂソウ | 注口土器 | 後期初頭～前葉 | — | — | — | 54.4 | — | |
| 56 | 40 | 77 | IS18 | IS18 | 注口土器 | 後期前葉 | 注口径 <1.25> | 接合部 2.2 | <5.8> | 28.5 | — | |
| 56 | 40 | 78 | NR 1 | ドキシュウ | 注口土器 | 後期前葉～中葉 | 注口径 2.2 | 接合部 3.3 | <9.5> | 86.3 | — | |
| 56 | 40 | 79 | NR 1 | SB 3 NW | 注口土器 | 後期前葉～中葉 | 注口径 1.7 | 接合部 4.1 | <8.0> | 69.7 | — | |
| 56 | 37 | 80 | NR 1 | NR 1 | 台付鉢脚部 | 晩期前半 | 接合部 (9.2) | — | <4.2> | 22.1 | — | 三叉文状のすかし孔 |
| 56 | 37 | 81 | NR 1 | NR 1 | 台付鉢脚部 | 晩期前半 | 接合部 (5.0) | <7.8> | <8.3> | 166.8 | — | |
| 56 | 37 | 82 | NR 1 | SB 3 NW | 台付鉢脚部 | 晩期前半 | 接合部 (5.9) | 7.0 | <5.6> | 147.6 | — | 接合部に網代痕 |
| 56 | 37 | 83 | IS17 | SK49 | 台付鉢脚部 | 晩期前半 | 最大径 (11.6) | — | <4.0> | 265.7 | — | |
| 56 | 37 | 84 | NR 1 | NR 1 | 台付鉢脚部 | 晩期前半 | 最大径 (9.4) | — | <3.3> | 166.7 | — | |
| 56 | 37 | 85 | NR 1 | SK 2 | 台付鉢脚部 | 晩期前半 | — | 8.0 | <3.8> | 151.9 | — | |
| 56 | 37 | 86 | NR 1 | SB 3　シキイシ カクチケン | 蓋形土器 | 後期前葉 | 6.9 | — | 2.5 | 54.9 | 95 | 蓋の内側に炭化物が付着 |

＊口径・底径・器高における計測値は（　）推定値、＜　＞残存値を示す。
＊重量は図示した破片量を示し、（　）で囲んだものは復元石膏の重量も含む。　＊＊残存率の「—」は破片を示す。
＊表中、「NR 1」の注記記号は複数ある。整理作業時に自然流路と判断し、資料をまとめたことによる。
例えば、南壁付近で土器が集中したところを「ドキシュウ」、のちの NR 1 中央部を「１ク」、同北半を「２ク」として遺物を取りあげている。さらに SB 3 に帰属する資料は SB 3 炉1・2のみとし、そのほかを NR 1 に含めたことによる。

## 付表7　山鳥場遺跡　土製品観察表

| 図版番号 | PL番号 | 掲載番号 | 地区 | 出土地点 | | 種類 | 時期 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 残存状況 | 注記 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 57 | 41 | 1 | Z | 表採 | — | 土偶 | 中期後葉 | <6.0> | <4.7> | 3.0 | 38.0 | 欠損 | — |
| 57 | 41 | 2 | ④ | IY 07-3 | Ⅱa層 | 土偶 | 中期後葉 | <5.9> | <5.7> | 3.6 | 76.1 | 欠損 | — |
| 57 | 41 | 3 | ② | SB 5 | 炉上面 | 土偶 | 中期後葉 | <6.7> | <7.5> | <4.1> | 77.5 | 欠損 | EYT 2 SB 5 ロウエ |
| 57 | 41 | 4 | ② | SB 5 | 炉№3 | 土偶 | 中期後葉 | 高さ：(15.4) | 横幅：5.7 | 断面厚：(7.5) | 263.1 | 欠損(2点が接合) | EYT SB 5 ロ №3 |
| | | | | | №18 | | | | | | | | — |
| 58 | 42 | 5 | ④ | IY07-2 | Ⅱb層 | 土偶 | 中期後葉 | <8.0> | <4.4> | <4.0> | 112.1 | 欠損 | — |
| 58 | 42 | 6 | ② | SB 7 | №3 | 土偶 | 中期後葉 | <4.2> | <5.6> | 2.3 | 45.7 | 欠損 | — |
| 58 | 42 | 7 | ② | SB 7 | 検出面 | 土偶 | 中期後葉 | <6.7> | <11.2> | 2.6 | 124.3 | 欠損 | EYT SB 7 ケン |
| 58 | 42 | 8 | ④ | IY 06-2-11 | Ⅱa層(Ⅱb層直上) | 土偶 | 中期後葉 | <6.6> | <5.0> | 2.6 | 73.9 | 欠損 | — |
| 58 | 42 | 9 | ④ | IY04-3 | Ⅱa層 | 土偶 | 中期後葉 | 高さ：<3.5> | 横幅：<3.5> | 断面厚：<6.2> | 51.0 | 欠損 | — |
| 58 | 42 | 10 | ④ | IY03-1 | Ⅱa層 | 土偶 | 後晩期 | 高さ：<6.2> | 横幅：<4.0> | 断面厚：<3.4> | 59.6 | 欠損 | — |
| 58 | 42 | 11 | ④ | SB18 | 北西ブロック | 土偶 | 中期後葉か | 高さ：<3.0> | 横幅：<2.6> | 断面厚：<3.6> | 27.6 | 欠損 | EYT SB18 NW |
| 59 | 43 | 12 | ② | SB 5 | №23 | ミニチュア土器 | 中期後葉 | 高さ：11.3 | 口径：<9.4> | 底径：<5.3> | (161.8) | 胴半欠損 | EYT 2 SB 5 №23 |
| 59 | 43 | 13 | ③ | SB13 | №99 | ミニチュア土器 | 中期後葉 | 高さ：<9.6> | 胴径：<9.8> | 底径：6.4 | 210.3 | 口縁～頸部欠損 | EYT SB13 №99 |
| 59 | 43 | 14 | ② | SB10 | P 3 | ミニチュア土器 | 中期後葉 | 高さ：5.0 | 口径：4.0 | 底径：3.0 | 70.9 | 完形 | EYT SB10 ピット3 |
| 59 | 43 | 15 | ④ | SB18 | 南北トレンチ | ミニチュア土器 | 中期後葉 | <4.6> | <2.8> | 1.0 | 11.6 | 破片 | EYT SB18 SN トレ |
| 59 | 43 | 16 | ④ | SB14 | 南西1層 | ミニチュア土器 | 中期後葉 | <3.3> | <3.2> | 0.5 | 6.0 | 破片 | EYT SB14 SW 1ソウ |
| 59 | 43 | 17 | ④ | IY01-1 | Ⅱa層 | ミニチュア土器 | 中期後葉 | <3.1> | <4.6> | 1.2 | 16.0 | 破片 | EYT IY 1-1 Ⅱaソウ |
| 59 | 43 | 18 | ② | NR 1 | — | ミニチュア土器 | 後期前葉 | <2.4> | <3.2> | 0.6 | 16.3 | 破片 | EYT 2 SB 3 NW |
| 59 | 43 | 19 | ④ | IY06-4 | Ⅱb層 | ミニチュア土器 | 後晩期 | <3.3> | <3.2> | 0.7 | 3.9 | 破片 | EYT IY 6-4 Ⅱbソウ |
| 59 | 43 | 20 | ④ | IY06-4 | Ⅱb層 | ミニチュア土器 | 後晩期 | <3.4> | <3.4> | 0.7 | 8.9 | 破片(2点が同一個体) | EYT IY 6-4 Ⅱbソウ |
| | | | | | | | | <4.3> | <4.4> | 0.7 | 11.9 | | EYT IY 6-4 Ⅱbソウ |
| 59 | 43 | 21 | ② | Z | (旧SK55) | ミニチュア土器 | 中期後葉 | 高さ：<3.3> | 胴径：<6.8> | 胴厚：<3.1> | 21.9 | 破片 | EYT SK55 |
| 59 | 44 | 22 | ④ | SB18 | 北西ブロック | 土製品(釣手形土器か) | 中期後葉 | 高さ：(4.6) | 横幅：(7.2) | 断面厚：(2.6) | 53.5 | 欠損(2点が接合) | EYT SB18 NW |
| | | | | | 南北トレンチ | | | | | | | | EYT SB18 SN トレ |
| 59 | 44 | 23 | ② | SB 8 | 検出面 | 土製品(腕輪か) | 後期初頭か | 高さ：2.5 | <3.3> | 推定径：7.0 | 8.7 | 破片 | EYT SB 8 ケン |
| 60 | 44 | 24 | ④ | SB15 | 南北ベルト7層 | 土製円板 | 中期後葉 | 5.3 | 5.4 | 1.4 | 44.4 | — | EYT SB15 ベルト7ソウ |
| 60 | 44 | 25 | ② | IS16 | Ⅱ層相当 | 土製円板 | 中期後葉 | 3.4 | 3.2 | 1.2 | 15.7 | — | EYT IS16 |
| 60 | 44 | 26 | ④ | IY01-1 | Ⅱa層 | 土製円板 | 中期後葉 | 4.5 | 5.8 | 1.3 | 29.4 | — | EYT IY 1-1 Ⅱaソウ |
| 60 | 44 | 27 | ④ | SB16 | 西トレンチ | 土製円板 | 中期後葉 | 3.6 | 3.1 | 1.4 | 14.7 | — | EYT SB16 Wトレ |
| 60 | 44 | 28 | ② | SB11 | 北東 | 土製円板 | 中期後葉 | 4.6 | 5.8 | 1.0 | 37.1 | — | EYT SB11 NE |
| 60 | 44 | 29 | ② | SB11 | 南西 | 土製円板 | 中期後葉 | 2.0 | 2.7 | 0.9 | 9.3 | — | EYT 2 SB 7 SW 2ソウ |

| 図版番号 | PL番号 | 掲載番号 | 地区 | 出土地点 | | 種類 | 時期 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 残存状況 | 注記 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 60 | 44 | 30 | ④ | IY01-1 | Ⅱa層 | 土製円板 | 後晩期 | 3.7 | 4.9 | 1.1 | 18.7 | — | EYT IY 1-1 Ⅱョソウ |
| 60 | 44 | 31 | ② | NR 1 | — | 土製円板 | 後晩期か | 3.4 | 3.2 | 1.2 | 30.0 | — | EYT SK 8 |
| 60 | 44 | 32 | ② | NR 1 | — | 土製円板 | 不明 | 2.9 | 3.5 | 0.8 | 9.1 | — | EYT SB 3 NW |
| 60 | 44 | 33 | ④ | IY02-3 | Ⅱa層 | 土製円板 | 不明 | 2.5 | 3.0 | 0.9 | 4.6 | — | EYT IY 2-3 Ⅱョソウ |
| 60 | 44 | 34 | ③ | IX05-2 | Ⅱa層 | 土製円板 | 不明 | 3.3 | 3.6 | 0.6 | 11.7 | — | EYT IX 5-2 Ⅱョソウ |
| 60 | 44 | 35 | ② | IS12 | Ⅱ層相当 | 土製円板 | 不明 | 4.3 | 4.8 | 1.2 | 28.1 | — | EYT IS12 |
| 60 | 44 | 36 | ④ | IY02 | 表採 | 耳飾 | 晩期初頭 | 4.8 | — | 高さ:2.2 | 37.0 | やや欠損 | — |
| 60 | 44 | 37 | ② | IS12・17 | — | 耳飾 | 晩期初頭 | 4.2 | — | 高さ:2.5 | 49.0 | やや欠損 | EYT NR 1 IS12・17 |
| 60 | 44 | 38 | ② | NR 1 | — | 耳飾 | 晩期初頭 | 3.0 | — | 高さ:2.0 | 18.4 | やや欠損 | EYT SB 3 NW |
| 60 | 44 | 39 | ④ | IY02-1 | Ⅱb層 | 耳飾 | 晩期初頭 | 2.0 | — | 高さ:1.6 | 7.6 | 完形 | — |
| 60 | 44 | 40 | ④ | IY06-4 | Ⅱb層 | 耳飾 | 晩期初頭 | 1.9 | — | 高さ:2.1 | 8.9 | 完形 | — |
| 60 | 44 | 41 | ④ | IY01-4 | Ⅱb層 | 耳飾 | 晩期初頭 | 2.0 | — | 高さ:1.4 | 4.2 | やや欠損 | — |
| 60 | 44 | 42 | ④ | SB14 | 南西1層 | 耳飾 | 晩期初頭 | 1.2 | — | 高さ:1.0 | 1.8 | 完形 | — |
| 60 | 44 | 43 | ② | NR 1 | — | 耳飾 | 晩期初頭 | 2.7 | — | 高さ:1.9 | 16.0 | やや欠損 | EYT SB 3 SW |
| 60 | 44 | 44 | ④ | IY06-4 | Ⅱb層 | 耳飾 | 晩期初頭 | 2.6 | — | 高さ:1.9 | 12.2 | やや欠損 | — |
| 60 | 44 | 45 | ① | Z | 表採 | 耳飾 | 晩期初頭 | <3.2> | — | 高さ:1.7 | 11.1 | やや欠損 | EYT 1 Z |
| 60 | 44 | 46 | ④ | IY01-4 | Ⅱa層検出面 | 耳飾 | 晩期初頭 | 3.1 | — | 高さ:1.9 | 13.3 | やや欠損 | — |
| 60 | 44 | 47 | ② | NR 1 | — | 耳飾 | 晩期初頭 | <3.8> | — | 高さ:1.9 | 4.3 | 破片 | — |
| 60 | 44 | 48 | ④ | IX05-4 | Ⅱa層 | 耳飾 | 晩期初頭 | <3.3> | — | 高さ:2.1 | 5.7 | 破片 | — |
| — | 43 | 49 | ② | NR 1 | — | 粘土塊 | 不明 | 5.6 | 5.6 | — | 74.5 | — | EYT 2 SB 3 SE |
| — | 43 | 50 | ② | NR 1 | — | 粘土塊 | 不明 | 5.3 | 4.3 | — | 50.1 | — | EYT 2 SB 3 SE |
| — | 43 | 51 | ② | NR 1 | — | 粘土塊 | 不明 | 4.6 | 4.2 | — | 33.6 | — | EYT 2 SB 3 SE |
| — | 43 | 52 | ② | NR 1 | — | 粘土塊 | 不明 | 4.8 | 3.8 | — | 34.4 | — | EYT 2 SB 3 SE |
| — | 43 | 53 | ② | NR 1 | — | 粘土塊 | 不明 | 5.5 | 4.8 | — | 59.6 | — | EYT 2 SB 3 NW |
| — | 43 | 54 | ② | NR 1 | — | 粘土塊 | 不明 | 4.7 | 3.9 | — | 43.3 | — | EYT 2 SB 3 NW |
| — | 43 | 55 | ② | NR 1 | — | 粘土塊 | 不明 | 4.1 | 4.1 | — | 34.2 | — | EYT 2 SB 3 NW |
| — | 43 | 56 | ② | NR 1 | — | 粘土塊 | 不明 | 4.0 | 2.7 | — | 18.1 | — | EYT 2 SB 3 NW |
| — | 43 | 57 | ② | NR 1 | — | 粘土塊 | 不明 | 4.4 | 3.5 | — | 36.6 | — | EYT NR 1 IS16 |
| — | 44 | 58 | ② | SB 7 | 北東2層 | 土製円板 | 中期後葉 | 6.7 | 8.6 | 1.4 | 62.0 | — | EYT SB 7 NE 2ソウ |
| — | 44 | 59 | ④ | IY06-2 | Ⅱa層 | 土製円板 | 中期後葉 | 4.0 | 5.2 | 1.6 | 37.2 | — | EYT IY 6-2 Ⅱョソウ |
| — | 44 | 60 | ② | SB 9 | G No.12 | 土製円板 | 中期後葉 | 3.8 | 3.8 | 1.1 | 12.8 | — | EYT SB 9 GNo.12 |
| — | 44 | 61 | ② | IX | Z | 土製円板 | 中期後葉 | 3.4 | 3.3 | 1.1 | 11.6 | — | EYT IX Z |
| — | 44 | 62 | ④ | IX05-4 | Ⅱa層 | 耳飾 | 晩期初頭 | <2.7> | — | 高さ:1.8 | 4.0 | 破片 | EYT IX 5-4 Ⅱョソウ |
| — | 44 | 63 | ④ | IY01-1 | Ⅱa層 | 耳飾 | 晩期初頭 | (4.3) | — | 高さ:1.4 | 3.0 | 破片(2点が接合) | EYT IY 1-1 Ⅱョソウ |
| — | 44 | 64 | ④ | IY03-3 | Ⅱa層 | 土偶 | 中期後葉か | 高さ:<5.0> | 横幅:<3.0> | 断面厚:<4.0> | 48.4 | 欠損 | — |

＊長さ・幅・厚さの計測数値において、＜　＞は残存値を示し、(　) は接合し1つの個体になったことを示す。
＊重量は図示した破片量を示し、(　) で囲んだものは復元石膏の重量も含む。　＊＊残存率の「—」は破片を示す。
＊焼成粘土塊は、最大軸部を「長さ」、それに直交する部分を「幅」として計測した。
＊表中、「NR 1」の注記記号は複数ある。整理作業時に自然流路と判断し、資料をまとめたことによる。
　例えば、南壁付近で土器が集中したところを「ドキシュウ」、のちのNR 1中央部を「1ク」、同北半を「2ク」として遺物を取りあげている。さらにSB 3に帰属する資料はSB 3炉1・2のみとし、そのほかをNR 1に含めたことによる。

## 付表8　山鳥場遺跡　石器観察表

| 図版番号 | PL番号 | 掲載番号 | 地区 | 出土地点 | | 器種 | 石材 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 残存状況 | 注記 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 61 | 45 | 1 | ② | SB10 | 検出面 | 石鏃 | 黒曜石 | <1.6> | <1.2> | 0.2 | 0.3 | 先端・脚部欠損 | — |
| 61 | 45 | 2 | ④ | SB16 | №1 | 石鏃 | 黒曜石 | 2.0 | 1.4 | 0.4 | 0.6 | 完形 | — |
| 61 | 45 | 3 | ② | NR 1 | — | 石鏃 | 黒曜石 | 2.0 | 1.2 | 0.4 | 0.9 | 完形 | — |
| 61 | 45 | 4 | ④ | IX05-4 | Ⅱa層 | 石鏃 | 黒曜石 | 1.9 | 1.4 | 0.3 | 0.4 | 完形 | — |
| 61 | 45 | 5 | ③ | SB13 | P 6 | 石鏃 | 黒曜石 | 1.4 | <1.1> | 0.3 | 0.3 | 脚部欠損 | — |
| 61 | 45 | 6 | ③ | SB13 | №21 | 石鏃 | 黒曜石 | 1.8 | <1.4> | 0.4 | 0.7 | 脚部欠損 | — |
| 61 | 45 | 7 | ② | SB 9 | 南東床直 | 石鏃 | 黒曜石 | <2.5> | <2.0> | 1.5 | 0.4 | 先端・脚部欠損 | — |
| 61 | 45 | 8 | ④ | SB15 | 2層ベルト内 | 石鏃 | 黒曜石 | 2.6 | <1.5> | 0.4 | 1.1 | 脚部欠損 | — |
| 61 | 45 | 9 | ④ | SB15 | №5 | 石鏃 | 黒曜石 | 3.3 | 1.5 | 0.3 | 1.0 | 完形 | — |
| 61 | 45 | 10 | ② | NR 1 | — | 石鏃 | 黒曜石 | 1.8 | 1.1 | 0.3 | 0.6 | 完形 | — |
| 61 | 45 | 11 | ④ | IY02-3-5 | Ⅱa層（Ⅱb層直上） | 石鏃 | 下呂石 | <2.3> | 1.4 | 0.3 | 1.0 | 先端欠損 | — |
| 61 | 45 | 12 | ② | SB 4 | 拡張検出時壁面 | 石鏃 | 黒曜石 | 2.2 | <1.8> | 0.4 | 0.9 | 脚部欠損 | — |
| 61 | 45 | 13 | ④ | IY07-1 | Ⅱa層 | 石鏃 | 黒曜石 | <2.0> | <1.2> | 0.2 | 0.4 | 先端・脚部・茎部欠損 | — |
| 61 | 45 | 14 | ④ | IY07-1 | Ⅱa層 | 石鏃 | 黒曜石 | 2.1 | <1.5> | 0.2 | 1.0 | 脚部欠損 | — |
| 61 | 45 | 15 | ④ | SB14 | 検出面 | 石鏃未製品 | 黒曜石 | 3.0 | 1.9 | 0.9 | 4.0 | — | — |
| 61 | 45 | 16 | ② | SB 8 | P 4・5 | 石鏃未製品 | 黒曜石 | 2.5 | 1.8 | 0.6 | 1.9 | — | — |
| 61 | 45 | 17 | ③ | SB13 | P 2 | 石錐 | 黒曜石 | <3.0> | 2.2 | 0.6 | 2.8 | 先端欠損 | — |
| 61 | 45 | 18 | ② | SB 7 | №64 | 石錐 | 黒曜石 | <4.0> | 1.6 | 0.6 | 2.8 | 先端欠損 | — |
| 61 | 45 | 19 | ④ | IY01-1 | Ⅱa層 | 石錐 | チャート | 4.2 | 2.2 | 0.6 | 3.1 | 完形 | — |
| 61 | 45 | 20 | ② | SB 6 | 埋土 | 楔形石器 | 黒曜石 | 3.2 | 1.4 | 0.8 | 3.1 | — | — |
| 61 | 45 | 21 | ③ | SB13 | 東ベルト2層 | 楔形石器 | 黒曜石 | 1.1 | 1.1 | 0.4 | 0.5 | — | — |
| 61 | 45 | 22 | ② | SB 8 | 検出面 | 楔形石器 | 黒曜石 | 2.2 | 2.6 | 0.9 | 3.4 | — | — |
| 61 | 45 | 23 | ② | NR 1 | — | 楔形石器 | 黒曜石 | 1.9 | 1.6 | 0.7 | 0.2 | — | — |
| 61 | 45 | 24 | ④ | IY06-4 | Ⅱb層 | 楔形石器 | チャート | 2.5 | 1.6 | 1.0 | 4.1 | — | — |
| 62 | 45 | 25 | ② | SB 5 | P 1 | 削器 | 黒曜石 | 1.2 | <3.4> | 0.8 | 1.9 | 欠損 | — |
| 62 | 45 | 26 | ② | SB 5 | 検出面 | 掻器 | 黒曜石 | 3.0 | 2.0 | 0.7 | 3.6 | 完形 | — |
| 62 | 45 | 27 | ③ | SB13 | 北西2層 | 掻器 | 黒曜石 | <2.3> | <2.4> | 0.8 | 3.0 | 欠損 | — |
| 62 | 45 | 28 | ③ | SB13 | 南東2層 | 石匙 | 黒曜石 | <2.4> | 1.0 | 0.3 | 1.0 | 先端欠損 | — |
| 62 | 45 | 29 | ④ | SB16 | №25 | 石匙 | 下呂石 | 6.0 | 2.5 | 0.7 | 8.5 | 完形 | — |
| 62 | 45 | 30 | ② | SB 8 | 南東 | 石匙 | チャート | 5.8 | 4.3 | 0.8 | 18.7 | 完形 | EYT SB 8 SE |
| 62 | 45 | 31 | ④ | IY02-3 | Ⅱb層 | 石匙 | 輝緑凝灰岩 | <6.4> | 7.2 | 1.0 | 51.0 | 先端欠損 | EYT IY 2 -3 Ⅱbソウ |
| 62 | 45 | 32 | ③ | SB13 | 南西トレンチ | 二次加工がある剥片 | 黒曜石 | <1.9> | 4.0 | 0.8 | 4.8 | 欠損 | — |
| 62 | 45 | 33 | ② | SB 4 | 東半部 | 二次加工がある剥片 | 黒曜石 | <3.0> | 2.2 | 0.9 | 7.8 | 欠損 | — |
| 62 | 45 | 34 | ③ | SB13 | 北東1層 | 微細剥離がある剥片 | 黒曜石 | <2.7> | 0.9 | 0.3 | 0.9 | 欠損 | — |

| 図版番号 | PL番号 | 掲載番号 | 地区 | 出土地点 | | 器種 | 石材 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 残存状況 | 注記 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 62 | 45 | 35 | ② | SB 8 | P 4・5 | 微細剥離がある剥片 | 黒曜石 | <3.3> | 2.4 | 0.9 | 6.4 | 欠損 | — |
| 63 | 46 | 36 | ③ | SB13 | № 17 | 打製石斧 | 粘板岩 | 9.5 | 4.9 | 1.3 | 90.2 | 完形 | EYT SB13 №17 |
| 63 | 46 | 37 | ④ | SB14 | 検出面 | 打製石斧 | 粘板岩(白色) | 12.1 | 4.9 | 1.7 | 130.4 | 完形 | EYT SB14 ケン |
| 63 | 46 | 38 | ④ | SB14 | № 28 | 打製石斧 | 粘板岩 | 10.3 | 5.2 | 1.2 | 82.6 | 完形 | EYT SB14 №28 |
| 63 | 46 | 39 | ③ | SB13 | № 12 | 打製石斧 | 粘板岩 | 13.0 | 5.0 | 1.8 | 127.6 | 完形 | EYT SB13 №12 |
| 63 | 46 | 40 | ③ | SB13 | № 69 | 打製石斧 | 粘板岩 | 13.3 | 6.5 | 1.8 | 196.6 | 完形 | EYT SB13 №69 |
| 63 | 46 | 41 | ④ | SB15 | 東西トレンチ東 | 打製石斧 | 粘板岩 | 10.8 | 5.9 | 1.6 | 127.5 | 完形 | EYT SB15 EW トレ E |
| 63 | 46 | 42 | ④ | SB15 | 南北トレンチ | 打製石斧 | 粘板岩 | 13.1 | <5.0> | 1.6 | 103.7 | 刃部欠損 | EYT SB15 SN トレ E |
| 63 | 46 | 43 | ② | NR 1 | — | 打製石斧 | 粘板岩 | 9.6 | 5.5 | 1.5 | 112.8 | 完形 | EYT NR 1 2ク |
| 63 | 46 | 44 | ② | NR 1 | — | 打製石斧 | 粘板岩 | 10.0 | 4.6 | 1.4 | 93.1 | 完形 | EYT NR 1 |
| 63 | 46 | 45 | ④ | IY07-4 | Ⅱa層 | 打製石斧 | 粘板岩 | 11.9 | 9.0 | 2.2 | 175.6 | 完形 | — |
| 63 | 46 | 46 | ② | IS17 | — | 打製石斧 | 砂岩 | <12.6> | <7.2> | 2.7 | 298.8 | 刃部欠損 | EYT 2 NR 1 IS12.17-22 |
| 63 | 46 | 47 | ④ | SB14 | № 29 | 磨製石斧 | アプライト | 11.2 | 5.4 | 2.2 | 225.6 | 完形 | — |
| 63 | 46 | 48 | ② | SB 7 | P19 | 磨製石斧 | 透閃石岩 | <7.1> | <3.3> | 1.2 | 54.4 | 刃部欠損 | EYT SB 7 ピット19 |
| 63 | 46 | 49 | ④ | SB14 | — | 磨製石斧 | 透閃石岩 | <6.8> | <2.2> | 0.8 | 21.0 | 刃部欠損 | — |
| 63 | 46 | 50 | ② | NR 1 | — | 磨製石斧 | 流紋岩 | <12.7> | <6.1> | 2.9 | 37.5 | 刃部欠損 | EYT NR 1 IS16 |
| 64 | 47 | 51 | ④ | SB15 | P 7 | 横刃形石器 | 砂岩 | 9.0 | <9.5> | 3.7 | 249.5 | 欠損 | EYT SB15 ピット7 |
| 64 | 47 | 52 | ② | SB 7 | № 63 周辺の石 | 横刃形石器 | 砂岩 | <8.6> | 9.9 | 3.1 | 262.7 | 欠損 | EYT SB 7 №67 |
| 64 | 47 | 53 | ② | SB11 | — | 横刃形石器 | 砂岩 | 6.0 | <11.4> | 2.1 | 180.2 | 欠損 | EYT SB11 ロフキン |
| 64 | 47 | 54 | ③ | SB13 | 南東トレンチ | 横刃形石器 | 砂岩 | 8.4 | <11.4> | 2.9 | 250.2 | 欠損 | EYT SB13 SE トレ |
| 64 | 47 | 55 | ④ | SB14 | № 34 | 横刃形石器 | 砂岩 | 6.3 | 11.9 | 1.5 | 107.0 | 完形 | EYT SB14 №34 |
| 64 | 47 | 56 | ③ | SB13 | 南西1層 | 横刃形石器 | 粘板岩 | 4.9 | 9.8 | 1.4 | 68.7 | 完形 | EYT SB13 SW 1ソウ |
| 64 | 47 | 57 | ④ | SB14 | 南西1層 | 横刃形石器 | 砂岩 | 6.0 | 9.5 | 1.4 | 67.1 | 完形 | EYT SB14 SW 1ソウ |
| 65 | 47 | 58 | ③ | SB13 | № 11 | 横刃形石器 | 黒色安山岩 | 5.9 | 12.4 | 2.4 | 184.1 | 完形 | EYT SB13 №11 |
| 65 | 47 | 59 | ④ | SB15 | 北東床面 | 横刃形石器 | 黒色安山岩 | (5.0) | (12.5) | (1.4) | (105.8) | 完形(2点接合) | EYT SB15 NE ユカ |
| | | | | | 炉内 | | | | | | | | EYT SB15 ロ |
| 65 | 47 | 60 | ④ | SB15 | — | 横刃形石器 | 黒色安山岩 | 5.8 | 9.4 | 1.1 | 62.2 | 完形 | EYT SB15 |
| 65 | 47 | 61 | ② | SB 4 | 東半部 | 横刃形石器 | 砂岩 | 5.6 | <8.4> | 1.2 | 51.8 | 欠損 | EYT 2 SB 4 E |
| 65 | 47 | 62 | ② | NR 1 | — | 横刃形石器 | 珪質泥岩 | 7.6 | 10.0 | 2.3 | 209.4 | 完形 | EYT NR 1 ドキシュウ |
| 65 | 47 | 63 | ② | NR 1 | — | 横刃形石器 | 粘板岩 | 6.0 | 9.0 | 1.7 | 96.0 | 完形 | EYT NR 1 1ケ-10 |
| 65 | 47 | 64 | ② | かく乱 | (旧 SK84) | 横刃形石器 | 砂岩 | 8.2 | 12.3 | 3.2 | 316.4 | 完形 | EYT SK84 3ソウ |

| 図版番号 | PL番号 | 掲載番号 | 地区 | 出土地点 | | 器種 | 石材 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 残存状況 | 注記 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 65 | 47 | 65 | ② | SB 7 | №53周辺の石 | 礫器 | 砂岩 | 8.3 | 7.0 | 1.7 | 139.1 | 完形 | EYT SB 7 №53 |
| 65 | 47 | 66 | ② | SB 7 | №65周辺の石 | 礫器 | 砂岩 | 6.0 | 5.0 | 1.7 | 70.8 | 完形 | EYT SB 7 №65 |
| 66 | 48 | 67 | ③ | SB13 | 西ベルト炉の上1層 | 磨石 | 斑レイ岩 | 11.4 | 9.0 | 4.7 | 752.3 | 完形 | EYT SB13 W ベルトロウエ 1ソウ |
| 66 | 48 | 68 | ② | NR 1 | — | 磨石 | 泥岩 | 9.8 | 6.8 | 3.2 | 319.0 | 完形 | EYT NR 1 IS16 1ソウ |
| 66 | 48 | 69 | ③ | SB13 | 検出面 | 凹石 | 砂岩 | 8.9 | 7.0 | 3.4 | 256.6 | 完形 | EYT SB13 IX 5ケン |
| 66 | 48 | 70 | ② | SB11 | 炉周辺 | 凹石 | 砂岩 | 10.9 | 7.4 | 4.4 | 398.2 | 完形 | EYT SB11 ロフキン |
| 66 | 48 | 71 | ④ | SB14 | 北東 | 凹石 | 砂岩 | 10.4 | 8.5 | 4.5 | 549.3 | 完形 | EYT SB14 NE |
| 66 | 48 | 72 | ② | NR 1 | — | 凹石 | 砂岩 | 15.1 | 8.4 | 5.4 | 1178.0 | 完形 | EYT NR 1 ドキシュウ |
| 66 | 48 | 73 | ④ | SB18 | 北西1層 | 凹石 | 砂岩 | 14.6 | 8.7 | 3.3 | 635.3 | 完形 | EYT SB18 NW 1ソウ |
| 66 | 48 | 74 | ② | SB 7 | 炉№1周辺の石 | 凹石 | 砂岩 | 17.6 | 4.3 | 4.4 | 555.0 | 完形 | EYT SB 7 ロ №1 |
| 67 | 48 | 75 | ② | SB 3 | 炉1 | 凹石 | 砂岩 | 17.1 | 5.5 | 3.0 | 425.2 | 完形 | EYT 2 SB 3 ロ1 |
| 67 | 48 | 76 | ② | NR 1 | — | 凹石 | 砂岩 | 15.7 | 5.6 | 3.6 | 452.0 | 完形 | EYT SB 3 NW |
| 67 | 48 | 77 | ④ | SB14 | 南西1層 | 敲石 | 砂岩 | 10.1 | 4.8 | 2.8 | 251.3 | 完形 | EYT SB14 SW 1ソウ |
| 67 | 48 | 78 | ④ | SB16 | №20 | 敲石 | 砂岩 | 20.0 | 6.7 | 3.7 | 633.3 | 完形 | EYT SB16 №20 |
| 67 | 48 | 79 | ④ | IY07-I-1 | Ⅱa層(Ⅱb層直上) | 敲石 | 砂岩 | <14.9> | 5.9 | 4.6 | 478.5 | 欠損 | EYT IY 7-I-1 Ⅱa ソウカブ |
| 67 | 48 | 80 | ② | SB 3 | 炉1 №2 | 敲石 | 砂岩 | 23.0 | 8.1 | 3.9 | 1123.7 | 完形 | EYT 2 SB 3 ロ1 №2 |
| 67 | 49 | 81 | ④ | IY02-I-10 | Ⅱa層(Ⅱb層直上) | 特殊磨石 | 安山岩 | <13.0> | 7.5 | 8.0 | 1185.6 | 欠損 | EYT IS 2-I-10 Ⅱa ソウカブ |
| 68 | 46 | 82 | ② | NR 1 | — | 砥石 | 砂岩 | <10.0> | 6.5 | 1.7 | 14.2 | 欠損 | EYT NR 1 IS16 |
| 68 | 46 | 83 | ④ | IY07-I | Ⅱa層 | 砥石 | 砂岩 | <7.0> | 5.6 | 3.3 | 178.6 | 欠損 | EYT IY 7-I Ⅱb ソウ |
| 68 | 46 | 84 | ④ | IY01-3 | Ⅱb層 | 砥石 | 砂岩 | 9.0 | 4.5 | 3.4 | 147.1 | 完形 | EYT IY 1-3 Ⅱa ソウ |
| 68 | 49 | 85 | ④ | SB14 | — | 石皿 | 砂岩 | 42.0 | 31.0 | 8.0 | 14.6kg | 欠損 | EYT SB14 |
| 68 | 49 | 86 | ② | SB10 | №60 | 石皿 | 砂岩 | <16.0> | 20.0 | 7.0 | 3.6kg | 欠損 | EYT SB10 №60 |
| 68 | 49 | 87 | ③ | SB13 | №130 | 石皿 | 斑レイ岩 | 22.0 | <25.0> | 6.0 | 5.0kg | 欠損 | EYT SB13 №130 |
| 68 | 49 | 88 | ④ | SB15 | — | 石皿 | 砂岩 | 38.0 | 24.0 | 6.0 | 11.4kg | 完形 | EYT SB15 ユカ |
| 68 | 49 | 89 | ④ | SB16 | №23 | 石皿 | 砂岩 | <31.0> | <14.3> | 8.3 | 7.1kg | 欠損 | — |
| 68 | 49 | 90 | ③ | SB13 | №126 | 台石 | 砂岩 | 19.0 | 19.0 | 8.5 | 5.6kg | 完形 | EYT SB13 №126 |
| — | 46 | 91 | ③ | SB13 | トレンチ南東 | 打製石斧 | 粘板岩(白色) | <6.2> | 3.1 | 1.2 | 30.8 | 刃部欠損 | EYT SB13 SE トレ |
| — | 46 | 92 | ④ | IX10 | Ⅱ層 | 打製石斧(横刃形石器?) | 砂岩 | <12.4> | 4.8 | 2.0 | 106.9 | 刃部欠損 | EYT IX10 Ⅱソウ SB14 ウエ |
| — | 46 | 93 | ② | SB 9 | 床下 | 磨製石斧 | 砂岩 | 10.2 | 5.1 | 2.8 | 171.4 | 完形 | EYT SB 9 ユカシタ |

| 図版番号 | PL番号 | 掲載番号 | 地区 | 出土地点 | | 器種 | 石材 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 残存状況 | 注記 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| — | 47 | 94 | ③ | SB13 | 北西１層 | 大形刃器 | 砂岩 | <3.7> | 8.6 | 1.5 | 56.9 | 欠損 | EYT SB13 NW １ソウ |
| — | 47 | 95 | ② | SB ６ | 拡張東側 | 大形刃器 | 黒色安山岩 | 7.3 | <7.7> | 1.8 | 85.4 | 欠損 | EYT ２ SB ６ E カクチ |
| — | 48 | 96 | ② | Z | 検出面 | 凹石 | 砂岩 | 7.4 | 6.5 | 3.6 | 245.6 | 完形 | EYT ２ ケン |
| — | 48 | 97 | ② | SB10 | №21 | 凹石 | 安山岩 | 9.6 | 9.1 | 5.5 | 575.1 | 完形 | EYT SB10 №21 |
| — | 50 | 98a | ③ | SB13 | — | 石核 | 黒曜石 | 4.0 | 2.9 | 2.2 | 20.2 | — | — |
| — | 50 | 98b | ③ | SB13 | P ６ | 石核 | 黒曜石 | 4.0 | 1.9 | 1.5 | 7.1 | — | — |
| — | 50 | 98c | ③ | SB13 | 南東床下 | 石核 | 黒曜石 | 5.2 | 3.1 | 2.9 | 39.5 | — | — |
| — | 50 | 98d | ② | NR １ | — | 原石 | 黒曜石 | 4.9 | 2.8 | 1.6 | 21.6 | — | — |
| — | 50 | 98e | ② | NR １ | — | 原石 | 黒曜石 | 6.4 | 3.9 | 2.1 | 51.4 | — | — |
| — | 50 | 98f | ④ | IY06-2-14 | Ⅱａ層（Ⅱｂ層直上） | 石核 | チャート | 7.0 | 4.6 | 3.4 | 117.2 | — | EYT IY 6-2-14 Ⅱａソウカブ |
| — | 50 | 98g | ④ | IY01-4 | Ⅱｂ層 | 石核 | 黒曜石 | 5.7 | 3.7 | 2.2 | 36.5 | — | — |
| — | 50 | 98h | ④ | IY01-4 | Ⅱｂ層 | 石核 | 黒曜石 | 3.6 | 4.0 | 2.3 | 27.1 | — | — |
| — | 50 | 98i | ④ | IY01-4 | Ⅱｂ層 | 原石（ズリ） | 黒曜石 | 1.8 | 2.4 | 0.8 | 3.5 | — | — |
| — | 50 | 99 | ③ | SB13 | №105 | 石核 | 砂岩 | 14.4 | 15.2 | 6.0 | 1400.0 | — | EYT SB13 №105 |
| — | 50 | 100 | ④ | SK94 | — | 原石 | チャート | 43.0 | 27.0 | 高さ：31.0 | 47.8kg | — | — |
| — | 50 | 101 | ④ | SB14 | №35 | 石核 | 砂岩 | 15.6 | 14.9 | 高さ：25.5 | 6550.0 | — | EYT SB14 №35 |
| — | 50 | 102 | ③ | SB13 | 炉１層 | 剥片(2点) | 黒曜石 | — | — | — | 0.4 | — | — |
| | | | | | 18層(炉２層) | 剥片(1点) | 黒曜石 | — | — | — | 0.1未満 | — | — |
| | | | | | 19層(炉３層) | 剥片(19点) | 黒曜石 | — | — | — | 4.2 | — | — |
| | | | | | P ６ | 石核(1点)剥片(18点) | 黒曜石 | — | — | — | 14.4 | — | — |

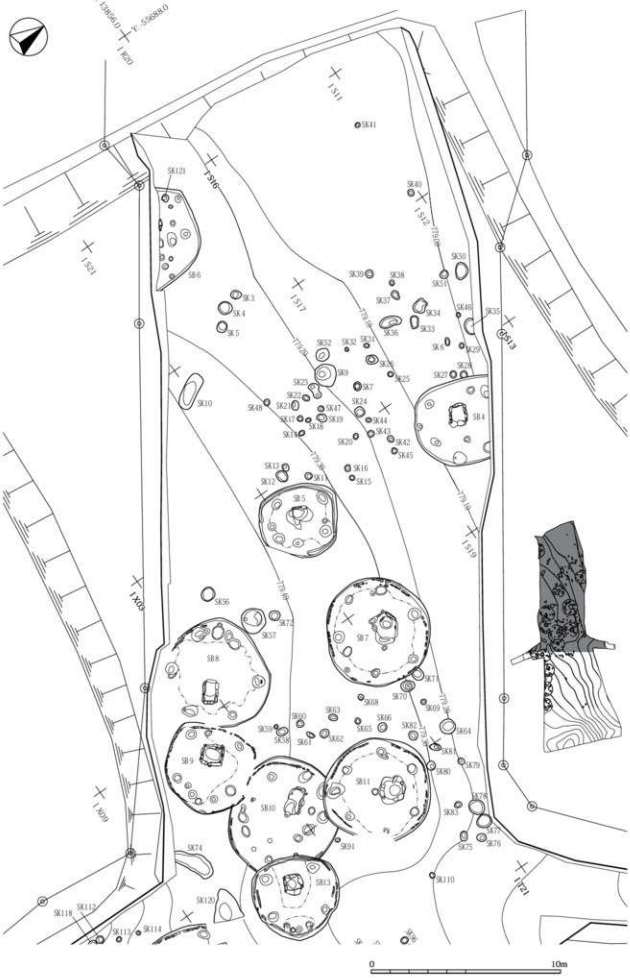
＊大きさ（長さ・幅・厚さ）の計測値において、＜　＞は残存値を示し、（　）は接合し１つの個体となったことを示す。
＊大きさは石器（tool）のみを計測し、残滓類は重量のみを計測した。
＊表中、「NR １」の注記記号は複数ある。整理作業時に自然流路と判断し、資料をまとめたことによる。
例えば、南壁付近で土器が集中したところを「ドキシュウ」、のちの NR １中央部を「１ク」、同北半を「２ク」として遺物を取りあげている。さらに SB ３に帰属する資料は SB ３炉１・２のみとし、そのほかを NR １に含めたことによる。

付表９　三ヶ組遺跡　石器観察表

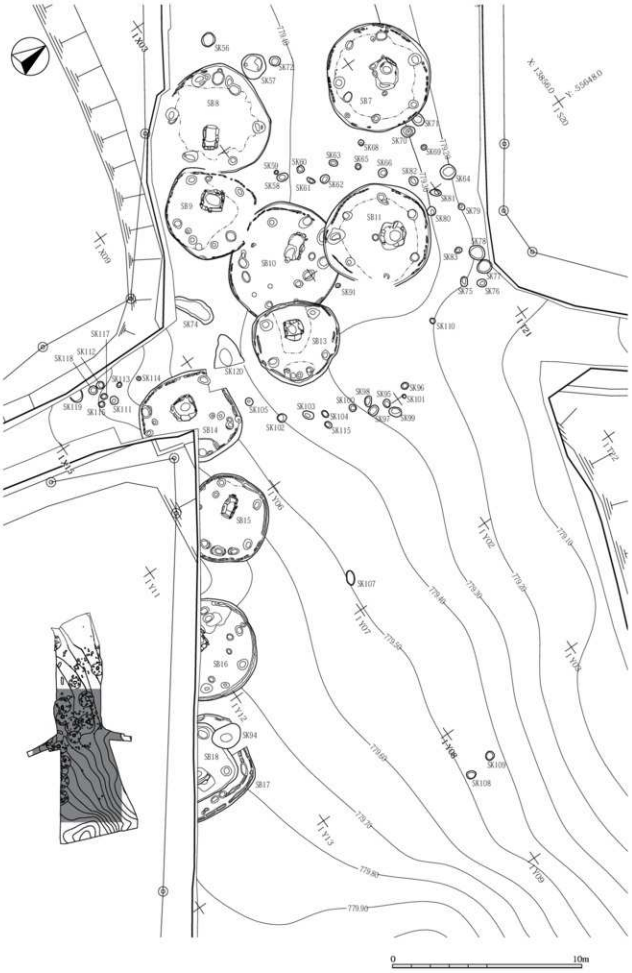
| 図版番号 | PL番号 | 掲載番号 | 地区 | 出土地点 | | 器種 | 石材 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 残存状況 | 注記 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| — | 52 | 1 | ② | ９トレンチ付近 | 表採 | 石鏃 | 黒曜石 | 1.7 | <1.3> | 0.3 | 0.4 | 先端・脚部欠損 | — |
| — | 52 | 2 | ④ | ９トレンチ付近 | 表採 | 楔形石器 | 黒曜石 | <1.2> | 1.6 | 1.0 | 1.5 | — | — |
| — | 52 | 3 | ② | ８トレンチ | １層(現耕作土) | 打製石斧 | 粘板岩 | <5.4> | 4.5 | 1.0 | 30.6 | 刃部欠損 | — |

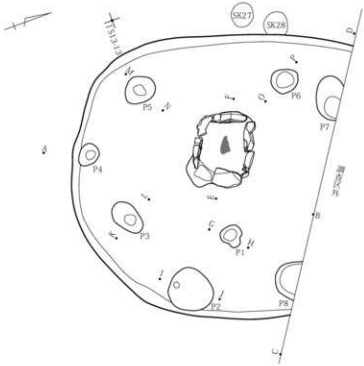
＊大きさ（長さ・幅・厚さ）の計測値において、＜　＞は残存値を示す。

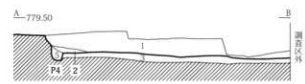
# 遺構・遺物図版

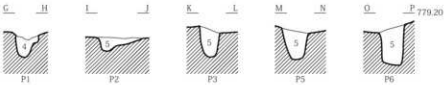

X: 138560.0
Y: 5368880
I 920
I 511
SK41
SK121
I 516
SB6
SK3
SK4
SK5
I 521
I 517
SK10
SK48
SK22
SK47
SK19
SK18
SK20
SK42
SK45
SK16
SK15
SK13
SK12
SB5
SK60
I 512
SK59
SK51
SK39
SK38
SK37
SK34
SK33
SK46
SK35
SK6
SK69
SK27
SB4
I 513
SK52
SK32
SK9
SK7
SK24
SK44
SK43
I 519
I 509
SK56
SK72
SK57
SB8
SB7
SK77
SK73
SK68
SK69
SK64
SK63
SK66
SK65
SK82
SK59
SK58
SK61
SK62
SK80
SK79
SB9
SB11
SB10
SK91
SK83
SK78
SK75
SK76
SK74
SK110
I 521
SK112
SK116
SK113
SK114
SK120
SB13
I 509
0
10m

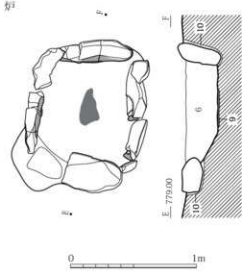
図版２　中期後葉遺構配置図２





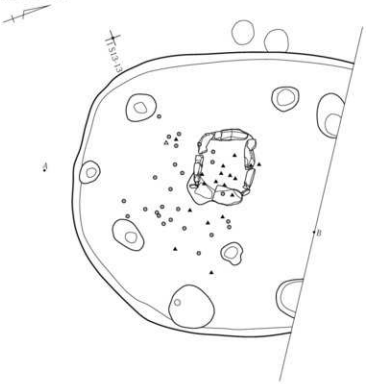




1 褐色(10YR3/2)　シルト。粘性弱。しまり弱。φ2～5mm褐色粒少混
　φ2mm炭化粒微混
2 黒色(10YR2/1)　シルト。粘性強。しまり強。φ2～5mm褐色粒少混
3 黄褐色(10YR2/1)　砂質シルト。粘性あり。しまり強
4 黒褐色(10YR3/2)　シルト。粘性弱。しまり弱
5 黒褐色(10YR2/3)　シルト。粘性あり。しまり弱
6 黒褐色(10YR3/1)　シルト。粘性強。しまり強。炭少混
　φ0.1mm焼土微混
7 暗褐色(10YR3/3)　シルト
8 褐色(10YR3/2)　シルト
9 被熱面
10 掘方

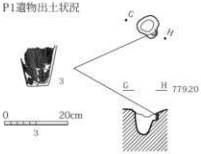
SB 4 (1)

図版４　中期後葉遺構２

遺物出土状況



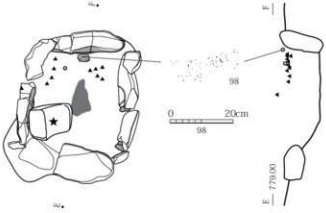

P1遺物出土状況



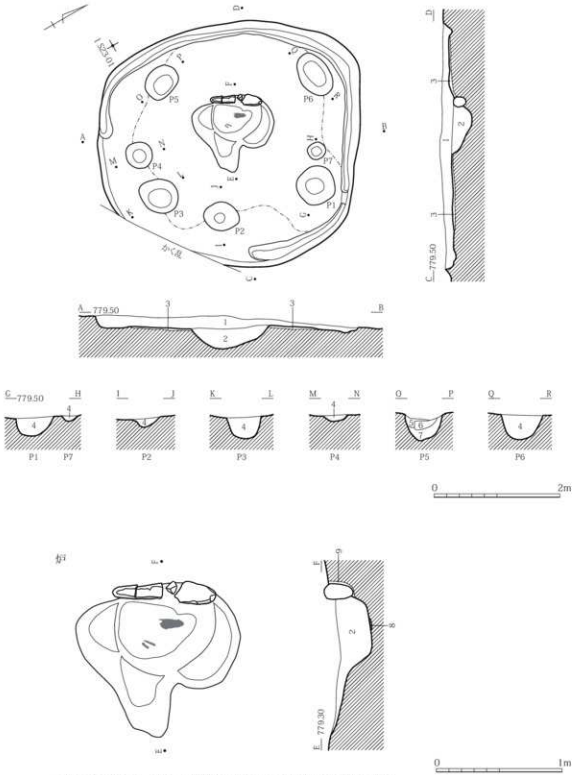




炉遺物出土状況

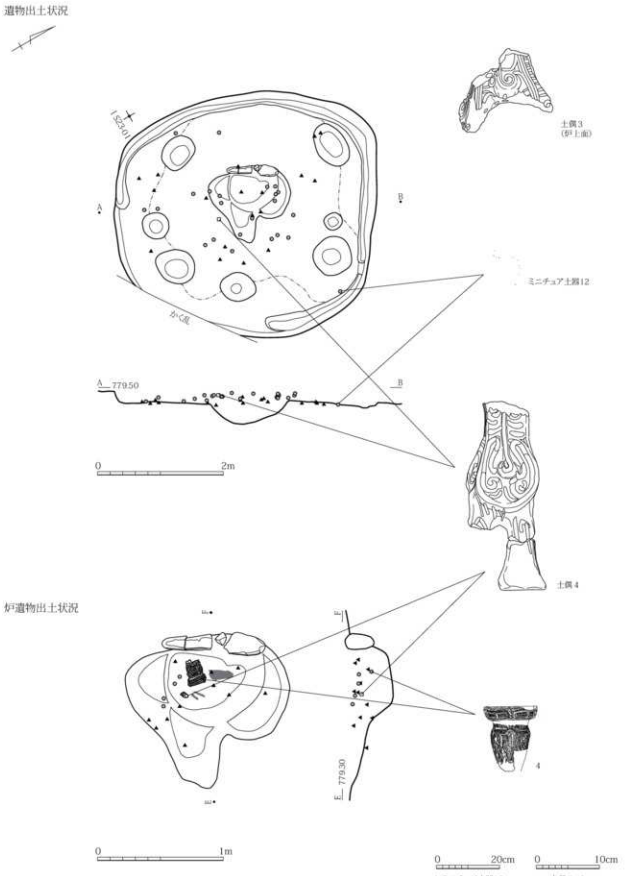



炉石復元状況

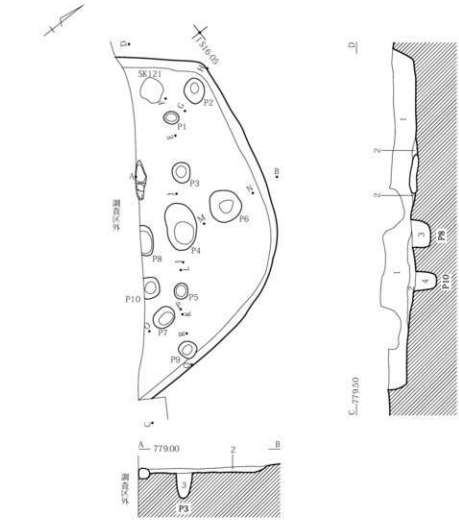


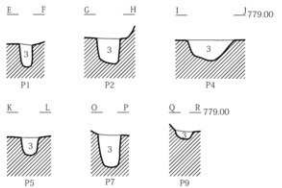

1 黒褐色（10YR3/1）　シルト。粘性強。しまり強。φ3cm以下炭化物微混。焼土粒微混
2 黒褐色（10YR3/1）　砂質シルト。粘性弱。しまりあり。炭化物少混。焼土微混
3 黄褐色（10YR2/1）　シルト
4 黒褐色（10YR3/1）　シルト。炭化物・焼土を含まない
5 灰褐色（2.5YR4/1）　砂質シルト。粘性強。しまり弱。焼土粒微混。φ1mm炭化物微混
6 赤褐色（5YR5/4）　焼土。粘性強。しまり弱。φ1mm炭化物少混
7 灰褐色（7.5YR4/1）　砂質シルト。粘性強。しまりあり。焼土粒微混
8 被熱面
9 掘方

図版 6　中期後葉遺構 4

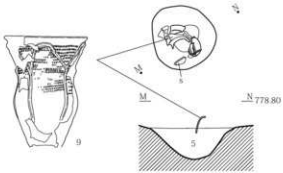



SB 5 (2)




P6遺物出土状況



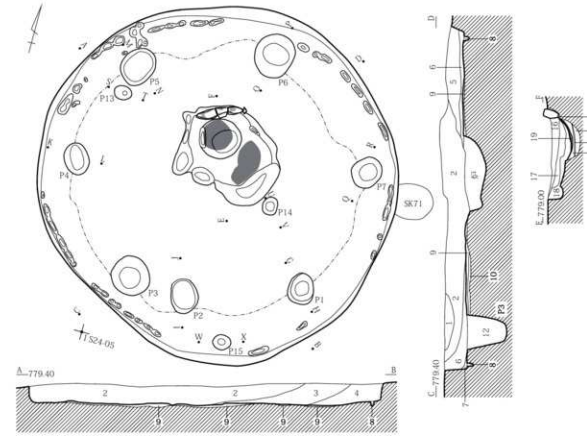

1 黒色(10YR3/3)　　シルト。粘性あり。しまりなし
2 暗褐色(10YR3/3)　シルト。粘性あり。しまりなし。炭化物微混
3 黒褐色(10YR2/3)　シルト。粘性あり。しまり弱い
4 黒褐色(10YR2/3)　シルト。黄褐色ブロック少混
5 暗褐色(10YR3/3)　シルト。粘性あり。しまりなし

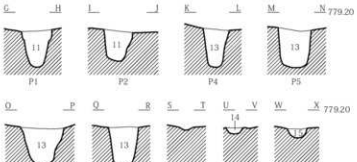
0　20cm　9

0　1m

0　2m

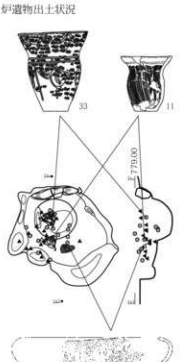
SB 6



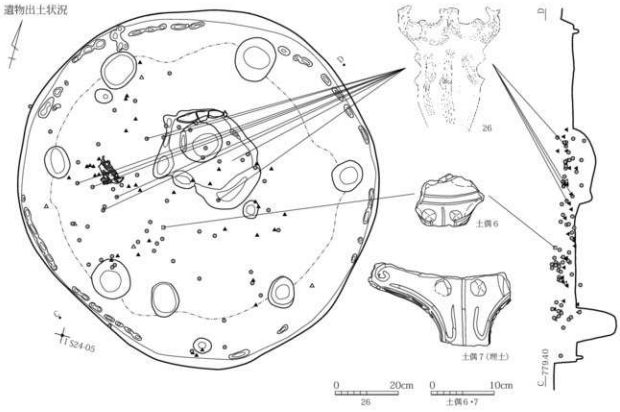

1　黒褐色(10YR3/1)　シルト。粘性弱。しまり弱。φ2～3cm礫多混。φ1～2mm砂礫少混
2　黒褐色(10YR3/1)　シルト。φ1mm炭化物微混
3　にぶい黄色(10YR4/3)　砂質シルト。粘性強。しまり強。φ1～2mm焼土粒微混
4　黒褐色(10YR3/2)　砂質シルト。粘性あり。しまりあり。φ1mm炭化物微混
5　黒褐色(10YR3/1)　砂質シルト
6　黒色(7.5YR2/1)　砂質シルト。白色粒微混。焼土粒微混。炭化粒微混
7　暗褐色(10YR3/2)　シルト。黄褐色ブロックが混じる
8　暗褐色(10YR3/3)　シルト。粘性強。しまりあり。φ1mm炭化物微混
9　黄褐色(10YR5/6)　シルト。しまり強
10　黒褐色(10YR3/2)　シルト
11　黒褐色(10YR3/2)　シルト。粘性あり。しまり弱。炭化粒微混
12　黒色(10YR2/1)　砂質シルト。粘性強。しまり強。黄褐色粒微混
13　黒色(10YR2/2)　シルト。炭化物少混
14　暗褐色(10YR3/3)　粘性あり。しまり強。φ1~3mm黄褐色ブロック少混
15　黒色(10YR3/1)　砂質シルト。粘性弱。しまり弱。黄褐色粒微混。φ1cm炭化物微混
16　黒褐色(10YR2/2)　シルト。粘性あり。しまり弱。炭化物微混
17　黒褐色(10YR2/2)　シルト。粘性あり。しまり弱。黄褐色ブロック微混
18　にぶい黄褐色(10YR4/3)　シルト。粘性弱。しまり弱。焼土ブロック多混。炭化物少混
19　赤褐色(5YR4/6)　シルト。粘性あり。しまり弱
20　黒褐色(10YR2/2)　シルト。粘性強。しまり弱
21　暗褐色(5YR3/4)　シルト。粘性強。しまり弱。φ5mm黄褐色ブロック少混
22　黒褐色(10YR2/2)　シルト。粘性強。しまり弱。炭化粒少混。φ1～3mm黄褐色粒少混
23　炭　黄褐色(10YR4/2)　砂質シルト。粘性強。しまり強。φ3mm～1cm黄褐色粒少混
φ1mm炭化物微混

0　2m

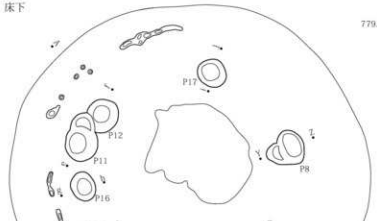


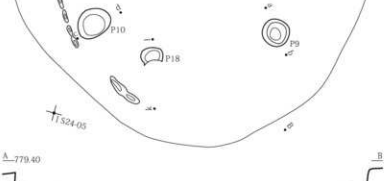

土器遺物出土状況

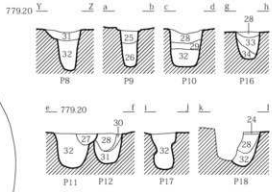
遺物出土状況




床下

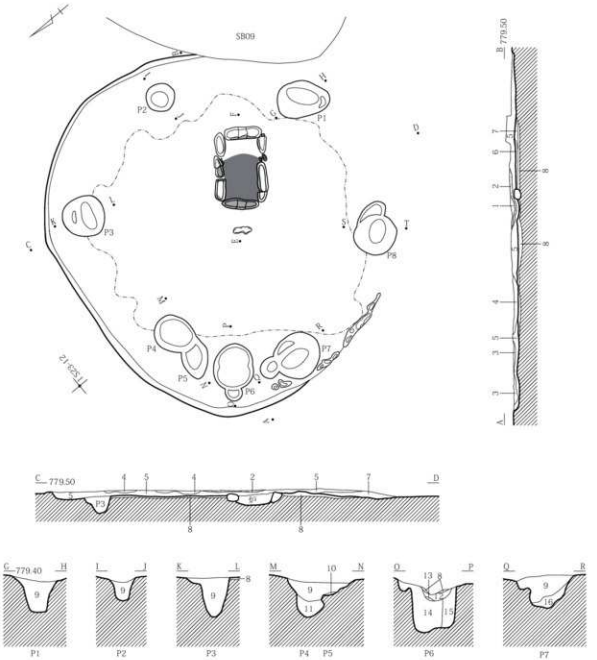



| | | |
|---|---|---|
| 24 | 黒色（10YR2/1） | 砂質シルト。粘性強。しまり強<br>黄褐色粒微混 |
| 25 | 黒褐色（10YR2/3） | シルト。粘性あり。しまり弱。φ<br>1~3mm黄褐色ブロック微混 |
| 26 | 黒褐色（10YR2/3） | 黄褐色ブロック微混 |
| 27 | 褐灰色（10YR4/1） | 砂質シルト。粘性強。しまり強<br>φ0.5～1mm黄褐色粒少混<br>φ0.1mm炭化物微混 |
| 28 | 黄褐色（10YR5/6） | シルト |
| 29 | 黒褐色（10YR3/2） | シルト。粘性強。しまり強<br>φ0.1mm黄褐色粒多混 |
| 30 | 黒色（10YR2/2） | シルト。炭化物少混 |
| 31 | 灰黄褐色（10YR4/2） | 砂質シルト。粘性強。しまり弱<br>黄褐色粒微混。φ0.1mm炭化<br>物微混 |
| 32 | 黒色（10YR3/1） | 砂質シルト。粘性弱。しまり弱<br>黄褐色粒微混。φ1cm炭化物<br>微混 |
| 33 | 黒褐色（10YR3/1） | シルト。粘性強。しまり強。黄褐<br>色粒少混 |
| 34 | 灰白色（10YR7/1） | 砂質シルト。粘性強。しまり強<br>黄褐色粒微混 |
| 35 | にぶい黄褐色（10YR4/3） | シルト |

図版 10　中期後葉遺構 8

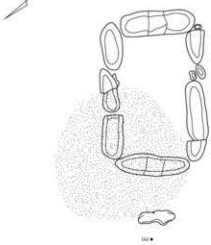



1　黒褐色(10YR3/2)　シルト。粘性あり。しまり弱。炭化物微混。焼土ブロック微混
2　橙色(7.5YR6/6)　焼土
3　黒褐色(5YR3/1)　砂質シルト。粘性弱。しまりあり。φ1mm炭微混。φ0.1mm黄褐色粒微混
4　黒褐色(5YR3/1)　シルト。粘性弱。しまりあり。黄褐色ブロック少混
5　黒色(10YR2/1)　砂質シルト。粘性あり。しまりあり。φ0.1mm炭微混。φ0.1mm黄褐色粒微混
6　浅黄橙色(10YR8/4)　シルト。黒褐色(10YR3/1)シルト少混
7　黒色(10YR2/1)　シルト。粘性あり。しまりあり
8　黄褐色(10YR5/6)　シルト。粘性強。しまり強
9　黒褐色(10YR3/1)　シルト。粘性強。しまり弱。φ1～3mm黄褐色粒微混。φ1mm炭微混。φ1mm焼土微混
10　暗褐色(10YR3/3)　シルト。粘性あり。しまりやや弱。黄褐色粒少混
11　暗褐色(10YR3/3)　シルト。粘性あり。しまりやや弱。φ1～3mm以下黄褐色粒少混
12　黒褐色(10YR3/2)　シルト。粘性弱。しまり弱。φ5mm未材微混。φ0.1mm炭化物微混。φ0.1～0.3mm黄褐色粒微混
13　黒褐色(10YR3/2)　シルト。φ0.1～0.3mm焼土粒微混
14　黒色(10YR2/1)　シルト。粘性強。しまりあり。φ0.1～0.3mm黄褐色粒微混
15　黒褐色(10YR3/1)　シルト。粘性あり。しまりあり
16　黒色(2.5Y2/1)　シルト。粘性強。しまり強。φ1mm炭化物微混。φ1～3cm黄褐色粒微混 φ0.1mm黄褐色粒少混
17　暗黄灰色(2.5Y4/2)　シルト。粘性強。しまり弱。黒褐色ブロック少混。黄褐色粒少混

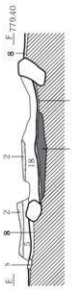
0　2m

SB 8 (1)

炉上面焼土範囲



炉完掘

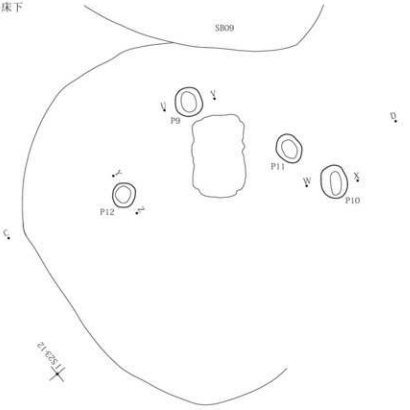


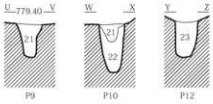

炉内出土土器

18 黄灰色(2.5Y4/1)　砂質シルト。粘性強。φしまりあり。1～3mm炭化物少混
φ0.1mm焼土微混。φ1～3mm骨片少混
19 にぶい赤褐色(5YR5/4) 焼土。φ1mm炭化物微混
20 褐色(7.5YR4/4)　被熱面

0　1m

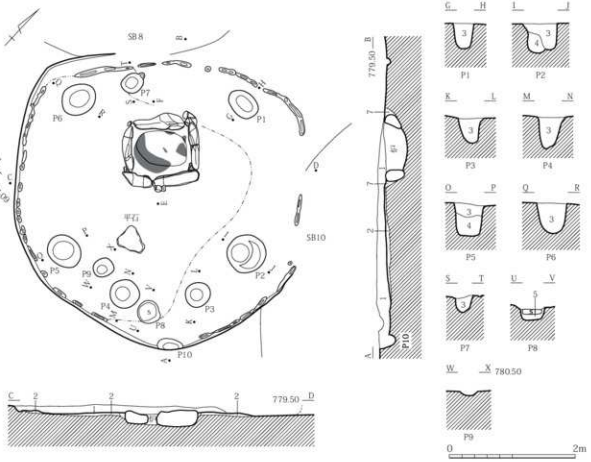
床下



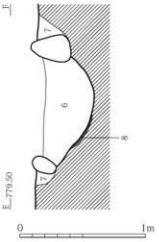

21 黒褐色(10YR2/3)
シルト。粘性弱。しまり弱。炭化物多混。黄褐色ブロック少混
22 暗褐色(10YR3/3)
シルト。粘性強。しまり弱。φ0.1～0.3mm黄褐色ブロック少混
23 黒褐色(10YR3/1)
シルト。粘性強。しまり強。φ1～3mm黄褐色粒微混。φ1mm炭微混。φ1mm焼土微混

0　2m




炉礫出土状況

炉完掘

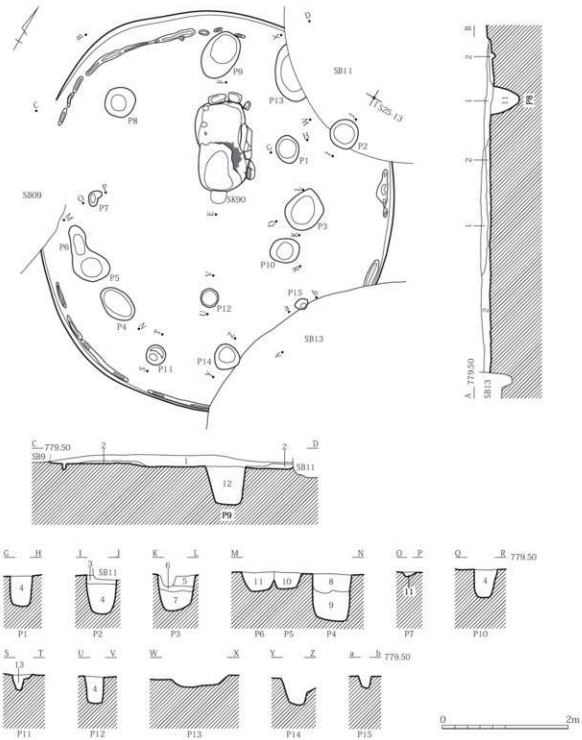



1　灰褐色(10YR4/1)　砂質シルト。粘性強。しまり強。φ1mm炭化物微混。暗黄褐色ブロック少混
2　暗褐色(10YR3/2)　硬化シルト。粘性なし。しまり強。暗黄褐色と黒のブロック少混
3　黒褐色(10YR3/1)　砂質シルト。粘性強。しまりあり。φ0.5mm～1cm黄褐色粒微混。φ0.1～0.3mm炭微混
4　灰黄褐色(10YR4/2) 砂質シルト。粘性弱。しまりあり。黄褐色粒微混。。φ1mm炭微混
5　灰黄褐色(10YR4/2) 砂質シルト。粘性あり。しまりあり。φ1cm炭化物微混
6　黒色(10YR2/1)　砂質シルト。粘性あり。しまり弱。φ1～3cm炭化物少混。φ0.1mm白色少混
7　黄褐色(10YR5/6)　黄褐色ブロック多混。10YR4/2暗褐色ブロック少混。炉石掘方
8　暗褐色(7.5YR3/3)　被熱面

炉上出土土器

炉内出土土器

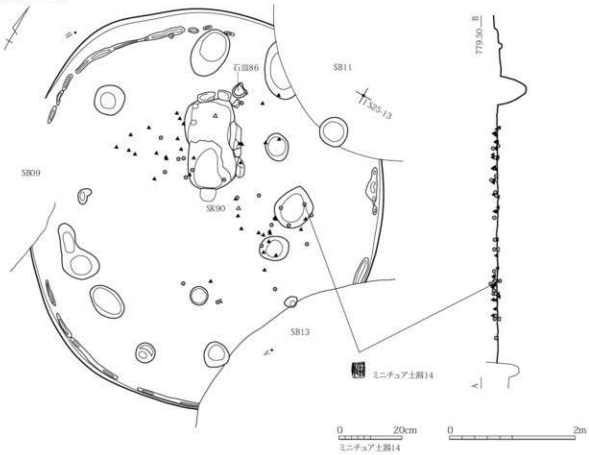
0　10cm
129・134・137




1 黒褐色(10YR3/2)　砂質シルト。粘性あり。しまり弱。φ1～3cm炭化物微混
2 オリーブ褐色(2.5Y4/3)　砂質シルト。粘性あり。しまり弱。黄褐色ブロック少混。φ1～3mm炭化物微混
3 オリーブ褐色(2.5Y4/3)　砂質シルト。粘性強。しまり強
4 黒色(10YR2/1)　砂質シルト。粘性強。しまりあり。φ1～1cm炭化物少混。φ3cm黄褐色ブロック微混
5 オリーブ褐色(2.5Y4/3)　砂質シルト。粘性強。しまり強。φ3mm炭化物微混
6 褐灰色(10YR4/1)　砂質シルト。粘性強。しまり強。φ0.5mm黄褐色ブロック微混
7 黒褐色(10YR3/2)　砂質シルト
8 黄褐色(2.5Y5/3)　砂質シルト。粘性強。しまり強
9 黒褐色(2.5Y3/1)　シルト混じり細砂。粘性弱。しまり弱。黄褐色粒微混
10 オリーブ褐色(2.5Y4/3)　シルト
11 黒褐色(10YR3/1)　砂質シルト。粘性強。しまり強。φ1mm炭化物微混。黄褐色ブロック微混
12 黒褐色(10YR3/1)　シルト混じり細砂。しまり弱
13 灰黄褐色(10YR4/2)　シルト混じり細砂。粘性弱。しまりあり。φ0.1mm黄褐色粒微混

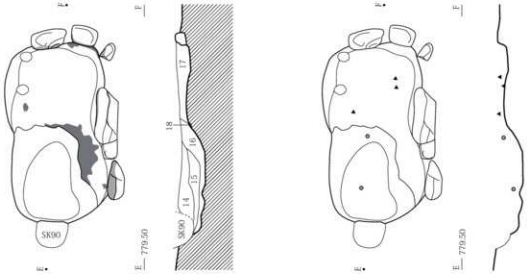
SB10（1）

遺物出土状況



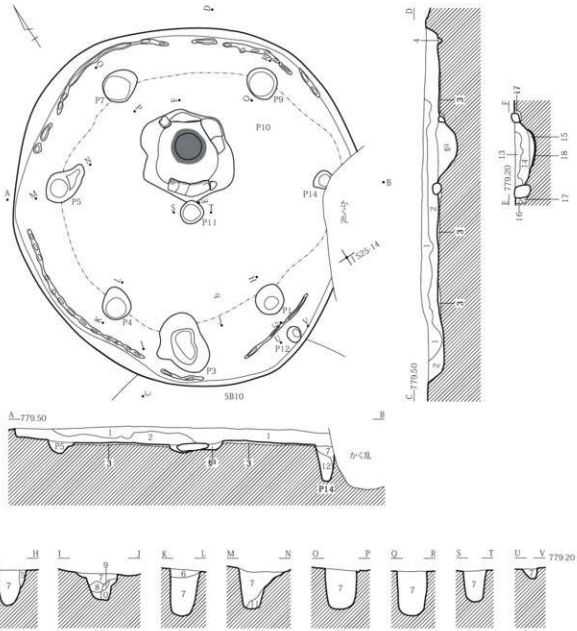

炉

炉遺物出土状況



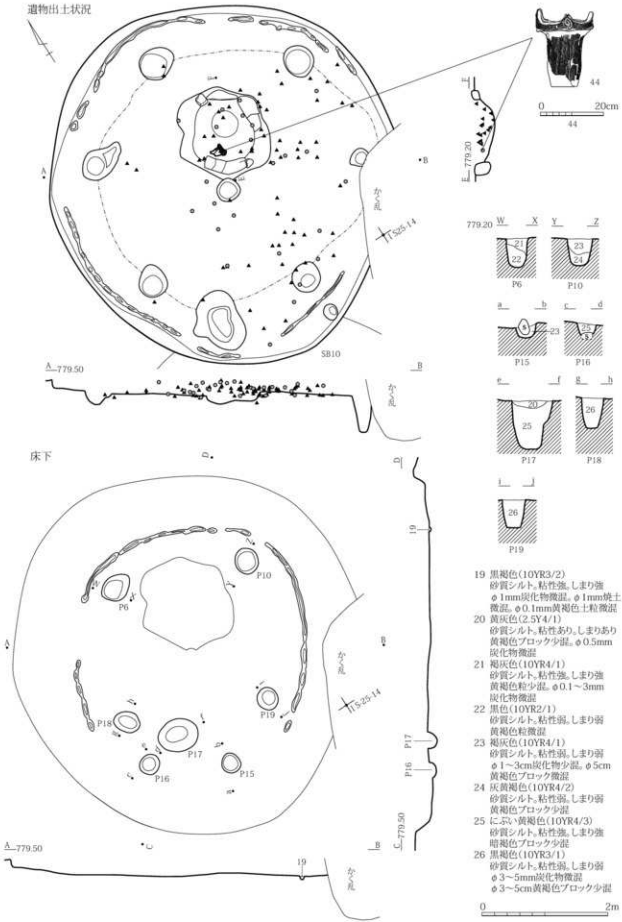

14 黒褐色(2.5Y3/1)　シルト。粘性強。しまり弱。黄褐色ブロック少混
15 暗灰黄色(2.5Y4/2)　シルト。粘性強。しまり弱
16 黒褐色(2.5Y3/1)　シルト。粘性強。しまり弱。1層土に似るが、底に φ 5mmロームが少したまる
17 黒～褐灰色(10YR3/1～4/1)　砂質シルト。粘性強。しまりあり。φ 1cm炭化物少混。φ 3cm黄褐色ブロック少混
18 褐色(7.5Y4/6)　被熱面

0　1m

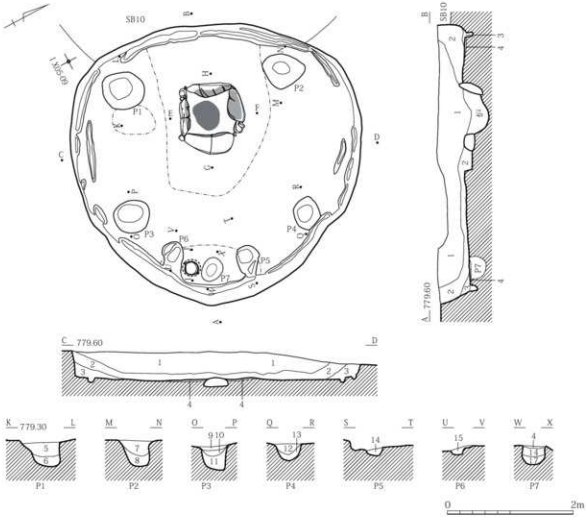


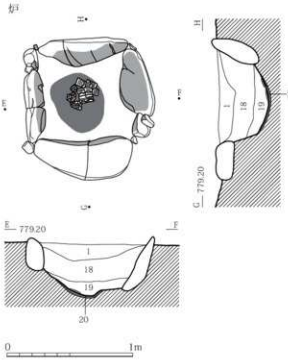

1 黒褐色(10YR2/3)　シルト。φ1～3mm炭化物少混。焼土粒少混
2 暗褐色(10YR3/3)　シルト。粘性あり。しまり弱。赤色粒、炭化粒少混
3 明黄褐色(2.5Y7/6)　砂質シルト。しまり強。φ5mm炭化物微混
4 黒褐色(10YR3/1)　砂質シルト。粘性強。しまり強
5 にぶい黄褐色(10YR5/4)　粘性強。しまりあり。黄褐色ブロック少混
6 灰黄褐色(10YR4/2)　シルト。粘性弱。しまり弱φ3～5mm炭化物微混
7 褐灰色(10YR4/1)　砂質シルト。粘性弱。しまり弱。φ1～3cm 炭化物少混。φ5cm黄褐色ブロック微混
8 黄褐色　シルト
9 暗灰黄色(2.5Y4/2)　砂質シルト
10 黄灰色(2.5Y4/1)　砂質シルト。粘性あり。しまり弱。φ0.1～2mm炭化物微混。暗褐色ブロック微混
11 にぶい黄褐色(10YR4/3)　砂質シルト
12 黒色(10YR2/1)　砂質シルト
13 黒色(10YR2/1)　砂質シルト。粘性あり。しまり弱。りφ1～3cm炭化物微混
14 にぶい黄褐色(10YR4/3)　砂質シルト。粘性あり。しまり弱。φ0.5～1cm炭化物微混。φ0.5～1cm黄褐色ブロック微混
15 黄灰色(2.5Y4/1)　シルトφ1mm～1cm炭化物少混
16 黒褐色(10YR3/1)　砂質シルト。粘性あり。しまり強。黄褐色ブロック少混
17 暗灰黄色(2.5Y5/2)　砂質シルト。粘性弱。しまり弱。黄褐色粒少混。黒褐色土粒少混
18 にぶい褐色(7.5YR5/4)　被熱面

0　2m



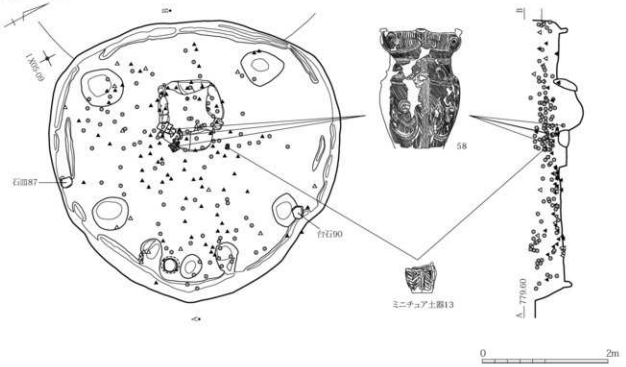

19 黒褐色(10YR3/2)
砂質シルト。粘性強、しまり強
φ 1mm炭化物微混。φ 1mm焼土微混。φ 0.1mm黄褐色土粒微混
20 黄灰色(2.5Y4/1)
砂質シルト。粘性あり。しまりあり
黄褐色ブロック少混。φ 0.5mm炭化物微混
21 褐灰色(10YR4/1)
砂質シルト。粘性強、しまり強
黄褐色粒少混。φ 0.1～3mm炭化物微混
22 黒色(10YR2/1)
砂質シルト。粘性弱、しまり弱
黄褐色粒微混
23 褐灰色(10YR4/1)
砂質シルト。粘性弱、しまり弱
φ 1～3cm炭化物少混。φ 5cm黄褐色ブロック微混
24 灰黄褐色(10YR4/2)
砂質シルト。粘性弱、しまり弱
黄褐色ブロック少混
25 にぶい黄褐色(10YR4/3)
砂質シルト。粘性強、しまり強
暗褐色ブロック少混
26 黒褐色(10YR3/1)
砂質シルト。粘性弱、しまり弱
φ 3～5mm炭化物微混
φ 3～5cm黄褐色ブロック少混




| | | |
|---|---|---|
| 1 | 黒褐色(10YR2/2) | シルト。粘性なし。しまりあり。φ 1～5mm 炭化物多混。一部、炭や焼土がレンズ状に蓄積 |
| 2 | 黒褐色(10YR3/2) | シルト。粘性なし。しまりあり。φ 1cm以下の炭化物少混 |
| 3 | 黒褐色(10YR3/2) | シルト。粘性あり。しまりあり。黄褐色ブロック少混 |
| 4 | 黄褐色(10YR5/8) | シルト |
| 5 | 黒褐色(10YR2/2) | 粘性なし。しまりあり。10YR6/8明黄褐色ブロック少混。炭化物微混 |
| 6 | 黒褐色(10YR2/2) | 粘性なし。しまりなし。10YR6/8明黄褐色ブロック少混。炭片 微量に混じる |
| 7 | 黒褐色(10YR2/2) | 粘性なし。しまりあり。φ 1cm炭化物微混 |
| 8 | 黒褐色(10YR2/2) | 粘性なし。しまりなし。10YR6/8明黄褐色ブロック少混。炭化物微混 |
| 9 | 黒褐色(10YR2/2) | 粘性なし。しまりあり。炭化物微混 |
| 10 | 黒褐色(10YR2/2) | 粘性なし。しまりあり。10YR6/8明黄褐色ブロック多混。炭化物微混 |
| 11 | 黒褐色(10YR2/2) | 粘性なし。しまりなし |
| 12 | 黒褐色(10YR2/2) | 粘性なし。しまりなし |
| 13 | 黒褐色(10YR2/2) | 粘性なし。しまりなし |
| 14 | 黒褐色(10YR2/2) | 粘性なし。しまりあり。炭化物微混 |
| 15 | 黒褐色(10YR2/2) | 粘性なし。しまりあり。炭化物微混。黄褐色粒微混 |
| 16 | にぶい黄褐色(10YR4/3) | シルト。褐色ブロック少混 |
| 17 | 黒褐色(10YR2/3) | シルト。粘性あり。しまり弱 |
| 18 | 黒褐色(10YR2/2) | シルト。粘性あり。しまり強。炭化物微混 焼土ブロック少混 |
| 19 | 暗褐色(10YR3/3) | シルト。粘性あり。しまりあり。黄褐色粒少混 |
| 20 | 被熱面 | |

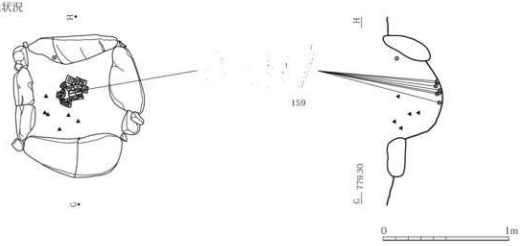
遺物出土状況

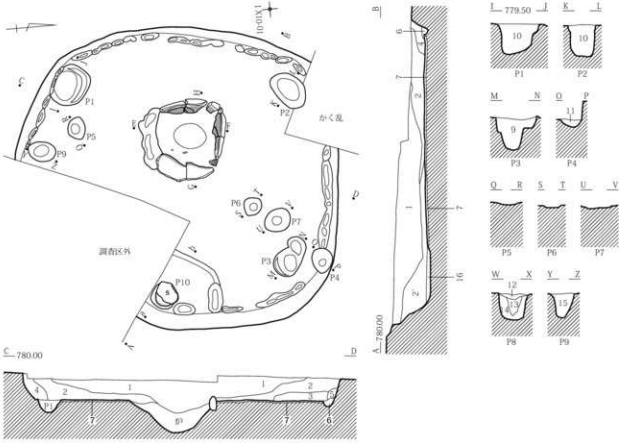


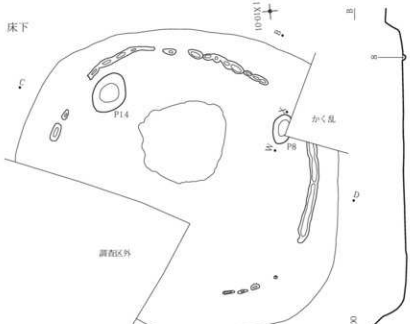

埋甕

21 暗褐色(10YR3/4)　砂質シルト。粘性強。しまりあり。黄褐色ブロック微混。炭化物微混

炉遺物出土状況





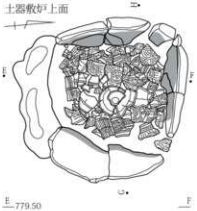



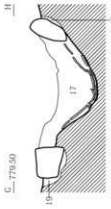

1 黒褐色(10YR2/3)
シルト。粘性あり。しまり弱。炭化物多混
2 暗オリーブ褐色(2・5Y3/3)
シルト。粘性強。しまり弱。炭化物微混
2' 暗オリーブ褐色(2・5Y3/3)
シルト。粘性強。しまり弱。黄色ブロック微混
3 暗灰黄色(2・5Y4/2)
シルト。粘性強い。暗褐色ブロック少混
4 暗灰黄色(2・5Y5/2)
シルト。暗褐色ブロック微混
5 暗灰黄色(2・5Y5/2)
シルト
6 暗灰黄色(2・5Y5/2)
シルト。黄褐色ブロック微混
7 黄褐色(10YR5/6)
シルト。粘性弱。しまり強
8 黒褐色(10YR2/3)
シルト。粘性あり。しまりあり。φ5mm黄褐色ブロック微混
9 黒褐色(10YR3/1)
黄褐色ブロック微混
10 黒褐色(10YR3/1)
シルト。粘性あり。しまり弱。炭化物微混
11 黒褐色(10YR2/3)
シルト。粘性弱。しまり弱。炭化物微混
φ5mm黄褐色ブロック微混
12 黒褐色(10YR2/3)
シルト。粘性弱。しまり弱。炭化物微混
黄褐色ブロック微混
13 にぶい黄褐色(10YR6/4)
黄褐色ブロック多混
14 褐色(10YR3/3)
粘性あり。しまり弱。黄褐色ブロック微混
炭化物微混
15 暗オリーブ褐色(2.5YR3/3)
砂質シルト。粘性弱。しまり弱
16 暗褐色土(10YR3/4)
粘性あり。しまりあり

0　2m

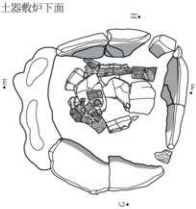
SB14（1）

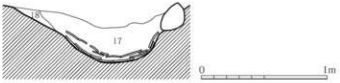
土器敷炉上面



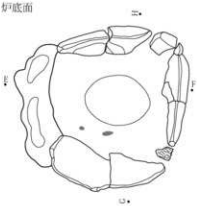

土器敷炉下面



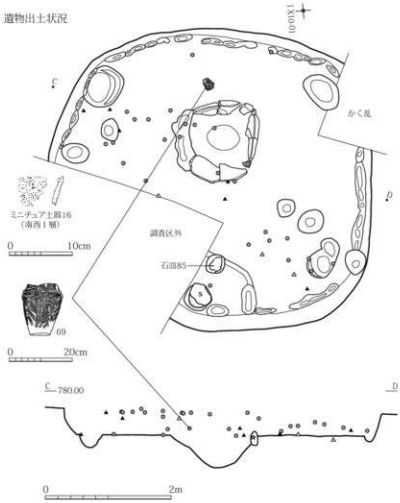




17 暗褐色(10YR3/3)　シルト、粘性強、しまり弱、炭化粒微混、焼土粒微混
18 にぶい黄褐色(10YR4/3)　シルト、粘性なし、しまりなし、黄褐色ブロック少混、炭化物微混
19 黄褐色　シルト、暗褐色ブロックを含む

炉底面




遺物出土状況




土器敷炉上面

土器敷炉下面

土器敷炉遺物

土器敷炉上面

75

71

70

74

78

76

79

77

162

土器敷炉下面

P10埋甕

a 779.50 b

20

16

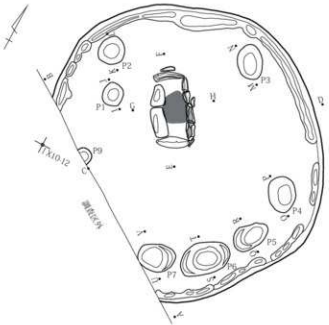
20 黒褐色土(10YR2/3) 粘性強,しまりあり

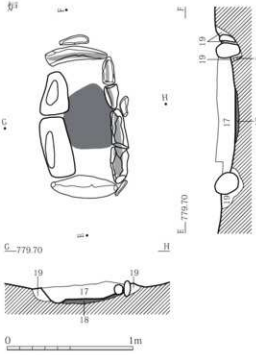
0 1m

73

0 20cm

70・71・73～79・162

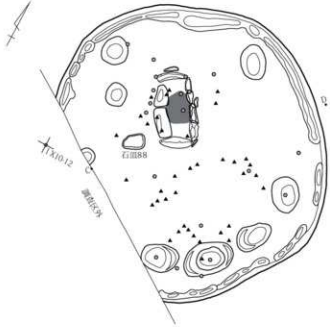


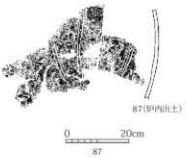




| | | |
|---|---|---|
| 1 | 暗褐色(10YR3/4) | シルト。黄褐色ブロック多混 |
| 2 | 暗褐色(10YR3/4) | シルト。焼土粒微混。炭粒微混。黄褐粒微混 |
| 3 | 暗オリーブ褐色(2.5YR3/3) | シルト。粘性弱。しまり弱。黄褐色粒多混<br>炭化粒少混 |
| 4 | 暗褐色(10YR3/4) | シルト。黄褐色粒微混 |
| 5 | 暗オリーブ褐色(2.5YR3/3) | シルト。粘性弱。しまり弱 |
| 6 | 黒褐色(10YR3/4) | シルト。粘性弱。しまり弱い。黄褐色ブロック<br>微混。炭化粒多混 |
| 7 | 暗オリーブ褐色(2.5YR3/3) | シルト。粘性なし。しまりなし。炭化物多混<br>黄褐色ブロック多混 |
| 8 | にぶい黄褐色(10YR3/4) | シルト。粘性強。しまりなし。黄褐粒多混<br>炭化粒多混 |
| 9 | 黄褐色(10YR3/4) | シルト。粘性弱。しまり弱い。暗褐色ブロック<br>微混 |
| 10 | 暗褐色(10Y3/4) | シルト。黄褐粒微混 |
| 11 | 暗褐色(10Y3/4) | シルト。黄褐ブロック少混 |
| 12 | にぶい黄褐色(10YR4/3) | シルト。粘性強。しまり強 |
| 13 | 黒褐色(10YR2/3) | シルト |
| 14 | 暗褐色(10YR3/4) | シルト。粘性弱。しまり弱い |
| 15 | 褐色(10YR4/4) | シルト。粘性弱。しまり弱い |
| 16 | 暗褐色(10Y3/4) | シルト。黄褐色ブロック多混 |
| 17 | 暗褐色(10YR3/3) | シルト。粘性弱。しまり弱い。黄褐色ブロック<br>少混。炭多混。焼土多混。骨片多混 |
| 18 | 褐色(7.5YR4/6) | 被熱面 |
| 19 | 暗褐色(10YR3/4) | シルト。黄褐色ブロック微混 |

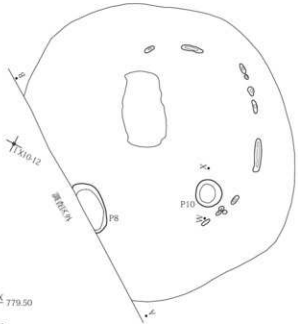
SB15（1）

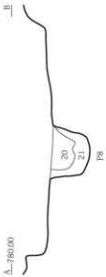
遺物出土状況



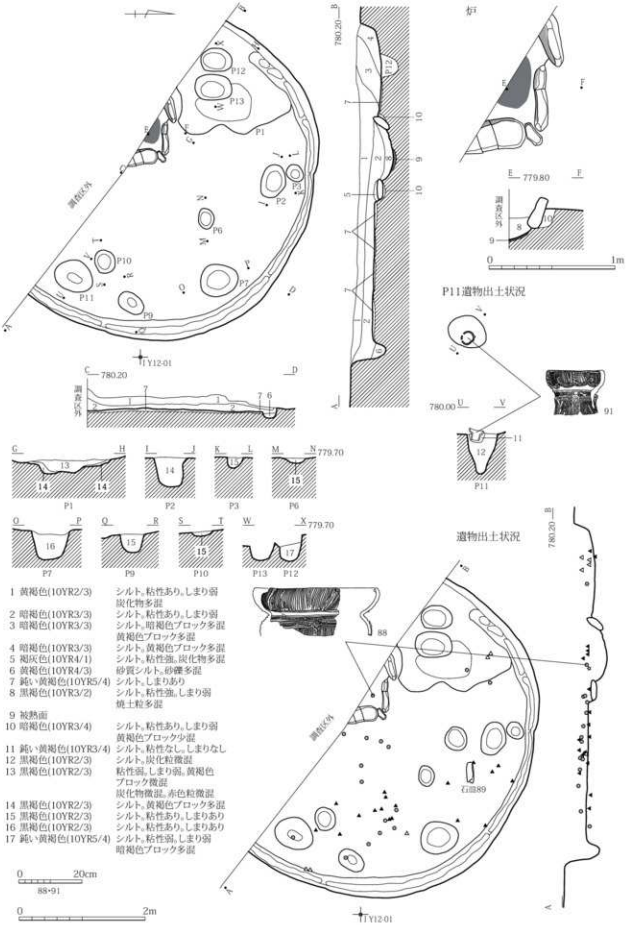
床下



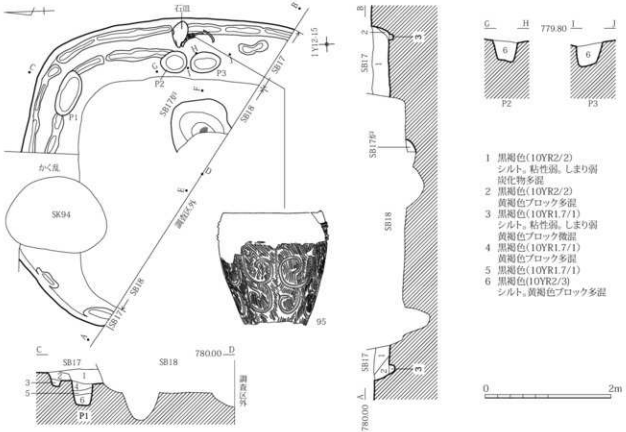



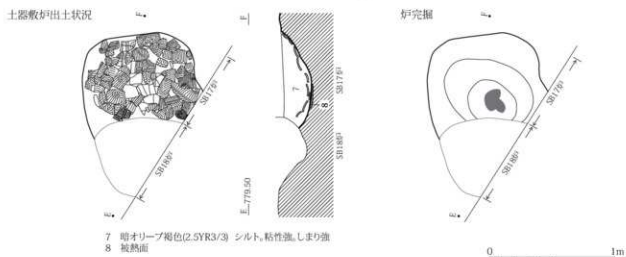
20　黒褐色(10YR2/3)　シルト。粘性弱。しまり弱。φ10 cm黄褐色ブロック多混
21　黒褐色(10YR2/3)　シルト

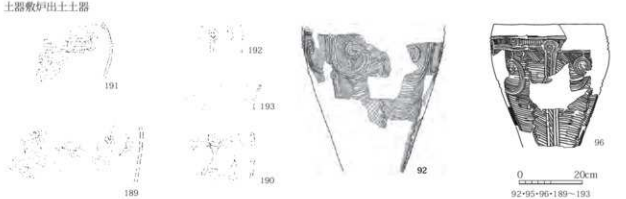
図版 24　中期後葉遺構 22

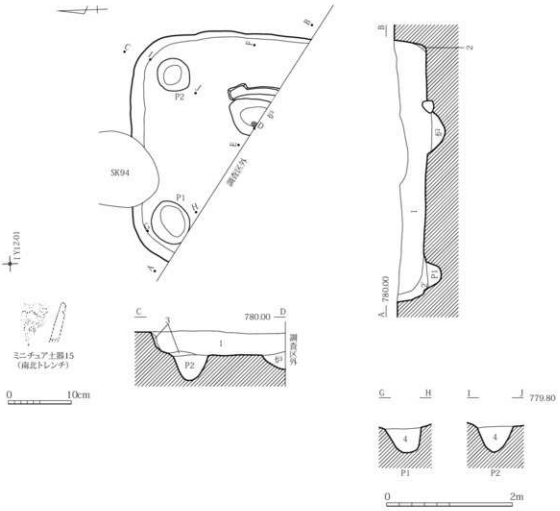



1 黄褐色(10YR2/3)　シルト。粘性あり。しまり弱 炭化物多混
2 暗褐色(10YR3/3)　シルト。粘性あり。しまり弱
3 暗褐色(10YR3/3)　シルト。暗褐色ブロック多混 黄褐色ブロック多混
4 暗褐色(10YR3/3)　シルト。黄褐色ブロック多混
5 褐灰色(10YR4/1)　シルト。粘性強。炭化物多混
6 黄褐色(10YR4/3)　砂質シルト。砂礫多混
7 鈍い黄褐色(10YR5/4)　シルト。しまりあり
8 黒褐色(10YR3/2)　シルト。粘性強。しまり弱 焼土粒多混
9 被熱面
10 暗褐色(10YR3/4)　シルト。粘性あり。しまり弱 黄褐色ブロック少混
11 鈍い黄褐色(10YR3/4)　シルト。粘性なし。しまりなし
12 黒褐色(10YR2/3)　シルト。炭化粒微混
13 黒褐色(10YR2/3)　粘性弱。しまり弱。黄褐色ブロック微混 炭化物微混。赤色粒微混
14 黒褐色(10YR2/3)　シルト。黄褐色ブロック多混
15 黒褐色(10YR2/3)　シルト。粘性あり。しまりあり
16 黒褐色(10YR2/3)　シルト。粘性あり。しまりあり
17 鈍い黄褐色(10YR5/4)　シルト。粘性弱。しまり弱 暗褐色ブロック多混

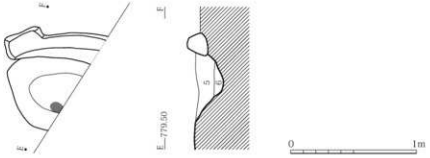

石皿
かく乱
SK94
SB17
SB18
P1
P2
P3
95
1 黒褐色(10YR2/2)
シルト、粘性強。しまり弱
炭化物多混
2 黒褐色(10YR2/2)
黄褐色ブロック多混
3 黒褐色(10YR1.7/1)
シルト、粘性強。しまり弱
黄褐色ブロック微混
4 黒褐色(10YR1.7/1)
黄褐色ブロック多混
5 黒褐色(10YR1.7/1)
6 黒褐色(10YR2/3)
シルト、黄褐色ブロック多混
0
2m


土器敷炉出土状況
炉完掘
7 暗オリーブ褐色(2.5YR3/3) シルト、粘性強。しまり強
8 被熱面
0
1m

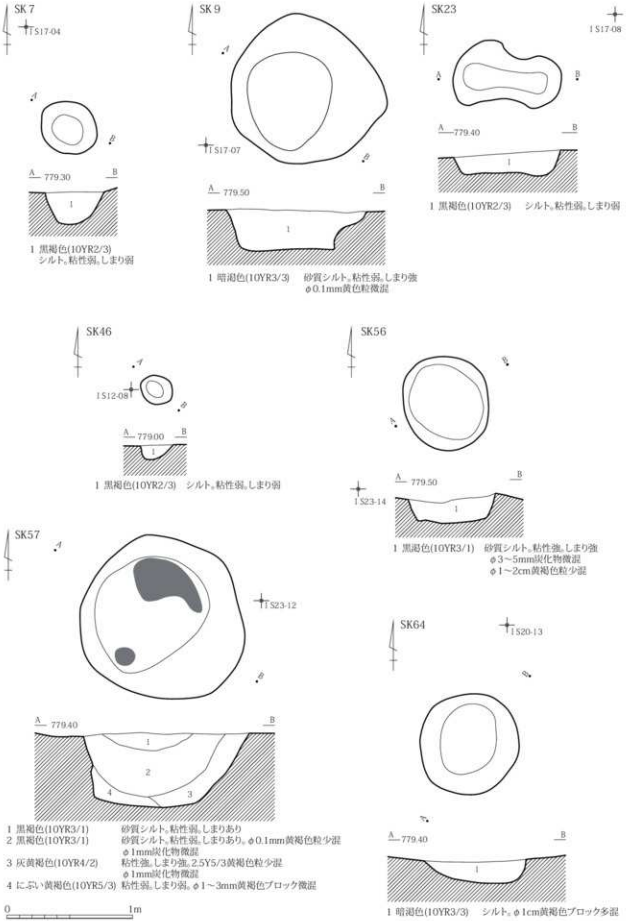

土器敷炉出土土器
191
192
193
189
190
92
96
0
20cm
92・95・96・189～193

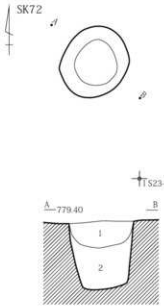



炉完掘

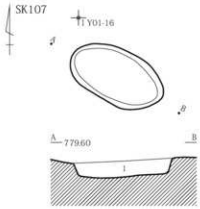



1　黒褐色(10YR2/3)　シルト。粘性弱。しまり弱。炭化物微混。黄褐色粒微混
2　黒褐色(10YR2/3)　黄褐色ブロック少混
2'　黒褐色(10YR2/3)　シルト。粘性弱。しまり弱。炭化物微混
3　黒褐色(10YR2/3)　黄褐色粒ブロック多混
4　黒褐色(10YR2/3)　シルト。粘性弱。しまり弱。φ5mm黄褐色ブロック少混。炭化粒微混
5　黒褐色(10YR3/2)　シルト。粘性なし。しまりなし。炭化粒微混
6　黒色(10YR2/1)　シルト。粘性あり。しまり弱。黄褐色ブロック微混。炭化粒多混。焼土粒微混

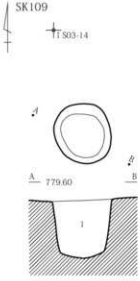

SK 7
1S17-04
A 779.30 B
1
1 黒褐色(10YR2/3)
シルト。粘性弱。しまり弱
SK 9
1S17-07
A 779.50 B
1
1 暗褐色(10YR3/3)　砂質シルト。粘性弱。しまり強
φ0.1mm黄色粒微混
SK23
1S17-08
A 779.40 B
1
1 黒褐色(10YR2/3)　シルト。粘性弱。しまり弱
SK46
1S12-08
A 779.00 B
1
1 黒褐色(10YR2/3)　シルト。粘性弱。しまり弱
SK56
1S23-14
A 779.50 B
1
1 黒褐色(10YR3/1)　砂質シルト。粘性強。しまり強
φ3～5mm炭化物微混
φ1～2cm黄褐色粒少混
SK57
1S23-12
A 779.40 B
1
2
3
4
1 黒褐色(10YR3/1)　砂質シルト。粘性弱。しまりあり
2 黒褐色(10YR3/1)　砂質シルト。粘性弱。しまりあり。φ0.1mm黄褐色粒少混
φ1mm炭化物微混
3 灰黄褐色(10YR4/2)　粘性強。しまり強。2.5Y5/3黄褐色粒少混
φ1mm炭化物微混
4 にぶい黄褐色(10YR5/3)　粘性強。しまり弱。φ1～3mm黄褐色ブロック微混
0　1m
SK64
1S20-13
A 779.40 B
1
1 暗褐色(10YR3/3)　シルト。φ1cm黄褐色ブロック多混



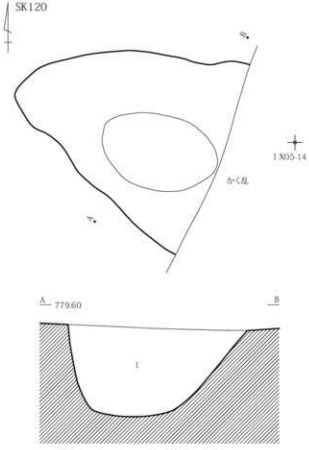

1 黒褐色(10YR2/3)　シルト、粘性弱。しまり弱
　　φ1～2mm炭化物微混
2 暗褐色(10YR3/3)　シルト、粘性あり。しまり弱




1 黒褐色(10YR2/3)　砂質シルト

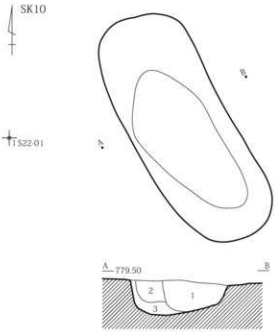



1 褐色(10YR4/6)　黄褐色ブロック微混

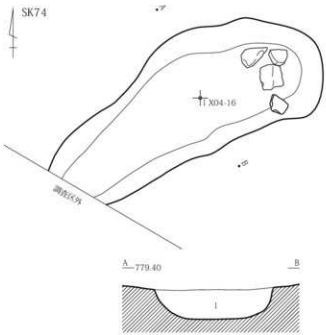



1 黒褐色(10YR2/3)　シルト。粘性あり。しまり弱
　　黄褐色粒微混。炭化物微混

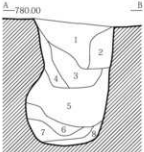
0　1m




1 黒褐色(10YR1.7/1) 粘性強。しまり強。φ2mm赤色粒微混
φ1mm炭化物微混
2 黒褐色(10YR2/2) 粘性強。しまり強
3 褐色(10YR4/4) 粘性強。しまり強



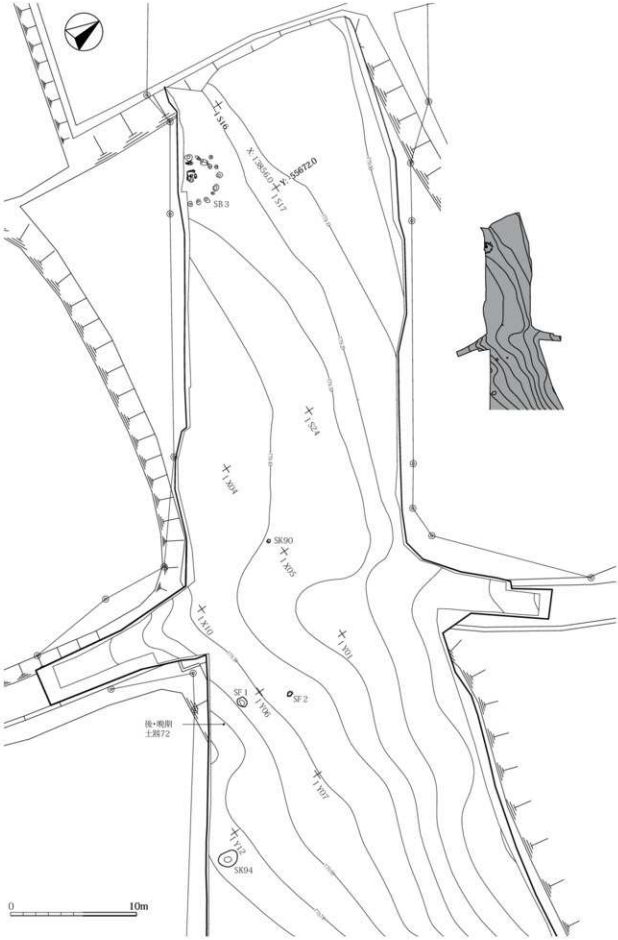

1 黒褐色(10YR2/3) 粘性あり。しまり弱
黄褐色ブロック微混

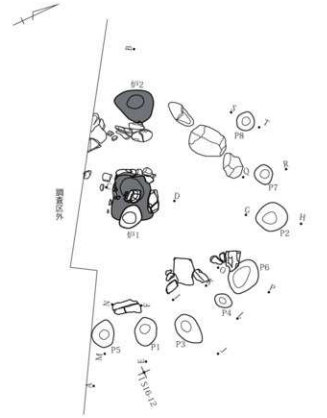


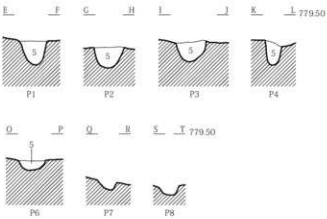

1 黒褐色(10YR2/3) シルト。粘性あり。しまりあり。炭化物微混
2 暗褐色(10YR3/3) シルト。粘性あり。しまり弱。黄褐色ブロック微混
3 黒褐色(10YR2/2) シルト。粘性強。しまり弱。炭化粒少混
φ1～3mm黄褐色ブロック微混
4 暗褐色(10YR3/3) シルト。粘性あり。しまり弱。黄褐色粒微混
5 暗褐色(10YR3/4) 粘性強。しまり弱。黄褐色粒ブロック少混
6 黒褐色(10YR2/3) 粘性強。しまり弱。黄褐色粒微混
7 暗褐色(10YR3/3) シルト。粘性強。しまり弱。黄褐色ブロック少混
8 黒褐色(10YR2/3) 粘性強。しまり弱

0　1m

図版 30　後・晩期遺構配置図

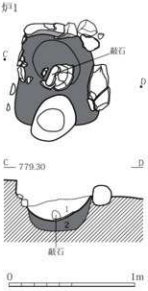




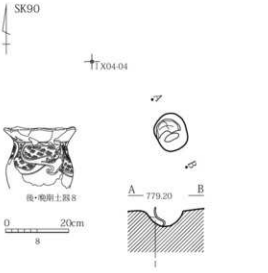

1　暗褐色(10YR3/1)　砂質シルト、粘性なし、しまりなし、赤色粒少混
1'　暗褐色(10YR3/1)　シルト
2　暗赤褐色(5YR3/4)　シルト、被熱面
3　黒褐色(10YR7/1)　シルト、粘性あり、しまり弱、焼土粒少混
4　暗赤褐色(5YR3/4)　シルト、被熱面
5　黒褐色(10YR2/3)　シルト、粘性強、しまり弱

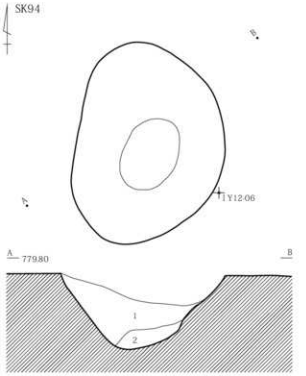
0　2m

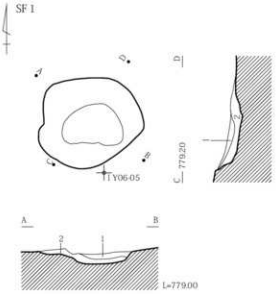


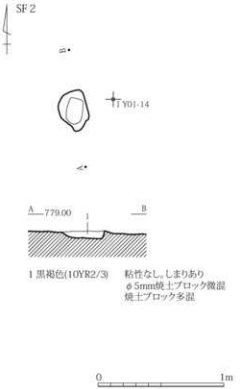

炉内出土土器

図版 32　後・晩期遺構 2

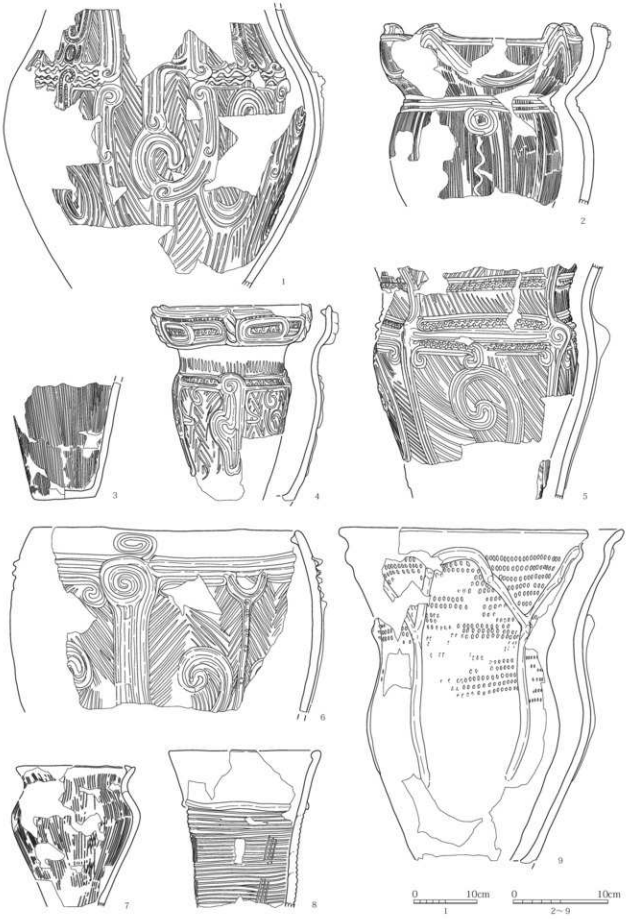


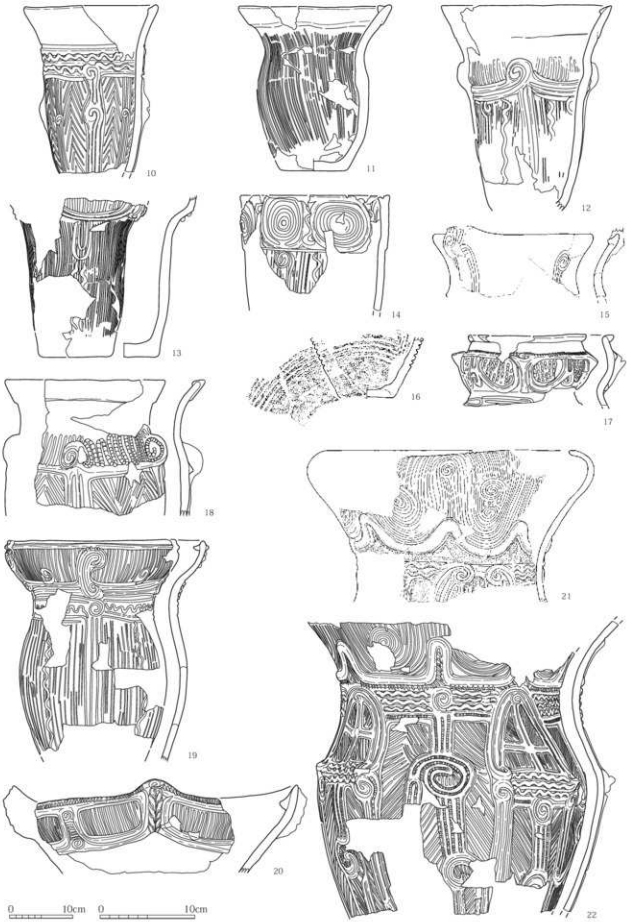



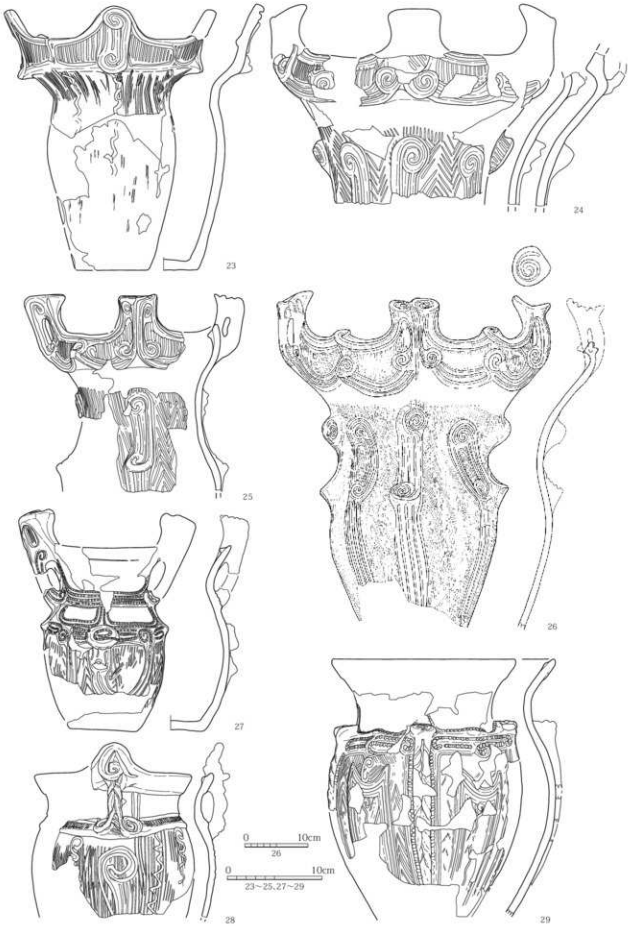

SK90・94　SF 1・2



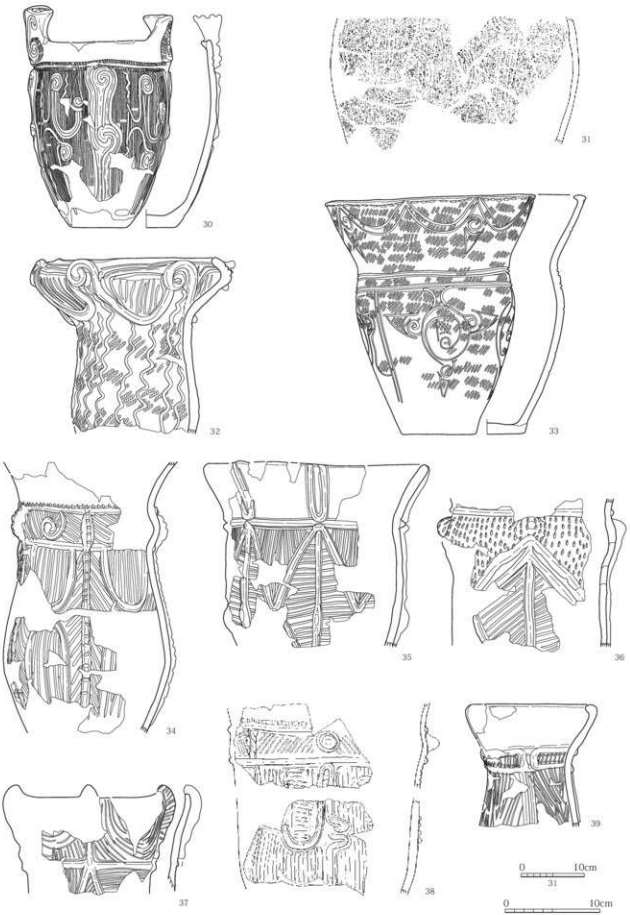

SB 4：1～3　SB 5：4～7　SB 6：8・9



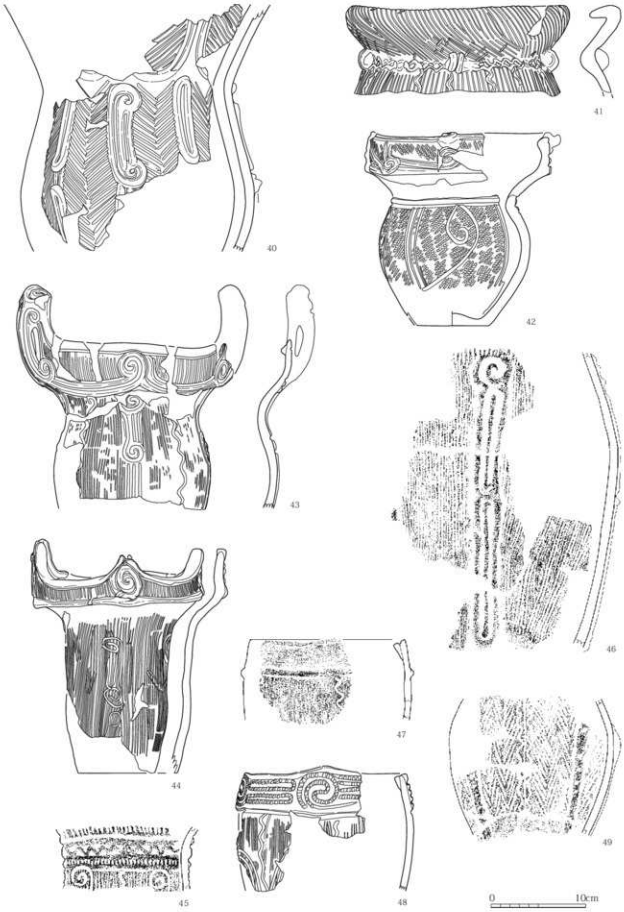

SB 7 : 10 ～ 22




SB 7：23～29

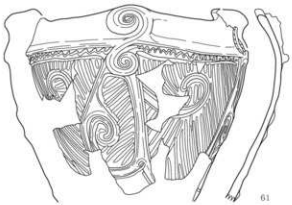


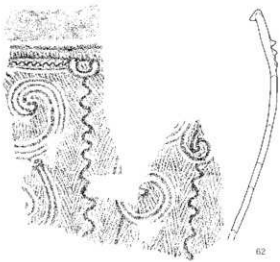

SB 7 : 30 ～ 33　SB10 : 34 ～ 39

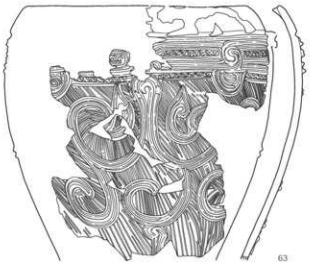


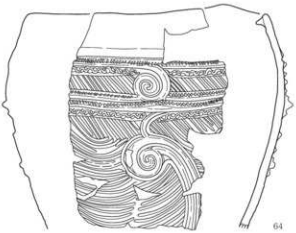

SB10：40～42　SB11：43～49

SB13 : 50 ～ 59



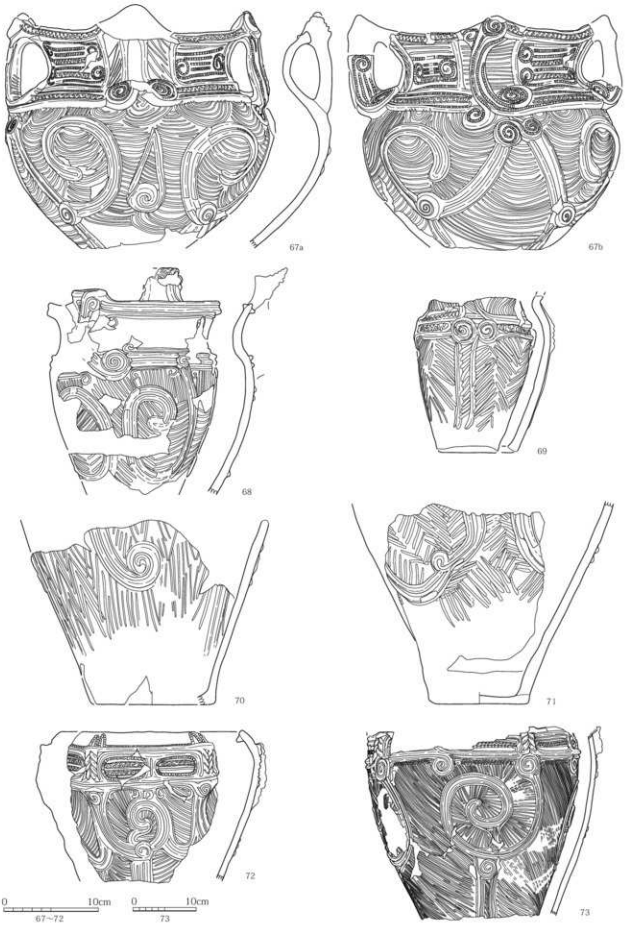



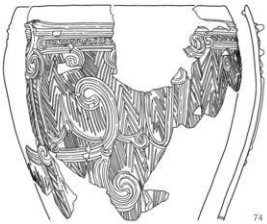
0　10cm
60・61,64～66

0　10cm
62・63

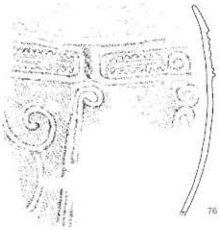
SB13：60～66

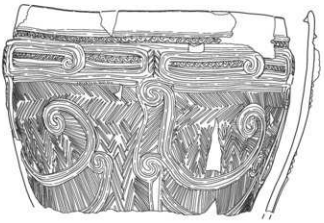


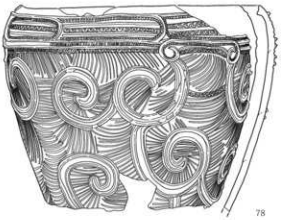

SB13：67　SB14：68～73

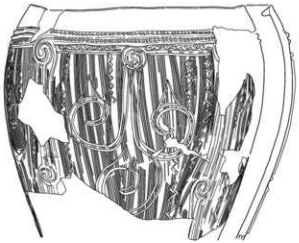

74

75


76

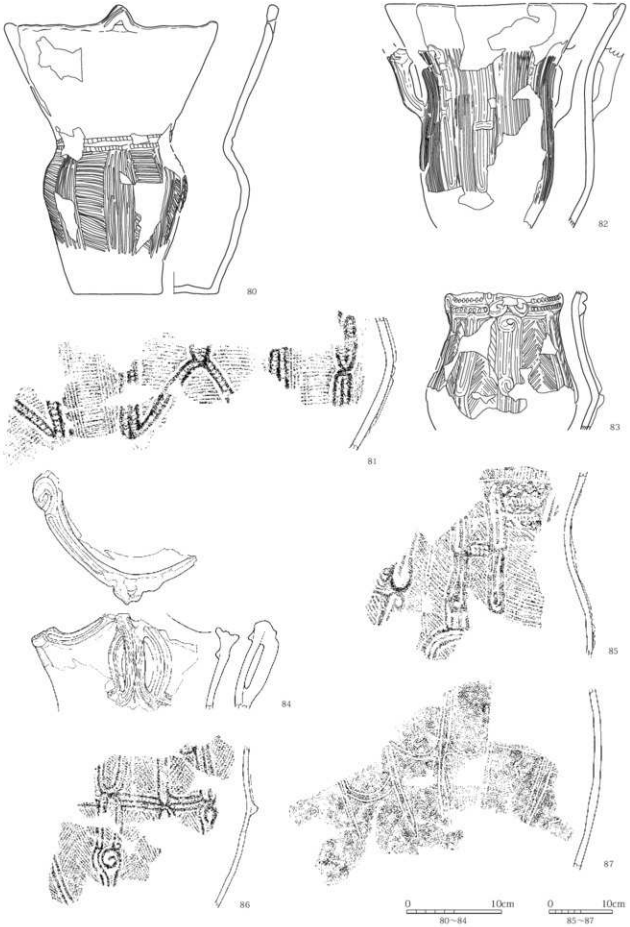

77


78

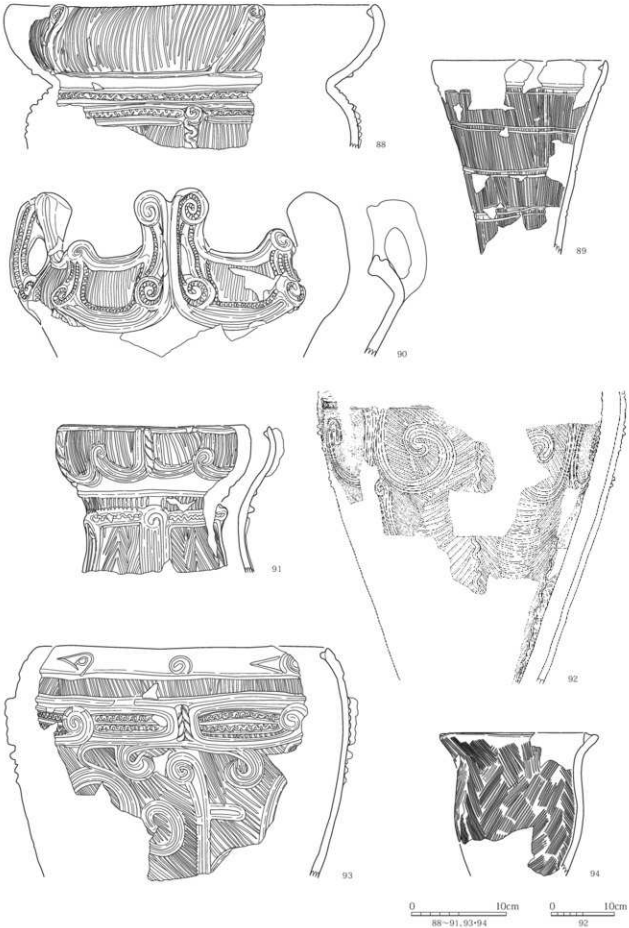

79

0　10cm

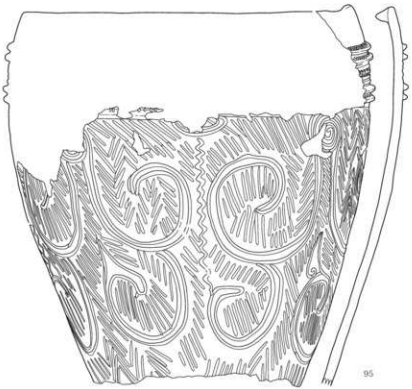
SB14 : 74 ~ 79

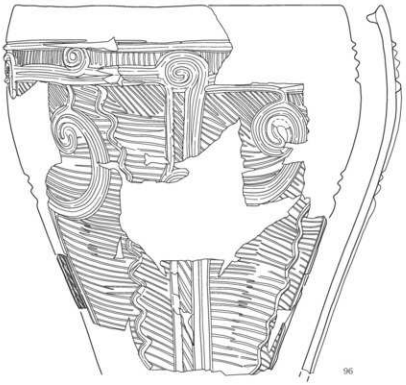



SB15 : 80 ～ 87




SB16 : 88 ～ 91　SB17 : 92・93　SB18 : 94



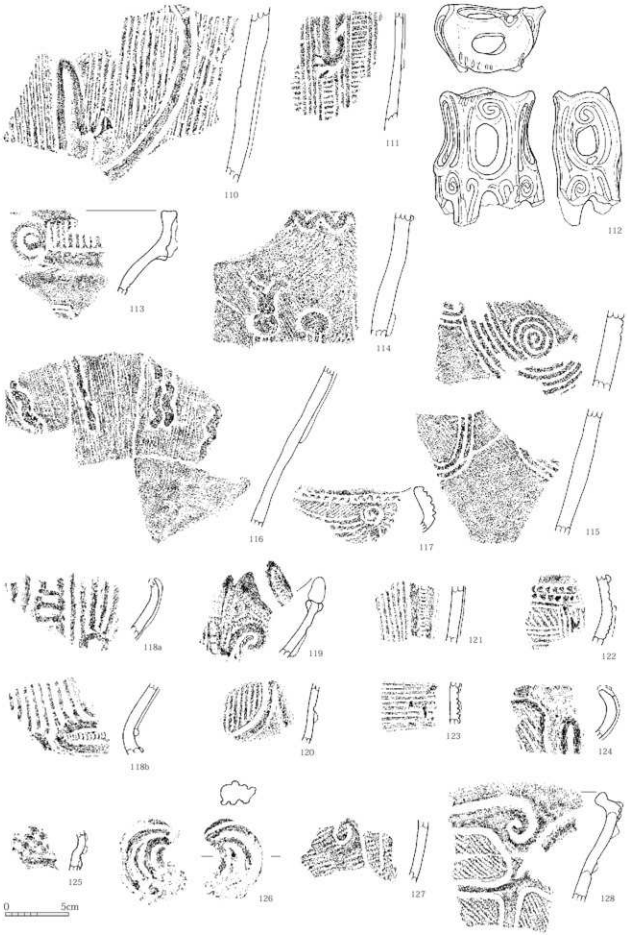




0　10cm

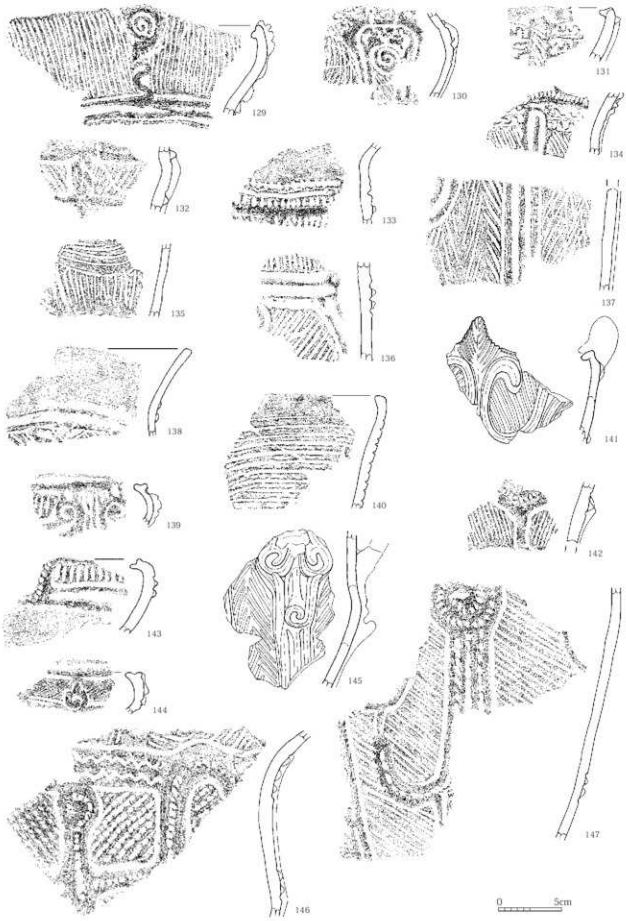
SB17 : 95・96

SB 4 : 97 ～ 100　SB 5 : 101 ～ 104　SB 6 : 105 ～ 109

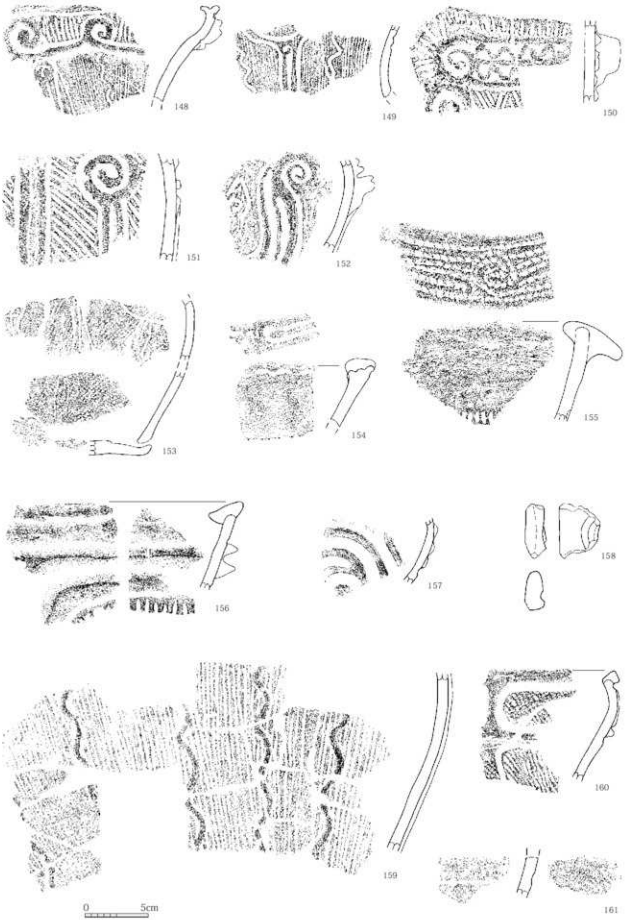
図版 46　中期後葉土器 14



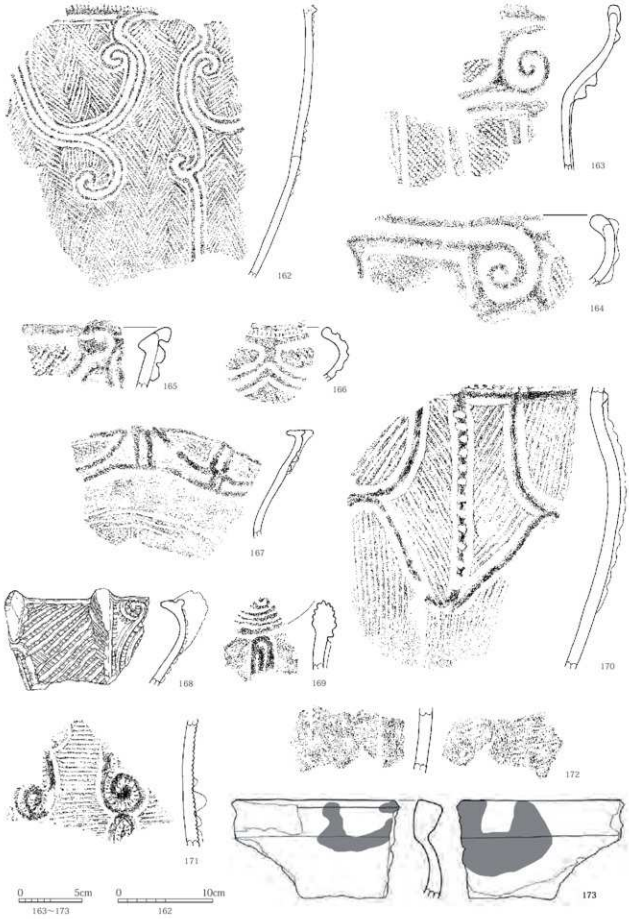

SB 7 : 110 ～ 117　SB 8 : 118 ～ 128



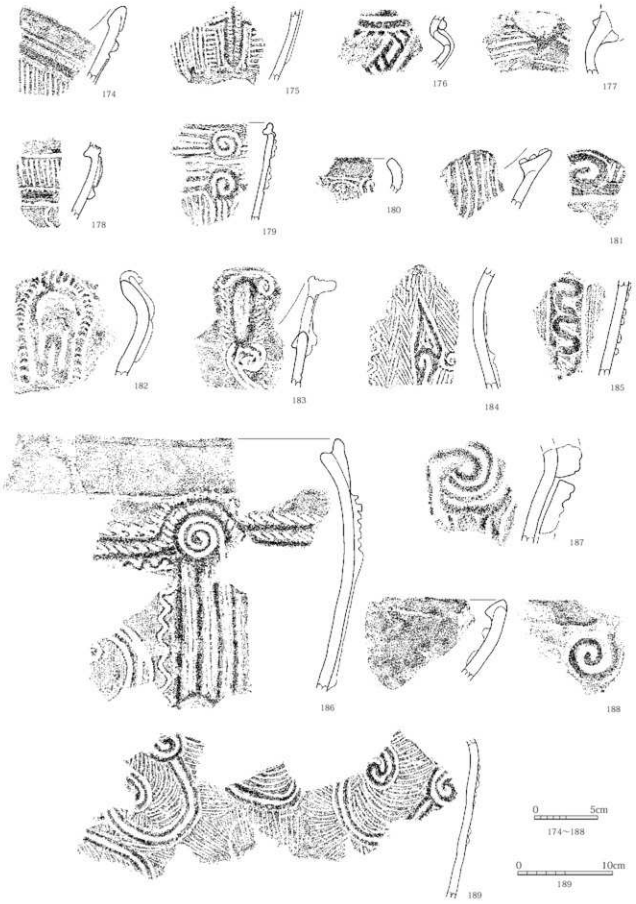

SB 9 : 129 ～ 137　SB10 : 138 ～ 147




SB11 : 148 ～ 155　SB13 : 156 ～ 161



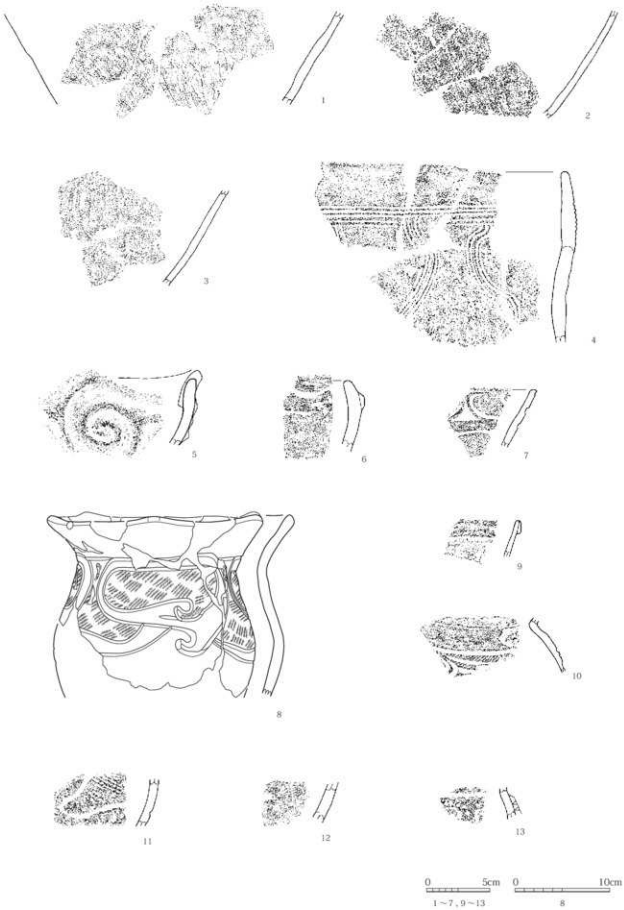

SB14 : 162 ~ 166　SB15 : 167 ~ 173



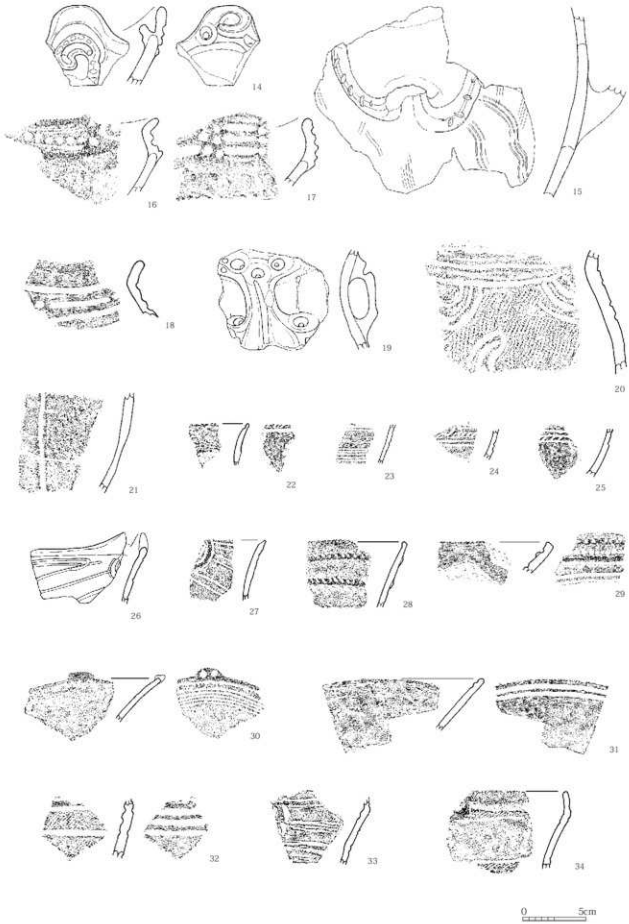

SB16 : 174 ~ 188　SB17 : 189

SB17 : 190 ～ 193　SB18 : 194 ～ 200

図版 52　後・晩期土器 1



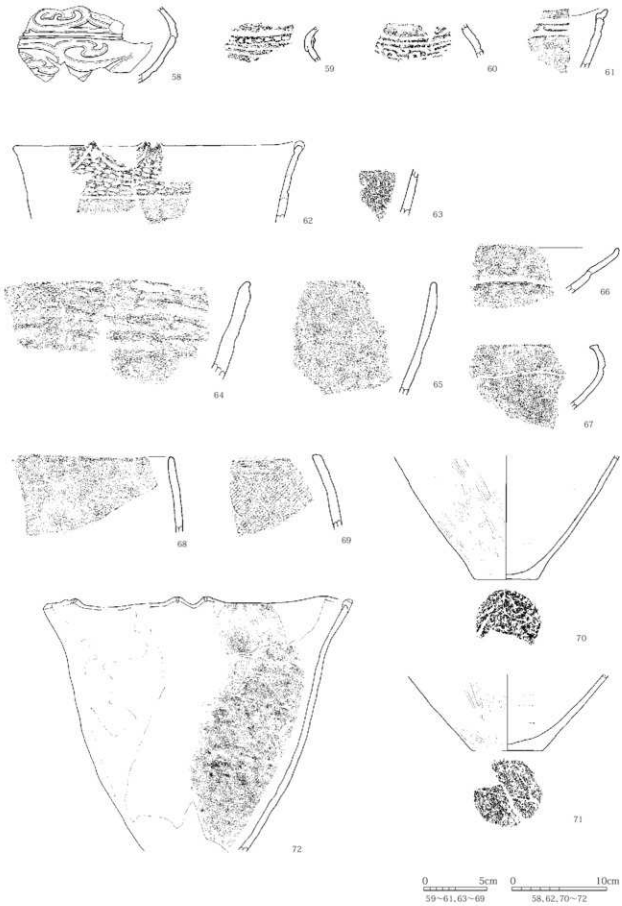

SB 3：1～7　SK90：8　SK94：9・10　SF 1：11～13



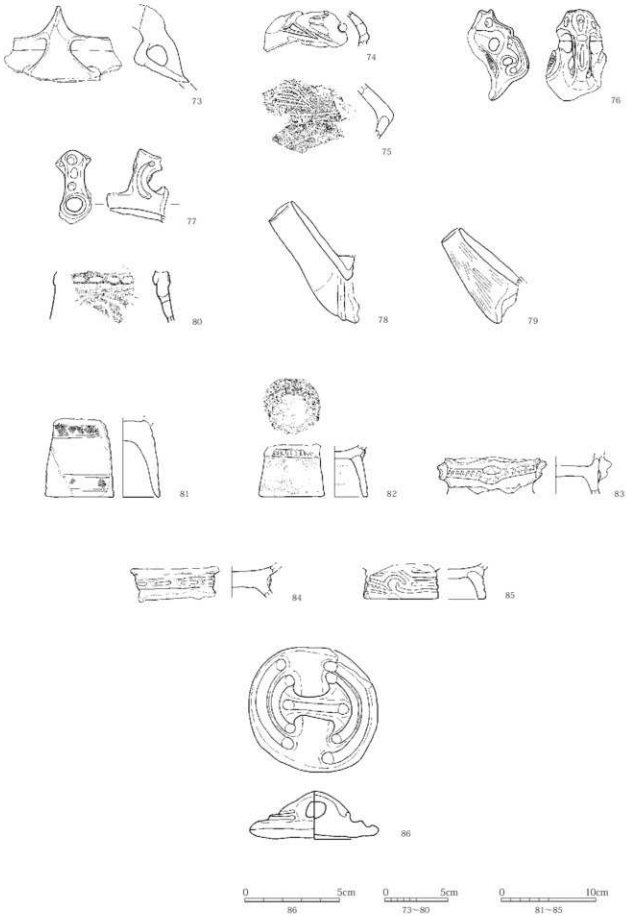

NR 1：16・17・19・20・22～34　IS16：18　IS12・17：21　IY01-4：14　かく乱：15

図版 54　後・晩期土器 3

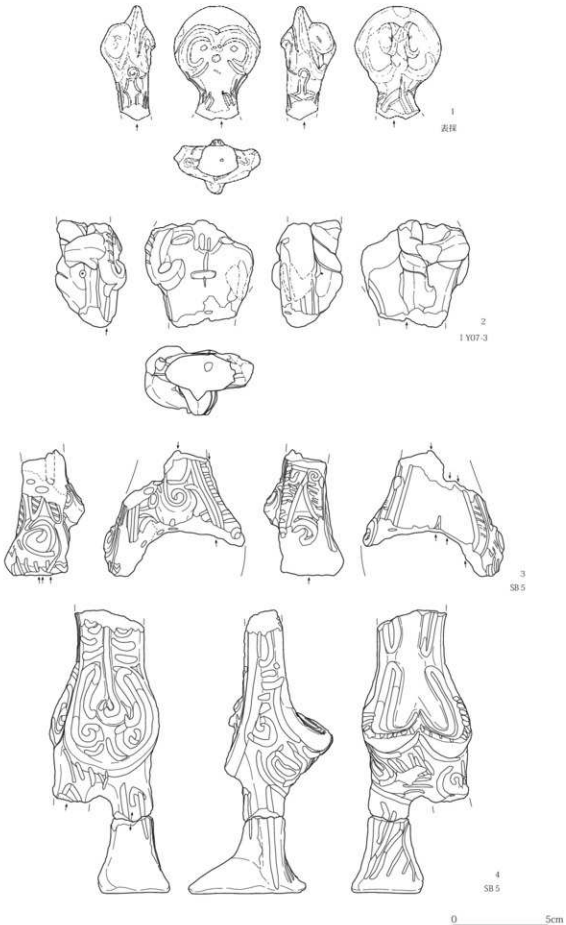
NR 1：35～37・41～49・51～57　IS12・17：38・39　IS17：40　IY01-3：50



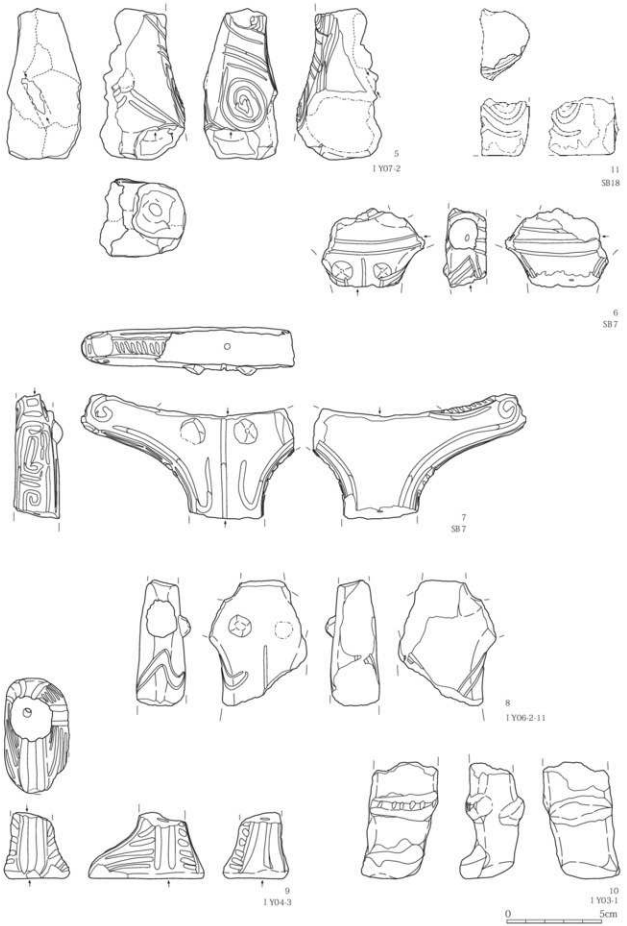

NR 1：58～60・62・63・65・67～71　IY07-4：61　IS12-17：64　IY03-3：66　IY06：72



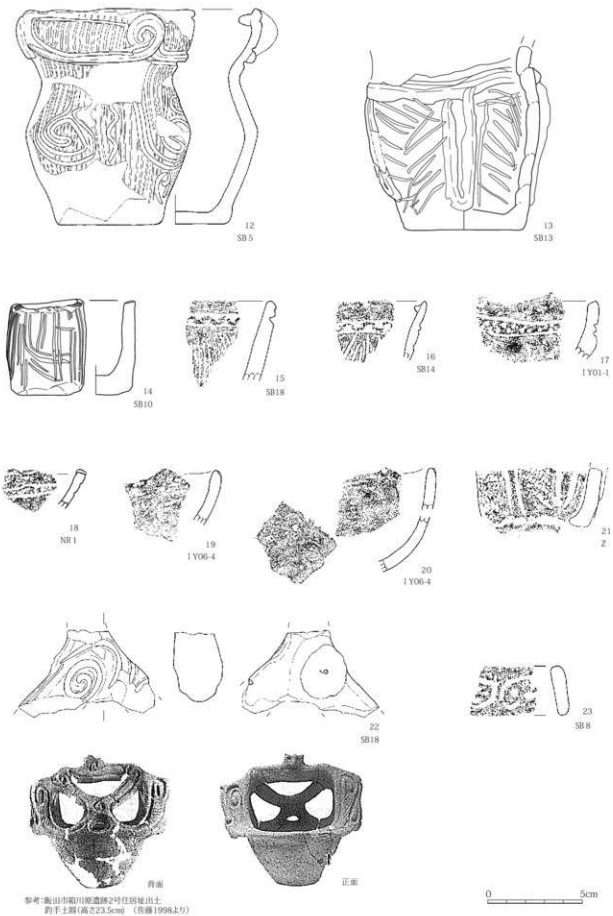

NR 1：73～75・78～82・84～86　IX10：76　IS18：77　IS17：83




土偶（1）：1～4

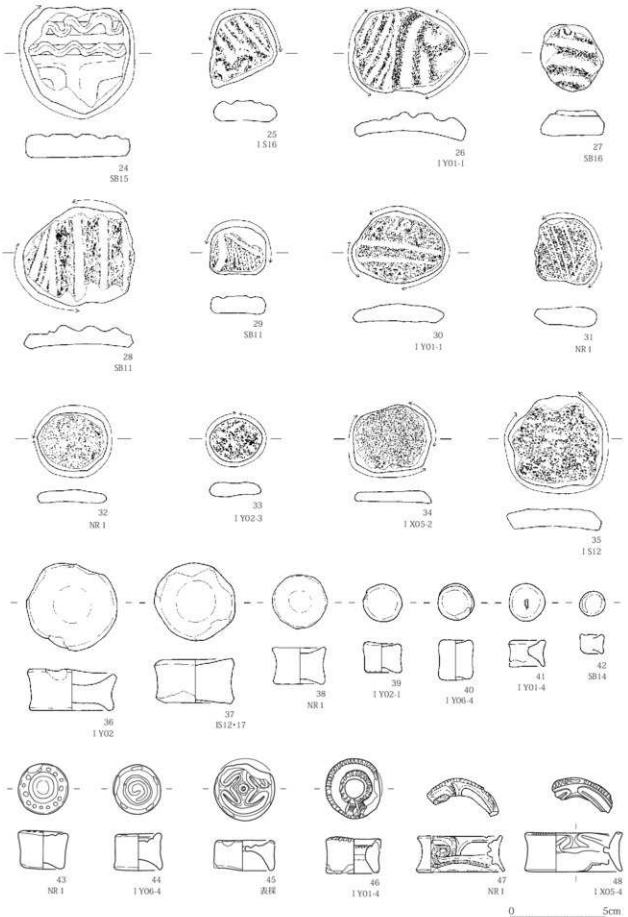



土偶（2）：5～11



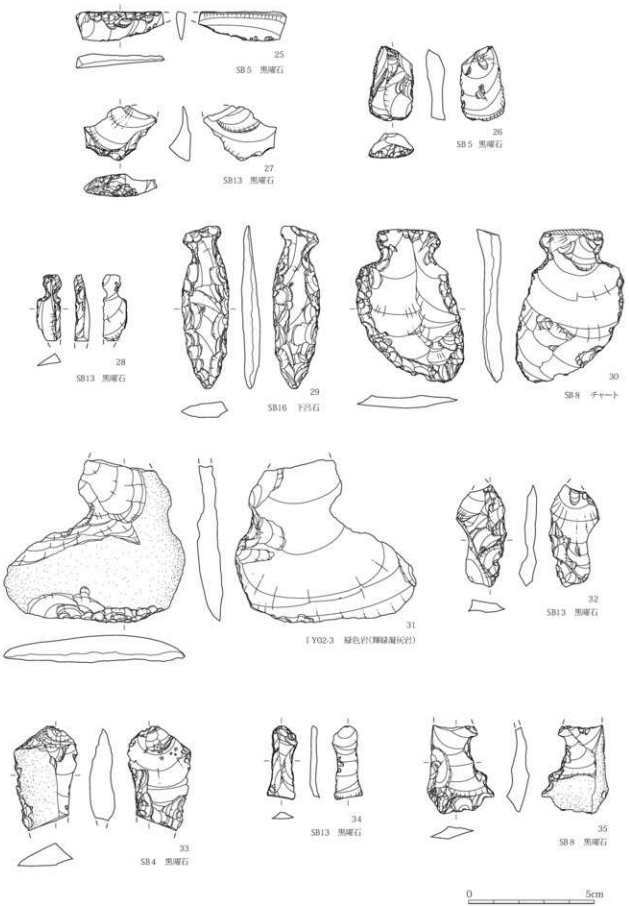

参考：飯田市鼎川原遺跡2号住居址出土
釣手土器（高さ23.5cm）（長藤1998より）

ミニチュア土器：12～21　その他土製品：22・23

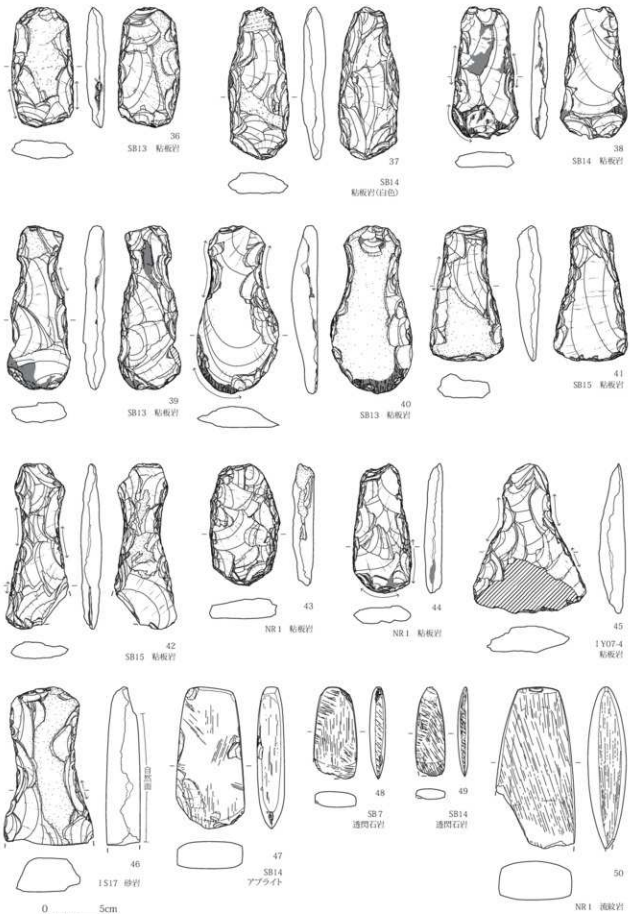



土製円板：24 ～ 35　土製耳飾：36 ～ 48

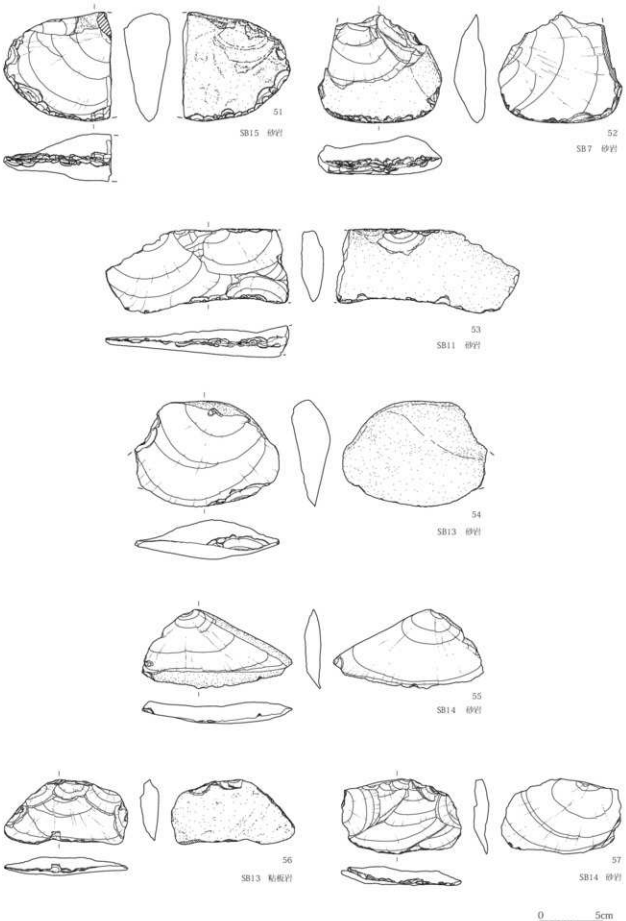
石鏃：1~14　石鏃未製品：15・16　石錐：17~19　楔形石器：20~24



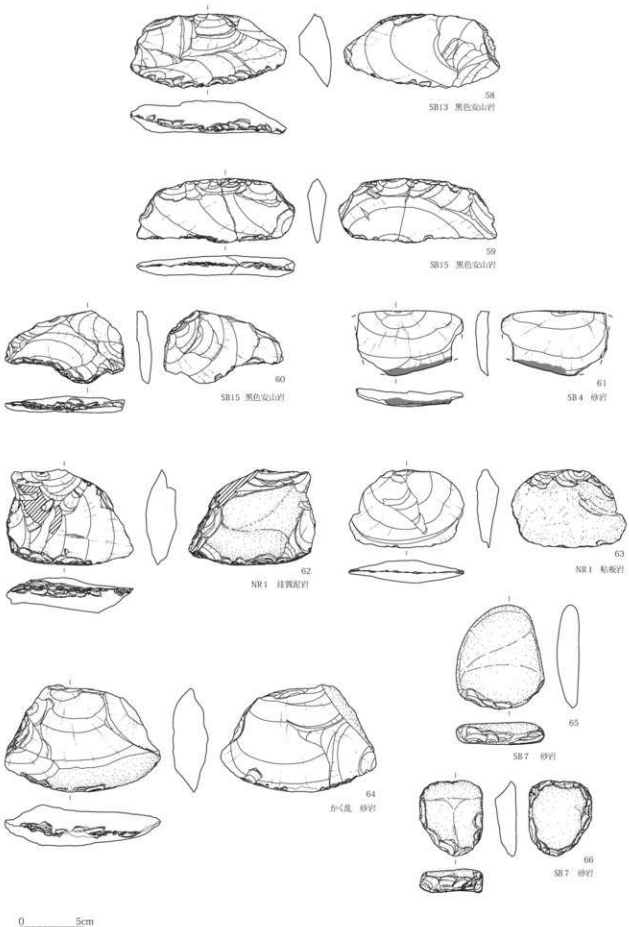

削器：25　掻器：26・27　石匙：28-31　二次加工がある剥片：32・33　微細剥離がある剥片：34・35



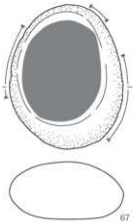

打製石斧：36~46　磨製石斧：47~50


51
SB15 砂岩
52
SB7 砂岩
53
SB11 砂岩
54
SB13 砂岩
55
SB14 砂岩
56
SB13 粘板岩
57
SB14 砂岩
0
5cm

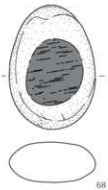
横刃形石器：51~57



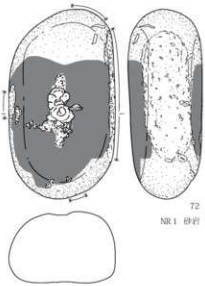

横刃形石器：58～64　礫器：65・66



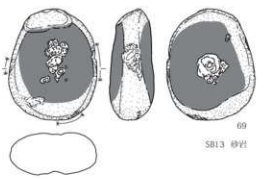
67
SB13 頁レイ岩



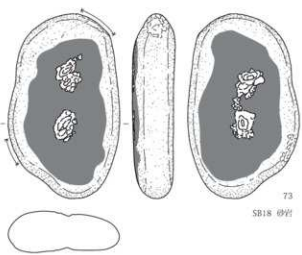
68
NR1 頁岩



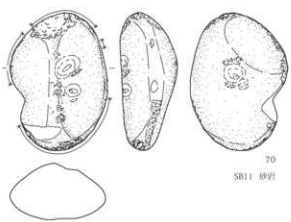
72
NR1 砂岩



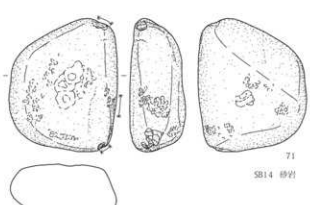
69
SB13 砂岩



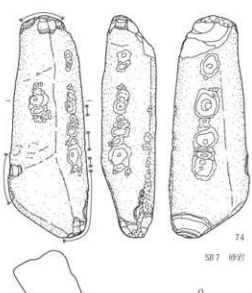
73
SB18 砂岩



70
SB11 砂岩



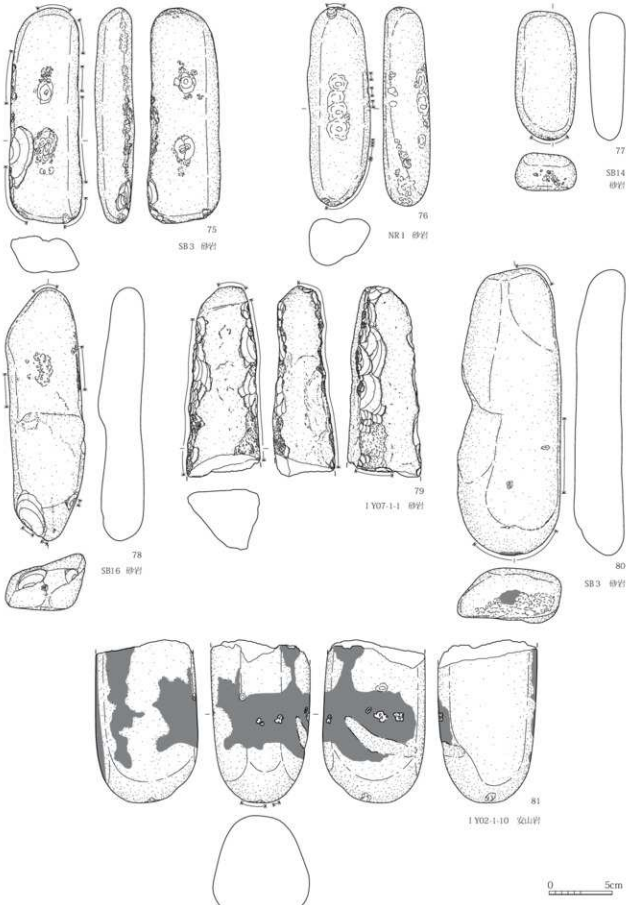
71
SB14 砂岩



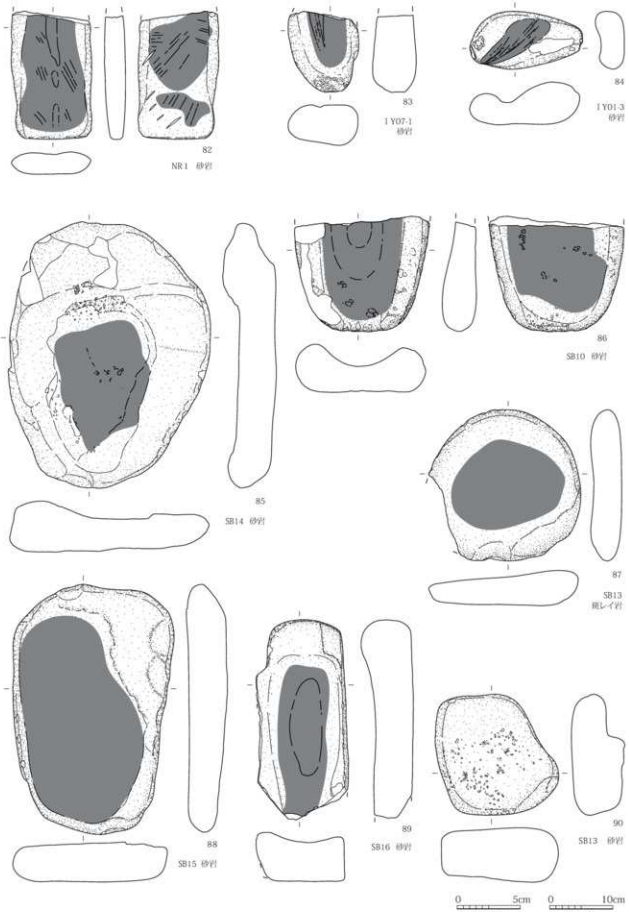
74
SB7 砂岩

0　5cm

磨石・凹石・敲石：67~74




磨石・凹石・敲石：75～80　特殊磨石：81




砥石：82～84　石皿・台石：85~90

# 写 真 図 版

山鳥場遺跡（南東方向より）

2017 年調査区全景

2016 年度調査　竪穴建物跡群（手前からＳＢ 11・10・9）

2017 年度調査　竪穴建物跡群

ＳＢ４完掘

ＳＢ４炉石検出状況

ＳＢ４炉完掘

ＳＢ５炉検出状況

ＳＢ５炉完掘

ＳＢ５完掘

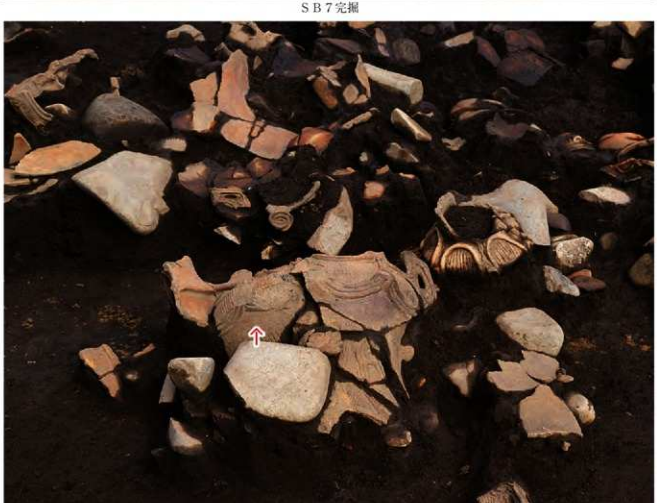
ＳＢ６遺物（No.9）出土状況

ＳＢ６完掘

ＳＢ７遺物出土状況

ＳＢ７炉完掘

ＳＢ７完掘



ＳＢ７遺物出土状況（矢印がエゴマと推測される種実圧痕を大量に含む土器（No.26））

ＳＢ８完掘

ＳＢ８炉上面の焼土堆積状況

ＳＢ８炉完掘

ＳＢ８貼床

ＳＢ８周溝

ＳＢ９完掘

ＳＢ９炉完掘

ＳＢ９炉西隅の立石状況

ＳＢ９炉出入口側立石状況

ＳＢ９出入口部Ｐ８上面平石

ＳＢ 10 完掘

ＳＢ 10 遺物出土状況

ＳＢ 10 炉周辺遺物出土状況

ＳＢ 10 炉断面

ＳＢ 10 炉完掘

ＳＢ 11 完掘

ＳＢ 11 床下検出施設

ＳＢ 11 遺物出土状況

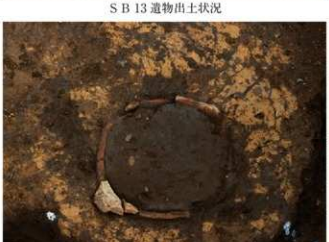
ＳＢ 11 炉上面遺物出土状況

ＳＢ 11 炉完掘

ＳＢ 13 完掘　　Ｐ６上面黒曜石出土状況

ＳＢ 13 遺物出土状況

ＳＢ 13 炉内土器敷設状況



ＳＢ 13 埋甕検出状況

ＳＢ 13 埋甕（No67）

ＳＢ 14炉内土器敷設状況下段（東側より）

ＳＢ 14土器敷炉断面

土器敷設上段中央より出土した土器（No.70・71）

ＳＢ 14埋甕（No.73）

ＳＢ 14完掘

ＳＢ 15 完掘

ＳＢ 15 遺物出土状況

ＳＢ 15 炉周辺遺物出土状況

ＳＢ 15 炉完掘

ＳＢ 16 完掘

ＳＢ 16 炉完掘

ＳＢ 16 ピット 11 土器（No.91）出土状況

ＳＢ 16 ピット 11 土器（No.91）埋設状況

ＳＢ 17 土器敷設状況・ＳＢ 18 炉北側より

ＳＢ 17 土器敷設状況西側より

ＳＢ 17 土器（No.95）出土状況

ＳＢ 17 と 18 の切合い部分・断面

ＳＢ 17・18 完掘

ＳＫ９完掘（中期後葉）

ＳＫ10断面（時期不明）

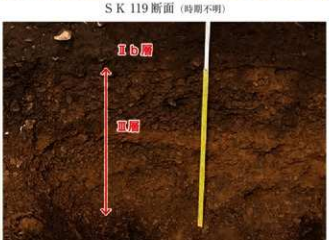
ＳＫ57断面（中期後葉）

ＳＫ57完掘（中期後葉）

ＳＫ96断面（時期不明）

ＳＫ119断面（時期不明）

④区基本土層




④区基本第Ⅲ層　ロームと砂礫の互層状況

ＳＢ３敷石検出状況

ＳＢ３柱穴列

ＳＢ３炉１

ＳＦ１

ＩＹ06土器（No.72）出土状況

ＳＫ90土器（No.8）出土状況

ＮＲ１

ＮＲ１遺物出土状況

SB 4：1～3　SB 5：4～7　SB 6：8・9

SB 7：10～22

SB 7：23 ～ 29

SB 7：30～33　SB10：34～39

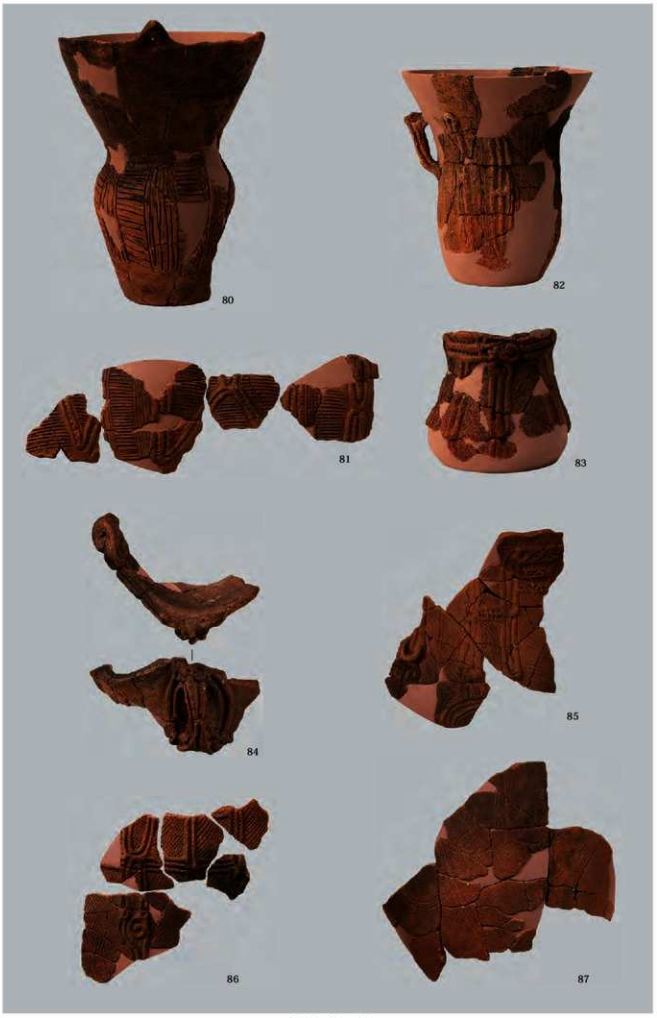
SB10：41 ～ 42　SB11：43 ～ 49

SB13：50 ～ 59

SB13：60 ～ 66

SB13：67　SB14：68 ～ 73

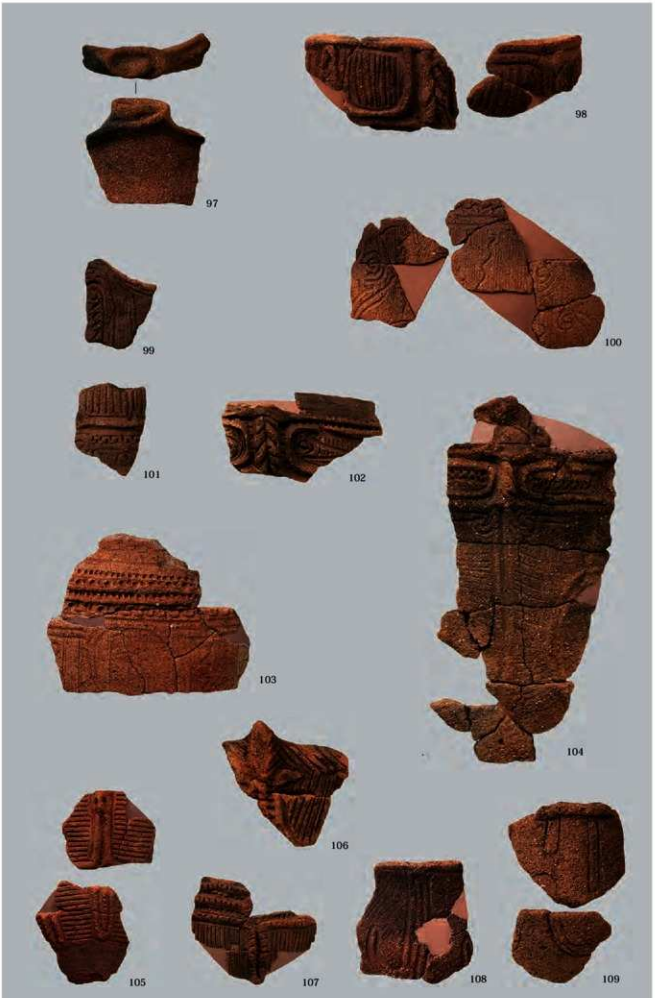
SB14：74 ～ 79




SB15：80 ～ 87

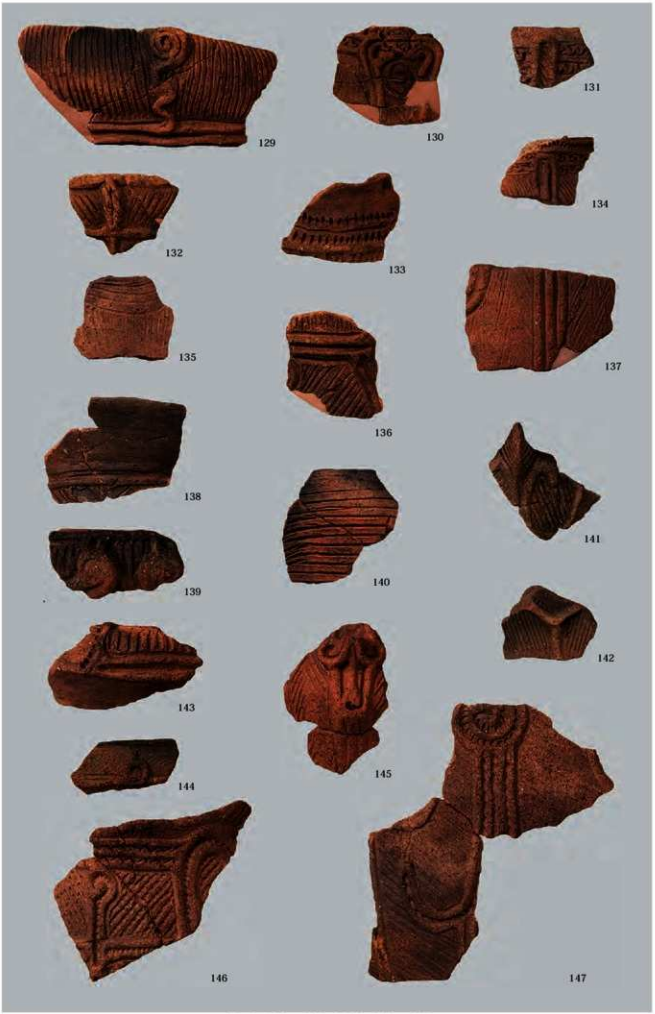
SB16：88 ～ 91　SB17：92・93　SB18：94

SB17：95・96

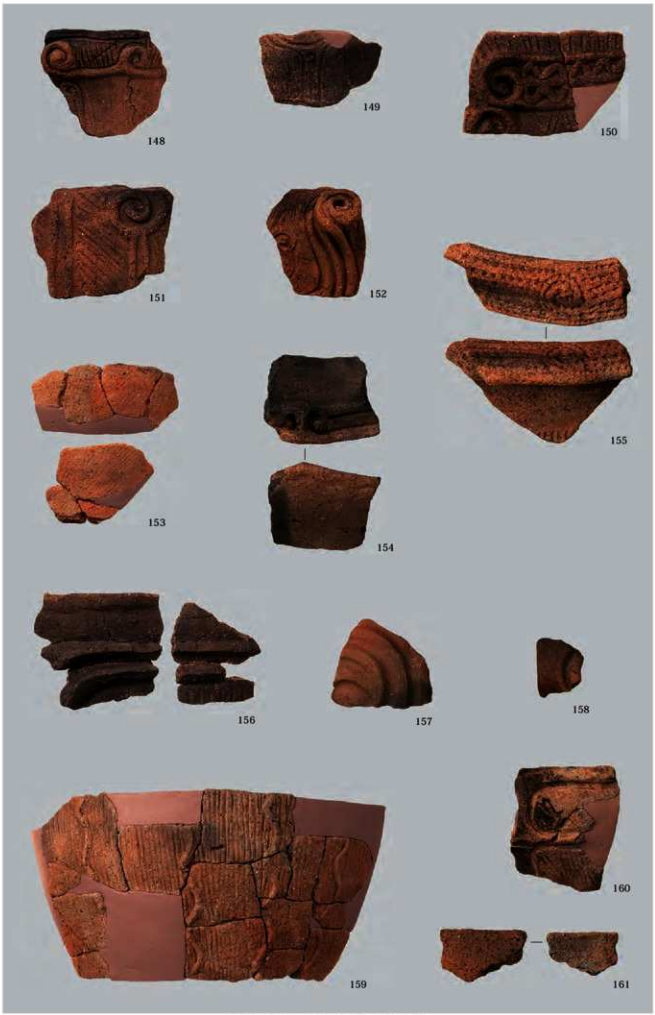



SB 4：97 ～ 100　SB 5：101 ～ 104　SB 6：105 ～ 109

SB 7：110 ～ 117　SB 8：118 ～ 128




SB 9：129～137　SB10：138～147



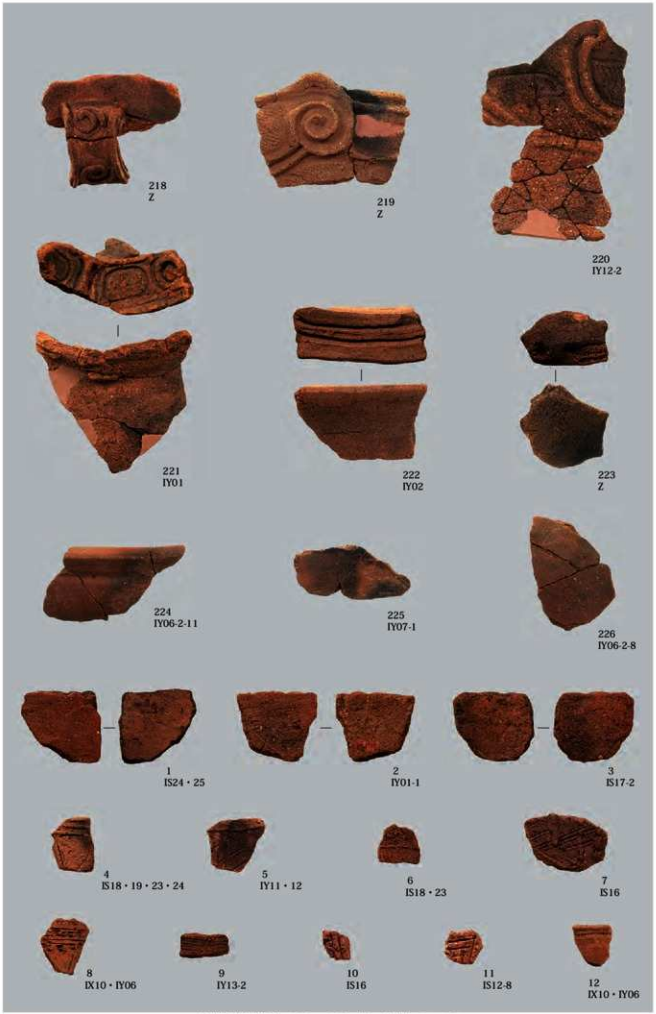

SB11：148 ～ 155　SB13：156 ～ 161

SB14：162 ～ 166　SB15：167 ～ 173

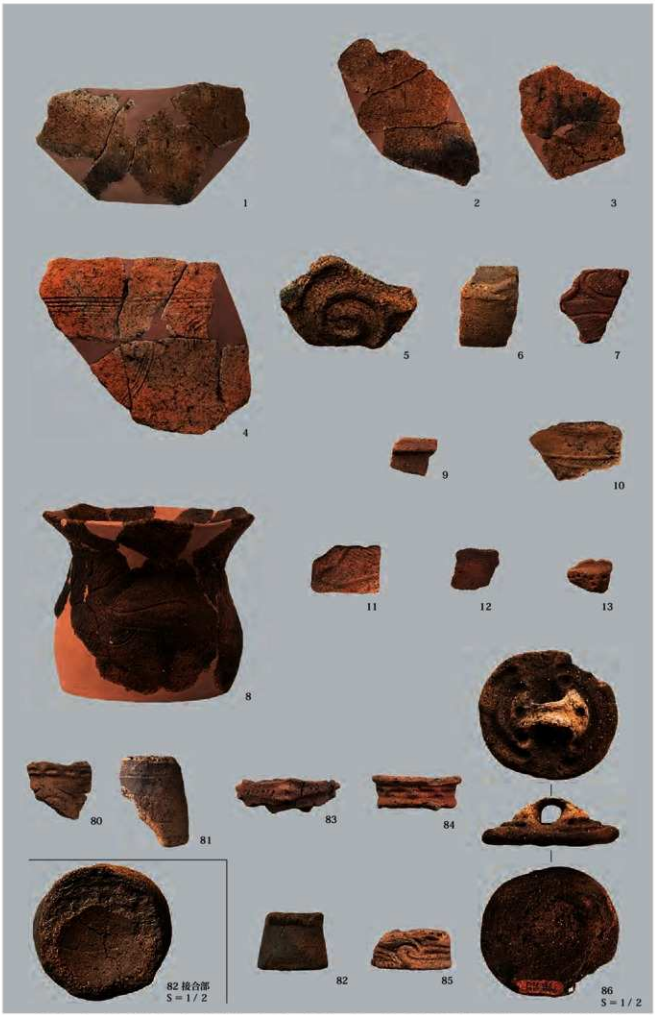
SB16：174 ～ 188　SB17：189

SB17：190 ～ 193　SB18：194 ～ 200

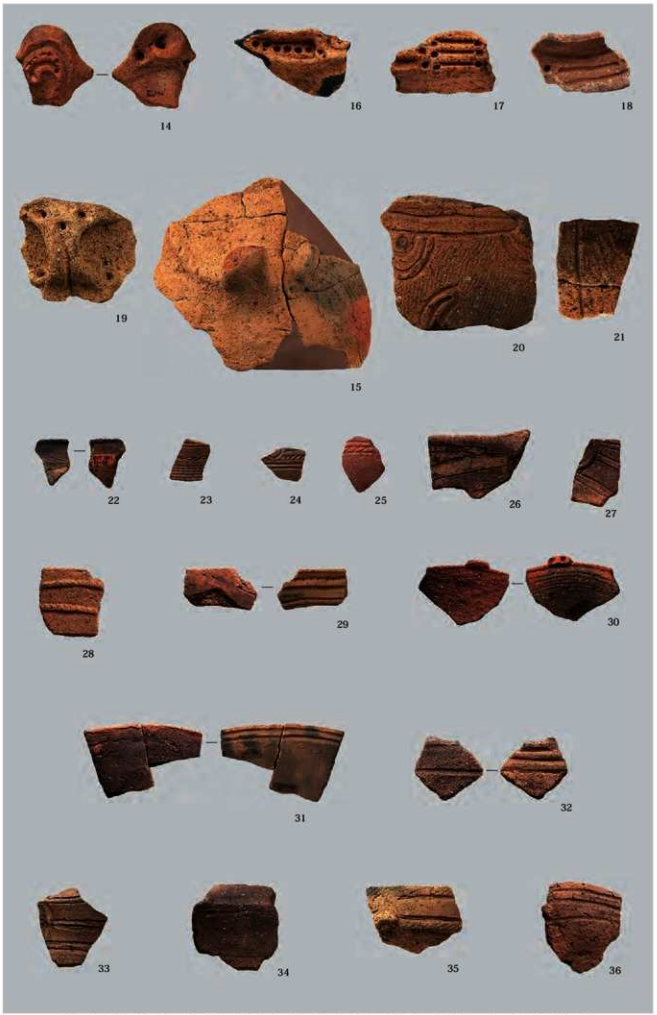
SK 7：201　SK 9：202　SK23：203　SK46：204　SK56：205～207　SK57：208・209　SK64：210・211
SK72：212・213　SK107：214　SK109：215　SK120：216・217



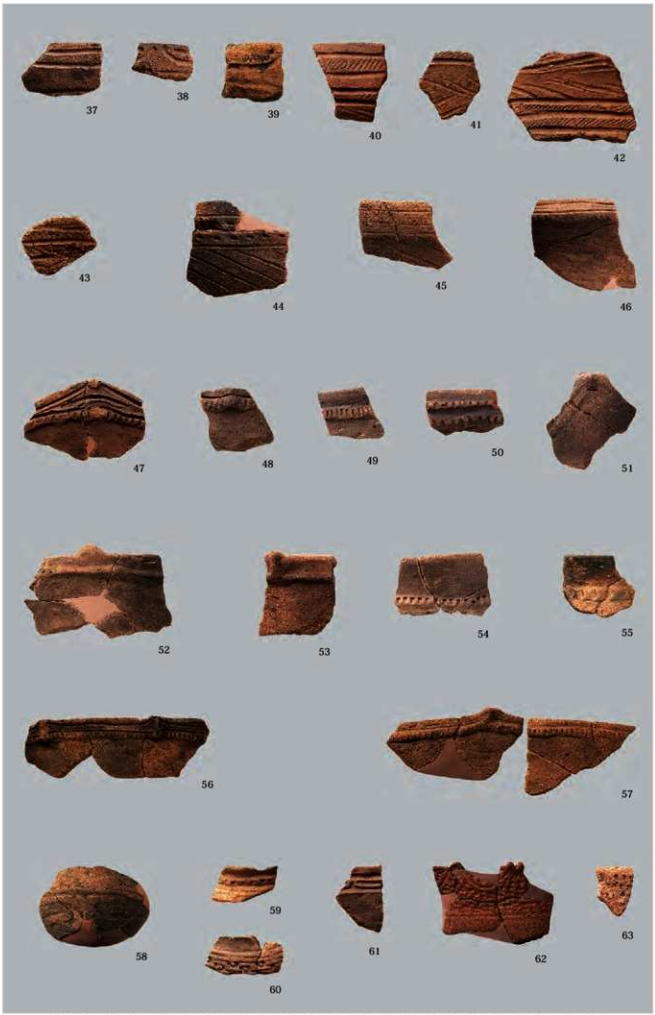

中期後葉遺構外：218 ～ 226　早・前期：1 ～ 12



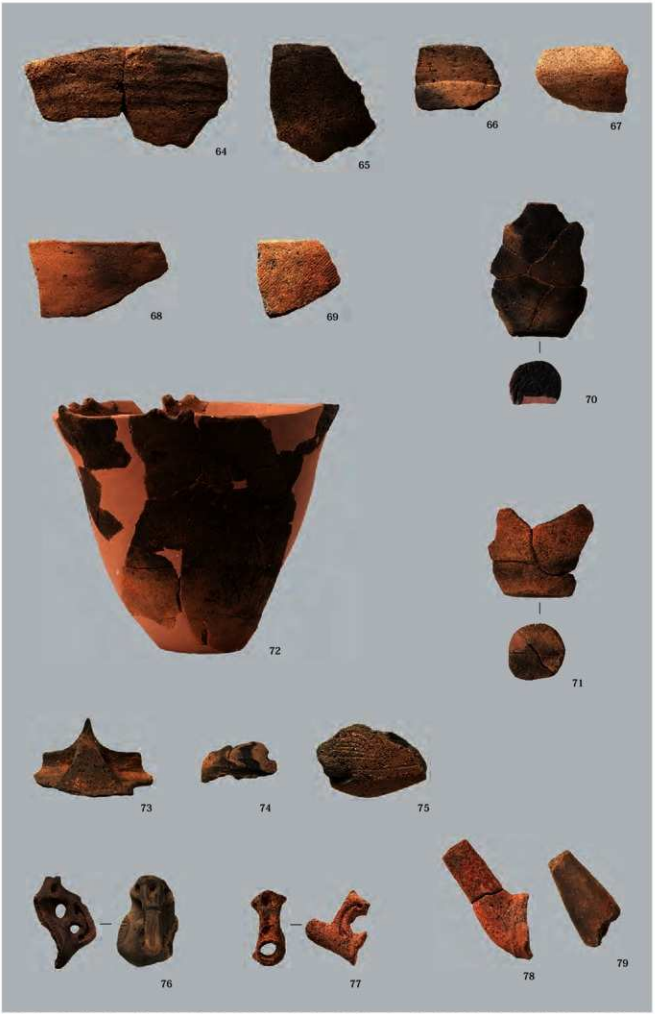

ＳＢ３：１～７　ＳＫ90：８　ＳＫ94：９・10　ＳＦ１：11～13　ＩＳ17：83　ＮＲＩ：80～82・84～86




ＮＲ１：16・17・19・20・22～36　ＩＳ16：18　ＩＳ12・17：21　ＩＹ01－４：14　かく乱：15



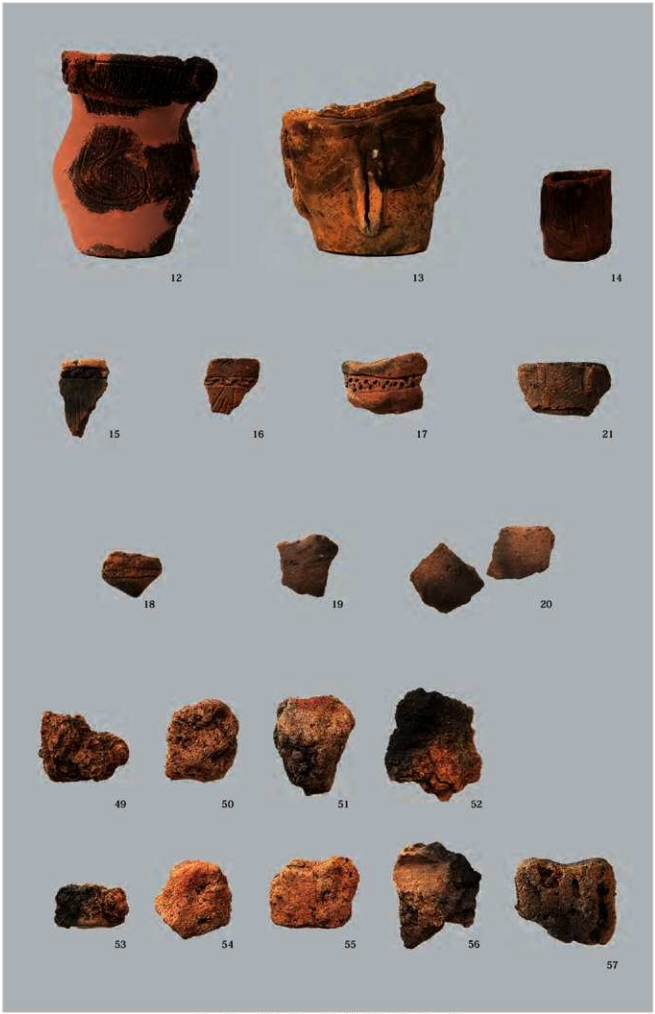

ＮＲＩ：37・41～60・62・63　ＩＳ12・17：38・39　ＩＳ17：40　ＩＹ01-3：50　ＩＹ07－4：61



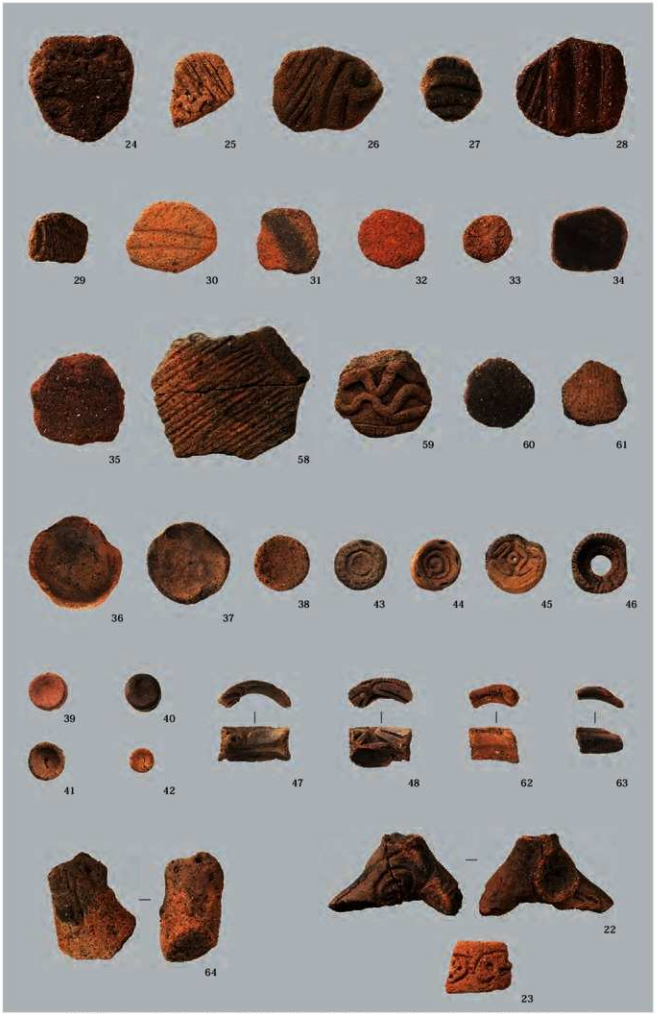

NR 1：65・67～71・73～75・78・79　I S 12・17：64　I Y 03－3：66　I Y 06：72　I X 10：76　I S 18：77

土偶（1）：1～4

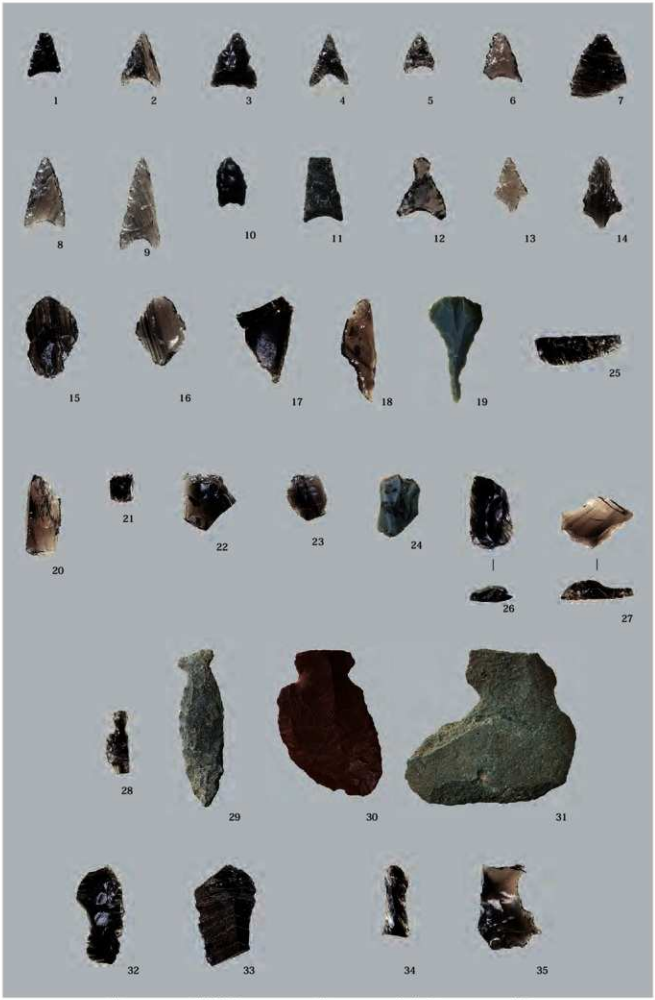
土偶（2）：５～11



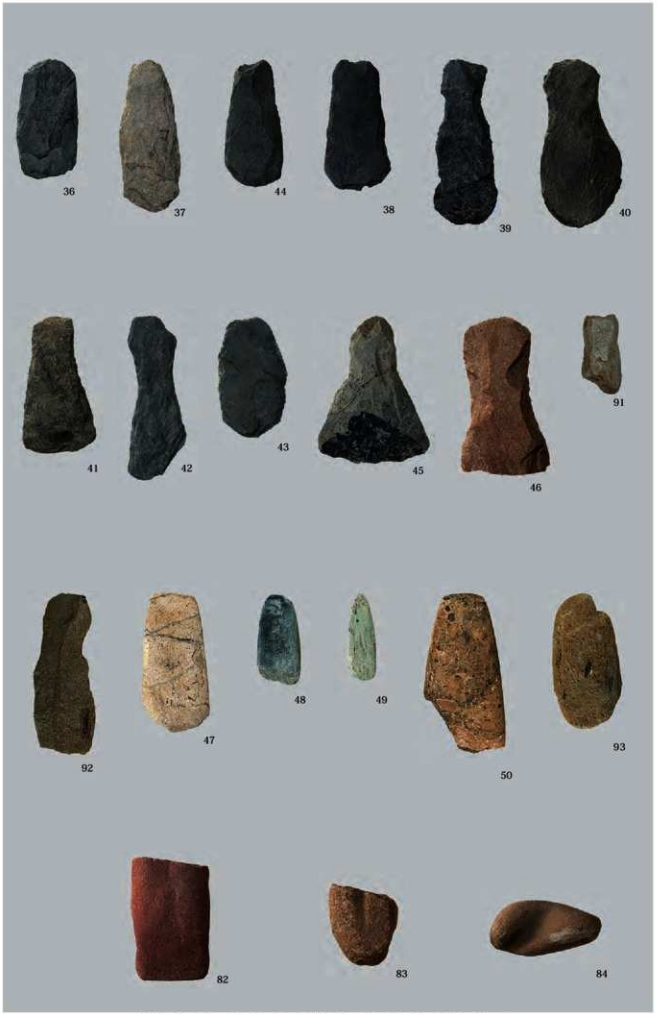

ミニチュア土器：12～21　焼成粘土塊：49～57



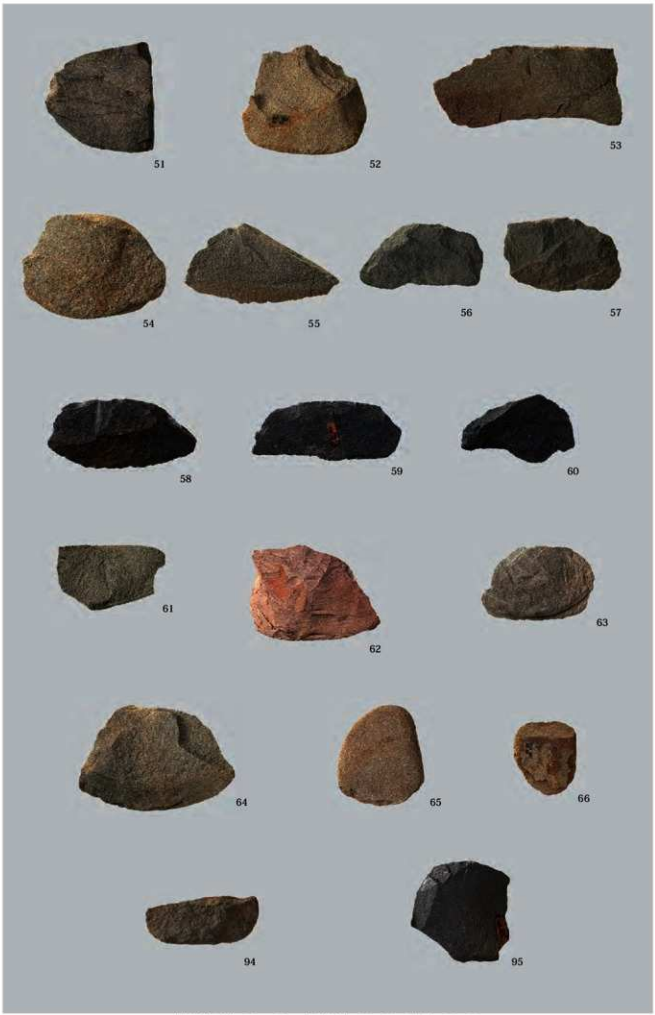

土製円板：24 ～ 35・58 ～ 61　土製耳飾：36 ～ 48・62・63　土偶（3）：64　その他土製品：22・23



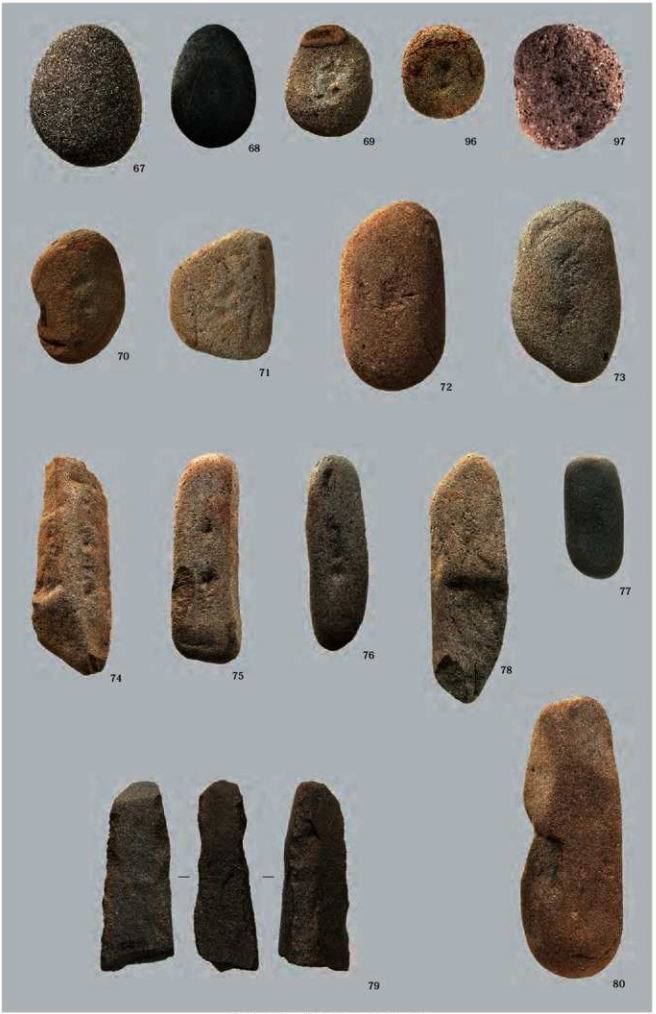

石鏃：1～14　石鏃未製品：15・16　石錐：17～19　楔形石器：20～24　削器：25
掻器：26・27　石匙：28～31　二次加工がある剥片：32・33　微細剥離がある剥片：34・35



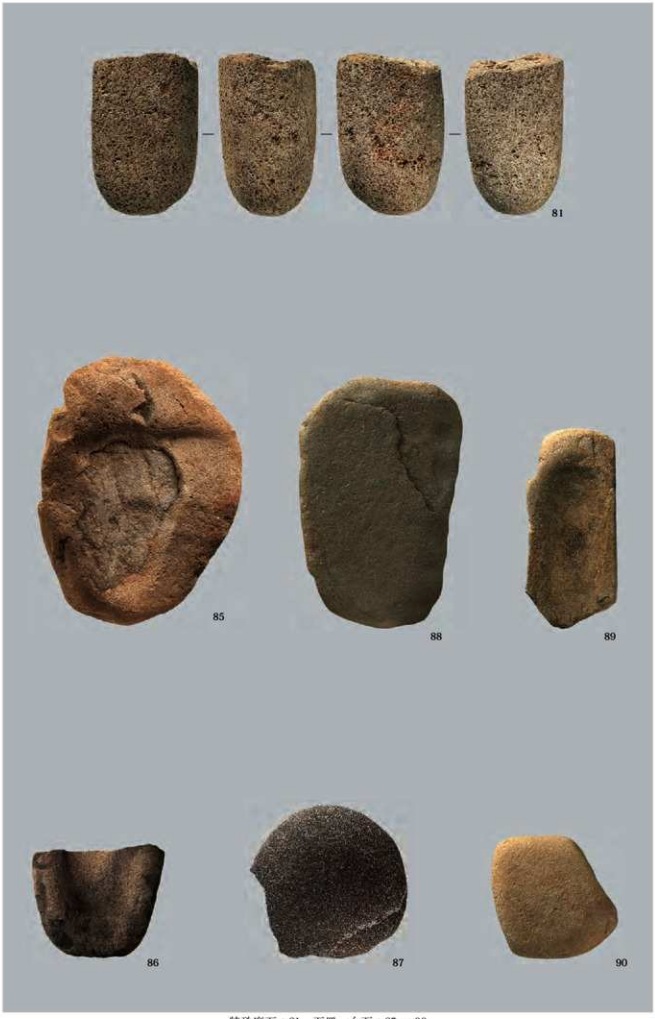

打製石斧：36 ～ 46・91・92　磨製石斧：47 ～ 50・93　砥石：82 ～ 84




横刃形石器：51 ～ 64　大形刃器：94・95　礫石：65・66




磨石・凹石・敲石：67 ～ 80・96・97




特殊磨石：81　石皿・台石：85～90

原石・石核：98 ～ 101　剥片類：102

三ヶ組遺跡(北方向より)

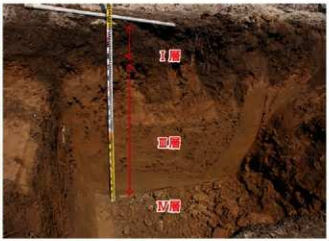
1トレンチ

1トレンチ断面

4トレンチ

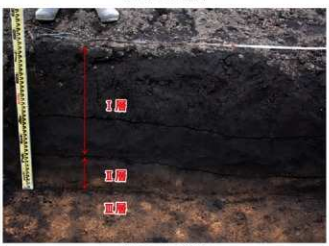
4トレンチ断面

６トレンチ

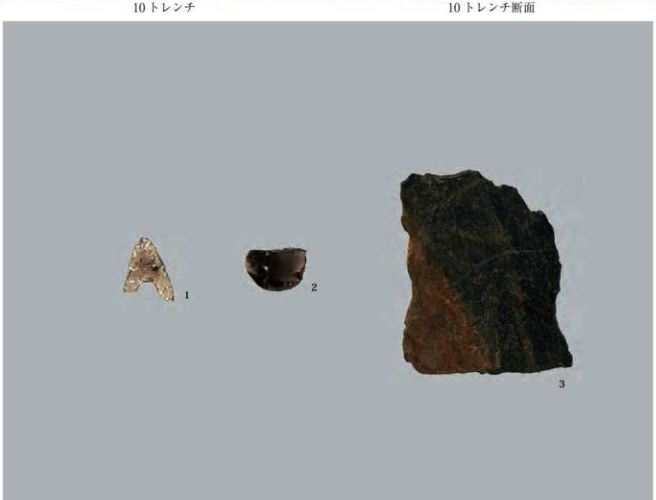



６トレンチ断面

10 トレンチ




10 トレンチ断面




三ヶ組遺跡出土遺物（S ＝ 1 /1）

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | やまとりばいせき・さんがくみいせき |
| 書　名 | 山鳥場遺跡・三ヶ組遺跡 |
| 副書名 | 県単道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書<br>（一）御馬越塩尻停車場線　東筑摩郡　朝日村　中組 |
| シリーズ名 | 長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 |
| シリーズ番号 | 120 |
| 編著者名 | 平林　彰　廣田和穂　杉木有紗 |
| 編集機関 | （一財）長野県文化振興事業団　長野県埋蔵文化財センター |
| 所　在　地 | 〒388－8007　長野市篠ノ井布施高田963－4　TEL：026-293-5926　FAX：026-293-8157 |
| 発行年月日 | 2019（平成31）年3月20日 |

| 所収遺跡名 | 所　在　地 | コード | | 北　緯 | 東　経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| 山鳥場遺跡（やまとりばいせき） | 長野県東筑摩郡（ながのけんがしちくまぐん）<br>朝日村西洗馬（あさひむらにしせば）<br>1435－1 | 204510 | 16 | 36°07′22″<br>世界測地 | 137°52′54″<br>世界測地 | 20160701<br>～20161205<br>20170516<br>～20171031 | 1,400㎡<br>1,484㎡ | 県単道路<br>改築事業 |
| 三ヶ組遺跡（さんがくみいせき） | 長野県東筑摩郡（ながのけんがしちくまぐん）<br>朝日村西洗馬（あさひむらにしせば）<br>850－4 | 204510 | 19 | 36°07′16″<br>世界測地 | 137°53′05″<br>世界測地 | 20170401<br>～20170601 | 4,585㎡ | 県単道路<br>改築事業 |

| 所収遺跡名 | 種　別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 山鳥場遺跡 | 集落跡 | 縄文時代 | 中期後葉：竪穴建物跡14軒、土坑11基<br>後期初頭～前葉：敷石住居跡1軒、焼土跡2基<br>後～晩期：土坑2基<br>時期不明：土抗89基 | 土器（早・前期、中期後葉、後期初頭～晩期初頭）、土偶、ミニチュア土器、土製耳飾、土製円板、焼成粘土塊、石器 | 土器敷炉や埋甕を検出した。 |
| 三ヶ組遺跡 | 遺物散布地 | 縄文時代 | なし | 石器 | |

| | |
|---|---|
| 要　約 | **山鳥場遺跡**：鎖川の河岸段丘上を流れる内山沢沿いに立地する。中期後葉は、竪穴建物跡14軒を調査した。集落は大きく3時期に変遷し、1時期に4軒前後の建物跡が存在したと考えられる。遺構の集中範囲は調査区外の南側に広がる可能性があり、集落の規模・性格等を明確にできない。土器は唐草文系土器が主体を占める。中期後葉土器については、種実圧痕レプリカ同定の鑑定を行い、エゴマ、ダイズ属、アズキ亜属を同定した。エゴマは、推定も含め881点の圧痕が残る土器が出土した。種実を多量に含む土器としては県内6例目の発見となる。<br>後期初頭は土器敷炉を有する敷石住居跡を1軒検出した。晩期初頭は土器と土製耳飾がまとまって出土した。松本盆地では後・晩期の調査例が少なく貴重な事例となった。<br>**三ヶ組遺跡**：鎖川の河岸段丘上に立地する。遺構は確認できず、遺物は表土から微量に出土した。過去の調査成果と合わせると、遺跡の北限が今回の調査地点よりも南側となる可能性がある。 |

2019（平成 31）年 3 月 20 日　発行

長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 120

**山鳥場遺跡・三ヶ組遺跡**

県単道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
（一）御馬越塩尻停車場線　東筑摩郡　朝日村　中組

発行者　長野県松本建設事務所
（一財）長野県文化振興事業団
長野県埋蔵文化財センター
〒 388-8007　長野県長野市篠ノ井布施高田 963-4
TEL 026-293-5926　FAX 026-293-8157
E-mail info@nagano-maibun.or.jp
印刷者　三和印刷株式会社
〒 381-2226　長野市川中島町今井 1822-1
TEL 026-285-2300　FAX 026-285-2255